

平成十七年三月
津山郷土博物館紀要第十九号

寛政五年（一七九三）
寛政七年（一七九五）

津山松平藩町奉行日記 十三

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 十三

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政五年四月〜十二月および同七年正月〜六月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 噉あつかう 嗽あつかう 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷ちゆうふ 又候またごう 与よ 風かぜ 風かぜ 紛まがれ 籠かご 持かぎ 粧こまじ 綺いろう

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ろ（より）、メ（して）、凡（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所を○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・職称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。

癸丑 四月

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 平井郷左衛門

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 豊岡藤十郎

四月大朔 癸亥日 晴

一 牢舎人才藏病氣ニ而牢番申出医師申付候様大年寄へ申達候

四月二日 快晴

一 伏見町年寄小坂屋善兵衛拾四年相勤候処病身ニ付役免願書差出無
一 拋筋趣ニ付差免跡役田野村屋藤吉へ可申付旨大年寄申出其旨及差
一 圖

一 京町南側ニ而若松屋幸吉家屋敷表口三間半裏行拾七間但老軒役東
隣ハ若松屋善左衛門西隣ハ辰巳屋文兵衛右家屋敷代銀六百匁ニ町

内辰の屋伊助へ売渡願書差出し承り届ル 同廿一日売券状出ス

一 下紺屋町方性院金毘羅參詣願書出其後病氣ニ付断申出候

一 牢舎人佐右衛門病氣致全快候旨牢番届出候

一 牢舎人助十郎療治二廻り相済代リ医願出大年寄へ申達候

一 撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門一人例年之通唐弓弦卸売昨

日来候段東新町船本屋兵助宿切手差出候

四月三日 快晴

一 伯州倉吉研屋町古川屋善四郎悴善兵衛義茅町作人豊吉引受人別入
願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届候旨申達候 同十八日佳吉書取
差替三月改入

一 小沢又右衛門横関貫損候付仕替度旨久山勘八申出飯塚弥代江懸合
之上大目附へ申達候承知之旨ニ付宜取計候様ニ申付候

一 河原町芝居役者都合三拾九人昨日来候段届書差出并明日ハ相始候
ニ付今日ハ大入仕候段届出御用所大目附へ及御届尤今日大入ニも

御徒目附下目附被差出同心組も出役之義宜取計候様又六へ申付候

一来ル十月十五日万人講興行建札取計度旨申出御用番并大目附へ及

御噂勝手次第取計候様大年寄へ申達候且又右ニ付拜借銀老ノ八百

匁受取証文差出致與書勘定奉行へ相渡候

一 二階町品屋恵十郎并京町戸屋伝吉河原町芝居役者宿致候段宿切手
差出候

一 高野宮花鎮神事之間糸懸リ之人形廻し拾三人興行ニ付世話役神
主中ハ被相頼候間茅町奈良屋七郎右衛門世話仕度願書差出寺社取

次江懸合置候故即刻聞届申達候尤請取証文差出

一 河原町并二宮両所芝居ニ付同心組致不足兩人加人御渡被下候様大

目付平井郷左衛門へ申達受取之 鈴木忠吉
福嶋為一

一 右同断ニ付目明も不足ニ付中之町もミ屋弥吉江目明飯役可申付旨

又六申出其通申付候

一 御藪并柳土手藪并百間藪之筍取申間敷触并筍取候もの有之候ハ、

捕取候様ニ□□□江之触例年之通触書両通差出候

一 二ノ宮芝居例之通末々迄参候義御停止被仰出候御触大目附中ノ到
来組中牢屋三軒屋へ触達候様又六へ申付候

一 河原町芝居大入無滞相濟候段新治嘉七届出候

四月四日 雨

一 当国西々条郡久田上野原村宮之助と申もの四国遍路ニ罷出帰リ懸
ケ勝間田ノ送り出し新田村ノ川辺江送り来候段郡代所ノ通用有之
例之通取計候様大年寄へ申付候

一 昨年宿屋株取上候坂原屋甚兵衛渡世難義仕候ニ付宿屋被差免被下
置候様旅籠屋仲ケ間ノ歎書差出候得共未間も無之義殊ニ度々不埒
もの差置候ものニ付歎書難取上差戻候

四月五日 曇

一 戸川町作人長太郎妻妊娠月取間違ニ付叱申付候段大年寄届出候

一 三月六日金毘羅参詣旅人止宿付差出候但貳百一拾九人

一 二ノ宮芝居無別条段出役又六十助嘉七届出并大札六分六拾八枚小
札三分三拾七枚尤小頭ハ老度可差出先例之処不案内之もの有之ニ
付小頭度々出役候様申付候

四月六日 晴 夜雨

一 二ノ宮芝居大札百九拾五枚小札五拾三枚入無別条候段孫八喜藏見
習百藏届出候

一 河原町芝居無別条貳百貳拾貳枚入札有之段小頭又六文藏加人為治届
出候諸吟味も相届出候

四月七日 晴

一 新職人町備前屋和兵衛并妻悴三治万吉家内四人三月十日不斗罷出

不罷帰候ニ付組合ノ届出百日尋申付候

一 東新町作人利八娘林田上之町卯兵衛嫁ニ差出度願差出承り届ル

一 河原町芝居三百貳拾七枚落札有之無別条段定治為治諸吟味届出候

一 二ノ宮芝居大札貳百貳拾三枚小札四拾五枚有之無別条段又六文藏
加人為治届出候

四月八日 晴 小雨

一 雲州意宇郡大谷村惣三郎悴平七并妻右兩人西今町常屋文藏引請人別
入願差出御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候同十九日住宅
証文差出

一 雲州大原郡木次町角屋吉右衛門悴重助義中之町紺屋助右衛門引受
人別入願書差出御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

同十四日住宅証文差出候

一 牢屋縛繩四筋計ニ而間合不申候ニ付十筋御渡被下候様ニ大目附へ
書付差出候同廿五日住宅証文出ス

一 御用広東人參植木と立合相改内老斤受取藏合孫左衛門へ相渡置候

一 一ノ宮市町ニ付例年之通之御触大目附中ノ到来写取組中牢屋三軒
屋江相触候様小頭江申達候

一 一ノ宮市町ニ付例年之通町触并非人江之触書差出候

一 河原町芝居無別条落札三百八拾三枚之由新治加人忠太諸吟味届出
候

一 二ノ宮芝居大札貳百四拾六枚小札五拾三枚有之無別条段定治為治
届出候

四月九日 曇 昼後少雨

一 林田村佐右衛門義明十日五時出牢申付候間立合差出候様ニ郡代助

役近藤伊左衛門より申来立合差出候様小頭江申付ル

一 牢浚申付昼廻定治為治差出無別条段届出候

一 河原町芝居無別条落札三百八拾八枚有之由孫八嘉七見習万蔵諸「」味届出候

一 二ノ宮芝居大札式百八枚小札六拾三枚有之無別条段新治加入忠太届出候

四月十日 晴

一 河原町芝居無別落札四百八拾枚有之段又六十助為治讀吟味届出候

一 二ノ宮芝居大札百枚小札五拾三枚無別条今日切ニ而相濟候段孫八嘉七届出候

一 去暮郡代所より入牢申付候博奕打拾二人明十一日出牢申付候段近藤伊佐衛門より差紙未明五時立合差出候様ニ申来其旨又六へ申付差紙認差出候

四月十一日 快晴

一 二ノ宮芝居昨日切ニ而相濟候間加入兩人今日より差戻候段大目■附
井郷左衛門へ手紙ニ而相届候

一 昨日河原町芝居ニおゐて元元魚町古川屋ニ罷在當時安岡町伝助并元京町ニ罷在當時林田村玉琳ニ罷在候志ほ屋代助右式人致醉狂尤

何れ相手と差別ハ無之旨小頭又六届出依之大年寄江申付右伝助禁足申付置候 并右代助義者郡代助近藤伊左衛門へ申達右同様取計

置候段申来候尤松岡治部助入湯留主ニ付近藤伊左衛門へ助被仰付候
一 河原町芝居大混雜ニ而猥ケ間敷風聞も有之哉之趣ニ相聞依之明日

より男女之席を分ケ候様ニ蔵合孫左衛門川端又六江申付候依之御徒

目附棧敷之方ニ女同心組棧敷之方ニ男子と差別付候様申付候段申出候

一 河原町芝居無別条五百式拾三枚落札有之候由又六嘉七為治届出候
四月十二日 雨

四月十三日 雨

一 黒田要人殿不快ニ付一学殿今日より月番御勤候旨大目附より演説有之
一 京町菊屋清左衛門娘義備前津高郡金川村河内屋喜七妻ニ差遣度人

別離願出御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候
一 馬持共売荷駄賃近来高値ニ致諸人迷惑之段訴状差上候もの有之由

河内志津馬より御下ケ被成大年寄江申付遂吟味候処御定法より過分ニむさほり取候義ハ無之旨ニ付馬持共の一札取差出候近便江戸表へ可相廻事

一 御領分東南条郡初山村六三郎倅嘉吉義三町目次田屋与三右衛門養子ニ引受人別人願差出承り届ル 五月改ニ入

一 千本嶋右衛門長屋ニ居候十蔵と申もの家内四人先達而西今町直屋善吉引受人別人候処今般勝手ニ付徳守宮地内平吉借屋へ引越度人

別離願出承り届ル
一 町大工棟梁材木町文治義病身ニ而難相勤候ニ付棟梁差免右文治跡

役細工町大工幸助へ申付候様勘定奉行植木左士より申聞其段申付候様ニ玉置源五兵衛へ申渡候尤左士より大目附へ相達候処直ニ当役江

懸合候様ニ大目附挨拶之旨ニ候由依而何方江も不申達申付候
一 小麦三拾俵姫路屋恵三郎船積申出孫八十助改

四月十四日 曇

一大坂村尾李右衛門ら昨日出状到来院庄村吉原村之もの江播州一橋

御領之者出入ニ付右両村之もの先日致出坂居候処去十日米平均相場入用ニ付両人ら差出候得共両人ら差出候者御取用ひニハ不相成

候間天明八申年ら去十月迄五ヶ年之間之平均相場大年奇奥印ニ而態飛脚ニ差越候様申来其旨御用番へ申達大年奇へ平均相場申付三ヶ切ニ而明朝飛脚差立候段大目附へ申達返書相答飛脚差立候

一三町目太刀屋久治用事ニ付京都麩屋町四条上所近江屋七三郎方へ

三十日之逗留ニ而明十五日出立届書差出候 五月十九日冊ル

一河原町芝居無別条落札四百八拾六枚之由又六定治文蔵諸吟味届出候尤今日ら初而男女之座席分ヶ候事

四月十五日 曇

一牢舎人才兵衛病氣致全快休葉届出候助十郎義者未相勝候間代り医願出大年奇へ申付候

一小麦六拾俵今津屋孫十郎川下ヶ願出定治文蔵改

一河原町芝居無別条落札三百八拾貳枚之由又六十助嘉七諸吟味届出候一境町团扇屋太郎兵衛大坂玉子屋九兵衛方へ往来廿日之逗留ニ而明日出立願出候

四月十六日 昼後小雨

一河原町芝居無別条落札貳貳貳枚之由新治為治諸吟味届出候

四月十七日 雨

一太守様益御機嫌克御定日去ル五日御着府被為遊依之明十六日四時恐悦申上有之候間登城可有之旨御奏者中ら廻状到来組中牢屋三軒屋江為知候様小頭江申達町方御目見之面々廻勤候様大年奇へ申達候

四月十八日 快晴

一御着府恐悦申上ニ付御徒格以上麻上下着用五半時登城於七門廊下御小性頭調有之大目附三奉行一同ニ例之通御両殿様江恐悦申上三而御用所江罷出右恐悦申上続而御用向弁之上席ら退出大目附江も恐悦申述候事

一ノ宮田植祭来ル廿日引統市町組之者差出候処此節河原町芝居有之組之者不足ニ付御使組加人兩人明十九日晚方ら御渡被下候様ニ大目附へ申達候処鈴木忠太福嶋為治被申付来候

一西新町東新町問屋共ら三月廿八日太田村勘兵衛俵物百間藪ニ而瓜生原屋平吉船ニ積出候処押留為差戻候由以来御差留被下候様願書差出郡代松岡治部助へ相渡并此節川留候所俵物船積無届致紛敷趣

ニ付瓜生原屋平吉致吟味候様ニ大年奇へ申付候

一雲州神戸郡杵筑泉正平と云本道医師罷越二階町境屋伊右衛門内縁之ものニ付廿日斗為致逗留度願書差出承り届 六月八日冊ル

一去十二月ら三月迄之間屋小日記大年奇差出見改返又

一下紺屋町鳥屋利兵衛借屋ニ居候板倉全柳并妻伴二人娘一人右家内五人林田上之町作人文助方へ引越度人別除願書差出承り届ル

一林田町備前屋七兵衛一ノ宮市町当所柳之土手九人連万歳狂言仕候ニ付引受世話仕度願書差出承り届ル尤柳之土手らも大年奇へ願出候由是ハ大年奇聞置也一札差出

一ノ宮市町中大坂高津新地六丁目参懸り早飛梅之丞九人連輕業引受世話仕度東新町倉敷屋宇助願書差出承り届ル受一札差出候

一河原町芝居落札百九拾八枚有之由又六嘉七文蔵諸吟味届出并鍛冶

町鍛冶新兵衛と申ものがく屋ニおゐて酔狂いたし候段申出禁足申
付置候様ニ大年寄へ申付候

四月十九日 快晴

一夜前更廻り申付候処諸方関貫ノ宜無別条段又六新左衛門定治為治
届出候

一痢疾薬市郷江被下一昨年之通被仰付出来候間御医師中ノ受取相渡
候様大目附平井郷左衛門被申聞村山三立ノ七千六百服受取大年寄

玉置源五兵衛へ相渡候

一大豆五拾三俵瓜生原屋宗兵衛申出嘉七元蔵改

一河原町芝居落札式百七拾六匁有之無別条段又六定治為治諸吟味届
出候

一無宿盗人幸助明廿七日入牢申付候段郡代ノ差紙来我等手形相認差
遣候

一牢舎人和田村弥吉義明廿日出牢申付候段郡代所ノ差紙来自分手形
認遣

一百姓牢之三人追込牢江移度牢番願出昼廻りノ入替為取計候

一自分義明廿日妻子召連木山寺江当日帰ニ參詣仕候段大目附へ手紙
ニ而相届候留守中之義松岡治部助へ相頼置候

一明廿日一ノ宮田植祭例之通出役候様ニ小頭江申付候

四月廿日 少雨

一左之通御触書到来町方并組中牢屋三軒屋江相達候様小頭并大年寄
へ申付候

徳川刑部御様御病氣之処御養生不被為叶去ル八日御逝去被成候

依之自今日来廿四日迄五日之内鳴物停止被仰出尤普請武芸之儀
明廿一日ノ不苦候

一河原町芝居無別条落札百拾三枚十助元蔵諸吟味相届候

一ノ宮市町田植祭無滞相濟候段又六嘉七文蔵届出候

一無宿盗人幸助今日入牢之義昨日郡代ノ申来其旨申付置候処御日柄
ニ付致延引候段申来差紙相戻候

四月廿一日 晴

一ノ宮市町并芝居ニ付御使組加人二人受置候処刑部御様御逝去ニ
付芝居相止候付右之間加人差戻候間又々廿四日晚方ニ兩人御渡被
下候様手紙ニ而大目附へ相届候

一去十二月五日万人講殘錐之内四番目五百八拾五匁四分四厘播州完
粟郡高下村伴蔵と申もの取ニ来候旨講元ノ小頭江申出為相改候処
相違無之ニ付例之通小頭地方下代立合相渡候尤札元江預ケ置候銀
札相廻候様大年寄江申達諸吟味ノ取計候由右相渡候段御用番并大
目附へ手紙ニ而相届候但要人殿十八日ノ御出勤ニ付要人殿江相届候

一尾州嶋崎神職吉田左右弟子家来上下式人罷越三十日計之逗留願書
堺町西川屋善助差出承り届候及即答 五月十九日附

四月廿二日 曇

一三月人別出入

出生拾四人 男六人 人別入拾三人 人別除拾八人
女八人

死失拾四人 右差引ノ五人減

四月廿三日 雨

一上紺屋町今津屋孫十郎家守清治郎借屋ニ居候伝助と申もの七拾八

歳ニ相成親類縁者無之殊ニ病氣ニ付孤独扶持被下置候様願書差出御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置勘定奉行江も及懸合御聞届申達候尤勘定場下代江相頼証文相廻置事^八三分受取相渡候

一元魚町美濃屋彦兵衛角ニ道分之石碑立度願書差出御用番中へ口達ニ而申上候所御聞濟ニ付大目附江も及噂御聞届申達候尤同町亀屋定郎願也

一斎藤孫右衛門義上京之処今三十日逗留仕度段申越候旨同役藏合孫左衛門願書差出御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡上弓削村利八甥重左衛門と申もの戸川町広嶋屋儀助引受人別人願書御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞濟之段申達候五月二日住宅証文出ス

一山北村銀藏方江盗人這入盗取候品々町触取計候様大目附中被申聞相触候

一二ノ宮社頭盗人這入宝物盗取候ニ付町触差出候

四月廿四日 曇 小雨

一仕替馬見分ニ小頭部屋目附大年寄宅江差出候処宜段届出大年寄宅毛附帳差出候

四月廿五日 曇

一無宿盜賊幸助郡代所入牢申来差紙為持立合申付候右盗人盗もの町方ニ質置候処致吟味呉候様郡代所申来大年寄へ申付候

一一ノ宮市町無別条段出役新治加人為治見習百藏届出候

一稻荷山草今日迄ニ而苜仕廻候旨三軒屋作治届出候

一小麦四拾七俵米屋兵助船積申出元藏為治改

一小麦三拾俵小豆六俵船本屋庄吉船積申出元藏為治改

一河原町芝居無別条落札百拾七枚之由孫八十助届出候

四月廿六日 快晴

一播州網干余子浜菊屋弥七郎悴源次郎一人例年之通小間物卸売ニ来候段中之町甲屋幸助宿切手差出

一大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛一人例年之通挑灯帳替来候段中之町甲屋幸助宿切手差出

一播州網干新在家伊部屋清六一人例年之通塩物并鯉節卸売ニ来候段中之町甲屋幸助宿切手差出候

一当国真嶋郡新庄村山伏大善坊縁類ニ付昨日罷越八月迄逗留為仕度西新町山伏養閑院願書差出承り届ル

一伊藤采女組津田平左衛門役介治助義上紺屋町かと屋八右衛門引受人別人願承り届ル

一例歳之通鉄炮奉行稲垣惣兵衛玉置源五兵衛江鉄炮改差出候様申達候由ニ付改帳鉄炮奉行へ直ニ差出候ニ付役所江も右同様帳面大年寄差出候

一河原町芝居無別条落札三百五拾六枚有之由新治加人為治届出候

一一ノ宮市町無別条段又六定治文藏届出候

四月廿七日 晴

一河原町芝居今日切之処五日之追願書差出要人殿江差出候処無程御聞届之旨手紙ニ而申来其旨大目附江手紙ニ而相届大年寄江御聞届之段申達候尤小頭江も其旨申達候

一小麦六拾俵姫路屋惠三郎船積申出新治加人為治相改

一京町田戸屋宗十郎先月七日紀州へ參候処今十日計逗留仕度追願書
差出承り届五月二日歸ル

一河原町芝居無別条落札百五拾枚之旨定治文藏届出候

一一ノ宮市町無別条旨又六嘉七加人忠太届出候

四月廿八日 晴

一森対馬守殿御預り所当田英田郡倉敷村庄兵衛義安岡町岡嶋屋善吉
後家引受人別人願御用番御聞届ニ付大目附へ相渡承り届候段大年

寄江申達候五月十五日住宅証文差出候

一備前和氣郡香々登本村勘九郎悻平藏義船頭町今津屋孫十郎養子ニ

仕度人別人願書御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置聞届之段大年寄

へ申達候五月十九日住宅証文差出

享和元年七月雜録

一堀田相模守殿領分当国勝南郡黒土村弥平治役介勘三郎并妻右夫婦

二人戸川町板屋源藏引受人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡

置承り届候段申達候

五月二日住宅証文出ル

一一ノ宮市町無別条段十助元藏届出候

一河原町芝居無別条落札六拾八枚之由又六嘉七文藏見習百藏届出候

一番賃銀拾五匁豊岡藤十郎差出候

一日御崎観化町住寺社之分六匁式分式厘寺社取次下代々大年寄へ相

廻候段大年寄届出候但老人三文ツ、之積也

四月廿九日 雨

一一ノ宮市町無別条段新治為治相届候

四月晦日

一半舎人助十郎病氣全快休業申出候

一一ノ宮市町無別条段孫八加人為治届出候

一二町目南側林田屋あさ屋敷地表口三間半裏行拾七間但老軒役也東

隣尾高屋善七西隣ハ三谷屋与三左衛門也右屋敷地之内西之方表口

三尺式寸裏行拾七間御役式分付代銀札五拾匁ニ相極同町三谷屋与

三左衛門へ売渡願出差出承り届候段申達六月朔日売券状差出

一一ノ宮社頭并山北村銀藏方へ盗人這入被盜取候もの町触取計候所

町方ニ者無之旨申出候

五月

月番

御家老永見造酒助殿

御年寄小須賀一学殿

大目附渡部惣右衛門

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味役 豊屋嘉左衛門

五月小朔 癸巳日 快晴

一目明兩人共病氣ニ付上紺屋町桶屋佐七江假役申付候段小頭申出候

一菜種高直ニ相成八拾五匁相場ニ付式分上ヶ老升四匁ニ売出度油屋

当番東新町肥後屋長助願書差出承り届ル

一懸合間屋相始度中買共願書差出此節八木高価之時節ニ付人氣ニも障り可申間今暫見合候様ニ申付候

一二町目福永屋藤助城州深草宝塔寺へ心願有之ニ付往来三十日計之逗留ニ而明二日出立仕度願書大年寄ら差出承り届ル同廿五日帰

一一ノ宮市町無別条旨又六文蔵加人忠太届出候

一林田土手端致壁土往来難成趣ニ相聞候付其旨申付以来者道半分ノ内端ニ致候様大年寄へ申付候

五月二日 晴

一坪井町川津屋藤助夫婦喧嘩致内済女ノ願下ケ歎書差出承り届候

一一ノ宮市町無別条段定治元蔵届出候

一河原町芝居無別条落札八拾式枚之由又六文蔵為治并諸吟味届出候

五月三日 雨

一備前盤梨郡沢原村猿右衛門夫婦二人伏見町吉田屋半三郎引受人別

入願御用番御聞濟付大目附江相渡置御聞届之旨申達候

一船頭町瓜生原屋平吉去月十八日之処認置候通林田百間藪之間ニ而

太田村勸兵衛醬油粕致船積紛數致方之段大年寄ニ而為致吟味候処無申披段口書差出右咎五日追込可申付之旨先月廿八日伺置候処今日要人殿ノ伺之通取計候様被仰渡候依之六日ニ可取計段郡代と懸

合置候

一御用所大目附出席左之通被仰渡候

五拾敲之上御領分

追放可申付候

無宿盜賊

幸助

一一ノ宮市町明四日切ニ付例年之町方ニ烏散成もの差置申間敷非人

相廻り追払可申觸書差出候

一林田村七右衛門娘西新町久米屋清助妻ニ引受人別人願書差出承り届ル四月改ニ入

一一ノ宮市町出役又六重助嘉七無別条段届出候

五月四日 晴

一坪井町川津屋藤助夫婦喧嘩内済相整濟口一札差出并女義ハ勝南郡

瓜生原村横林豊後引取引受一札并諸道具之受取一札差出右ハ町内年寄五人組宛ニ付大年寄江下ケ置右一件相濟候ニ付組合預ケ差免候様大年寄江申付候尤藤助義無願妻女置候御咎ハ追而可申付事

一大豆六拾俵今津屋孫十郎船積申出定治元蔵改

一雲州神戸郡許筑泉正平と申醫師先月罷越候処未用事不相濟候ニ付今廿日計逗留為仕度追願二階町堺屋伊右衛門差出承り届候段大年

寄江申達候 六月八日帰ル

一京町植月玄孝去子三月京都山脇道作老方江罷越候処用事相濟罷帰

候段届書差出候

一御使組山形藤藏渡屋敷ニ居候つねと申女并倅鶴吉二人材木町万屋

与三兵衛家守清兵衛借屋ニ居候嘉右衛門と申者之妻子ニ引受人別人願差出承り届ル

一四月廿歩一銀三拾式匁五分玉置源五兵衛差出候

一一ノ宮市町今日切ニ而無滞引払候段出役新治加人為治并札元妹尾

平兵衛届出承り置

五月五日 快晴

一五半時揃ニ付五時麻上下着用惣登城例之通七間廊下ニ而御小性頭謁当日御祝儀申上統而若殿様江当日御祝儀申上之右早而例之通御用所江罷出当日御祝儀申上之引懸大目附江同様申述之諸事元日謁之通

一河原町芝居無別条三百五拾式枚落札有之候段又六為治嘉七諸吟味届出候

五月六日 快晴

一左之通於大年寄宅小頭部屋目附立合申渡候右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

林田百間敷之間ニおゐて太田村 船頭町瓜生原屋 平吉

勘兵衛醬油粕俵入致船積定之 依

場所を離れ殊ニ俵物之義別而紛敷致方ニ之

追込申付候相慎可罷在候 但追込五日同十一日差免

一牢浚申出定治為治出役

一宮脇町阿賀屋助次郎妻大脇新左衛門妹之处致離縁度人別離願出承り届ル大脇新左衛門も届出候

一河原町芝居無別条落札四百式拾八枚之由孫八元藏百藏諸吟味届出候

一京都烏丸通六角下ルニ文字屋九兵衛手代清治郎例年之通罷越候段

京町海老屋長右衛門宿切手差出候 寅二月九日届

一越中富山船橋町松井屋源兵衛倅伊八同手代嘉七例年之通反魂丹壳

ニ米候段京町美濃屋平五郎宿切手差出候 寅二月九日届

五月七日 快晴

一大守様益御機嫌能先月廿三日御参勤之御礼被仰上候依之明後九日恐悦申上有之候間御徒格以上四時登城仕候様御奏者番中ノ御触書到來写取小頭大年寄へ差出候

一安岡町納屋嘉兵衛所持之自国請酒株去ル西二月御願申上同町三倉屋八百治借受商売致候処限月ニ付尚又来ル戌ノ二月迄十ヶ年之間借受商売仕度願書差出承り届ル

一牢屋縛繩十筋大目附へ申立置候所立合目附ノ相廻し小頭江相渡牢番江相渡候

一河原町芝居今日切ニ而引払相濟一札取又六新治重助諸吟味相届出候尤無別条落札四百三枚有之候由届出候右之趣御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

五月八日

一今日御用之処明日恐悦申上惣出仕ニ付明九日ニ相成候

一河原町芝居ニ而致酔狂候左之面々左之通申渡候様大年寄へ申違候

先日河原町芝居小屋ニ 安岡町 伝助

おいて致酔狂其砌禁足

申付置候処今般ハ用捨を以 鍛冶町

其匠禁足差免候以来 新兵衛

急度可相慎候

一小麦三拾俵米屋兵助船積申出新治元藏相改

一ノ宮市町中同心組出役申付候ニ付先例之通并当代小頭申出拾

六匁式分相渡候是ハ我等弘也

一牢屋井戸江犬落死右ニ付井戸替代式小頭江相渡

五月九日

一 御參勤御礼先月廿三日御首尾能被仰上候恐悦申上ニ付御徒格以上
麻上下着用四時揃惣出仕ニ付五半時登城於七間廊下例之通御小性
頭謁大目附三奉行一同ニ御面殿様江恐悦申上早而御用所江罷出恐
悦申上統而御用向弁之上席より引取引懸ニ大目附役所ニ而右恐悦申
述之

一 安岡町久米屋友七新魚町角屋熊治郎義撰州兵庫中西長藏方ニ而白
油式拾四石相調拾式石ハ約束之通差越候処残拾式石者直段上り候
迎不相渡不埒ニ付大坂表江罷出出訴仕度段願書差出御用所江申上
候所大坂之様子承り合候上承り届返答之趣ニ而為致出坂候様被仰
聞依之村尾左右衛門へ承り合之案文相認右願書并出訴之写ニ差添
御用所江相伺候処申遣候様被仰聞候依之明日之御便ニ可差遣事

一 上田邑北村熊治方へ先月晦日夕盗人這入拾三品被盜取候ニ付町方
触流取計候様大目附中被相渡写取大年寄へ申付候

一 他領物騒沙(3)馱有之ニ付町方拾壹丁廻り并非人加廻り申付置統而芝
居并市町等も有之候ニ付其俵差置候処此節芝居并市町も相濟穩ニ
相聞候付最早差免申度御用所江申達候処御聞届ニ付大目附へ及噂
置其趣申達候様大年寄へ申付候

一 三船新治淋疾ニ付真賀温泉ニ廻り入湯願出承り届

一 川端又六俵權七義大坂江稼ニ差遣度願出承り届ル

一 河原町芝居役者今朝不残引払候段届出候

五月十日 快晴

一 左之通大年寄宅江小頭部屋目附差出申渡其旨御用番并大目附江手

紙ニ而相届候尤右取計昨日御伺相濟候

風来之女出所も不相糺
坪井町
川津屋
藤助
内々ニ而妻ニ引受置不埒ニ候
依之追込申付候
但追込五日

右之段乍存等閑ニ致置
右 家守
不束候依之急度叱申付候以来
組合
可入念候

右之段心付薄等閑ニ
右年寄
致置不束ニ付急度叱申付候
以来可入念候

一 川端又六娘石名元藏妻ニ差遣度双方願出承り届

一 上野介様御通行御先触ハ未致到着候得共今日御関札参り右役人木

村元市申候者御通行之旨問屋ニ而申置候段大年寄申出其旨一学殿
江罷越申達諸事先格之通取計可申哉と相伺候処当年此方様御
断被仰懸御家老中大目附出役相止出羽守様之通ニ相成候其外ハ先
規之通取計候様被仰聞候右御通行之義大目附江も手紙ニ而相届候

一 上野介様御通行ニ付先格之通之町触差出候

一 右ニ付御道見分ニ小頭川端又六大年寄玉置源五兵衛諸吟味豊屋喜
左衛門差出候処無別条少々之義者即^刻大年寄申付候段三人共届出
候

一 右ニ付院庄川江御船被差出候ハ、急々被仰付被下候様大年寄申出
其旨御船奉行稻垣惣兵衛江致通達候

一 右ニ付郡代江も致通用并兼田橋之義尋遣候処随分橋ニ而相濟候段
申来候

五月十一日 快晴

一瓜生原屋平吉追込昨日ニ而五日ニ相成候付今朝差免候右之段御用番大目附へ手紙ニ而相届候

一御船奉行稻垣惣兵衛より上野介様御通行ニ付院庄川江御船差出候間御蔵元并船年寄罷出候様申付吳候様ニ申来其旨大年寄へ申付候

一大目附渡部惣右衛門より上野介様御返行ニ是迄御家老大目附大番所江被出候所御断ニ而当年より不被出候間左様相心得其余ハ先格之通取計候様申来并御使者宿江御使番御取次ニ出候処前々者酒肴杯差出候処先達而右等之義相止時刻ニも相成候得者小付飯ハ差出候処被仰出有之候間今般も右之通ニ堅申付候様ニ申来大年寄江申付候

一御用宿是迄六軒有之候処豊嶋屋伝治勤り兼候趣ニ付御用宿差免右代リニ品屋惠十郎立花屋伝五郎肥後屋卯吉右三人申付度伺出其通取計候様及差図

一京町俵屋伊兵衛商売用ニ付備後福山大黒町いほりや宇兵衛方江廿五日計逗留ニ而明十二日出立願書差出承り届 六月十二日届

一村山平字の上野介様御通行之砌御取次ニ罷出候由申来則御使者宿并下宿迄名前申遣并大年寄江も申達候

五月十二日 雨

一上野介様御先触致到着候由写差出則御用番江差出候大目附中江も申達候

本馬 拾四疋

軽尻 貳疋

人足 七拾人

四月廿七日戸塚泊此間略之五月十二日土居十三日久瀨泊右ハ此度上野介殿在所雲州広瀬表江被罷越候ニ付当月廿七日江戸表被致出立候間右之通人馬無間違差出頼存候

松平上野介内

石飛門左衛門

四月廿二日 宿々問屋中

一上野介様御通行ニ付大目附中る御徒目附下目附立宿之名面尋来東新町鍛冶^(株)■甚七と申遣候

一上野介様御通行ニ付例之通土居御着見受罷帰候様ニ問屋より今朝人足差遣猶又御様子不相分ニ付聞合ニ土居迄引統人足差遣候所大雨ニ而渡川止候由ニ而罷帰候段大年寄申出其段大用番大目附郡代江手紙ニ而申遣候

一院庄川出水ニ而渡船止候由郡代より通用有之大年寄へ申遣候

一二町目年寄林田屋兵助致病死候段大年寄届出候

五月十三日 晴

一大久保加賀守殿領分久米北条郡宮部下村仁助悻利兵衛義東新町久本屋新兵衛後家とよ引受人別人願差出御用番御聞濟ニ付大目附江相渡置御聞届申達候 同廿三日住宅証文出

一札元玉置卯左衛門稻実屋義七郎美濃出屋清右衛門父惠吉遺言ニ而銀千枚為書物献上仕右銀子御金奉行関十治栗田辰右衛門請取書ニ勘定奉行近藤伊左衛門植木左土上原彦藏石田新治飯塚弥代致裏印植木左土上被相渡玉置卯左衛門へ相渡候様大年寄へ申達候
一院庄川渡船相始候段八時前郡代より通用有之大年寄江申達候

一 大目附中より上野介様御通筋小便桶有之由ニ付取片付候様申来其旨
大年寄江申付候

一 奈良墨屋伊兵衛手代藤七と申者例年墨壳ニ京町美濃屋平五郎方江
来候所今般他所墨御停止ニ相成候間以後ハ筆白粉御壳ニ罷越度願
書差出承り届尤以後ハ他所江壳候墨ニても御当地江持込申間敷旨
申出候事

一 上野介様御通行ニ付土居駅江見星差遣置候所亥之中刻罷帰申候者
今八時過比土居駅ニ御止宿被成明十四日晚七時土居駅御発駕被成
候段申出候旨大年寄より相届其段御用番大目附江相届郡代勘定奉行
へ致通用候

一 上野介様先月廿一日出之追先触今夕到来今般ハ格別之御檢約ニ而
御旅行被成候付差上物堅御断被成并御昼御休者御出懸リ御見計ニ
被成候間其旨可相心得尤御宿割木村元一郎差遣候間対談可致万一
御日限相違出来候ハ、又々追触可差出旨之追触差出承り置何方江
も不相届候

五月十四日 快晴

一 上野介様今曉七時土居駅御発駕被成候ニ付麻上下着用五半時
出宅林田町山本三右衛門宅ニ而相扣九半時御通行被成川辺之注進
来ニ而供相揃玉琳江御懸リ被成候注進ニ而林田町横町北側白杵左
馬旧宅之横町江罷出御目見申上候処町御奉行増兒右門殿御馳走
之ためと御駕籠脇名披露有之押迄通済候而又々三右衛門宅
江罷帰り安岡町御離れ被成候注進ニ而罷立帰リ懸御用番一学殿
御宅江参り上野介様町分無御滞御通行相済引取候段相届ル大

目附江者手紙ニ而相届候但供立左之通

只之者 馬 若堂同心槍 扶箱 草履取 手合羽籠

一 同心組役割御先弘川端又六神田定治小野田為治
馬駅 三船孫八荻野嘉七 供 室井重助江原文蔵

当番 石名元蔵中山百蔵 夜廻 重助文蔵

一 上野介様御通行ニ付町方取計左之通

当役立宿 林田町山本三右衛門并供下宿

御徒目附下目附立宿 東新町鍛冶甚七

御先弘同心組立宿 東新町網屋善助

河辺注進二人但御かかり一人 御立卷人

玉琳遠見卷人

御本陣 玉置源五兵衛 同所詰三人 式步中買三人

給仕人三人

御使者案内 年寄式人

御使者休息所 伏見町

御使者宿 三丁目川口藤左衛門 御取次供方下宿 同町

福永屋助右衛門 福谷屋伝助

院庄渡場 御藏元熊野屋文五郎 船年寄神田屋孫三郎

在宿医師 本道北山修伯 針医笹岡休意

御持組立宿 安岡町

人馬問屋出役 諸吟味問屋目附式步中買三人

東西橋建札為引掃除之事

町分御通相済次第奉行所立宿江安岡町より注進之事

御通之節往来荷物土手筋へ相廻候様安岡町東新町江可申付事

御当日火之用心非人頭江可申付事

一上野介様御通行ニ付本馬拾七疋人足七拾七人差出候段問屋_江届書差出候

一右ニ付人馬足錢問屋入用百五拾六匁五分六厘有之由問屋_江之届書諸吟味差出候

一右ニ付院庄ニ而左之通被下候旨船年寄御蔵元届出候

金貳朱 御召船江 銀五匁 惣船江 銀貳匁 御蔵元江

銀貳匁 船年寄江 銀壹匁 下裁許人江 右大目附江出

一今晚御男子様御誕生被遊右恐悦申上四時床上下ニ而登城有之候由拙者共ハ出役ニ付受切ニ而相濟候段勘定奉行_江為知有之候

一今晚御男子様御誕生被成候段為御知廻状到来写取組_中牢屋三軒屋江相達ス

一三船新治義今朝入湯致出立候段届出候

五月十五日 快晴

一坪井町川津屋藤助追込昨日ニ而五日ニ相成候付今朝差免候様大年

寄江昨晚申付候所差免候段届出其旨御用番井大目附へ相届候

一今夕鍛冶町宗道大明神ニ而例年之通日待致候段届出候

一上紺屋町金川屋庄七弟多吉去子十月不斗罷出不罷掃百日尋候得共不相知又候追願百日申上候所此節百日ニ相成候大坂表ニ居候哉之

趣ニ相聞候間又候百日之日延願書差出承り届ル

一大山郡太夫長屋ニ居候利八義一人船頭町今津屋伊三郎屋守上紺屋町作人清次郎引受人別人願差出承り届ル

五月十六日 雨

一牢舍人伊右衛門病氣申出大年寄江申達候所柳瀬元隆申付候段届出候

五月十七日 少雨

五月十八日

一二階町増原屋かん甥喜助義去子十二月廿日致出奔其節百日尋申付置候所相尋候得共行衛不相知候ニ付人別離願書差出御用番御聞濟ニ付右願書大目附江相渡置大年寄へ御聞届申達候

一例歳之通夏中両大橋ニ而涼井見世先ニ腰掛候節御家中之衆中罷通候ハ、腰をはつし不札致間敷之町触差出候

一出役之者立宿時刻ニも相成候ハ、香物ニ而湯漬計差出其餘菜類并取持ケ間敷義致間敷兼而申付置候処去ル十四日上野介様御通行之

砌左之面々香物之外一菜ツ、も差出候由ニ付左之通叱申付候様大年寄江申渡候

出役立宿時刻ニも

相成候得者香物ニ而

湯漬計差出其餘菜類并取

持ケ間敷義致

間敷段兼々

申付置候処去ル

十四日上野介様

御通行之砌香物之外ニ

兼而被仰出通ニ相

可申付候得共先今般者

御使者宿三町目

川口藤左衛門

右同御取次下宿 福永屋助右衛門

町奉行立宿林田町 山本三右衛門

右同断下宿

鍵屋勘七

御徒目附下目附立宿東新町 播磨屋茂八

同心組立宿東新町 網屋善助

御持組立宿安岡町

用捨を以急度叱申
付候以來堅相守
可申候

鍛冶長右衛門

出役先時刻ニ相成候ハ、香物湯漬ハ可致
所望候得共其余之品ハ差出候共可及断候段
兼而申付置候所去ル十四日上野介様御通行之砌
香物外ニ一菜差出候処不及断候段兼而
申付ニ相背不念ニ候依之叱申付候以來
急度堅相守可申候

川端又六
神田定治
小野田為治

一小麦四拾俵瓜生原屋要吉船積申出孫八嘉七改

一小麦四拾俵姫路屋惠三郎船積申出孫八嘉七改

五月十九日 快晴

一小麦五拾壹俵空豆八俵米屋兵助船積申出重助為治改

五月廿日 快晴

一御藏米八拾四匁町米八拾匁

一無宿盜賊幸助惣社村神戸小原村ニ而盜取安岡町岡崎屋善吉西今
町坪屋乙四郎宮脇町丸屋後家坪井町鉄屋八十八西新町高松屋太助
方ニ質物差置候品々取上ケ郡代所江相廻ス

一 出羽守様来ル廿六日院庄御休之御関札来候旨通用有之

五月廿一日 快晴

一 出羽守様来ル廿六日御通行被成候付例之通之町触差出候

一 今般御誕生様御七夜御祝儀明後廿三日恐悦申上有之候間御徒格以
上四時登城候様御奏者番中廻状来リ写取組中牢屋三軒屋江相達候

様小頭江申付并大年寄江茂例之面々廻勤候様申達候

一 越中富山板屋理兵衛役介長次郎宗之介兩人例年之通罷越候付当十

一月迄逗留為仕度願書差出承り届ル尤京町菊屋清左衛門願書差出
候

一 小麦七拾俵今津屋孫十郎船積申出嘉七文蔵改

一 真嶋郡鹿田村善五郎と申もの勝間田ニ而病氣付送り来候由郡代
通用有之大年寄へ申付候

五月廿二日 晴

一 雲州先触左之通差出御用番江差出大目附へ相届ル

一人足方手配帳
面之通仕来を以
人馬相究如此
先触仕出し候処
人足附方相増候
其増人足丈増
入用ニ相成候間
其御心得を以
集置無滞
御手合頼入存候
分ハ繼馬三拾六疋
一 明石津山御領取
御手合頼入候

入存候尤西宮る久世迄之内ハ繼馬式拾五疋繼人足百七
拾人入用ニ候則人馬望之人別板札ニ相記是迄之通銘々
江相渡置候尤馬之分者壹番る三拾六番迄致番附置候
依之人足手配帳并印鑑遣之候且又右帳面之外入用之分
ハ例年之通紙切手仕出候間左様御承知可有之候右手配
帳一冊印鑑一枚宛御留置御順達可有之候恐惶謹言

一 伏見西宮迄ハ
通し人足ニ而被致
通行候之条人馬
とも不及御手合候
然共此廻状者
山崎通り郷順達
頼入候

五月三日

雲州人馬方
桑原嘉市

同 松崎六兵衛

同 片上良平

同 瀧 定七

元 藤岡文治

同 小畑太郎市

武州品川より東海道通り伯州
溝口迄

宿々問屋中

追仰至時人馬共少し余分之義茂可有之候間其節御手合
頼入存候且又同勢多ハ宮より桑名へ直渡ニ候間宮方場
神守三宿之分者印鑑計老杖つゝ御留置御順達可有之候
以上

一 例年之通昨今溝見分小頭又六部屋目附孫八大年寄諸吟味差出并出
羽守様御道見分兼而相勤候様申付候処無別条段何茂届出候尤坂口
見隠し損并元魚町角之升形埋候ニ付大溝分之升形ハ凌申付候処御
堀之升形埋居候由申出候付明日勘定奉行へ可相達事
一 玉琳ニ而盜賊藏之壁切候由申出物騒之趣ニ付非人加廻り三組申付
候

一 四月人別改

出生拾九人 男五人
女拾四人 人別人拾人 人別除拾老人
死失拾貳人 右差引ハ六人増

五月廿三日 雨

一 今般御出生様御七夜御祝義恐悦申上ニ付御徒格以上麻上下着用四
時揃ニ付五半時登城於七間廊下御小性頭謁有之大目附三奉行一同
ニ例之通恐悦申上早而御用所江罷出恐悦申上統而御用向弁之上席
右退出大目附役所ニ而恐悦申述之早而坊主部屋前於廊下御酒御吸
物被下置三奉行一同ニ頂戴相濟大目附役所江罷出右頂戴之御礼申
上候所右御礼者於七間廊下謁有之由被申聞御小性頭兼帶太田舍人

謁頂戴之御礼申上之

一 御出生様御名英丸様トと奉唱右御同名ニさへ無之候得者御構無之并

公辺御届御一門様為御知無之御次男様御同様之被御取扱之旨大目
附中ハ演達有之惣組牢屋三軒屋并町方へ触差出候

一 無宿盜賊幸助敲払来ル廿五日取計候間例之通立合被差出候様大目
附太田舍人江申達候

一 大工共御作事御用ニ罷出依之名面書御作事方差出被伺候由ニ付右
名面書一学殿御渡被成相考候様被仰渡候

一 出羽守様御通行ニ付左之通大目附太田舍人江相届候

御使者宿齋藤孫右衛門 御取次供下宿龜屋定治郎
御徒目附下目附立宿東申町(マ)藥屋与七郎尤以来御使者宿并御徒

目附立宿名面大目附中へ可相届旨ニ対談仕置

一 安岡町久米屋友七新魚町角屋熊治郎兵庫ニ而白油買請候一件ニ付

大坂江出訴仕度願出大坂表村尾左右衛門へ聞合申遣候様被仰出申
遣置候所昨日右返書来願書文段添削いたし来大坂御屋敷江向差出

候様ニ申来御用所江差出候処願書承り届勝手次第為致出坂候様一
学殿被仰聞其段大年寄へ申渡大坂へ来候返書并願書案文貸遣又尤

去ル九日願出候

一 出羽守様御通行ニ付人足少ニ付郷人足百人被仰付呉候様并寄馬拾
四疋問屋ハ申出候段大年寄願出依之左之通郡代江申達候尤郷人

足ハ老人三升ツ之御定ニ候

一人足百人 正五時揃 但一人三升ツ之雇

一 寄馬拾四疋

一院庄村庄屋娘渡部元端養女ニ引受人別人願承り届ル
一中之町北原屋利七娘^(マ)娠妊月取間違之届書差出

五月廿四日 曇

一小麦拾八俵空豆四俵米屋兵助船積申出孫八嘉七改

五月廿五日 曇

一去ル三日被仰渡候無宿盜賊幸助五十敲之上御領分追払取計候立合
例之通御徒目附荒井権左衛門下目附 小頭又六部屋目附孫八出
番重助文蔵庄屋送り手形差出候右取計候段御用番并大目附へ相届
候

一御蔵米八拾三匁町米七拾九匁

一安岡町刻屋佐七借屋ニ居候富屋道次郎同妻同母同悖右四人村山三
立長屋江引越度人別除願書承り届

一林田町鍋屋次郎助借屋ニ居候作人弥次郎後家まつ御使組渡部忠蔵
渡屋敷江引越度人別離願書承り届

一桶屋町宝珠屋還治娘去子四月惣社神主小井健治妻ニ差遣候処此度
離縁いたしニ付人別人願書差出寺社取次江懸合承り届

一出羽守様今晩七時土居駅御止宿被成明曉七時御出立被成候段土居
駅江差出置候遠見之もの及深更罷帰候旨大年寄申出御用番并大目
附へ手紙ニ而申達并先格之通出役仕候旨御用番へ申遣候

五月廿六日 晴

一出羽守様御通行ニ付麻上下着用五半時出宅林田町山本屋与三七方
江罷出相扣諸事去ル十四日上野介様御通行之節通林田町北側白
杵宅横丁江罷出御駕籠脇ら松越後守様御町奉行増見右衛門と名披

露有之御目見仕早而先格之通御目録金貳百疋被下之候依之名札相
渡し押迄相濟立宿江引取町分御通行相濟候段安岡町ら注進有之候
而帰宅仕帰懸御用番一学殿江罷越町分御通行無滞相濟候段相届大
目附へ者手紙ニ而相届候

出羽守様ら出役江被下左之通大目附へ書付差出

貳百疋 町奉行 御先払 三百文 小頭 貳百文 平組貳人
銀貳匁つゝ 馬駄出役同心組二人 壹貫百文 惣船江

三百文 御蔵元 同 船年寄 百文 下裁許人

一出羽守様御通行ニ付本馬三拾六疋人足三百四拾八人差出候段問屋
ら届出候

一雲州神戸郡杵築泉正干と申医師先月逗留相願候处未用事不相濟候
付今廿日計逗留仕度追願差出承届

一小麦四拾七俵空豆八俵高松屋藤吉船積申出元蔵改

一牢浚昨日申付候处無別条段出番申出候

五月廿七日 曇

一小麦五拾俵空豆四俵船本屋庄吉船積申出嘉七為治改

五月廿八日 曇

一木下淡路守殿領分備中国賀陽郡太井村卯八并妻娘二人右四人鍛冶
町桂屋久兵衛引受人別人願御用番御聞濟ニ付願書大目附へ相渡置
御聞届之旨大年寄江申達候

六月廿三日住宅
証文差

一森対馬守殿御預り所当国勝南郡瓜生原村佐右衛門悖利兵衛并妻娘
一人右三人伏見町松本屋平助引受人別人願書差出御用番御聞濟ニ
付大目附へ差出御聞届之旨大年寄江申達候

六月廿二日住宅証文差出

一 船頭町船持共例年之通一人五拾匁ツ、惣辻式ノ七百匁拜借仕度願
出差出勘定奉行江懸合之上御用所江差出候処御聞濟ニ付右願書大
目附へ差出置御聞届之旨大年寄江申達候

一 中之町二月屋弁右衛門義赤芥子兩年蒔付試候処土地ニ不相応ニ而
生立不宜引合不申候ニ付今年ノ相止申度願書差出御用番御聞濟ニ
付大目附へ差出置御聞届大年寄江申達候

一 戸川町髮結太吉方ニ去ル三日金外懸目壹匁五分杉状箱ニ入有之心
当リ之もの所々致吟味候得共主無之ニ付届出候段届書差出候処材
木町三家屋幸三郎下人右様之もの置忘候由風聞有之其旨大年寄江
致吟味候様申付候処三家屋幸三郎下人置忘候ニ相違無之ニ付相渡
可申旨大年寄届出承り届

一 淑姫様御結納被為濟候御祝義備前ニ而者被下置候間頂戴仕度段去
ル二月廿六日座頭共願出江戸表承紮候上可差遣候旨申達置大目附
所ノ承合有之候処未為濟れず候旨先達而江戸表ノ申来候段太田舍
人ノ被申聞其段配當場江申達候様大年寄江申付候

一 四月間屋入用百四拾八匁六分九厘有之候段小日記大年寄差出及一
統差及候

一 坪井町川津屋藤助義悻召連去ル十七日夜罷出候ニ付組合請人立合
相改候処諸道具無之出奔之跡ニ相見江所々相尋候得共行衛不相知
段届書差出百日尋申付候

五月廿九日 快晴

一 空豆拾八俵小麦六俵米屋兵助船積届出元藏文蔵改

一 小麦五拾四俵高瀬屋勘右衛門船積申出元藏文蔵改

一 小麦七拾五俵瓜生原屋平吉船積申出元藏文蔵改

一 小麦拾五俵瓜生原屋宗兵衛届出元藏文蔵改

六月

月番

御家老安藤丹後殿

御年寄黒田要人殿

大目附太田舍人

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 久山勘八

六月大朔壬戌旦

一 三船新治入湯ノ夜前罷帰候段届出候

一 小麦五拾俵佐伯屋七助船積願出嘉七為治改

一 御藏米八拾匁町米七拾六匁

六月二日 曇

一 勝部村清吉出牢切手郡代所ノ相廻拙者手形相認出番元藏ニ為持遣

一 牢舍人伊右衛門昨日ニ而二廻リ相濟候得共矢張老廻之医師柳瀬玄
立双方勝手ニ付相頼度段申出承り届

一 牢舍人幸吉病氣ニ付医師願出大年寄江昨日申付ル

一 下紺屋町万性院例年之通来ル八日ノ十日迄金毘羅護摩修行仕度願
書差出承り届ル

一中之丁阿部周見同妻并倅三人娘老人右六人上之町とめ引受候ニ付
人別離願差出承り届ル

六月三日 曇 晚小雨

一御蔵米七拾七匁町米七拾三匁

一二階町常宝院例年之通来ル七日と十四日迄不動堂并鎮守庖瘡守護
神江燈明之施主御座候付護摩修行願書差出寺社取次江引合之上承
り届ル

一下紺屋町文珠院跡ニ御座候祇園会式例年之通来ル七日と十四日迄
除疫祈禱仕度願書差出右同断引合之上承り届ル

一祇園会ニ付例年之通下紺屋町灯籠ともし度旨大年寄届出承り届ル
一右ニ付二階町北関貫四時迄開立番付置申度之旨大年寄届出承り届
其旨御用番大目附へ手紙ニ而相届候

一安岡町久米屋友七新魚町角屋熊次郎綿実油兵庫ニ而買受候義ニ付
大坂御奉行所ニ明四日出立之段大年寄届出右差出候付宜頼入候
段大坂村尾左右衛門へ添状認大年寄へ相渡候

一船持共拜借此間伺濟候通老人五拾匁つゝ合式七百匁之証文差出
致奥書相渡

一二階町茂渡市之助屋守佐久屋藤助借屋ニ居候笠屋弥兵衛同妻并倅
林之助右家内三人先月四日ニ罷出不能婦組合共相尋候得共行衛不
相相段届書差出依之百日尋申付候尤古畳類差残置候もの九品屋守
置
預り候段書付差出候

一東新町金吾と申もの船頭町直吉と申ものへ西新町ニおゐて博奕有
之候咄致候段桶屋佐七と屋廻新治元蔵承之金吾呼出相尋候得共一

向訳立不申依之他参留申付置候段届出候

六月四日 快晴

一昨日古市主殿を被申聞候者当四月一ノ宮市町芝居ニ而目明孫兵衛
役所江之酒八代ニ而差出候様申候を表組聞答勸進元相糺候処芝居
と拾八匁つゝ差出候由并廿日ニ酒差出候処其戻返り候処廿五日ニ
又酒差出候処其節者納り候由何方へ出候事哉不存旨申候由物頭組
不残之小頭相糺呉候様願出候段相糺呉候様ニ内々被申聞小頭又六
江遂吟味候様申付候処目明孫兵衛呼出遂吟味候処如何様之訳歎ハ
不存候得共芝居一軒る弁当代沓匁式分つゝ先役る取来候義ニ付当
年も受取申候段申之依之先前町目明相勤候文太江又六右之訳相
尋候処以前者目明共徳分余程有之候処拾三年前御法度敵數相
成其砌乃弁当代何角ニ芝居一軒る一日ニ沓匁式分つゝ取来候由文
太申候旨又六申出左候ハ、是ハ矢張其分ニ而可然旨申遣置候扱又
廿五日出役新治加人為治見習百蔵之処右酒受給候由ニ付左之通明
朝申渡候様小頭又六江申付候

三船新治

其方義当四月廿五日一ノ宮市町
出役之砌芝居酒煮立宿へ差越
及断候処下女心得違右酒温メ差出候ニ付
温候ものハ難差戻料物さへ遣候得者宜事と相心得
右酒給候由尋之上申出候兼々出役先ハ禁酒と
敵數申渡置候ハ料物ニ抱り候義ニ而者無之何れ之
酒ニ而も決而給申問敷所役義不相応心得違不
埒之事ニ候依之追込申付候相慎可罷在候

右ニ付承り候処市町帰り懸にて自身ニ酒相調給候者も有之候由孫

八ノ申出候付左之通申渡候

其方共義兼々出役先ハ禁酒と申渡置候処自身ニ相調給候義ハ不若様ニ相心得居候ものも有之由心得違之事ニ付以來於其場調給候義堅致間敷候此段可相心得候

惣組中江

右之通取計候段古市主殿江手紙ニ而申遣候

一倉敷之者兵庫灘水車稼之者ハ被相頼当国中之菜種買集候ニ付当町ニ而も町家之者申談取計候ニ付其旨蔵合孫左衛門方江参り相届候ニ付添簡等持参不致左様之義内分ニ而致応対候義ハ決而不成義ニ候旨嚴敷可及断之旨孫左衛門伺出其通及返答候様申達并当地町人懸合之ものも有之候者致吟味申出候様申達ス

一小麦五拾五俵小桁村治右衛門申出定治文蔵改

一宗旨証文案文宗旨奉行鈴木忠之進る昨三日相廻り大年寄へ相渡候

六月五日 快晴

一福渡町ニ石打有之候段夜前申出夜廻り之者差向致吟味召捕候様ニ町内江も申付候

一東新町金吾呼出例之通立合遂吟味候処一向風聞而已ニ而聴と致候義不相分右風聞も通り違ひニ承り候旨ニ付致其分差戻候併未他参留者申付置候

六月六日 快晴

一小麦三拾壹俵空豆拾壹俵米屋兵助船積申出元蔵為治改

一福渡町石打夜前も少し有之候段夜廻之者申出候

六月七日 快晴

一茅町玉嶋八十七すたれニ古綿ニ煙草之吸から包有之昨六日七半時ニ見出候段届書差出得与以後アリ方申付候

一小麦四拾八俵瓜生原屋平吉船積申出昨日元蔵為治改

一小麦八拾俵今津屋孫十郎船積申出孫八元蔵改

六月八日 快晴

一来ル十二日惇信院様御三拾三回御忌ニ付御供養被仰付候段為御知御触大目附ル相廻り写取町方江右ニ付先格之通十一日晚五十二日終日自身番いたし候様触書差出組中牢屋三軒屋江も相触候

一惇信院様三拾三回御忌ニ付座頭共御布施頂戴願出其旨御用番江申上候処御聞濟ニ付其旨大目附勘定奉行へ及御尊置御聞濟之段大年寄へ申達候

一備前上道郡西大寺村油屋弥三郎惇亀吉義二階町山手屋弥太郎養子ニ引受人別人願御用番御聞濟ニ付願書大目附へ差出置御聞届申達候 六月廿一日住宅証文出

一湯谷村五郎右衛門被盜もの七品町触取計候様大目附より被申聞町触差出候

一御蔵米七拾五匁町米七拾壹匁

一ノ宮市町ニ而目明共芝居る并当代物頭組名目を^出し取候段御吟味被下候様ニ大目附へ弁書差出候ニ付右弁書并上河原新蔵口書物頭組口書共ニ三通大目附被相渡遂吟味候様被申聞候付目明孫兵衛并同役源之丞呼出小頭部屋頭立合台所内庭ニ而遂吟味候処物頭組を役所と称し并名目を出し候義ハ決而無之旨申候ニ付其旨口書取

為致印形候明日大目附江可差出事

六月九日 快晴

一昨日遂吟味候孫兵衛口書并以前目明相勤候文太江聞合之書付并右
之段拙者取計之弁書三通太田舎人江差出昨日被相渡候物頭中より出
候弁書三通差戻候

一昨日被相渡候湯谷盜もの、書付触流取計候付太田舎人江差戻候

一御蔵米七拾匁町米六拾六匁

一大目附太田舎人より呼に來罷越候処先刻被差出候一ノ宮一件物頭之
方之義ハ相分候処目明共弁当代取候起し訳并芝居一軒より一同ニ卷
刃式分ツ、目明幾人出候而も差出候事哉又ハ目明一巻ニ巻刃式分
ツ、差出候事哉当年一日分致不足候者廿五日ニ酒ニ而納候故拾六
匁八分差出候事哉右等之訳以前目明相勤候もの并以前勸進元相勤
候者呼出遂吟味并備前屋七兵衛呼出目明孫兵衛申候通ニ相違無之
哉此段得と今一応相糺候上被申出候様御用番御申ニ付其旨取計可
申旨被申聞候付

以前勸進元相勤候もの

(堺町米屋平兵衛
元魚町北原屋長七)

当年之勸進元相勤候もの

林田町備前屋七兵衛

以前目明相勤候もの

(新職人町松野屋甚助
福渡町皆木屋甚助)

右五人呼出例之通立合遂吟味候処以前より酒一張前煮少々芝居
目明江一日ニ一度差出候所目明皆木屋甚助相勤候節同役初屋忠助

と申合代ニ而卷刃式分ツ、取候様ニ相極候由并目明何人出候而も
卷刃式分余ハ不差出候由并備前屋七兵衛相糺候処孫兵衛申口ニ毛
頭相違無之致符号并一日分不足ニ差出候義ハ定而金元新蔵義廿五
日ニ者酒ニ而相納候故一日分引残差出候事ニ而も可有御座と奉存候
尤七兵衛誠ニ名代計ニ而諸事自身ニ取計候義ハ無之趣ニ相聞候右
之旨右五人之者共口書取置候明日大目附江可差出事

一 大坂新町新京橋柳屋嘉助抱えしけと申遊女元津山戸川町三升屋兵
吉兄仙と申者盗出致出奔爰元江帰候由ニ而尋來右嘉助義戸川町年
寄源五郎江届出候段申出候付爰元離帳之もの故爰元江可申筋者無
之以後來候為相知可申旨申差返候様ニ申合候旨大年寄届出承り置

六月十日 雨

一 左之大工共棟梁之不用下知不届之旨棟梁伊兵衛幸助より弁書夜前大
年寄差出依之弁書差添左之通相伺候

家職差留
十日追込
勝間田町 伝七
下紺屋町 茂右衛門
戸川町 庄兵衛
西今町 嘉左衛門

一 小麦百式拾俵空豆式拾俵瓜生原屋平吉船積申出重助文蔵改

一 小麦七拾俵瓜生原屋宗兵衛船積申出重助文蔵改

一 元魚町西側ニ而住屋市左衛門所持之家屋敷表口式間半裏行拾七間
三步役北隣ハ米屋新兵衛南隣ハ黒坂屋多兵衛右家屋敷五百匁ニ相
極豊屋喜兵衛へ売渡願書差出承り届ル 同廿三日売券状出ル

六月十一日 雨

一三船新治追込今朝差免候様ニ又六江申達候

一高石垣関貫番所付替ニ付臭橋御作事ニ而植替候処植様不宜枯候付

右植替地面并新用被相渡候ハ、此方ニ而植替申付度西村治太夫江

申遣候所新用ハ申遣候程可相渡候間勝手次第植替候様申来右取計

候様久山勘八江申付候

一小麦四拾俵空豆六拾五俵高瀬屋勘右衛門船積申出孫八文蔵改

一空豆三拾式俵瓜生原屋宗兵衛船積申出孫八文蔵改

一空豆八拾俵瓜生原屋平吉船積申出孫八文蔵改

一小麦四拾俵福本屋新右衛門船積申出孫八文蔵改

一小麦百拾六俵空豆四俵船本屋庄吉船積申出孫八文蔵改

一小麦五拾俵空豆三拾式俵米屋兵助船積申出孫八文蔵改

一下紺屋町長江長庵備前西大寺小松屋元次郎方江三十日之逗留ニ而

罷越候願差出候

一惇信院様御法事ニ付今昼後より自身番仕候事右ニ付明朝御法事中大

番所脇江辻固同心組兩人差出候様小頭江申付候尤御法事出役之面々

引取候上ニ而引取候事

六月十二日 快晴

一御法事ニ付大番所脇辻固嘉七為治無滞引取候段届出候

一西今町公文屋清左衛門役介次兵衛四国遍路罷出度願出差出承り届

ル

一五月中間屋小日記差出致一見差戻候但式百拾壹匁九分八厘

一当春六三郎尋出候入用受取証文差出致奥印尤其内孫兵衛臨時入用

百拾三匁六分八厘庄七臨時入用式拾九匁七分八厘

一暑中御機嫌同年々御触者無之段相触候得共当年者日限御差延十三

日四つ時揃登城候様ニ去ル十日御奏者番中より廻状到来

六月十三日 晴

一暑中御機嫌伺四時揃ニ付平服ニ而五半時登城例之通於七間廊下御

小性頭謁御而殿様江御機嫌伺上席大目附より申上之

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡荒神山村藤四郎倅要助并娘右二

人小性町桶屋甚兵衛引受人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附

へ渡置御聞届申達候 同廿九日 住宅証文出ス

一柴田宗徳江御内用申遣候用河内志津馬より申来依之宗徳江文通仕候

段大目附へ相届候

一安岡町村永屋恵助弟常四郎義十四年巳前御領分西々条郡瀬戸村和

平次方江差遣置候処右和平次死去仕常四郎義若年ニ付此度村永屋

恵助方へ引受人別人願差出承届ル

一林田町隅屋治之助借屋ニ居候作人佐助後家かね義林田上之町茂兵

衛と申もの親ニ付引受申度人別除願差出候承り届ル 七月改ス

一材木町大工市右衛門妹たか同人娘なかつ二人御領分東南条郡林田

村伊兵衛倅丈助妻子ニ差遣度人別除願差出承り届ル

一小麦六拾俵弓削屋太助船積申出嘉七為治改

一孤独扶持百三拾壹匁七分三毛勘定所より受取大年寄江相渡

一此間伺置候大工四人直吟味無之御戴許申渡候義ハ御政治ニおゐて

不相濟候間呼出遂吟味品ニ寄棟梁も可遂吟味并家職留も申候者余

り絶候間手錠追込位ニ而者如何可有之哉此所も尚又相考申上候様

要人殿より被仰聞後刻宅江罷越存寄申上候得共御聞入無之何れニも

呼出遂吟味候様被申聞依之例之通之立合ニ而左之面々呼出遂吟味

勝間田町伝七 下紺屋町茂右衛門 戸川町庄兵衛

西今町嘉左衛門

右四人相糺候処棟梁ノ申上候ニ相違無之一々御察度受候而者申披
無之段申口書印形取明朝御用番へ可差出事

六月十四日 晴

一 二ノ宮兵八被盜もの触流取計候様大目附ノ申来写取大年寄江申達候

一 昨日之大工四人口書御用番江差出并此間差出置候同類不残差戻候
一来十六日怡丸様御庖瘡御酒湯被為濟候恐悦英丸様御宮參御祝恐悦
申上有之候間四時揃登城可有之旨大目附中ノ演絡有之候

一 德守納涼初日ニ付先例之通警固同心組新治元藏差出候処別条無之
段申出候

六月十五日 晴

一 伊藤采女組津田千左衛門役介次助義当四月上紺屋町問屋八右衛門
引受候処今度差戻度人別除願差出承届ル

一 御使組難波藤治屋敷ニ居候権平娘中之町紺屋助右衛門借屋ニ居候
作人重助妻ニ引受度人別人願差出承届ル

一来ル十七日先格之通二丁目ニ行灯差出候段大年寄申出

一小麦貳拾六俵空豆拾俵瓜生原屋平吉船積申出新治元藏改

一小麦三拾五俵姫路屋恵十郎船積申出新治元藏改

六月十六日 晴

一 麻上下着用三奉行已上四時揃五半時登城於七間廊下御小性頭謁例

之通大目附上席ノ英丸様御宮參恐悦怡丸様御庖瘡御酒湯被為濟候
恐悦御兩殿様江申上之早而三奉行一同ニ御用所江罷出右恐悦申上
之末席ノ引取引懸ニ大目附江右恐悦申述之諸事振合例之通

一 追廻今津屋孫十郎持之郷藏八時出火ニ付致出馬候処右郷藏不残焼
失夫而已ニ而及鎮火於其場町年寄一人ツ、呼出大年寄披露太儀と
申達引取尤下火消ニ水之手少々并鎌熊手之類残置余ハ不残引取候
様ニ申達婦リ懸御用番之御宅江罷越右之旨相違大目附江者使を以
右之段相届七時前帰宅

一 昨日牢舍人伊右衛門助十郎替之医并太吉病氣ニ付医師願出大年寄
へ申達候処渡部玄端田外玄洞申付候旨申出候

一 目明源之蒸申出候者昨日火事場ニ而烏散成野伏子共召捕非人江預
置遂吟味候処拾貳歳ニ相成候三兵衛と申野伏手あやまりニ相違無
段申候旨及白状候之旨届出候ニ付其俣非人ニ預ケ置可申仍後日直
ニ可遂吟味之旨申達置候

六月十七日 晴

一 昨日之郷藏焼失届書今津屋孫十郎ノ差出候段大年寄差出火元之義
一向不相分段申出候并万人講諸道具焼失者相糺候上可届出旨ニ候
右之段御用番へ相届何分明日右之野伏之子供相糺候上委細可申上
旨届置候

一 前訓講釈来ル十九日ノ相始候段大年寄届出候

一 德守宮納涼ニ付先格之通来ル十八日并水無月之夕元魚町住屋玉嶋
屋角ニ大あんと差出候様大年寄届出承届ル

一 桶屋町備中屋定吉妹山北村弁藏妻ニ差遣度人別除願差出承り届ル

一山北村伊兵衛伴仁三郎義二階町大工長右衛門養子ニ引受度人別人願差出承り届

一今夕先格之通観音ニ付宮脇町関貫四時迄開立番付置候段大年寄届
出昨日於御城御用番江相届大目附江も申達候

一撰州有馬辻堂茂兵衛と申もの例年墨筆卸売来候所他所墨御停止ニ相成候ニ付以後ハ筆白粉卸売罷越度願書中之町甲屋幸助差出承り

届候段大年寄へ申達尤他所江壳候墨杯持込候義ニも候ハ、町年寄并宿立合相改封印致置帰候節相渡候様ニ可取計(ムシ)旨大年寄江申達置候

一五月人別改
出生十八人 男七人 女十一人 人別人拾六人 人別除七人
死失九人 右差引拾八人増

六月十八日 快晴
一茅町儀ハ娘いく義当国之内土井大炊頭殿領分勝南郡新野西上村松太郎妻ニ差遣度人別除願御用番御聞届相済大目附へ右願書差出置御聞届申達候

一惇信院様三十三回御忌御布施頂戴之書付配頭場差出御用所江持参御沙駄申上右書付大目附へ相渡置

一万人講木村等不残去ル十六日追廻ニ而致焼失候書付講元る差出御番へ差出候

一東新町橋本屋茂右衛門借屋ニ居候佐七後家さわ五十八才同人母八十五才病氣ニ而難渋ニ付御救扶持被下置候様願出御用番御聞届ニ付大目附へ願書相渡勘定奉行中江右之旨及通用置御聞届之旨大年

寄江申達候
役所渡り道具之内左之通損候ニ付大目附江書付差出候
陣笠十枚 大文字付黒羽織巻 合羽巻
右引替 大文字付高焼灯巻 張替

大文字付黒羽織一 合羽巻 右二品紛失ニ付新ニ御渡可被下候
一高石垣番所出来替り出替ニ付番人今日中ニ引移候様ニ取計可申旨御作事奉行西村治太夫申候ニ付其段申渡候様ニ小頭又六江申渡候

一下紺屋町万性院替地引渡ニ付町役差添明十九日五時過高石垣江罷出候様ニ寺社取次藤本十兵衛申聞候付其旨大年寄へ申渡候
一去ル十日伺置候大工共同之通申渡候様御用番被仰渡於白砂小頭部屋目附大年寄諸吟味立合左之通書役る読渡候

其方共義兼々我俣ニ而風義
悪敷其上御用之節も不能出
棟梁并組頭等之差図を不用
重々不届候依之以後大工
職差留追込申付候相慎
可罷在候
但追込十日

勝間田町 大工 伝七
下紺屋町 大工 茂右衛門
戸川町 大工 庄兵衛
西今町 大工 嘉左衛門

右之通申渡候御用番大目附江番相届候但追込者大年寄宅ニ而可取計先格ニ候得共今般ハ家職差留之義重き事ニ付於白砂申渡候

一万人講場諸式焼失ニ付又々先規之通可申付哉と奉伺候処其旨申付候様要人殿被仰渡其旨大年寄江申渡候
一追廻郷藏出火火元吟味ニ付野伏子供三兵衛三五郎呼出遂吟味候処

手あやまりニ無相違ニ付口書取御用番江差出右ニ付追払可申付段
相伺置候

一勝部村溜池蓮葉御払例年之通町触取計候様郡代江申越候ニ付触差
出候

一南新座町人屋出来郷中へ右之段相触置候旨郡代江申出候間郡代申
談町触宜取計候様要人殿被仰渡候尤右書付ハ大目附る相廻候旨被
申聞候

一追廻郷藏焼失之義久世御役所江為知申遣度旨今津屋孫十郎案紙差
出致一読為知一ト通之文段ニ付勝手次第ニ致候様大年寄江申達候
一例年之通酒榼洗仕度ニ付封印開酒改共願出候段大年寄申出候近日
可及御沙駄事

六月十九日 快晴

一黒田要人殿より追廻之郷藏焼失候得共昨日之吟味書之趣ニ而者今津
屋無念者弥無之義哉右大意相認差出候様手紙ニ而申来依之野伏子
共口書之通火元外ニ有之候義ニ御座候得者孫十郎無念者無御座筋
と奉存候段認差出候

一昨日牢浚いたし候処無別条段申出候
一昨日伺置候野伏子共三兵衛三五郎伺之通追払取計候様要人殿より手
紙ニ而申来候依之明朝取計候様小頭江申付候

六月廿日 快晴

一野伏子供此間入牢可申付筈之処幼少ニ而難取計夫故矢張非人小屋
へ預ケ置今朝牢屋江呼出小頭又六部屋目附新治右兩人差出左之通
申渡御書附相渡出番為治新田へ追払相濟候ニ付其旨御用番并大目

附へ手紙ニ而相届候

其方共義去ル十六日追廻郷藏
之脇材木之内江忍入たはこ終候迄 野伏小供
右之火藁くすニ当置及出火不届 三兵衛
之事ニ候依之御領分追払申付候以後立帰おいて徘徊者 三五郎
急度曲事ニ可申付者也

一小麦四拾俵高瀬屋文吉船積申出定治文蔵改

一宮脇町松野屋伝助娘幾義御使組津田吉治妻ニ差遣度人別除願差出
承り届ル

一河原町熱田市正娘りの義御領分西々条郡下森原村小田草大明神之社
家小林河内妻ニ差遣度人別除願書差出寺社取次引合之上承り届ル

一船頭町今津屋孫十郎同町和泉屋吟兵衛家売買公事年久敷事ニ而内
濟難調双方願書差出猶又致内濟候様可申付旨大年寄へ申付候

一元魚町住屋市左衛門義当町ニ月ニ三度つゝ市町興行仕度願書内意
申出心付至極尤之義ニ者候得共当時差支之義有之難差免候間追
時節を見合相願候様ニ申達右願書差戻候

一嶋本屋乙治芝居願内意申出最早当年ハ不相成旨及即答

一例年之通来ル廿五六日惣町宗判取候間大年寄諸吟味相詰町年寄も
手伝差出候旨大年寄申出承り置

六月廿二日 曇

一小麦九拾式俵空豆七俵瓜生原屋平吉船積申出定治為治改
一小麦式拾俵瓜生原屋惣兵衛船積申出定治為治改

六月廿二日

一宗門改入用人別錢四文五文ツ、相集候処当年者五文ツ、相集候段
大年寄届出候

一妹尾平兵衛男子出生届出候

一京都伏見海道五条上町森下町近江屋勘兵衛老人例年之通小間物き
せる御売ニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出候寅正月十三日
届届有之

一小麦三拾俵船本屋庄吉船積願出新治文蔵改

六月廿三日 曇

一西今町三倉屋栄治不行跡ニ付親類義絶勘当仕度願書差出御用所御

聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞届申達候

八月十九日
証文出ル

一馬持廿五人例年之通大豆壹俵ツ、拜借願出勘定奉行江懸合之上御
用所江申達候所御聞濟ニ付右願書大目附中江相渡置御聞濟之段申
達候

一材木町万屋与三兵衛裏借屋ニ居候孫四郎七拾九歳ニ相成孤独ニ付
御救扶持願出御用所御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞届之旨
申渡候

一右同人借屋ニ罷在候作人長兵衛後家せみ七拾五歳ニ罷成孤独もの
ニ付御救扶持願出右同断相濟

一久米屋友七白油之義出訴大坂御番所江出候段村尾左右衛門ノ返書
来御用番へ入御覽戻ル但廿六日御呼出し

一封印付酒樽例年之通夏洗仕度開封願出御用所御聞濟ニ付其段申渡
廿四日五日両日小頭部屋目附差出

一院庄川兼田川留り明問屋為知呉候様ニ郡代と懸合不相調候ニ付大

目附江申達候所小須賀貢先達而下方懸合ニ而相濟候様被申聞候ニ
付去年来度々為遂相談候所下方願ニ而者不致承知候ニ付又々申出
右返書大目附太田舍人江差出置候

一追廻並木松先日出火之砌焼候ニ付右焼松万人講棚木柱ニ仕度旨久
山勘八申出其段大目附へ申立置

一高石垣臭橘植替日雇代拾壹匁式分晝付久山勘八差出御作事奉行西
村治大夫へ相渡置銀札相廻り勘八江渡ス

一去ル九日大目附江差出置候一ノ宮市町ニ而目明酒代取候義芝居銀
元上河原村清蔵と目明孫兵衛と口之不合所并右酒代ハ老人ニ而取
候哉日々出役之もの取候哉今一応致吟味候様大目附^附中被申聞清蔵
口書被相渡候

一小麦貳拾俵瓜生原屋平吉船積願出孫八文蔵改

一木川留差免候義相考追而之御用日ニ申上候様去ル十八日要人殿被
仰聞依之何之存寄も無之旨申上候所差免候様被仰出其旨町触差出
候

一南新座町ニ人屋出来候為御知御触書到来写取町方并組中牢屋三軒
屋江も御触差出候

六月廿四日 晴

一前訓今日切ニ而読終候段豊屋喜左衛門相届出席帳差出候

一酒樽封ニ又六孫八差出

六月廿五日 晴

一今夕茅町ニ而百万遍いたし候段届出候

一札元妹尾平兵衛此間出生之小兒致病死候段届出先格ハ札元ニ而も

並々之通而隣年寄立合相改候事之由申出候得共大年寄並之取扱之
ものニ候得者改ニ者及間敷届書様躰書程ハ差出候而も可然孫右衛
門江申付候

一同心組室井重助義去ル十七日在所東におやたと申所江參候由ニ而
仲ケ間頼置罷出候所其後不罷帰候ニ付目明共相頼所々心懸之処相
尋候得共行衛不相知弥出奔ニ相違無御座旨小頭又六届出依而左之
通り大目附中へ相届置候尤親類有之ものニ候得者猶此上尋等も可
申付筈ニ候得共一向親類無之ものニ付其俣致置候
一同心組老人致出奔尋申付候得共行衛相知不申候ニ付追而召抱可申
候此段御届候段大目附へ相届候勘定奉行へも右同断及噂置候

六月廿六日 雨

一札元妹尾平兵衛出生之男病死届書并医師容躰書大年寄る差出候
一倉敷村弥吉と申もの摂州灘月油屋共ら被相頼当国中菜種買集差登
候ニ付爰元ニ而右之通買集処拵度旨乃井野役人津田与一左衛門水
谷今五郎津田銀藏之添簡持参願書大年寄る差出候相糺可及返書
事

六月廿七日

一倉敷弥吉願書并乃井野添簡要人殿江差出候
一玉置卯左衛門勝山金田三郎左衛門方へ五六日之逗留ニ而罷越度段
大年寄る届出候
一上紺屋町威徳院倅教円坊和州大峰江為修行官職為仕度三十五日計
之逗留ニ而来月三日差遣度願書差出承り届ル

一東新町左七後家母子孤独扶持拾八刃材木町長兵衛後家同町孫四郎

兩人孤独扶持拾六刃勘定奉行所より相廻り大年寄へ相渡候但八月
迄也

一玉置卯左衛門兄金田三郎左衛門と申もの致病死依之卯左衛門義半
減之服忌引込候段届出其段御用番并大目附へ相届候

一当四月一ノ宮市町ニ而目明共芝居る并当代取候義先日致吟味孫兵
衛口書差出候処上河原村新蔵申口と致相違候義有之ニ付猶又遂吟
味候様大目附太田舍人被申聞今日孫兵衛呼出小頭部屋目附立合遂
吟味候処先日申候通ニ弥相違無之段孫兵衛申候ニ付尚又口書為致
印形候明日大目附江可差出事

一大工共四人今日切ニ而追込十日ニ相成候間明朝差免候様大年寄へ
申達候

一備前岡山小畑町単屋甚八倅清兵衛と申もの老人例年之通元結卸売
参候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出申候 翌黄正月十三日届候段届出候

一播州今市綿屋嘉市郎手代武兵衛伊兵衛嘉兵衛三人例年之通呉服売
ニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出 翌黄正月十三日届候段届出候

一河原町小性町之西町出火之砌牢屋江相詰罷在木蔵江も相詰罷在候
段相届候義も以前有之候処去ル十八日追廻之出火之砌牢屋江相詰
候得共当时之町年寄共八木蔵へ相届候義不存依之木蔵も察度有之
候由ニ而下方致吟味候処被仰付と申義ハ無之候得共二三拾年以前
相届候年寄共ハ相届候由申之候段両町る并書差出遂吟味候得共右
之訳不相知併旧例届来候義ニ候ハ、追而及差図候迄ハ矢張相届候
方ニ而可然旨大年寄へ申達置候

六月廿八日 曇

一備前国津高郡宮地村文吉娘さん義鍛冶町鍛冶重治郎娘ニ貫受度人
別人願御用所御聞濟ニ付右願書大目附江相渡置御聞届申達候 七月
十三日住宅証文出ル

一森對馬守殿御預り所当国勝南郡位田村百性沼左衛門弟新兵衛義上
紺屋町小高屋市太郎引受人別人願御用所御聞濟ニ付右願書大目附

へ相渡置御聞届申達候 七月十三日住宅
証文出ル

一土井大炊頭殿領分久米南条郡南庄西村百性十兵衛世倅和兵衛夫婦

二人桶屋町備中屋定吉引受人別人願御用所御聞濟ニ付右願書大目
附へ差出置御聞届申達候 七月三日住宅
証文指出候

一鍛冶町鍛冶頭市郎右衛門弟子二ノ宮村弓削屋新助倅多七義二ノ宮

ニ而鍛冶職致候得者町内故障ニ相成候ニ付職分差留呉候様町内
申候ニ付職分差留度願書差出内々郡代所江懸合右願書相渡置候

一昨日遂吟味候目明孫兵衛口書大目附中へ差出候

一昨日御用番中江申達置候乃井野る添簡有之候倉敷弥吉願書之趣本
人願出候ハ、答ニも可及候得共余人願出候趣ニ而願候者筋違
之義故難取上候間願書差戻候段呼出申達添簡返書も右之通ニ可及
答旨御用番中江相伺候処其趣ニ取計候様被仰聞依之明五時宿召連

罷出候様ニ相達候様大年寄江申付候尤他之もの故先格之通同心組
兩人玄關ニ相詰候様ニ可取計旨又六江申付候

一材木町大工八郎右衛門義山北村弁藏妹七義妻ニ貫受度人別人願書
差出承り届ル

一二階町山手屋弥太郎家守荒田屋忠藏借屋ニ居候正本屋武兵衛妹四
年以前林田上之町吉左衛門嫁ニ差遣置候処今般不縁ニ付離縁仕度

人別人願差出承り届ル

一山田主膳殿内衣裳栄治娘義塚町豊屋多助借屋ニ居候芦田屋左吉妻

ニ引受度人別人願差出承り届ル

一高石垣番賃銀拾五匁豊岡藤十郎差出

六月廿九日 曇

一倉敷村増屋弥吉呼出小頭部屋目附書役立合於白砂左之通申渡

菜種買集之義兵庫問屋倉敷 増屋弥吉

被相頼候由ニ而願書差出候得共 右同道宿

本人願出候ならてハ難取上 京町 戸屋伝吉

筋本人願出候義ニも候ハ、答ニも可及候得共

何連当領者菜種払底之所ニ而以前他江差出候

義者無之逆も出来兼候義ニ付旁以願書差戻候

其旨可相心得候

右申渡候趣内々要人殿江入御覽候処御存寄無之旨被仰聞候右添簡

返書も右同断

一拙者今昼時比要人殿御奉書到来御宅江罷出候処大目附太田舍人

詰合ニ而御用之義有之候ニ付仕度次第出府可仕旨要人殿被仰渡候

一右ニ付留主中当役松岡治部助へ被仰付候間引渡候様太田舍人被申

聞候 (マ)

一右ニ付役所付諸道具諸帳面并關所銀式拾匁式分式厘関貫番賃銀三

拾式匁六分松岡士江引渡候

一同心組室井十助出奔跡石名元藏今度右門召連候ニ付右跡使組加人

兩人申立舍人江手紙ニ而申遣し勘定奉行上原彦藏江懸合日下勇助

福崎為次郎相廻ル

六月廿日

一元魚町田辺屋峰吉西側表口式間裏行十九間三歩壱厘役代銀札貳百
五拾目相極組合ふくる屋喜七へ売渡申度願出承り届候 七月二日売券

状出ス

七月

御用番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目付 渡辺惣右衛門

月番

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 豊岡藤十郎

七月朔日 晴

同 二日 曇

一筑前遠賀郡山鹿浦伝十郎手代清四郎七六忠藏彦十郎右四人例年之
通茶碗類売越候旨宿京町田戸屋惣十郎宿切手指出候

同 三日 曇 晴

一今暁八時過廻文到来若君様御不例之処御養生不被為叶去月廿四日
酉ノ上刻御逝去被遊依之鳴物高声今日ら来ル十一日迄并普請者来

ル六日迄御停止之旨申来り例之通牢番三軒屋組中触達し之儀小頭
へ申遣候大年寄江も触達し申付候

一玉置卯左衛門忌中今日迄七日ニ相成候ニ付明日より忌指免し申度
之旨伺相濟今夜廻リニ奉書為持指遣し候卯左衛門忌差免之儀ハ勘
定奉行る懸合有之申談之上相伺候

一当四月一宮市町之節上河原新藏町分目孫兵衛懸合之儀ニ付物頭
ら申立有之近々相糺候書類舍人ら猶又被相渡双方申口分兼候処相
糺可申尚考取計候様被申聞候

七月四日 曇

同 五日 晴

一惣右衛門ら御用向有之旨申来罷越候処油絞り之儀ニ付御達し有之
候処答之儀被仰出候間一件書類披見之上取調書上候様被申聞候

同 六日 晴

一奈良岡嶋忠兵衛例年之通墨売ニ罷越候処先達而他所墨商売御停止
被仰付候趣申聞候右ニ付墨商売相止め筆刀脇指之鞘商売仕度旨宿
京町ミの屋平五郎ら願出承り届候

一武田勇次郎取次いたし候自国請酒株去ル酉ノ七月相願林田町桶屋
宇助へ貸置候処此度取戻已後宇助方ニ而商売不致候旨断出承り届
候

一橋本町松田屋佐助所持いたし候他国受酒株此度二かい町河本屋忠
吉方へ相譲り已後私手前ニ右株を以請酒商売不仕候旨願出承り届
候

一茂渡市之助家屋敷二かい町東側表口五間裏行拾七間壱軒役右家屋

敷之内北之方表口三軒裏行拾七軒六步役代銀四百四拾式匁相極町

内豊屋佐吉へ売渡申度願出承り届候 七月廿三日売券状 指出し候

一 右家屋敷南之方表口式間裏行拾七軒四步役代銀札式百八匁ニ相極

町内出雲屋助三郎へ売渡申度願出承り届候 七月廿三日売券状 指出し候

七月七日 晴

一 五時過出仕七間廊下ニおるて例之通大目付以下謁五夕ニ付出仕候
旨筆頭貢る相述退出今夕ハ御用所江不罷出

七月八日 晴

一 三浦志摩守殿御領分真嶋郡新庄村平兵衛弟治兵衛当丑三拾六歳ニ

罷成坪井町浜屋源右衛門養子ニ引受人別人願出今日伺相済大目付

へ相達し承り届候段源五兵衛江申渡候 住宅証文 七月廿八日出ル

一 右同所宇左衛門妹とわ式拾歳同断源右衛門縁類ニ付引受人別人入右

同断 住宅証文 七月廿八日出ル

一 野村権九郎殿御預り所吉野郡鷺巢村忠助倅善七式拾九歳伏見町徳

嶋屋忠七縁類ニ付引受度人別人入右同断 住宅証文 七月廿日指出候

一 伯州会见郡今在家村久四郎妹かね五拾歳元魚町河内屋与七借屋原

平内縁有之ニ付引受申度人別人入右同断

一 万人講場普請先入用四貫拜借証文を以願出今日伺相済奥書致し勘

定所江相廻し候尤大目付中江も申達し候

一 安岡町久米屋友七新魚町角屋熊次郎撰州兔原郡熊内村百姓長左衛

門兵庫魚店町米屋利兵衛相手取出坂いたし内済相整昨夜罷帰リ濟

書写し差出し今日及御沙汰大目付中へも相達候

一 米綿懸合間屋去ル戌ノ正月る御断申上相休候処今般綿商売計リ

相始申度式歩中買米中買る断出今日伺相済大目付中へ相達し承り

届候

一来ル十四日例年之通町方盆之重め廻町可仕之旨申上大目付中江相

達し人馬之義小勤者江も申談候

一 播州網干平松屋惣九郎与申者例年之通小間物并晒ろう売ニ罷越宿

中ノ町小山屋与三右衛門宿切手指出候

一 右同所余陸屋武兵衛与申者例年之通八百屋物并鯉節売ニ罷越宿右

同断宿切手出ス

一 右同所丸尾屋六三郎与申者例年之通荒物類并塩ものおろし売ニ罷

越宿右同断宿切手出ス

七月九日 曇

一 播州網干余陸屋惣七与申者老人例年之通八百屋物おろし売ニ罷越

宿中之町高尾屋勘七宿切手出ス

一 播州網干塩屋伊兵衛与申者例年之通塩物あら物おろし売ニ罷越宿

右同断

同日 晴

一 新魚町ひこ屋宇吉所持致し候旅人旅籠屋株当丑六月る来ル巳ノ年

迄五ヶ年之間橋本町長崎屋代助借り受旅籠屋渡世致し度願出承り

届候

一 西今町鳥羽屋源十郎所持致し候家屋敷表口五間裏行拾五間五步役

并土蔵ニヶ所質物ニ書入銀札壹貫三百目来ル寅四月切利分壹ヶ月

壹分式朱町内小田屋喜七取次ニ而借用致し度願出承り届候

七月十三日質
入証文出ス

一美濃職人町三笠屋伊右衛門倅久兵衛三ヶ年已前大庭郡久世村塚谷

屋民右衛門方へ奉公ニ差出置候処此度罷歸リ候段断出承リ届候

一東新町わら屋茂吉所持致し候自国請酒株町内田原屋新右衛門方へ相譲リ申度願出承リ届候

一武田勇次郎所持致し候自国請酒株当丑七月ろ来寅ノ六月迄叁ヶ年

間橋本町松田屋佐助借受商売致し度願出承リ届候

七月十一日 晴

同 十二日 曇夜雨

一紋リ油之儀ニ付取調并御返答之大意書付今日渡部惣右衛門江指出候

七月十三日 曇夜雨

一豊岡藤十郎倅音四郎立願有之_ニ和州大峰江往来廿日計之逗留_ニ而_ニ来ル十五日立指遣し度願承リ届候

一橋本町杉屋勘六中之町小原屋利七妻出産月取間違ニ付今日大年寄手前_ニ而叱リ置出承リ置候

一例年之通今夕る明後十五日夕迄三夜九時迄町方関置候段今日与兵衛殿へ申達惣右衛門へ手紙_ニ而申遣候

七月十四日 曇雨

一西今町浅草屋茂兵衛同町井口屋利兵衛同仁三郎明十五日出立和州大峰山上江参詣廿日計リ之逗留願大年寄承リ届申出承リ置候

一二かい町伊勢屋庄左衛門商売用向ニ付明後十六日立京都赴屋町

四条下ル所近江屋七三郎方へ罷越三十日計逗留願右同断

一今晚七半時分出宅廻町相替儀も無之帰りかけ与兵衛殿江相届惣右

衛門手紙_ニ而相達候

七月十五日 雨

一桶屋町岡屋佐助同町大谷屋新藏立願有之明十六日立廿日計之逗留_ニ而和州大峰山上へ参詣致し度大年寄承リ届願書指出承リ置候

同 十六日 晴

一昨晚仕廻今朝立大坂迄二日切使_ル指込_ニ而油稼之一件此間指出候書類江戸表へ被相廻候由昨晚惣右衛門_ノ申来リ件書類写し置猶又差出し且又増児右門へ御用状指遣候同晚記し落候故今日相記候

七月十七日 晴

一掛合問屋元魚町住屋市左衛門方_ニ而致し度届出承リ置候

一材木町正木屋甚右衛門妹尾九十郎長屋ニ居候さき同人倅かん吉右兩人を借屋長兵衛方へ引受願出承リ置候

同 十八日 晴

一戸川町作人忠吉借屋ニ住居致し候作人佐七森対馬守殿御預リ所久米北条郡足山村喜助方へ引越人別除願出今日伺相濟承リ届候

一茅町七郎右衛門借屋平嶋屋伊助立願有之去子三月四日四国辺路罷出不相帰候ニ付当三月届百日尋申付今般人別除願出右同断

一同町おく屋平次立願有之ニ付来ル廿三日出立往来十五日計リ之逗留_ニ而和州大峰へ参詣致し度大年寄承リ届候段願書指出承リ置候

一同町年寄森永屋伊八立願有之右同断願出尤御用向之義ハ安岡町久米屋友七へ相頼置候旨承リ届候

七月十九日 晴

同 廿日 晴

一 渡部惣右衛門之逢用有之旨申来り晚方罷越候処市郷中以下之もの
近來者御家中江対し不礼かましき事有之趣相聞先例も可有之候付
取調触書ニ而指出し可然右文段等取調追而御用ニ相伺可申旨被申
聞候

一 下紺屋町ニ罷在候万性院山北村居屋敷御取上ニ相成候間廿一日
五半時町年寄指添山北江罷出候様大年寄江申付候

七月廿一日

一 御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分相場書指出候

同 廿二日 晴

同 廿三日 晴

一 六月中人別出入書上

出生拾八人 男拾貳人
女六人

人別入拾三人 人別除拾四人

死失拾叁人 差引六人増

一 新職人町備前屋和兵衛并妻倅兩人以上四人先達而out奔致し百日尋
申付候処以今行衛相知し不申候故人別除願出右家蔵質入ニ相成諸
道具同断又候引当無之借物も有之候得者可相渡品無之家者銀札場
質入ニ付入札申付候段及御沙汰大目附中へ相達し其段大年寄江申
渡候

一 山本甚蔵来ル廿六日出立当国眞賀江入湯廿五日計逗留願出今日伺
相濟大目付中江相達承り届候

一 下紺屋町中ノ横町土橋損し申出書付大目付中差出し候

一 源院様拾七回御忌ニ付座頭土御布施被下置候様申出候段相伺候

一 処例之通宜取計候様ニ御差図有之大目付中江申達候

一 御出生様御事松平敏次郎殿と奉称候事右之段今般從公儀被仰出相
觸可申段被仰出御名ニ差合之名有之面々ハ名相改可申旨廻文到来
例之通触達し候様出役江認申付候

一 来ル廿九日信源院様十七回御忌ニ相当付於泰安寺同日朝計湯茶湯
御執行被成候段廻文到来取調左之通与兵衛殿江相伺候

一 信源院様御年回之節御茶湯与被仰出候へ共先例町方江者御法事
と触達し前晚御当日中町方自身番申付候趣を以拾三回御忌之

一 節も相伺候上右之通取計申候今般も前段之通取計可申哉尤御一
周忌右之通りニ御座候

一 右之通以書面相伺候処先前之通可然取計候様に御差図ニ付先例之
通廻文相認右両通共大年寄へ為指遣し候

一 船頭町今津屋孫十郎借屋作人治助并同人妻娘兩人都合四人二宮市
郎左衛門借屋へ引越し度大庄屋引合相濟願出承り届候

一 美濃職人町豊後屋善六後家右同村武兵衛親類ニ付引越申度は又引
合相濟候ニ付願出承り届候

一 西新町伊崎屋重右衛門用事有之大坂敷屋町河内屋治右衛門方へ廿
四日出立廿日計逗留願出承り届候

一 一番和田儀右衛門妻腹胎致し候段小頭へ届出承り置候

七月廿四日 雨

同 廿五日 雨

同 廿六日 曇雨

同 廿七日 雨

一 坪井町小浜屋きみ所持致し候他国請酒株去八月相願同町勝尾屋茂

七江貨置候処此度取戻し候之段断出承り届候

一右請酒株此度西今町坪^(マ)四郎方へ相譲り度旨願出是又承り届候

同 廿八日

一森对馬守殿御預所当国英田郡倉敷村十次郎後家いよ井同人妹わき

とわ共三人東新町三原屋定七引受申度願今日伺相濟承り届候尤大

目付中江も相達候 往宅証文八月五日出ル

一淑姫様御結納被為濟候段先日太田舎人ら被申聞右者座頭等江之御

布施被下申候御先例ニ付先達而右門ら伺置候処其砌ハ未江戸表ら

不申来候処右之通御結納済申来り候由ニ付今日相伺候処可然取計

可申御差図ニ付右之段惣右衛門へ申達置候右被下之趣大年寄江申

渡候

一町方非人加廻り此節御静謐ニ付相止メ可申段申上候

一伏見町紙屋伝吉御堀端建ものいたし度足代断出候ニ付右書付惣右

衛門江指出し御作事方へ及通用候

一玉置源五兵衛裏御堀端石垣損候ニ付取繕申度足代断右同断

一先日惣右衛門ら被相達候市郷触達之儀文段取調今日惣右衛門江相

渡し及相談置候

一西今町公文屋清左衛門商売向用事ニ付大坂梶木町玉子屋九兵衛方

へ来月朔出立往来日数三十日計之逗留大年寄承り届申出候

一船頭町高松屋藤吉所持家屋敷表口三間七寸裏行七間老尺本役代銀

札三百七拾目相極同町元屋市右衛門へ売渡し申度願出承り届候

七月廿九日 晴

一材木町魚屋八太郎所持家屋敷表口式間裏行拾七間式步半役代銀札

百五十目相極伏見町倉敷屋孫三郎江売渡し申度願出承り届候

八月五日
売券状出ル

一伏見町倉敷屋孫三郎所持之家屋敷表口三間裏行廿五間半役代銀札

五百目ニ相極材木町魚屋八太郎へ売渡し申度願出承り届候

八月大

御用番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大御目付 太田舎人

月番

大年寄

斎藤孫右衛門

諸吟味

久山勘八

朔日 晴

一五時過登城当日御祝儀申上御奉者以下一同例之通七間廊下ニおる

て申上謁太田舎人

八月二日 曇 晚雨

同日 曇夜雨

一 今日申上候御用向無之

一 玉置源五兵衛儀大坂御奉行所江御呼出し申来り右油絞之事と相聞候先達而江戸表ニ而被仰立候趣も有之右様子も不相分源五兵衛病氣分宅致し置返答振りも取極め不申候而ハ難罷出もの候ハ、何レニも行違無之様取調置可申右御呼出し之趣御達し可有之候へ共其内相調候様一学殿より御申聞被成候

同日 雨

一 森对馬守殿御預所英田郡別所村作次郎与申者紺屋職稼ニ罷越候ニ付来寅ノ八月迄京町鳥取屋又兵衛方ニ逗留為仕度願出承り置候
一 豊屋嘉左衛門用向有之ニ付京都高倉通三条下ル町墨屋善七方江罷越申度来ル七日出立往来三十日計之逗留ニ而罷帰リ可申願出候付承り申候

八月五日 曇昼後晴

一 元魚町笹屋友次所持いたし候旅人旅籠屋株当丑ノ七月来ル已ノ年迄五ヶ年之間指本町武蔵屋甚蔵借請渡世いたし度願出承届候
一 昨日植村正助着之由罷越及対面候処今度ハ町方重ニ相勤候積リ之由相始め候節可相居由申談置候

八月六日

一 植村正助明七日之夕方町講釈相始メ候由申聞有之大年寄も申出町触取計候様ニ申付候明夕方相始メ候段一学殿并舎人へ申遣候
一 御蔵米七拾目五分町米六拾六匁五分相場書出ス

一 撰州西ノ宮戸田佐仲同所明石屋利右衛門右兩人内用有之武田七郎兵衛方へ罷越九月上旬迄逗留願出承り届候

同日 曇

一 坪屋音四郎所持致し候他国受酒株当八月来ル卯ノ七月迄二ヶ年坪井町勝尾屋茂七借受商売致し度願出承り届候

八月八日 雨

一 森对馬守殿御預所久米北条郡宮尾村次郎左衛門甥秀敬東新町肥後屋長助養子離縁人別除今日伺相済大目付江相達し承り届候

一 因州鳥取豆腐町暈屋孫兵衛悴文吉同人妻とよ右兩人材木町万屋与三兵衛家守大和屋清兵衛借屋煙草屋嘉右衛門縁類ニ付引受人別人願出右同断住宅証文九月二日出ル

一 今津屋借屋家守上紺屋町作人清次郎借屋唐松屋久次妻兼而病身經行不順ニ付臆胎間違断書指出し今日及御沙汰置候

一 信源院様十七回御忌御布施請取書指出し今日及御沙汰大目付中へ相達し候

一 淑姫様御結納祝義御布施右同断

一 玉置源五兵衛大坂御出^呼出しニ付大目付中左之通被仰渡候於大坂表

去月廿一日松平石見守殿御役所江御呼出しニ付村尾左右衛門罷出候処此表町人玉置源五兵衛江御尋之筋有之候間早々罷出候様御達有之左之通書付相渡り候間所之もの老兩人差添出坂候様可被申渡候

作州津山堺町

玉置源五兵衛

井所之者

壹兩人

右之趣御達有之源五兵衛呼出し候処煩代同役齋藤孫右衛門罷出右之段申渡ス

八月九日 晴

一 源五兵衛病氣ニ付出坂日延宥予之願差出し請取置

一 源五兵衛呼出し之処若病氣等ニ候ハ、病氣見届一札取之相廻し候様李右衛門大目付中へ申来其段も昨日御噂有之候ニ付今日見届部屋目付三船新次三船孫八指向候見届一札文段相調遣し候尤今日見届ニハ指出し候得共明日見届之上一札取之候へハ日取りも互相考候ニ付日付八明十日ニ為認取之昼過病氣見届後時疫大病相煩候由ニ付右病氣「」延之願書共両通奥書取計大坂村尾李右衛門且又油絞之義ニ付兼而於江戸表被仰立之趣も有之候事故御留守居兩人江文通下案を以相伺置候

八月十日 晴

一 昨日伺置候江戸大坂文通思召無之宜取計候様差図有之扣等取集大目付中へ伺済之趣申遣候同所存寄も無之ニ付相認御飛脚仕廻ニ付指出候尤願書并一札奥書文段共別帳ニ記し有之

一 町奉行仮役印鑑小桁并木知ヶ原江之分今般乃井野江相廻し候尤小勤者江添書致し指遣し候

一 一かち町博奕会合之由ニ付今夕同心組不残指向候処最早散申而手ニ入不申宿等吟味候ハ、而至可及白状手鎖預ケ申付置歸り候尤右之

趣伺出取計候様申付遣候

同 十一日 晴

一 組不残追々昨夜之様子申聞候ニ付何分右之通りノミニ而ハ不相済致会合之者承糺其外会合之株も可有之夫々召預預ケ置申様嚴敷申付目明共江も申含今夕組共手分致し参会之もの共糺ニ罷出候

八月十二日 晴

一 今朝組罷出追々参会之者預ケ置候尤及白状候もの両三人有之名面書付指出し候ニ付猶残り之分其外会合之ものも心懸急ニ取片付候様申含置候

一 江戸御留守居田中仲る油絞リ被仰立候趣ニ付先達而下案指出置候分猶又御留守居存寄ニ而文段相認相談申来り右門も申来ル

同 十三日 晴

一 昨日申来り候御答案未熟考も不仕候へ共先ハ入御覽候旨一学殿江指出置候

一 浜風岸右衛門徳守宮社地ニおるて晴天五日勸進相撲相願昨夜文九郎も指出し今日引合相済相伺候処承り届候様差図有之承り届候段

文九郎へ手紙ニ而申遣候

一 博奕吟味仕懸候様及沙汰猶又相糺可申上旨申上置候

一 市郷「」咎もの歎之内意付紙いたし候而万帳「」断渡部惣右衛門へ指出置候

一 万人講道具入場建申度内意相伺願書為指出候様御差図ニ付先日伺出候諸吟味勤八江申聞候

一 戸川町大工庄兵衛先達而職分指留メ追込申付候処先非を悔職分御

免之義歎出候趣を以内分相伺候処左様ニ留免手軽く取計候もいか
候夫故先達而右門江も其段申達し職分指留之義ハ不軽事之由申聞
候得共何レ差留不申候而ハノリ付不申旨申聞其通りニ為致候事故
得と相考候様御申聞被成候

一御年貢納之内切手替外払致す間敷御家中替江米切手納相始り候迄
少々宛ハ不苦由近例之通御触書之有之組中牢屋三軒屋へ触達し申
付候町触ハ今日御沙汰無之ニ付先ハ不指出候

一宮牛馬寄ニ付例年之通町触今日指出候
一元魚町作人なつ娘きせ三船源八妻町人別除願出又六承り候処右之
通ニ而承り届候

八月十四日 曇

一京町田原屋伊兵衛商用ニ付姫路京口壺丁目となミ屋平兵衛方へ十
六日出立往来三十日計リ之逗留大年寄承り届去ル十日申出日記付
落しニ付今日記置候

一江戸御留守居之油絞リ考之来状一学殿を御下ケ被成候

一今夕西尾文蔵居宅出火ニ付出役引取懸一学殿江届大目付へ組遣候
八月十五日 雨曇 消留候上町火消少々残し置引取候

一鍛冶町かち市郎右衛門願ニ付町内へ申立候趣今日大年寄手前ニ而
双方相札候

一勝山へ晚方来状当御城下町三ヶ所盜賊幸助質置候旨申之相札呉候
様ニ申来り右別紙を以相札候様ニ大年寄へ申付候

同 十六日 晴

一勝山へ申来り候質物浜屋源右衛門方并茂渡兵吉方ニ有之書付取之

大年寄へ指出し候故勝山江之返書下案夜ニ入手紙を以相伺候処思
召無之宜敷取計候様御差図有之

一町方博奕吟味ニ付同心組指出候

八月十七日 晴晚雨

一今朝勝山返書認申付飛脚江相渡候

同 十八日 晴雨

一林田町塩屋七三郎横山村之内前河原古川筋ニ而水車願出候処郡代
引合今日相済伺候処即刻相済大目付中江申達承り届候段孫右衛門

江中渡候

一浜風岸右衛門徳守宮社地ニおゐて来ル九月中旬へ勸進相撲興行建
札いたし度断り出伺相済大目付中江「」承り届候其段岡田文九
郎江申達候

一西今町角屋吉兵衛忰市五郎因州知頭郡葛谷村喜太郎方へ養子差遣
申度今日伺相済大目付中へ達し承り届候

一御年貢米町在ニおゐて切手替外払致す間敷例年之通触達し候様御
達し有之触書指出し候

八月十九日 晴

一下紺屋町長江朝庵用事有之播州平野村中井久兵衛方へ来廿二日出
立罷越往来四十日計逗留願出大年寄承り届願書当人持參致し候

八月廿日 曇晚雨

一小性町北側ニ而味噌屋広松家屋敷地表口七間半裏行拾六軒老軒役
代銀札式百五拾目ニ相極京町林屋新吉江売渡し申度願出ニ付今日
承り届候八月廿九日売券状出ス

八月廿一日 雨

一 戸川町作人市右衛門借屋多蔵去ル九日ニ而も可有之哉女着袷袴つ同綿入袴つ被盜候旨書付差出し纒之品触達候程之事ニも無之質屋共相糺候様申付目明江申付候

一 油紋御答案之儀ニ付江戸御留守居へ文通飛脚指立候

一 元魚町沢内屋与七柴山十治方ニ相勸候喜三郎と申者引請相応之渡世為致度願出承り届候

一 勝山右飛脚到来浜屋源右衛門山本兵吉質取候之節証人之有無糺之義相談申来り候

同 廿二日 雨

一 右浜野屋源右衛門山本平吉煩代多七兩人相糺口書取之返書下案を以一字殿江相伺候処夜中伺済ニ付請書新左衛門江申付候

一 美濃職人町金屋甚次郎へ新職人町北側備前屋和兵衛出奔取上家人札ニ而五百式拾式匁五分ニ指遣し大年寄買券状指出し右家屋敷表口三間半裏行拾式間半壹軒役代銀札銀札場元利引残り候分借物方へ割賦大年寄考之通取計候様申付候

八月廿三日 曇

一 勝山江之返書今朝飛脚へ相渡候

一 山本甚蔵去月廿六日真賀温泉へ出立往来廿五日計り逗留願之処今十日計り延願出今日伺相済大目付中へ相達承り届候

一 船頭町今津屋孫十郎借屋米屋利七悻源吉義絶勘当願出右同断

勘当証文
九月十一日出ス

一 小性町烏屋与市家守吉助借屋塩田屋平吉去ル三日風与罷出行衛不

相知候段申出百日尋申付候旨今日申上置候

一 万人講之竹木井講桶入場長サ七間横式間半賄小屋ニ建兩様ニ相用度願出今日郡代引合相済伺之通宜申付候様御差図ニ付大目付中へ申達し承り届候段申渡候

一 無宿盗人元幸助当時与吉死罪御裁許先達而被仰渡有之候得共取計何角ニ付延引罷在右延引之訳先達而渡部惣右衛門右尋有之夫々申達置候処右之段江戸表へ申参り候処思召不被為在勝手次第取計候様申参り候段今日舍人右申開右ニ付来ル廿五日取計可申哉之旨舍人江相談之上一字殿江相済候取計候様ニ御差図有之其段舍人江申達立会御徒目付之儀も申達置候右ニ付取計手配又六江申付且又申渡文段ハ郡代方ニ而相認町奉行方書役と認并廿五日出役誑渡之義申付候

八月廿四日 晴

同 廿五日 晴

一 無宿盗人元幸助当時与吉今朝兼田ニおるて死罪取計立会御徒目付藤田弥市下目付安井友次同心組小頭川端又六部屋目付三船孫八出番荻野嘉七小野田為次無滞相済一字殿舍人江相達候

一 伏見町北側ニ而作人忠助家屋敷表口式軒裏行拾式間式歩五厘役代銀札百目ニ相極田邑村屋治助へ売渡し度願出承り届候

売券状九月二日ニ指出候

一 二階町鉄炮屋惣左衛門役介伝兵衛与申もの河野伝兵衛与相改安藤丹後殿へ刀指奉公相勸申度願出承り届候

一 二かい町嶋屋藤吉播州加古川右ねちわく細工手伝ニ九郎兵衛長次郎とももの兩人例年之通年越申候間当十二月末迄逗留為致度願出承

り届候 十二月廿三届届有之

一 植村正助講釈相濟左之通申出大年寄共賞詞申渡候様申付候

都講

徳山朴弥

北山脩伯

補任

生駒屋治右衛門

福永屋幸蔵

羽織屋喜兵衛

糺屋伊助

檉野屋茂一郎

菊屋清左衛門

二月屋喜右衛門

玉屋伊右衛門

一 博奕宿参会之もの共明廿六日九時呼出し申付置候

八月廿六日 晴

一 今昼後博奕宿参会之もの共相糺候へ共口「不申候ニ付先ツ為引取置候

一 浜屋源右衛門茂渡兵吉取置候盜もの質六品勝山へ質屋兩人を為持指遣させ添状相伺候処思召無之ニ付清書申付孫右衛門へ相渡し明朝為指遣候

八月廿七日 晴

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛例年之通小間物おろし売罷越勝間田町山形屋喜兵衛宿切手指出候

一 細工町長兵衛倅伊之助細工執行ニ江戸表へ罷越申度当月中出立百

日計り逗留願出承り届候

一 御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分相場書指出候

一 久山勘八用事有之坪井へ罷越一兩日逗留罷帰り度申出承り置候

八月廿八日 晴

一 生死人別出入書上左之通

出生拾壹人 男子五人 女子六人

人別入九人

人別除拾貳人

死失拾貳人

差引四人減

一 茅町木屋清八組合る断出候者右清八兄亀之助儀父伊右衛門存寄ニ

不相叶義絶勘当致し亀之助同人妻共立退候処妻義六月罷帰り右ハ

亀之助と一同罷出御町内人別相離候と心得御願も不申上猶又罷帰

り候段御断も不申上久今義之旨尤右亀之助妻兼而臙胎ニ罷在去ル

廿五日夜男子出生いたし右前後何れも甚心得違不調之段申出臙胎

之調相外し居候事故其段及御沙汰候 清八并組合大年寄 手前ニ此り置候様申付候

一 二階町組屋忠三郎去ル申ノ秋封印申付候酒樽之内四本醬油樽ニ相

望ニ付中ノ町綿屋勘次郎方へ売渡し申度願出今日伺相濟大目付中

へ相達承り届候

一 去ル十四日之夜西尾久蔵居宅出火焼失ニ付町火消罷出候内左之七

町跡火消残し置出精ニ付賞詞之義大年寄申出取調之処役所切申渡

候趣故賞詞取計候様申渡候

東新町橋元町材木町伏見町

京町戸川町下紺屋町

一 東新町中ノ町西新町右三町氏神大隅宮立願有之ニ付為願開野台指

出し子供四人計り踊らせ申度尤有来り之衣裳取繕相用御幸之供致
させ度願出伺相済大目付中へ申達し承り届候

一牢屋損所并牢番家根葺替取繕届出大目付中へ書付指出し

八月廿九日 晴

一御家老組牧権次渡り屋敷罷在候作人庄助同人悴万吉右両人下紺屋
町万性院借屋江引越申度人別人願出承り届候

一勝山江質屋共る遣し候飛脚罷帰り返書右質物当人江見せ相違無之
候得共外引合之盗もの片付不申候故質屋へ可預置候処遠方「
いたし候事故町役預り置候旨猶追而一件片付之上可申越之旨申来
ル

一酒樽封印小頭部屋目付指出し候

同 廿日 曇

一久山勘八坪并る昨晚罷り帰り候段申出候

一豊屋喜左衛門京都る昨夜罷帰り候段届出候

一博突懸り合之もの共相糺鍛冶町かち新兵衛宿同町桂屋鉄之助参会

同町中田屋鹿之丞指口有之候へ共不及白状吟味中新魚町松屋三次

参会右四人口書取之手鎖組合預ケ申付右之段一学殿舎人へ手紙ニ

而相届候

九月大

御用番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 黒田要人殿

大御目付佐々木右近

同十三日

渡部惣右衛門

月番

大年寄

藏合孫左衛門

諸吟味

豊屋喜左衛門

九月朔日 晴

一酒樽封印小頭部屋目付指出候

一組屋忠三郎所持いたし候他国請酒株去々亥年請酒株橋本町宝来屋

佐市へ貸置候処此度取戻し候段断出承り届候

一大坂南本町紙屋藤兵衛菜種売ニ罷越堺屋伊右衛門宿切手出ス

同 二日 曇

一御藏米六拾五匁町米六拾壹匁相場書指出候

一三船孫八妻腹胎之旨小頭へ申出承り置候

同 三日 晴

一播州大坂嶋之内大宝町万屋善次郎と申者例年之通かわ足袋すいの

ミ金とうし売罷越候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手指出候尤昨夜

差出し候へとも留落候故今日印し置候

此分八月改三人

一雲州神門郡小山村義三郎伴文次西今町永延屋彦右衛門引請相應之

渡世為致願出今日伺之上大目付中へ相達し承り届候 九月廿日住宅証文出ス

一橋本町土手下川端建札損同町へ届出書付大目付中へ相達ス

一鍛冶町かち新兵衛博奕宿同町桂屋鉄之助新魚町松屋三次右参会鍛

冶町中田屋鹿之丞参会無相違候得共不及白状吟味中右四人咎牢舎

其外会合之もの立退尋申付候得共不相知もの新魚町磯之丞戸川町

田外玄道鍛冶町繁蔵福渡町清助安岡町庄七京町善次右六人百日尋

於不尋出おゐてハ尋申付候ものへ過料長尋申付元戸川町福渡屋清

助是ハ町分追払之もの故目明へ尋申付且又かち新兵衛両隣組合先

例之通追込五日過料五百文ツ、町年寄月番追込三日相伺候思召無

之ニ付今屋後夫々取計要人殿右近江相届候

一元魚町亀屋定次郎毎度御守指上奇特之段可申渡今日大目付中へ被

相達晩方申渡要人殿右近江相達し候

一円宗寺村幸助国分寺村権八二宮村市郎左衛門借屋庄左衛門二宮村

藤三郎被盜もの触達し候様郡代方同相濟書付下り候故大目付中へ

相達し町方触流し書役江申付候

一かち町鍛冶頭市郎右衛門二宮村多七江相懸り候一件郡代方兼伺候

ケ案思召無之書付一件ニ入置候

一御城御門通り札引替候間来ル八日指出し引替候様ニ大目付中へ被

相達候

一西今町橋本屋儀八借屋福渡町作人伝兵衛借受同人娘すかと申もの

指置借屋明渡し不申難洪願出候由ニ付三十日限位ニ申付候様孫左

衛門へ申達し当月中と可申渡旨申聞し願書ハ指戻し置候

九月五日 晴

一御老中松平和泉守殿去月十九日御卒去被成候依之今日も明後六日

迄三日之内鳴物高声停止被仰出候段從公儀被仰出大目付廻状到来

組中書役牢番三軒屋等へ例之通相触候様又六へ達し町方大年寄へ

触書指出候

同 五日 晴 同 六日 晴

一御蔵米六拾式匁町米五拾八匁相場書出ス

一鍛冶町年寄市郎右衛門追込昨日迄三日ニ相成今日差免し要人殿舎

人江相達し候

一大隅宮祭礼ニ付指出し候野台^(マツ)先年八十四ヶ所ニ而致し候処東新町

迄引渡不相成候故当年者十ヶ所ニ而致し候段孫左衛門へ申出承り

置候

同 七日 曇 同 八日 晴

一新魚町鳥屋与三兵衛備前岡山香山兵吉と申もの方へ用事有之罷越

候旨断出承り置候

一講元より万人講普請先入用式ノ五百目伺願出今日伺相濟大目付中

へ相達し証文勘定所へ相廻し候

一伏見町玉屋源二郎裏借屋道心者宗元と申もの当丑七十一歳手足不

叶ニ付御救扶ち願出今日伺相濟大目付中へ相達し承り届候

一元魚町豊屋喜兵衛下人去ル四日之夜大橋之上ニ而嶋^(マツ)之財布ニ銀札

拾匁三分人持帰り候へ共落し候もの不相知今日要人殿右近江一通

り相達置候

一 今日中午ノ町西新町東新町大内試致致し候段申出大目付中江相達し置候

一 右三町今日夜焼燈ともし候儀申出承り置候

一 同心組加入者人明九日一日之義大目付中へ相達し御幸江兩人野台

三つへ二人ツ、指出し候尤天明二年已前ニ而ハ七人ニ而相濟し候得共野台(マ)ツツ、相休候様相成趣ニ付其段も大目付中へ相達し候

加入前原才治罷出候

一 鍛冶町市郎右衛門願出ニ宮村多七かち職之儀郡代方ニ而も取調宝曆五年申渡候趣も有之候故不相成候段且又同所ニ而十四年以来宇

八与申者かち致不束ニ付其職一生指免し大庄屋并村役人者不束之旨昨日申渡かち町江も右之趣申渡尤大年寄大庄屋為申渡候右之趣今日要人殿江申上大目付へ相達し候

一 鍛冶新兵衛而隣組合追込昨日迄五日ニ相成今日指免要人殿右近へ

手紙ニ而相達し候

一 今日御門通り札引替増兎方之分三枚中奥目付へ指出し候処江戸留守ハ相納置可申筋故自分札并小者札ハ納切りニして手形相戻し別

段拙者手形ニ而同心組之分請取置候

一 東新町玉屋伊右衛門所持致し候自国請酒株去ル天明申八月ノ町内

五明屋文吉へ貸置候処今般取戻し候段断出承り置候

一新魚町野田屋孫三郎備中妹尾古新田村久太郎夫婦当七月ノ年季定召抱候処右妻臍胎ニ相成候段相届是者算外なから臍胎之事故申出承り置候

九月九日 晴

一 五時過登城去月十九日柔姫様御髪置御祝儀相為濟三奉行以上恐悅

申上有之由石田新治ノ通用当日御祝儀申上引続右恐悅申上謁太田舍人

一 大隅宮祭礼無滞相濟暮方同心何レも引取候

同 十日 晴

同 十一日 晴

一元魚町墨屋五兵衛去ル天明三年中買願承り届候処其後商荷いたし不申已後商荷いたし候ニ付証文去ル八日指出し右日記取調書込今日記し置候

一 油紋之儀ニ付仲る去ル四日御用状着右返書昨日伺之上指越候

九月十二日 晴

一 材木町万屋与三兵衛屋守清蔵借屋嘉右衛門役介文吉夫婦因州鳥取豆腐町豊屋孫兵衛病氣之処親類ニ付看病四十日計り逗留罷越申度願出承り届候

一 御蔵米五拾七匁米五拾三匁相場書出ス

一 二階町紙屋庄助借屋与三郎夫婦大沢七五郎長屋江人別除願出承り届候

同 十三日 晴

一新魚町山手屋平吉借屋平助妻去ル三月ノ怪行不順ニ御座候処兼而病身ニ付不相分両度医師取上は、ニ見せ候処臍胎ニ相成候段申出臍胎之内へ指加候ニ付今日及御沙汰候

一 上紺屋町金川屋庄七弟多吉去子ノ九月罷出相断百日尋申付候処追々日延願出猶又大坂ノ千ヶ寺ニ罷出候様子ニ相聞候故今式百日延願

出今日及御沙汰置候

一坪井町三船八郎右衛門借屋家守平六借屋ニ罷在候川津屋藤助并伴治郎吉当五月罷出行衛相知不申最早百日余ニ付人別除願出今日及御沙汰承り届候尤大目付へ相達候

一雲州神門郡上谷村源次伴万兵衛西今町大工屋三右衛門引請相応之渡世致させ度願出今日伺相濟大目付へ相達し承り届候九月廿日住宅証文出ス

一桶屋町浜風岸右衛門先達而徳守宮社地ニ而勘進相撲相願候処来ル十四日比ニハ御当地江入込十五六日比より初日興行いたし度之処同社祭礼ニ付十八九日指支候故妙願寺内借り受興行致し度文九郎文願出し今日伺相濟大目付中へ相達し承り届候

一京町元魚町坪井町新魚町西今町吹屋町右六町野台指出し有り来り之衣裳取繕御幸供為致度上紺屋町林田町ノ町野台芸台借り受二階町二町目三町目両町ニ而老つ都合九つ尤新規二つ之分ハ絹以下之衣裳と申文段右何れも伺相濟尤惣而絹以下格別花美ニ無之質素ニ取計可申旨可申渡哉之旨相伺候処其通取計可申旨御差函ニ付右之

段大年寄孫左衛門江申渡候
一牢番戸口損届出大目付へ相達し候

一今日渡部惣右衛門月番相勤候由右近々被申聞候

九月十四日 晴

一近々妙願寺地内ニおゐて相撲有之右之場所江自分并妻子共不及申下々迄罷越儀御停止之旨大目付廻状到来例之通触達可申旨小頭江申付候文段触留ニ記ス

一播州網干平松屋惣九郎小間物并晒蠟壳罷越旨中ノ町小山屋与三右

衛門宿切手指出ス正月十八日 婦ル

一同国網干丸尾屋六三郎荒物類并塩物卸売ニ罷越候旨右同人同断翌正月十八日 婦ル

一同所余陸屋武兵衛八百屋物并鯉節売ニ罷越候旨右同人同断翌年正月十八日 婦ル

同 十五日 晴

一野台場所玉置源五兵衛前(マ)相始メ西今町迄十四ヶ所尤玉置前(マ)順ニ京町へ家台並一重老度ニ為相始順々操出し候様申付尤京町ハ場所定置無之初ハ玉置前を初メと取計可申旨昨日孫左衛門申出野台場所之義ハ申上候義無之候得共京町東江並置候場所ニ而も順々

為致候事故渡部惣右衛門江罷越一ト通り噂ニ及ひ置候勿論御用番へ不申上候段申置候

一相撲明十六日(マ)相始メ今夕太鼓打廻り申度旨文九郎申出候ニ付黒田要人殿江罷越相伺候処尾張宰相様御逝去ニ付無程鳴物高声御停止触出候間来ル十九日迄不相成其段可申達御申聞ニ付暮時分岡田文九郎江右之段申達候

一夜ニ入廻文到来尾張宰相様去ル五日御逝去ニ付鳴物高声并普請者今一日御停止被仰出候旨尤来ル十九日迄右ニ付組中牢屋三軒屋等又六江触達し申遣町触大年寄江相達候

九月十六日 晴

同 十七日 晴 夜小雨

一玉置卯左衛門明十六日出立備中矢掛中西与四郎右衛門方江十五日計り之逗留願出候ニ付御聞置被下候ハ、承り届度手紙を以相伺候

処承知之旨御申越ニ付承り届候処

九月十八日 晴

一 浜風岸右衛門相撲五日相願候処相撲取共指急候ニ付二日減し三日興行致し度断出伺相濟大目付江申達し承り届候尤廿日相始メ同日大鼓打廻り候段及御沙汰候

一 安岡町右徳守祭祀ニ付西新町ニ而野台借用子供三人計り踊らせ申度願出今日伺相濟大目付中江相達し承り届候

一 徳守宮祭祀来ル廿三日ニ致し度伺有之由右之通御開届相濟候へハ其節野台指出し御幸之供為致九町申出候段及御沙汰候

一同社宵祭ニ付今夕之処指延来ル廿二日之夜九つ時迄元魚町二階町戸川町鍛冶町材木町細工町上紺屋町宮脇町関貫大門開置候段及御沙汰大目付同断

一来ル廿二日町々ニ而大内試致し候段大目付中へ相達し候

一 玉置卯左衛門今日出立之処故障出来ニ付延引仕候猶出立申出候ハ、可申上旨申上置候

九月十九日 晴

一 播州網干塩屋伊兵衛塩もの荒もの卸罷越旨中ノ町高尾屋勘七宿切

手指出又 翌年正月十六日届

一 右同所余陸屋惣七八百屋物おろし売右同断 右同断婦

一 信州木曾筑磨郡敷原宿古屋善吉木櫛卸売中ノ町小山屋与三右衛門右同断

一 中之町平岡忠右衛門撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ廿日立四十日計り逗留罷越度願大年寄承り届当人申出承り置候

同 廿日 晴

一 境町西川屋善助角力取三十人宿致し度願出承り届候

一 二かい町立花屋伝五郎右同断

同 廿一日 晴

一 (夜衛一人更三月廿二日届ル) 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代彦太郎茂兵衛定次郎右

三人例年之通呉服物売ニ罷越宿京町海老屋長右衛門宿切手指出又一妙願寺ニおゐて勸進相撲昨廿日相始出役又六郎孫八福嶋為次郎見習百藏指出候木戸札五百六拾七枚

一 今日右同断ニ付出役新次勇助木戸札八百枚

一 今日家台下見分として又六為次孫八為治郎文藏定次三手ニ分り罷出候

一 上紺屋町しらせや多吉借屋作人藤兵衛役介ふさ院庄村政八方へ引越人別除大庄屋引合相濟伺出承り届候

一 江戸御留守居る油絞りに付御答案等来ル

九月廿二日 晴

一 明廿三日徳守宮祭祀御幸并家台ニ付同心組警固加人十五人大目付

中ハ手紙ニ而申達小勘者小嶋只七江も申達置候処相廻り候使組左之通

堀内甚藏 渡部忠藏 鈴木忠太 井汲元平

吉内織次 福田義助 斎藤清左衛門 有木伝左衛門

川村金吾 植月弁助 小林其八 前原才次

野田数右衛 植月斧藏 尾崎権助

一 徳守宮宵祭ニ付二階町伏見町今日町元魚町新職人町右町々桃燈差出願度段申出大年寄申聞承り置候

一 今日勘進相撲ニ付妙願寺江定治文蔵指出し無滞相濟候段今日木戸札六百三拾枚

一 昨廿日る妙願寺勘進相撲日々同心組指出今日切無滞相濟引取候段要人殿惣右衛門へ手紙ニ而「」

九月廿三日 晴

一 玉置卯左衛門先日他行相願候処故障出来ニ付延引仕候段大年寄る申出候ニ付今日其段要人殿へ申上惣右衛門江も相達し候

一 徳守宮祭礼御幸無滞相濟暮過其段要人殿惣右衛門江手紙ニ而相達し候

一 御当地油絞リ之儀ニ付岡村田中^答之書付指出し候段申越候得共未熟覽も不仕候間追而可申上旨一ト通り申上置候

同 廿四日 晴

一 右油絞リ之儀ニ付申来り候趣承知書類請取候迄之返書右兩人江可指遣之旨申上今日之御飛脚仕廻ニ差出候右来状返書下案共追而之御用日ニ指出し可申旨要人殿へ申来り候

九月廿五日 晴

一 元魚町家台芸文句兼而書出し候分より永く其段不申出去ル廿二日夕大年寄より相糺候上ニ而相分り不束ニ付大年寄場合ニ而町年寄^{ママ}家台せ話人重立候もの叱り置可申哉之旨申出候ニ付「」通り取計可申旨及差図候

同 廿六日 晴

一 吹屋町金屋次郎左衛門三浦備後守殿御領分真嶋郡垂水村本覚寺鐘鑄請合職人共拾人計り召連十日計り之逗留罷越申度尤明廿七日出

立相願承り届候

同 廿七日 晴

同 廿八日 晴

一 東新町久本屋新兵衛後家とせ大久保加賀守殿領分久米北条郡宮部下村仁助悻利兵衛与申者当五月引請候処今度右同人方へ差戻シ申度人別除願出今日伺相濟大目付へ達承届候

一 二階町茂渡屋市之助家守佐久屋藤助借屋笠屋弥兵衛当五月罷出行衛不相知今日人別除伺相濟大目付中へ相達し承り届候

一 去月中生死人別出入書上左之通

拾六人 出生 六人 人別入

五人 人別除 拾四人 死失

差引ノ三人増

(貼紙)

一 油絞リ之儀江戸表江返書ニ及び候往返共「」及御達候趣共も有之右者大目付江相達し置可申候間一見致し可申何レ右之通決談御答も有之候上ハ右ニ応し候様源五兵衛と相答候処第一ニ而候へとも如何様ニ成行候義も難計此節追々勘定奉行なと出坂之時節種々之尋も有之候而ハ可及迷惑源五兵衛出坂ハ春ニ成候而も可然指急候事ニ者有之間敷役人呼出しニ可相成義も難計候間兼而町奉行郡代下役なども相考置候様被仰渡奉畏候尤江戸表ニ而御差図之遅速も難計候へ共相成候ハ、御差図之様子承り候上ニ而源五兵衛罷出候様仕度病氣相断候後何之御沙汰も無之義何分成丈指延候方可然様奉存候旨申上置候

九月廿九日

一 錢通用百四文之由申出候

一 乃井野之対馬守殿願之通河内守与改名被致候^由通用申来り昨晚返書案を以相伺今日飛脚へ相渡し候

一 昨廿八日公儀役人御普請役河久保喜八郎御小人月付池田孫七御証文兩人共御伝馬老疋生野銀山取締夫之播磨備中之国御代宮稻垣藤四郎殿支配村々廻村いたし勝間田泊り^ニ而今日当町通行^ニ付去年例を以要人殿へ相達し町方保頭先^(マ)道心組見へ隠レ申付^ニ而指出し通行無滞相濟右之段要人殿惣右衛門^江相達し候

一 大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛与申者灯燈張替罷越候段中ノ町甲屋喜助宿切手指出候

一 撰州有馬辻堂茂兵衛筆白粉卸売罷越右同断

一 播州網干新在家伊部屋清六塩物鯉節卸売^ニ罷越右同断

一 御蔵米五拾五匁米五拾匁相場所指出ス

九月卅日 晴晩雨

一 元二階町^ニ而^ニ出奔除帳源助与申者昨夜丁人婦路屋^ニ而紙入巻つ取之被盜候もの召捕候処北郷門兵衛家来之由申之目明糺も出来兼候由昨夜及深更申出今朝門兵衛^江問合候処家来^ニ而者無之先達^而セ話人有之召抱可申哉とハ申候へ共夫迄^ニ而指置候事之由^ニ付左候ハ、右召抱候^ニ而ハ無之旨セ話人^ノ為申通候様被取計可然候旨申談無程右之段申通させ右方指構無之旨申越候^ニ付目明^江吟味勝手次第申付候

一 太神楽岡田忠太夫罷越候段大年寄申出御城下打廻らせ候段惣右衛

門^江手紙^ニ而相届承り届候段大年寄^江申渡候

一 右源助相糺候紙入取り候^ニ無相違是者元^江戻し誠聊之事元来帳外もの故追払可申哉伺出候^ニ付其通り^ニ而相当^ニ候へ共先達^而船頭町高野屋平七妻を下紺屋町清兵衛使^ニ而右源助打擲致し候趣訴出居候懸り合有之^ニ付右源助ハ清兵衛使之もの故同人^江預ヶ置可申之旨大年寄^江申達候

十月大

御用番

御家老 安藤丹後殿
御年寄 伊達与兵衛殿
大御目付 太田舎人

月番

大年寄 斎藤孫右衛門
諸吟味 豊岡藤十郎

朔日 晴

此分九月改ニ入

一 東新町初屋善吉借屋木屋治右衛門与申者林田村九助方江引越人別除願出し候ニ付承届候

十月二日 晴

一 御蔵米五拾四匁五分町米五拾目五分相場書出ス

一 境町稲実屋義七郎用事有之播州姫路東魚町池田屋仁左衛門方へ来ル四日立往来十日計り之逗留願出承り届候

一 射術一覽ニ付罷出候

十月三日 晴昼後雨

一 林田町門屋龜藏借屋ニ居申備前屋七兵衛妻去十一日(ママ)ら臙妊当六月

男子出生然ル処右妻去冬ら病氣産後甚差重り乳留出不申夫七兵衛働不相成及難洪家主組合町内らセ話いたし遣し候へとも永々之事

行届不申歎書差出し病難当座救米三俵天明四年之例之通伺相済大目付中江相達承り届候段申達候

一新職人町ぬし八郎右衛門因州高草郡下味野村孫左衛門娘三祢同人娘たか同倅常吉三人四年已前引受役介ニ致し候処今般勝手ニ付右

同所へ指返し候段人別除願出承り届候

一 安岡町播磨屋清藏娘くま倅重吉三人共去月八日罷出行衛不相知百日尋申付候段今日及御沙汰候

一元魚町ら田町江之土橋損同所ら届出今日大目付中江書付指出候

一 今昼後今枝流一覽有之九時過伺之上御用向無之ニ付引取候

一 河原町石井屋弁四郎家屋敷表口七間半裏行拾四軒(ママ)本役代銀札

式百五拾目相極町内高屋鶴治江壳渡し申度願出候ニ付承届候

十一月廿九日
壳券抜出ル

十月四日 晴

一 町作年貢不埒ニ付町内江入込吟味申付候〔若不埒之ものハ手錠申付義も可有之可承置条御代官青木義作近藤宗左衛門ら申来り承知之旨口上ニ而及返答候

同日 晴

一 劍術一覽ニ付罷出候

一 油絞り之儀御答指出候ニ付而ハ改申立手違無之様源五兵衛申述候様取計可申御留守居并増児らも申来ル

一 三軒屋番中尾清治病死之段届出候

十月六日 曇暮ら雨

(ママ)
一 鎗術一覽ニ付罷出ル

一 一宮村東山方藤右衛門倅政次左之通切手式俵昨五日かち町山形屋嘉右衛ら請取一宮へ帰りかけ落し郡代方ニ而触流伺候得共早速中買江申渡候様大年寄江申付候

十月二日

一切手巻俵 二印 吉川助右衛門当(ママ)

十月二日

一同 巻俵 無印 西原今平当(ママ)

一 二かい町東側ニ而出雲屋勘三郎所持之屋敷地表口五間裏行拾七間(ママ)巻間役代銀札百式拾目相極丁内田原屋武兵衛江壳渡し願出承届候

同月十一日壳券抜出ル

一西新町養楽院縁類ニ付真嶋郡新庄村山伏大善坊逗留追願来寅八月迄と申出承り届候但し下地八月切之処延引之由大年寄申出以後入念候様大年寄る申聞候答

十月七日

武田七郎兵衛江口達
元遂敬儀兼而預ケ申付置候処寺院ノ歎書当年惇信院様御供養御赦ニ付預ケ差免候

早而遂敬義妙法寺引受末寺野田村経王寺江指遣し為相慎置可申趣ニ付妙法寺江申談可然取扱可申旨申渡候

京町板木屋

鶴藏江

右同断ニ付十藏吉之助帰住居申付候段申渡

安岡町

井多屋安兵衛江

元作事中間喜八右同断ニ付帰住居申付候旨申渡候

今日右之通取計候段与兵衛殿并舍人へ手紙ニ而相達し候

一西新町吉武祐三借屋新助勝山中町大工屋太助方へ当是る来ル卯ノ春迄三ヶ年奉公ニ指遣し度願出承り届候

返し済

一新魚町かの屋茂一郎二かい町組屋忠三郎所持之他国請酒株当月る来午ノ九月迄五ヶ年借り受商売いたし度願出承届候

十月八日 晴

一諸吟味豊岡藤十郎備前津高郡建部新町与惣左衛門役介九七郎妹さ

わ藤十郎悴音四郎妻ニ引受申度人別人願今日伺相濟承り届候尤大目付中江相達同九日住宅証文 指出し候

一来ル十五日万人講猶又可為大入趣ニ相聞候ニ付去十一月之通大番所江物頭詰被仰付度其外左之通

穢多拾五人増

都合三拾五人

非人拾人増

都合廿五人

ひゝる売場二ヶ所増

都合四ヶ所

右之通去十一月之手当ニ御座候処大入ニハ棚之上手管合兼候ニ付猶又左之通相増申度申出候

ひゝる納算方

書役共 九人増

都合廿四人

講元助役式人増

都合五人

右之通相伺候処可然取計可申猶又其余も相増しニ而成共何レ棚之上速に取計疑無之様ニいたし候て申分も有之間敷宜敷取計可申旨

御申聞被成候

一来ル十二月五日之義ハ例之通当講之節及披露可然ちらし配り申もの例年指出し候由今般も指出し候儀ニ御座候処其儀跡ニ而承り兼(マ)而不奇ニ候得者随分遠方迄江相配り可然候へとも近年大入ニ而少

しハ減し申度程之事ニ御座候へハ是者相止メ候而可然被存候間十
二月五日之所者近国江ちらし配り出し候義ハ相止メ可申之旨申上
置候

一来ル十五日万人講ニ付同心組加人十六人供方式人都合拾八人使組
加人大目付中江申達し猶勘者江も通し置候

一万人講ニ付拜借道具去十一月之通り書「大目付中指出し是又勘
者江申通今日小頭請取帰り候

一万人講ニ付役郡代替り老人御達可被下候町奉行方引受之事多く
当「も諸事取計有之候事故町奉行代りる郡代代り御申達御座候方
弁利宜可有御座旨大目付中江相達し候処郡代替り植木左士江申達
候由舍人より被申聞候

一前段手当伺之義ハ勘定奉行江も申談其外惠左衛門江も申談候上相
伺候右ひゝる売場四ヶ所ニ付右之場所江銀札場手代出候由是又増
人之事同所江通し有之様ニ勘定奉行江申達候

一鍛冶町中田屋鹿之丞先達而博奕参会「し候処牢内ニおゐて及白状
候趣申出候間呼出し一ト通り口書取之咎牢舍可申渡尤日数百日之
処相伺候へハ可然取計可申旨御差図有之候ニ付大目付中江達置候
一昼後大年寄る万人講ニ付前夜太鼓打廻り之儀伺出候ニ付勝手次第
之旨申付候

一右去十月手当通り并此間諸吟味と「しひゝる納等増人講元助増人
申付候段大年寄へ申達候

一諸吟味久山勘八罷出元方セ話人と申者是迄而人御座候処講元共自
他応対「棚る度々下り候而ハ手筈不宜候間自他応対人と申もの老

人相立是迄右セ話人ニ遣ひ候藤屋「し右衛門と申者応対人ニ申付セ
話人を外江申付度右者此間豊屋喜左衛門も相伺候事右之通ニ而
手筈も可宜由ニ付其通り取計候様申付候尤是者追而惠左衛門へも
申通置候積り之事

一新魚町野田屋孫三郎方ニ備中妹尾古新田村久太郎夫婦もの召抱置
兼而懐胎之様子申出居候処今日出産之旨書付指し承り置候

一此間郡代方ニ而及御沙汰候落し切手式儀御触達し有之市郷も触之
義申付候

一右之通申付候処香々美井村文六与申もの去ル五日御城下江出懸ケ
一ノ宮油地藏下ニ而右切手拾ひ候旨大年寄江申出候由則切手指出
し「付請取いたし申遣し置候段申出右拾ひ人相知レ候段与兵衛殿
舍人江手「にて申遣し候

一牢内助十郎義御憐愍を以御領分追払之義書付を以相伺置候
十月九日 晴

一観河原ニおゐて来ル十五日十二月五日万人講ニ付例年之通御家中
触出ル

一万人講ニ付先例之通四通大年寄へ指出し候
一鍛冶町中田屋鹿之丞牢内ニ而博奕参会及白状今日呼出し口書取之
咎牢舍申渡其段与兵衛殿并舍人江手紙而相達候

同 十日 晴

一油絞り之儀ニ付公辺御差図を承り候上源五兵衛指出度及返答候

一福渡町南側ニ而西田屋忠助家屋敷表口四軒裏行拾七間老軒役代銀
札六百弍拾目相極西今町板屋幸助へ売渡し申度願出承り届候翌十

一日売券状指出ス

一 東新町舟本屋兵助町内玉屋伊右衛門所持致候自国請酒株当丑十月
る来ル辰九月迄丸三ヶ年「間借り受商売致し度願出承り届候

一 昨日勝山の飛脚到来先達而以来追々懸合候盗人幸助質物懸り一件
引合「相分り来ル十六日申渡候ニ付質屋兩人江申渡文段相認
相談申渡之義も向方へ指出し可申哉当役所にて可申渡相談申来り
右ハ申来り候通申渡文段存寄無之此方ニ而可申渡返書下案を以相
伺候処付紙を以御尋有之猶又懸意之趣共書付申上伺之通取計可申
旨御差図有之清書申立翌十一日朝相渡候

十月十一日 晴

同 十二日 曇

一 諸吟味豊屋喜左衛門改印願出承り届候

一 二階町佐久屋藤助去ル四日真鳴郡落合江罷越右出かけ前ニ而財布
拾ひ右之内ニ銀札勿之札四枚三分札六枚式分札壹枚錢四拾四文有
之届書差出し承り置候

同 十三日 雨

一 備前和氣郡和氣村孫三郎悻重右衛門縁類ニ付三町目浜野屋重郎兵
衛役介ニ引受人別人願出今日伺相済大目付中へ相達し承り届候

十一月晦日住宅
証文出ル

一 伯州倉吉下横町高田屋五兵衛弟庄兵衛東新町藁屋与七郎家内ニ引
受人別人願出右同断 住宅証文十月廿五日出ス

一 来ル十二月五日万人講建札ちらし例之通相願今日及御沙汰大目付
中へ相達し承り届候段申渡候

一 助十郎出牢御領分追払去ル八日伺之通可然取計可申旨御差図有之
大目付中へ相達候

一 万人講之節講場へ暫之内物頭相^詰候ニ付組之者休所腰懸ニ而も申
付呉候様いたし度伊藤采女申聞是ハ去年も其沙汰有之右門江も
申通候得共最早切組ニ而仕立難取計趣ニ付其段及返答候処猶又今
日同人申聞得と様子承候処先年町袴勤之年と暫く相詰候様物頭
江達し有之先役守助へ村上清太夫懸合候処勘定之時刻と三十番
位迄之所見合居候処て弥無滞様子も相知レ可申夫迄ニ而可然由ニ
付委後ニ而罷在候由ニ付暫くも相詰と申事ニ候へハ組之者指置候
場所ニ可有之筋ニ被存大目付太田舎人江及相談候処同人も兼而承
知之事は迄先ハ其通りニ而相済来り候へ共詰之姿ニ而ハ腰懸之場
所可有之道理指而申入用とも有之間敷旨取計候而可然由ニ付左候
ハ、可申達旨申達し必用何レ少々ニ而も相懸り候筋故右応対候趣
井口恵左衛門へ申聞大年寄へも相達今日講場仕立見分罷出候故小
頭又六江委細申含諸吟味講元江も可然申付候様申渡し

一 右之通申付出し候処左之通取計可申哉又六右相同候ニ付其通り申
付候様及差図伊藤采女江申遣文段大意

今昼被仰聞候組休所腰懸之儀大目付中江及対談候処暫くも詰候
姿ニ候得ハ無拋事兼而も粗様子承知候由腰かけ申付候而可然由
ニ付下方之様子承札候処場所も無之私共棧敷次ノ通りより北側
江付涼台五つたけ上ニさつと家根をいたし縁取り敷ニして右下
り方ニ少し相隔下部腰懸候様取計申候間左様ニ承引可被下候左
候へハ間中ニ五間程之事故万ニ間も合可申被存候趣申遣候

一 紀州高野山宝連院御し僧上下式人^(マ)旦廻罷越候旨材木町正木屋才吉宿切手指出し

一 京町三栗屋与吉天明五年出奔同年十二月諸道具闕所古道具屋株其節伺候処其俣いたし置候様申付候由古道具屋頭預り罷在此度右与吉親類伏見町飾磨屋新七忤重吉^江右株相譲り商売為致度願出承り届候

一 来ル十八日英丸様御百日御色直し御笑福恐悦申上有之旨尤講釈延引之由勘定奉行上原彦藏^江通用有之

一 美濃職人町作人藤吉今朝二町目小倉屋重四郎方^ニ而切手式斗九升七合外^ニ銀札式匆請取帰りかけ道^ニ而落し候^ニ付届出印無之丑十月十二日出之由孫右衛門^江申出承り置候尤町方中買^江申渡候様申付触之儀ハ追^而可相達申聞候高田春賀当

十月十四日 晴

一 右落し切手印シ等夫々相調御藏方^江通用之儀勘定奉行上原彦藏^江申遣候

一 右落し切手之儀勘定奉行へ通用^并町中買^江申付置候段届書付相添与兵衛殿へ紙面^ニ而申上尤触流し之儀^者追^而御用日御沙汰^ニ而宜之旨申上候

一 右与兵衛^江申上候趣大目付舍人^江手紙^ニ而相達し置候

一 万人講^ニ付今夕明夕先例之通四時迄左之町数閱貫開置候段与兵衛殿へ申上候尤大目付中へハ昨日申達し置候

元魚町 二階町 材木町 河原町 船頭町 吹屋町 桶屋町
戸川町 福渡町 細工町 上紺屋町 鍛冶町 宮脇町

一 明後十六日質頭兩人へ申渡候上勝山^江文通相伺候処思召無之取計候様与兵衛殿^江御差図有之候^ニ付右之段舍人^江申遣明後日四時分出立之積り飛脚申遣候

一 細工町輕屋嘉兵衛与申者銀札場手代申付候由銀札場奉行関十次^江通用申来ル

一 先比申達置候使組加人之内八人^者ひゝる場へ罷出候故役所^江不来残八人衣笠他助渡部忠藏堀内甚藏寺坂幸八岡本民右衛門中村栄治磨木团右衛門吉田誠次面談申合相勤候様^ニ申聞候

十月十五日 晴

一 四つ前時分出役供方使組松尾乙助郡代方川村久藏其外御貸人馬例之通

寄札高老万六千七百拾八枚

無滞相濟帰りかけ与兵衛殿^江申達し大目付へ例之通左士と連名^而相届候

一 講場へ立寄詰之物頭一場茂右衛門大番所^江詰之物頭村上縫殿丞

一 福渡町松山屋清助帰り候段申出預ヶ置可申旨申付置候

同 十六日 晴

一 茂渡兵吉浜野源右衛門呼出し勝山役所申渡之儀達し請印申付^并当役所申渡相達請印取之右写等取揃勝山^江返書取計右之段与兵衛殿舍人^江手紙^ニ而相届候

一 此間之落し切手式斗九升七合銀札式匆惣社村十右衛門^与申者拾ひ候段昨夜申出大年寄へ申渡置候

一 下紺屋村長^(マ)江朝庵備前岡山小畑村浜屋喜兵衛方^江来ル十八日出立

往来七拾日計り逗留願出承り届く 十二月廿二日届届ル

衛門宿切手指出ス

一 万人講翌日ニ付例之通昼夜廻り申付候

十月十九日 晴

一 残錐渡小頭又六平組も例之通指出候

一 元戸川町助十郎憐愍を以出牢御領分追払取計与兵衛殿舍人江相届候

一 残り錐三枚有之講元預り書付取之引取

候

一 御蔵米五拾五匁五分町米五拾壹匁五分相場書出ル

一 玉置卯左衛門要用ニ付備中矢掛中西与四郎右衛門方江明廿日出立

一 東新町安舟屋武助商売躰ニ付大坂心齋橋玉子屋九兵衛方へ十八日出立往来廿日計り之逗留願出大年寄承り届書付出ル

中へも近日之御用日相達し候事

十月十七日 晴

一 夜五つ前時分山北村出火ニ付出役四半時分消留引取帰りかけ与兵衛殿江申上大目付江供方与相達し候

一 牢番和田儀右衛門妻今朝出産女子出生いたし候段又六る届出承り

同 廿日 曇

置候

十月十八日 晴

一 安岡町明石屋庄七罷帰り組合預ケ申付候旨大年寄る届出候

一 小笠原信濃守殿領分播州赤穂郡釜嶋村兵五郎娘れい材木町万屋与

同 廿一日 雨

三兵衛家守清兵衛借屋松屋善四郎妻ニ引受人別人願出今日伺相濟大目付中へ相達し承り届候 十月廿七日 住宅懸文出ル

一 京町田戸屋惣十郎商売用ニ付紀州黒江備前屋七左衛門方江明廿二日立三十日計り之逗留ニ罷越度旨大年寄承り届申出候

一 二かい町佐久屋藤助去ル四日財布拾ひ少々銀札入有之張札可申付旨与兵衛殿江申上大目付中へ相達し右之段孫右衛門江申付候且又

十月廿二日 雨

先月拾ひ候豊屋喜兵衛下人之財布も嶋ニ申事相除財布と計り是又張札いたし置候様ニ申付置候

同 廿三日 晴

一 万人講寄札高割合書付与兵衛殿江指出し残り錐三本講元江預ケ置候段申上候

一 京町北山修齋借屋苦口宗甫妻悴共三人花房清兵衛与相改佐久間兵右衛門殿へ奉公ニ罷出度人別除願出承り届候

候段申上候

一 戸川町北側ニ而福渡屋吉之丞所持之家屋敷表口三間裏行八間半式步役代銀札百五拾目相極同町作人全重郎江売渡し申度願出候ニ付承り届候 十一月七日 売券状出ル

一 青繩指札等請取書付大目付印形取之大納戸江相廻し品役所江相廻ル

一 福渡町打穴屋茂兵衛役介龜吉寛政二年戌之歳二宮村孫七方江養子ニ遣し候処今度離縁いたし候ニ付引受人別人願出承り届候

一 雲州大社中官西村神太夫与申法師上下四人罷越坪井町桔栳屋庄右

候

一油絞りの儀ニ付江戸表へ文通伺相済候且又大坂御留守居村尾李右衛門源五兵衛御呼出候処病氣相改御聞濟之処最早余程日数過候事ニ付御願人松井官左衛門へ相談之上一兩日御届罷出候旨大目付中へ申来り候段舍人を被申聞候

一去月中生死人別出入書上左之通

出生拾老人 男子六人 女子五人 人別入老入

死失拾老人 人別除拾人

差引 九人減

十月廿四日 晴

同 廿五日 晴

一油絞りの事ニ付源五兵衛仲方懸案之書付今日江戸表へ相廻し候

一京町田原屋伊兵衛廿七日立三十日計逗留因州行大年寄承届く

同 廿六日 晴

一小野田為次請状致し候由又六を指出し

一京町米子屋文左衛門町在子供読ミ書算用為致度存寄之趣共願出大年寄も未奥書いたし不申内分伺候ニ付請取置候

同 廿七日 曇

同 廿七日 曇

一福渡町松山屋清助安岡町明石屋庄七先比追々帰り候ニ付今日博奕

参会之趣相糺候処会合不致候段申之候ニ付吟味中牢舍申付其段与

兵衛殿舍人江手紙ニ而相達し候

十月廿八日

一船頭町高野屋平七下紺屋町清兵衛へ相懸り同人使源助右平七妻

を打擲之由先達而願出大年寄手前ニ而源助を相糺出番兩人指向ニ

朔日 晴

而源助江手鎖かけ清兵衛共ニ組合預ケ昨夜申付候
一酒直段三分下ケ願出今日及御沙汰大目付へ相達し承り届候段大年寄江申渡候

一豆腐直段三文下ケ十六文ニ商売致し度願出右同断

一小性町善六御箱訴大目付を下ル

同 廿九日 晴

十一月大

御用番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 小須賀一学殿

大御目付 本多丹下

月番

大年寄 齋藤孫右衛門

同十七日を 藏合孫左衛門

諸吟味

久山勘八

一 御吉事日ニ付五半時登城被下もの無之御用所江も不罷出候
一 貢ら左之通書付相渡ル

丑九月廿九日極

一 廻勤事左之面々計者左之通相極

御奏者番
御小姓頭
大目付
町奉行
御留守居
御郡代
勘定奉行

右之面々者五節旬月並恐悦事御礼等御用所江罷出申述候事故以
後不及廻勤大目付迄廻勤と有之等定之儀ハ是又於殿中申述候故
不及廻勤御奏者番へも廻勤と有之類ハ御奏者役所へ罷出申述候
而不及廻勤候右何茂若外御用向等ニ而於障有之殿中ニ而申述
節ハ退出之節兼而定之通廻勤可有之旨相極

一 近領盜賊沙汰も相聞申候間町方夜廻り并非人加廻り二組可申付之
旨手紙を以一字殿江申上大目付中へ相達し候
一 例年之通所々相場書取りニ参り夫々相廻ス

十一月二日 晴

一 二かい町山手屋政右衛門所持いたし候他国請酒株去子ノ八月と元
魚町豊後屋伝次江貸置候処此度取戻し候旨願出承り届候

同日 三日 晴

一 五穀為願成徳守宮社地ニおゐて花角力三日興行いたし度安岡町神
東山長兵衛ら相願文九郎ら昨晚指出し今日同相濟承り届候段同人

江申渡候

一 坪井町日野屋山三郎家屋敷表口三軒裏行十七間巻軒役当月る来ル
卯ノ十月迄三ヶ年質物ニ書入銀札六百目下紺屋町紙屋音四郎取次

ニ而借り受申度一ヶ月巻歩半之利足願出承り届候 同五日
質入証文出ル

一 三浦志磨守殿る金貳百足被下置右ハ例年相場所相廻し候御会釈ニ
付例之通り及返答候段丹下江申達し候

十一月四日 晴 同 五日 晴

一 雲州神門郡杵築大社多久太夫と申者例年旦廻致し是迄元魚町豊
嶋屋伝次宿致し候処同人相止め候ニ付二かい町堺屋伊右衛門宿致
し度断出承り置候

十一月六日 晴

一 久世郡御成米初川下ケ中場番人大年寄江申付候

一 東新町北側ニ而松本屋新六所持之家屋敷表口八間裏行十七間巻軒
六歩役土蔵二ヶ所共町内橋本屋茂右衛門へ質物ニ書入来寅ノ十月
切巻ヶ月巻歩之利足ニ而銀札巻ノ五百目借受申度願出承り届候

十一月十八日家証文出ル

十一月七日 晴

一 船頭町今津屋孫十郎家守小性町阿波屋定右衛門借屋伴助兼而北山
修斎門弟ニ相成医道修行致し罷在今般富沢伴水と改号針術致し度
願出候ニ付先例取調候処針医者役所開届候例有之ニ付承り届候

一 古道具屋商売致し候細工町今蔵屋源七与申者五十年計り以前出奔
致し其節右株其俣ニ致し置候様申付候由ニ而年来頭預り罷在候処
今般西今町松尾屋源之丞へ右株被下候場ハ右株を以商売致させ度

古道具屋頭喜平次組頭甚兵衛甚助兩人源之丞願出候処右抱株之義役所ニ而ハ不相分大年寄共手前為相糺候処是以不相分候ニ付道具

屋頭大年寄手前ニ而相糺候処右出奔株預り罷在候義相違無之旨申之候由ニ付右頭ノ無相違趣書付取置可申旨大年寄へ申付承り届候

一西新町南側ニ而升屋勘助所持致し候家屋敷表口六間半之内西方式

間裏行十七間土手切式歩役代銀札壹ノ式百目ニ相極同所重松屋忠

右衛門江壳渡し申度願出承り届候

同月十一日壳券状出ル

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善次与申御師例年之通旦廻罷越候旨

堺屋伊右衛門宿切手指出ヌ

四月十七日届ル

一雲州杵築大社多久十太夫右同断

翌寅ノ正月十三日届ル

十一月八日 晴

一玉置卯左衛門備中矢掛逗留追願五日計り此間願出今日及御沙汰承

届候尤大目付へ相達ヌ

〔伏見町大工武助御堀足場下し願出今日大目付中へ相達し候

十一月九日 晴

一坪井町美濃屋作兵衛妻懐胎臨月之処余病ニ而昨夜相果候段申出承

り置候

同 十日 曇

一新魚町作人平助妻去月廿九日出産先春月取間違申出不埒ニ付叱り

置大年寄ノ相届承り置候

同 十一日 晴

一下紺屋村孤独さん病氣之趣申出見分部屋目付三船新次差向一札并

容躰書取之尤昨夜之事ニ候処今朝請取候故此所ニ記置候

一坪井町美濃屋作兵衛妻容躰書一札大年寄ノ指出請取置候

同 十二日 曇小雨

一玉置卯左衛門備中矢掛ノ昨夜帰リ候旨届出ル

一町作庄屋櫻野屋茂一郎倅新四郎江町作庄屋見習申付候旨御代官近

藤宗左衛門ノ通用有之

十一月十三日 晴

一坪井町美濃屋作兵衛妻臨月之処余病ニ而相果出産之員数違ニ相成

候間申上置候

一福渡町置屋勘治借屋作人庄八吉野郡粟井村吉兵衛方へ引越人別除

今日及御沙汰大目付江達し承り届候

一河原町十兵衛娘先達而狂氣ニ付借牢相願本心ニ相成出牢申付置候

処猶又今般再発ニ付借牢相願今日伺相済大目付へ達承り届候尤今

屋廻り指向入牢取計其段一学殿并丹下江手紙ニ而相達し候

一徳守宮ニ而花角力三日先達願済候処当月十八九日比ノ相始メ申度

建札願出今日伺相済大目付中江相達し承り届候段文九郎江手紙ニ

而相達し候

一郡代所ニ而召捕入牢申置候林兵衛与申無宿盗人右宿致し候林田町

入江屋新助与申者林兵衛御裁許伺ニ付新助咎相伺置候

一万人講正二月一会野田屋佐右衛門藤屋嘉右衛門兩人ノ願書差出候

処旨大年寄ノ内分相伺候ニ付今日一学殿江内分相伺置候

一京町米子屋文左衛門ノ手習指道被仰付市郷之子供ニ相教申度願書

右同断大年寄ノ申出是又内分伺置候

一盗もの質物之取扱方過料等之儀ニ付去月再考被仰付今日書付指出

し置候

一 玉置卯左衛門一昨夜備中る帰着之旨今日申上大目付江も同断

一 江戸御留守居江相廻し候備中江之相場書勘定奉行の御用向有之大

坂の指込ニ而明晩仕廻飛脚ニ指遣し弥城江相廻ス

一 於江戸表先月十八日御男子様御誕生之為御知廻文出ル

一 上紺屋町さん孤独病氣ニ付此間見分申付置候処今夕相果候段申出

候ニ付取置勝手次第と申付候

一 林田町北側ニ而灰屋磯右衛門家屋敷裏北東之方ニ而東西菅間南北

八間半老歩二厘五毛役代銀札式拾四匁ニ相極東隣茅野屋宇兵衛江

売渡申度願出承り届候

同月廿五日
売券状出ル

十一月十四日

一 於江戸表今般御出生之御男子様御七夜御祝儀先月廿五日被為済候

段申来り依之来ル十八日御徒格以上并御目見相済候部屋住ニ至迄

四時登城之旨御奏者廻文到来昨今之文触達し之儀書役江申付候

一 久世御廻米初今日川下ケ有之趣院庄に註進申出中場番人之事又候

大年寄へ申付候

同 十五日 晴

同 十六日 晴

同 十七日 晴

一 明十八日る徳守宮社地花角力相始候段文九郎を申出右之段一学殿

江申上候処思召無之ニ付其段大目付中江手紙ニ而相達し勝手次第

之旨文九郎江相達し候

一 御家中江も盗人立入候哉之風聞も有之虚にても不相知候へ共何と

哉覽盗賊沙汰も有之旨一学殿を御申聞被成候ニ付御家中夜分非人

忍び廻り二組可申付哉之旨申上候処可然取計可申旨ニ付其段も大

目付中江手紙ニ而申達し右廻り孫左衛門へ申付候

一 伊勢内宮藤波神主名代松井奎衛江と申もの上下二人例年之通且廻

罷越宿致候之旨二かい町堺屋伊右衛門を宿切手指出候

翌正月十七日
帰ル

十一月十八日 晴

一 敏次郎様御事御弘有之若君様与可奉称旨被仰出候右祝御布施頂戴

致し度旨配当所を申出今日相伺候処宜敷取計可申旨御差図ニ付大

目付中江相達し勘定奉行江も申談置右御祝被下置候段孫左衛門江

申達し候

一 上紺屋町孤独さん去ル十三日相果其段今日及御沙汰候

一 郡代所る相伺候無宿盗人松太郎兵吉林兵衛吉太郎五十敲之上御領

分追払取計可申旨被仰渡候

一 今般御出生様御七夜御祝儀申上付五半時登城例之通七間廊下ニ而

申上尤御誕生之恐悦并御七夜之御祝儀申上候右祝御酒御吸取肴頂

戴右御礼是又七間廊下ニ而申上候

一 今般御出生様御名富丸様与奉称右御同名ニさへ無之候へハ名乗号

字共御構無之且又公辺御届并御一門様方其外江も為御知無之御取

扱御次男様方御同様之旨大目付中る被相達勘定奉行の書付相廻り

組中并牢屋三軒屋番惣町触達候

一 社社村儀右衛門娘さい細工町橋見屋多吉妻ニ引受申度人別入願出

承り届候

一 京町堺屋多助林田上之町平四郎倅十兵衛縁類ニ付引受相応之渡世

為致度願出承届候

一 德守宮花角力ニ付同心組指出し候

十一月十九日 小雨

一 今日雨天ニ付相撲延引申出候

同 廿日 晴

一 讃岐国高松義峰と申僧因州知頭郡上鷹狩村ニ而相煩治療指加快方

ニハ候へとも歩行不相叶送り来り候ニ付町分送り出し候様申付候

一 久世御代官手代関口兵平御廻米初御用ニ付今津屋孫十郎方ニ逗留致し候旨夜ニ入案内書状孫十郎方指出し相応返答指遣候

一 花角力ニ付同心組指出し候

同 廿一日

一 下紺屋町南側木挽忠四郎後家屋敷表口二間裏行十七間半役代銀

札百式拾目相極町内喜助へ売渡申度願出承届候 十一月廿八日 売券状出

一 元魚町紙屋太兵衛新田村安次郎同村助右衛門へ西ノ末方指引残三百目之借物指滞濟方之願指出し郡代方ニ而濟方申付候

一 德守宮花角力二日之加日文九郎願書指出し寺社取次引合之上

学殿 江 罷越相伺置候

一 花角力ニ付同心組指出し無滞引取候

十一月廿二日

一 新職人町佐七妻去ル十五日出産是者兼而月取間違断出今日叱り大

年寄手前ニ而取計其段届出候

一 西今町中屋忠右衛門役介和右衛門与申者去子十一月相願甲州身延

山江参詣いたし日数相立候へ共帰り不申親類共心当り之所々相尋

候へとも行方相知不申然ル処此度江戸表へ罷越居候由相知らせ候

もの有之ニ付来寅ノ三月迄日延相願承り届候尤右始末も是迄不申
出不埒ニ付叱り已後入念候様可申渡旨申聞置候 三月廿日船宅

一 肥前長崎研屋町白石忠七弟宗助与申者元魚町油屋与三兵衛役介高

島通友類縁のものニ付罷越候処道中相煩候ニ付五十日計り留置療養指加申度願出承り届候

十一月廿三日 曇小雨

一 小性町浜田屋善六御箱訴ニ付下方承糺候之処内濟致し濟書指出候

ニ付右御箱訴ニ相添今日指出候

一 講元浜野屋宗兵衛兼而病氣ニ而講元難相勤躰ニ有之倅嘉一郎近年

見習申付有之ニ付同人江詠申付候様いたし度候此間久山勘八申
出尤諸吟味一同并講元同役も一同右之通ニ存候旨昨日孫左衛門方

も申出候ニ付今日勘定奉行江も一ト通申談候之処存寄無之患左衛
門へも引合候上今日一学殿御不参ニ付要人殿江申上置且又丹下へ

も申し達し孫左衛門江講元宗兵衛跡倅嘉一郎へ勝手次第ニ申渡候
様ニ申渡候

(戊午三月八日罷越御聞届)

一 備前国赤坂郡山口村孫右衛門倅孫七与申者西今町直屋市郎左衛門

家守三浦屋和七借屋畑屋治兵衛養子ニ引受申度人別入今日伺相濟

大目付へ達し承届候 十二月三日住 宅証文出又

一 土井大炊守殿御領分久米南条郡泉田村清右衛門倅柳蔵与申者小性

町西村屋惣助養子ニ引受人別人願出右同断 同月廿九日 住宅証文出又

一 西新町紅粉屋幸吉役介伊八与申者先達而黒田鼎方へ出入奉公願承

届置候処此度無滞暇出ニ付人別人昨日願出承り届候

一仙石越前守殿御領分勝南郡中原村藤七弟伊八西新町紅紛屋幸吉先達而役介ニ引受置候処家風ニ入不申候故右藤七方へ指返し申度人別除相願右同断尤前段黒田へ出入奉公致し候伊八也

一先日御裁許被仰渡候盗人四人五十敲之上御領分追払来ル廿五日取計可申ニ付立会御徒目付等例之通御申付被下様丹下へ申達し下城之上右手配又六江申付申渡文段等書役江申渡候

一林田町北側ニ而茅野屋宇兵衛家屋敷表口式間半裏行拾七間六歩式厘五毛役代銀札三百目ニ相極同所上田屋茂八江売渡し申度願出承届候
売券状
廿八日出ル

一万人講来正月被仰付度願内分先日一字殿江伺置候処当年之所取計見候て又様子も相知レ可申先ハ相止メ候而可然之旨願書御戻し被成候ニ付不相濟趣を以孫左衛門へ願書相戻し候

一先日米子屋文左衛門申出候市郷手習師道之事是以尤ニも相聞候へとも難相成可有之先ハ延引可然之旨是又御戻し被成候ニ付右同断一先達而も罷越候絞り油改之もの昨日水場へ罷越立合之綿実相改書留夫ら下働之福永屋助右衛門方へ罷越候へ共同人他出ニ而応対致し不申今日ハ応対も可仕候へ共何レ源五兵衛ニ而無之候而ハ応対も相濟不申候処同人大坂御呼出ニも未行不能出程之義猶以此筋節対も不相成旨相答先ツ夫迄ニ致し置候而可然何分源五兵衛出坂之上御答も致し候上ならてハ具なる返答も難致右之通ニ而指置可申之旨大年寄へも申置候段申上置候尤昨晚右改之もの罷越候旨夜

前孫左衛門申出候

一船頭町高野屋平七ら下紺屋町清兵衛并無宿源助江相懸り候一件追々

大年寄手前ニ而相糺候内内濟致し濟方申出候由ニ付今日大年寄手前へ呼出し内濟承り届源助手鎖差免し清兵衛共預ケ指免候尤源助儀者下地小盗之事有之候故其場ニ而又候目明へ引渡非人共る為追

払候右ハ前後不束之事共ニ而最初内濟ものと相見へ勿論大年寄手前与可申取計ニ而致内濟候事故前後不及御沙汰候
十一月廿四日 雨

一徳守宮社地花角力昨日迄無滞相濟今朝一字殿丹下江手紙ニ而相達し候
一三軒屋番井尾清次先達而相果番代兄藤助相願候段又六申出今日目見番代願出之通承り届候段并大切成ル御番所之義入念可相勤之旨申渡候

一林田町入江屋新助無宿盗人林兵衛を二夜泊らせ候ニ付追込三日伺相濟明廿五日林兵衛御裁許取計ニ付追込申付候様孫左衛門へ申渡文段相渡し候尤追込ハ日数三日故来ル廿八日指免其節相届候様申付置候

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七郎与申者老人例年之通筆白粉売ニ

昨日罷越候旨京町平五郎ら宿切手出又
寅二月九日卯ル
一大年寄并町共歳暮并年頭献上之肴ニ付御奏「小勘者へ及文通候
十一月廿五日 晴

一無宿盗人松太郎林兵衛兵吉吉太郎牢敲之上御領分追払立会荒井安左衛門下目付江田清左衛門役所小頭部屋目付書役読渡し出番平組

四人且又林兵衛懸り合ニ付林田町入江屋新助追込大年寄宅ニ而申

渡小頭部屋目付立合右取計相濟一学殿丹下江相届候

同 廿六日 曇

同 廿七日 雨

同 廿八日 曇

一雲州大原郡仁和寺村勘助弟庄藏与申者堺町佐伯屋藤兵衛後家十三年已前養子ニ引受候処家風ニ入不申離縁人別除願出今日及御沙汰大目付中へ達し承り届候

一去月中生死人別出入書上左之通

出生ノ廿人 人別入ノ五人

人別除ノ六人 死失ノ七人

右差引ノ拾二人増

一町方当暮御褒美伺書指出置候

一來月五日万人講今度も大入りニも可相成哉難計ニ付諸事十月之通

取計可申之旨及御沙汰候大目付中へも相達し物頭大番所詰之儀申

置候

一盜もの質取り之義ニ付申渡之趣先ツ右之通ニ而可然尤右門江も考

之趣可申達之趣指急候事ニも無之無程右門も罷帰可申ニ付猶申談

候様御申聞成候ニ付猶又相談之上追而可申上之旨申上置候

一林田町入江屋新助追込昨日迄三日ニ相成今日指免其段一学殿へ申

上大目付中へ申達置候

一伊達頼母此間帰着御意有之間勘定奉行一同相廻り候様ニとの事ニ

付申合大目付役所へ罷出候処何れも息災ニ相勤御喜色ニ思召之旨

ニ付難有仕合之段御礼申上候

一來月三日御用日朔日相成候旨弥城より通用有之

一二階町西側ニ而塗師屋新七後家家屋敷表口二間裏行十七間半役元

魚町鳥屋与市取次ニ而銀札百五拾借り受申度当丑ノ十一月来寅

ノ五月切ヶ月壹步半之利足家質願出承り届候十二月十日証文差出

十一月廿九日 曇

一阿州名西郡高原村平左衛門与申者例年之通藍玉壳ニ昨日罷越候旨船頭町今岡屋浅右衛門宿切手出ス

一阿州板野郡高房村新兵衛右同断

一右同所川端村清兵衛右同断

一右同所成瀬村曾右衛門右同断

一牢番和田儀右衛門病氣引込ニ付右代り使組老人明晦日る出勤候様

丹下江手紙ニ而申遣候

一古市主殿組木村太兵衛番代致し同人妻娘三人小性町鈴鹿屋伊助引

受人別人願出承り届候

一御奏者廻文到来從江戸表飛脚到来太守様益御機嫌能被成御座当月

九日上使朽木左京殿を以御鷹之鷹御拜領被成候段申来り候同十三

日御腫物段々御快被成御座候ニ付御成御出勤同十五日御登城被成

御病後之御礼無御滞被仰上御献物首尾能相濟候段申来依之右為御

歛来月朔日御徒格以上并御目見相濟候部屋住ニ至迄四時登城可有

之旨ニ付右之段組中牢番三軒屋高石垣番人江も触達し候様又六江

相達し大年寄へ例之通廻勤之儀相達し候

一東新町から屋利八東南条郡□□村穢多与平次今日板壳ニ罷越利八

前ニ而牛相煩療治致し候得共養生不相叶相果候ニ付一札取之取捨

之儀伺出候ニ付勝手次之旨申付候

十二月朔庚申日 雨

一夜五時分右門帰着尤大坂乃井野ニ四日之逗留相願候処存之外用事も早く相済帰着候間其段相届可申旨申越候ニ付即刻大目付丹下江手紙を以相達し候

十一月晦日 晴

一御用物不残引渡ス

一御鷹野^(マ)御拜領并太守様御出勤被遊并御出勤御礼被仰上候恐悦申上ニ付麻上下着用五半時惣登城例之通於七軒廊下御小性頭謁恐悦申上候尤右門義帰着初登城ニ付右謁前御用所江罷出面謁有之公私之挨拶申述之

一右早而類役不残例之通御用所江罷出恐悦申上早而御用向申述之早而大目附江も申述之

一黒田要人殿来年御留主居出府被仰付候段大目付通達有之類役不残御用所江罷出要人殿江悦挨拶申述之

一若君様広メ御祝例之通五百匁頂戴仕候段書付差出御用所持出口達ニ而及御噂候

一馬持共廿五人例年之通式俵半つ、大豆拝借仕度願書差出勘定奉行へ及噂置御用番中江申上候処御聞濟ニ付其旨大年寄へ申達候尤右証文奥印致相渡

月番

十二月小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 渡部惣右衛門

大年寄 藏合孫左衛門
諸吟味 豊屋喜左衛門

十一月改ニ入

一因州鳥取豆腐町豊屋孫兵衛倅文吉并妻右二人当七月材木町万屋与三兵衛家守引受居候処同人父之跡相続仕候付向方へ差戻度人別離願御聞濟ニ付申達候

一来ル五日万人講ニ付例之通出役仕候段御用番中江申達候右ニ付同心組加人拾八人御渡候様ニ大目附へ申達ス并自分御貸人馬之義例

之通大目附へ申達候

一 万人講当日出火有之候得者、兩役出役無之ニ付、兩人の場合へ勘定奉

行、行人出役被仰付置候間申談候様大目附、右ニ付欠付人足

其節飯塚弥代宅へ差出候様大年寄へ申達置候

一 牢番義右衛門病氣ニ付加人兩人受取居候処、万人講当日御組払底ニ

付当日計差戻候様ニ勘定奉行、被申聞其旨小頭へ申達置候

一 当夏吟味仕候一ノ宮市町ニ而、目明共芝居、弁当代受取来候段筋合

不宜候ニ付、以役之申付方松岡治部助と及相談相考差出候様大目附

太田舍人被申聞右吟味書不残被相渡候

一 油絞之義御用番中御尋ニ付江戸表、并大坂之趣申述玉置源五兵衛不

差出候、而者不宜旨申候、其旨治部助と及熟談考書差出候様御用番

中被申聞候

十二月二日 曇

一 講場見分ニ小頭差出候

一 万人講当日目明不足ニ付、初屋弥吉江、仮役申付候様小頭ニ申渡候

一 播州広峰神主魚住藏人上下三人例歳之通来候段、宿京町花屋権兵衛

届出候同人義三、本人扇子持参届ニ罷出候、同廿日罷帰候段届出候

一 江戸表江召連候石名元藏三日休息相濟明三日、出勤候段小頭届出

右ニ付加人御使組福嶋為助明日、差戻候段大目附、并勘定奉行へ手

紙ニ而申達候

十二月三日 初雪

十二月四日 晴

一 万人講ニ付左之通番割又六差出候

四日 当番百藏 昼番嘉七 昼廻り元藏孫八

夜廻り定治文藏 更廻り新治勇助

五日 当番為治 昼番百藏 昼夜廻り御使組六人

昼夜三度つ、当日渡場定治文藏

六日 当番孫八勇助 朝宵迄定治文藏

晚更廻り新治為治

銀札渡し場 又六元藏嘉七

一 今津屋孫十郎追廻之郷藏へ今日、御米積納候旨届出候

一 目明源之丞不快ニ付、仮役申付度小頭申出

一 牢舍人松山屋清助病氣六ヶ數趣ニ付、難義仕候段吉武修格容躰書大

年寄差出候

一 御使組加人役割左之通又六差出候

棚 高木利八野田数右衛門 供 福嶋為助植月斧藏

町廻り朝 渡部忠助荒木弁藏 昼 堀内又助衣笠順助

晚 小林其八鈴木忠太

十二月五日 雨

一 雨天ニ付万人講興行難取計延引可仕旨申出依之、天氣晴次第明日取

計可申旨御用番、并大目附へ手紙ニ而相届候町方江も其段致演達候

様ニ大年寄へ申付候其外手配小頭へ申付候

一 寒中御機嫌同有之候ニ付、五半時登城例之通申上候、但治部助右門義

万人講延引之取計ニ而登城及遅刻依之、兩人大目附役所江罷出太田

舍人江申上候

一 送酒株他国之者江擧ニ讓渡候義御停止之旨公儀御触大目附_左被相渡町方へ触書差出候

一 左之通先触到着之旨大年寄差出尤当所止宿ニ相成候ニ付諸事手配之義寛政三亥十二月廿九日久世御代官所手代新井岡右衛門囚人召連致止宿候例を以御用番中へ相伺候処其趣取計候様被仰聞候付諸事其通ニ申付候但宿元魚町原屋佐市順番ニ付申付候段申出候

覚

一 目籠 貳挺

此人足四人

一 差籠 壹挺

此人足貳人

一 本馬 壹疋

右者就御用囚人三人召連明後三日明六時但州生野出立作州久世表へ罷越候間書面人馬宿々定賃請取之無滞差出且渡船川筏等之場所者前宿_左申通し止宿之所ハ番人用意いたし置無差支様取計此触早々順達久世村ニ至り我等着之上可被相返候勿論右之趣久世御役所へ可被相達候以上

丑十二月朔日

稻垣藤四郎手代馬場良藏

三日 姫路 四日 佐用 五日 津山泊

右宿々 問屋年寄中

一 右之通囚人止宿ニ付同心組不足ニ付加人四人大目附へ申立受取宵廻更廻ニ申付候尤右囚人止宿之義大目附_江も相届候

一 小性町鳥屋与一借屋家守吉助借屋ニ居候塩田屋平吉と申もの去ル

八月中旬不斗罷出行方不相知其節百日尋申付置候処尋出帰住宅願出尤何之故障も無之野狐等之業ニ而風渡罷出候ものニ付承り届ル

一 船頭町分南側ニ而吹屋町鍋屋吉左衛門所持之家屋敷表口三間裏行九間四尺五寸但三步役東隣ハ同人持分之家屋敷西隣ハ同人居宅ニ候右家屋敷代銀四百匁ニ吹屋町釜屋市郎右衛門へ売渡願書差出承り届ル同八日売券状出ル

一 林田上之町八十治借屋ニ居候板倉全柳と申針医東新町粉屋善吉引受度願書差出尤全柳妻りき倅友之助同藏之助娘こま右家内都合五人也願之通承り候段申達候

一 福渡町松山屋清助牢内ニ而病氣差重り候ニ付弟同町松岡屋岩右衛門引受看病仕度歎書差出追而可及御沙_(マカ)駄事

一 伏見町能勢屋源助義林田村佐右衛門_江六年已前田地質入ニ而銀札貳貫目貸付候処返濟不致候付其旨願出郡代所_江相渡置候

一 明日万人講興行ニ付同心組役割割左之通又六差出

五日 当番 為治 昼番 百藏 昼廻 新治勇助

囚人止宿ニ付宵出役 嘉七元藏 明出役 定治文藏

夜迄宵御使組小先権助福嶋為助 明廻り 前原才治加嶋菊治

六日 当番 孫八 昼番 百藏 昼夜廻り三度つ、御使組

六人 当日渡場 元藏嘉七 供番 御使組斧藏藤助

七日 当番 百藏 昼番 文藏 朝宵迄 元藏嘉七

晚更廻り孫八勇助 残札渡場 又六新治為治

十二月六日 雪

一生野囚人致如何候哉不罷越依之同心組兩人つ、東新町へ差出置候

付尚又同心組致不足候ニ付御使組今夕卷人明日四人御渡被下候様

大目附へ申達候尤今日ひ、る場へ相詰候使組四人留置可申旨申達候右囚人延着之段御用番江も相届候

一 万人講ニ付五半時出宅供方并諸事例年之通

一 寄札高式万四千三百拾六枚 但五匁札

此銀札百式拾壹匁五百八拾匁

内三拾六匁四百七拾四匁 三歩引

残而八拾五匁百六匁 六拾番ニ割

壹番 三貫六百四拾七匁四分

拾番 貳匁四百三拾壹匁六分

但貳拾番四拾番五拾番右同断

三拾番 拾四匁五百八拾九匁六分

六拾番 五匁五百九拾貳匁六分八厘

間々 九百七拾貳匁六分四厘つ、

右残雖三拾七本有之候由小頭又六相届候

右出役引懸郡代同道ニ而御用番へ届罷越候大目附江者連名手紙ニ

而相届候尤諸事無滞相濟七半時過帰宅

一 左之通先触到着之旨大年寄届出候

我等義就御用囚人三人召連当月三日生野出立同夜姫路泊之積先

触を以申達候処囚人之内病人有之道中手間取今四日夜辻川村江

止宿いたし間被得其意人馬差出方之義右之積を以用意可致候勿

論泊之義ハ差懸り可申達候間可被得其意候此追触早々順達我等

久世着之上可被相返候尤右之趣久世御役所江可被相達候以上

十二月四日

稻生藤四郎手代馬場良藏

右追触到着ニ付番為引取勝間田駅江遠見差遣し今一相知申出候上出番可差出候旨大年寄へ申付置右追触写御用番へ差出大目付江

も申達候

一 備中小坂郡水谷弥之助殿内中嶋幸右衛門近藤武左衛門右例年之通

米平均相場申遣候為挨拶国産之鼻紙二束差越及相答此趣者治部助

取計ニ付右品者治部助へ相廻候処差戻候

十二月七日 曇

一 万人講糊合拾七枚夜前銀札相渡候旨嘉七元蔵今日届出候

一 福渡町松山屋清助病氣ニ付出牢歎出右願書并容躰書御用番中へ差

出相伺候処歎之通承り届候様御差函ニ付大年寄諸吟味小頭代孫八

新左衛門立合松岡屋右衛門并清助組合太助忠助武右衛門文四郎

右組頭忠左衛門右年寄源右衛門七人呼出し願之通承り届何れ茂江

慥預ヶ候段申渡右一札証文受判取之出番加人勇助牢屋へ差遣清助

差遣清助引渡候右取計相濟候段御用番并大目附中へ手紙ニ而相届

候

十二月八日 風

一 森河内守殿御預り所当国之内勝南郡岩見田村治兵衛孫女東新町高

船屋平左衛門妻ニ引受人別人願御用番御聞濟ニ付願書大目附へ相

渡置御聞届申達候

同廿日住宅証文出ル

一 万人講上り札昨朝右相渡候処貳番九番拾六番四拾四番右四枚相殘

候段小頭又六部屋目附新治平組為治今朝届出候尤講元之書付差

出候且文句帳も差出候

十二月九日 晩雨

一 万人講寄札高割合書付御用番中へ差出候

一 去子十一月十八日万人講当り札三拾八番入主播州山戸村兵藏と申

ものニ而候処風渡取違合鑑共ニ入依之合鑑認出同筆ニ候得共不分明之義ニ付昨年不相渡差置候処此度又々申出是迄外申出候ものも無之弥相違無之身元之所も羽織屋喜兵衛杯も能存居候ものニ有

之候間身元見分無ニ相渡一札取置候而も可宜旨講元并小頭部屋目附申出御用番へ相伺候処御聞濟ニ付此已後外は彼是申出候もの有

之候ハ、急度引受埒明代銀札相并可申と云一札取置相渡遣候様ニ申達夫々江又六右相通候様ニ申付候尤講元右渡書出

一 万人講糊勘定不足九拾三匁二分五厘有之候段豊岡藤十郎届出候

一 万人講以前右一万八千以上ハ大寄ニ付懸之者共江御酒代被下之候

近来ニ而者式万以上之寄ニ者被下候間酉ノ年之例を以酒壺升つ、被下候様仕度旨豊岡藤十郎申出其旨恵左衛門へ懸合候様申達候

一 万人講普請藤屋嘉右衛門殊之外出精致候ニ付式百匁計遣候様ニ仕度諸吟味も申出候由井口恵左衛門申聞同意之趣及返答候

一 十月万人講之節去子ノ十一月五拾五番残札ニ重取ニ来候盜賊有之

目明孫兵衛殊之外出精候ニ付五百文酒代遣度講元共右又六を以申立其旨取計候様ニ申達恵左衛門江も及対談候

一 久山勘八当暮之御賞書付を以御用番江申上置候

一 生野囚人今夕当所止宿ニ相成候旨遠見之者罷帰申聞候由大年寄右届出御用番大目附へ手紙ニ而相届候尤出番兩人東新町へ差出候処

暮方着候由出番并大年右届出候

一 夜前止宿之囚人無滞出立中洲賀江送り届候段出番嘉七文藏届出候

用番大目附江手紙ニ而相届候

一 右囚人止宿ニ付本道針医兩人申付置候処北山修斎薬指貼合遣候由右代ハ町入用之内右差遣可申旨大年寄申出承り届ル尤預り証文写差出

一 三船新治湿瘡ニ付引込候段小頭又六届出候
一 川下ケ銭奥書栗田辰右衛門右相廻致奥印

一 阿州板野郡中留村兵助手代佐助老人例年之通藍玉壳ニ来候段京町今出屋半兵衛宿切手出 正月八日 届ル

一 奈良今井町岡嶋忠兵衛梓庄右衛門老人例年之通筆并刀脇差之新鞘壳ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手出

一 阿州名面郡桑嶋村平次兵衛手代庄助老人例年之通藍玉壳ニ来候段京町今出屋半兵衛宿切手出 同廿二日届ル

十二月十日 雨

十二月十一日 晴

一 御藏米五拾七匁町米五拾三匁
一 東新町南側ニ而延屋十四郎所持之家屋敷表口五間裏行拾七間但本役東隣ハ松屋吉兵衛西隣ハ藁屋与七郎右家屋敷七ヶ年已前未ノ三

月町内水口屋茂兵衛取次ニ而質物ニ書入銀札五百匁借用仕候処此度受返相済候段届書差出候

一 右家屋敷之内西方式間半御役半役付代銀札壹貫式百五拾匁ニ相究町内藁屋与七郎ニ壳渡申度願書差出承り届ル 同廿日壳券状出ル

一阿州板野郡中富村兵助手代佐助藍玉売ニ来居候処大病相煩右同道
同国名面郡桑嶋村平兵衛手代庄助義病人捨置罷帰度申出候得共大
病人之事故代り之人不来候内ハ差返し候事不相成候段申付置候旨
大年寄申出候

十二月十二日 雪

一先達而博奕吟味之節致出奔百日尋申付置候京町田はこ屋善治新魚
町音八甥磯之丞右両人尋出シ罷帰候段大年寄相届候付追而呼出可
申候間預ケ置候様ニ申付置候近日呼出可致吟味事

一牢番和田差右衛門先比出生之小兒致病死候旨又六相届候

一十月万人講入用算様書豊屋喜左衛門差出候

一万人講残り札受取出候付立合可罷出旨又六申出其旨申付候処式番

備中吉三郎九番当国福田村清右衛門へ相渡残式本有之

一後藤時分る組中へ貸付置候年賦金八拾匁又六上納候由松岡ら相
廻り豊屋喜左衛門へ相渡候

一松岡ら引渡候節番賃銀百三拾五匁分過料錢百三拾式匁又六ら相
納候年賦銀八拾匁相廻り今日請取相認松岡へ相廻候

十二月十三日 晴夜大雪

一雲州広瀬新町面高屋松治兄広右衛門義京町原田屋利兵衛借屋家守
原田屋嘉兵衛引受人別入御聞濟ニ付願書大目附へ相渡置御聞濟申
達候 同廿一日住宅
証文出ル

一二階町山手屋弥太郎娘義森河内守殿御預り所当国之内勝南郡宮山
村丈助妻ニ差遣度人別離願御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞
届申達候

一戸川町田外玄道博奕吟味中組合へ預ケ置候処致出奔百日尋申付置
候処今日迄ニ而百日ニ相成候処罷帰候ニ付右組合三人並之通過
料五百文つ、取五日追込可申付旨相伺候御聞濟ニ候

一田外玄道并鍛冶町繁藏博奕参会出奔百日尋申付置候処罷帰候付
先達而申付置候通組合共過料五百文つ、取差出候様大年寄へ申付
候

一玉置源五兵衛追々快方ニ付近所歩行仕度旨申出其旨御用番江相伺
承り届ル大目附江も相届候

一町方孤独扶持証文差出置候処差引算様余り百六拾匁又七分八厘八
毛石田新治ら相廻り大年寄へ相渡し大年寄受取書差出候

十二月十四日 晴

一鍛冶町桂屋鉄之助新魚町松屋三治博奕参会ニ付咎牢舍申付置候処
昨日迄ニ而百日ニ相成候ニ付呼出出牢申付候立合例之通但又六不
快ニ付孫八小頭代申付候右之段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一新魚町磯之丞京町煙草屋善治呼出遂吟味候処博奕参会仕候ニ相違
無之旨及白状口書取組合ニ預ケ置候例之通咎牢舍明日可伺候

一船頭町今津屋孫十郎借屋ニ髮結虎之助母子居候処右母醉狂半乱之
様ニ有之候処虎之助義二階町へ致別宅右相分れ候節母之様子ニ寄
いつニ而罷帰り同居可致旨家主江一札差出置候処既ニ此間手あ
やまり致候付立帰り同居仕候様ニ申聞候得共母承引不致候ニ付難
捨致置候ニ付請人まで呼出急度申渡度旨大年寄申出其旨取計候様
申付候

一当暮町惣割巻貫三百三拾匁九分九厘有之右之内人馬問屋入用九

百六拾四匁五分三厘有之

一元魚町紙屋太兵衛新田村百姓中へ牛質入ニ銀札貸渡候処不筋立候
付松岡權役中ニ願出取計相濟候処今以不筋候付猶又催促申出候付
郡代所江可懸合候

十二月十五日 晴

一左之通大年寄於宅小頭代孫八差出申渡

戸川町 田外玄道

田外玄道義預ケ中
取逃し不届ニ付並之通

組合 忠助
熊治郎

過料五百文つ、申付候上

追込申付候

但追込五日

右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一昨日遂吟味候兩人呼出立合例之通ニ而左之通申渡候

博奕参会ニ付

京町煙草屋 善治

咎牢舍申付候

新魚町丸屋 磯之丞

右入牢申付候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一鍛冶町鍛冶繁藏当七月博奕致参会吟味之節致出弃候ニ付組合共へ
百日尋申付置候処一昨日迄ニ而百日ニ相成候得共行不尋出候ニ付
(ママ)

兼而伺相濟申付有之候通五百文つ、之過料取候様ニ大年寄へ申付
候但繁藏父庄右衛門右組合三右衛門治右衛門丈右衛門藤四郎龜太
郎清助喜兵衛右組頭喜右衛門都合九人也

一福渡町松山屋清助病氣ニ付出牢申付有之候間昼廻る相改候様孫八

江申付候

一越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹売ニ昨日罷越

候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出し翌年正月十八日帰

十二月十六日 晴

一阿州名面郡桑嶋村武右衛門手代治右衛門一人例年之通藍玉売昨日
来候段京町今出屋半兵衛宿切手差出候 翌年六月六日帰ル

一福渡町松山屋清助病氣改ニ昼廻之者差遣容躰書取差出候処少々快
方之由

一十二月六日万人講残り札四拾四番丹波水上郡柏原町山形屋吉右衛
門と申もの取ニ出候段又六る申出相渡候様ニ申付候処即刻相渡書
付差出候

一牢舍人安岡町明石屋庄七博奕参会仕候ニ相違無之白状可仕之旨牢
番を以願出候旨又六る申出候

一紀州高野山宝蓮院上下式人先達而参居候処今朝出立候段宿材木町

正木屋才吉届出候

十二月十七日 雨

一三船孫八妻出産女子出生候段又六る相届候尤依之血忌引込候

一目明非人扶持致奥印候

十二月十八日 雨

一富丸様御宮参御祝義被為濟候恐悦申上ニ付御用所大目附三奉行計
麻上下着用五半時登城例之通御小性頭之由但拙者義ハ風邪ニ而當
病御断仕候

一京都誓岩山長床坊使僧柳意坊上下三人例年之通罷越候段小性町肥
地屋繁藏宿切手出

一勢州朝熊岳明王院使僧亘仲坊宝藏坊休賀坊越中坊上下八人例年之通罷越候段小性町肥地屋繁藏宿切手差出

一万人講御省略方井口恵左衛門と当月万人講大寄ニ付役之者共へ夫々酒代差遣度取調書相廻し存寄無之旨及返書候処勘定奉行中ニも存寄無之ニ付明日取計候様ニ申来候但右書付別紙取置候

一玉置源五兵衛油稼水車一件同人出坂之上申述方之義先日以来度々相伺御評義も御座候処伺之通今日被仰出依之同人出勤之内意孫左衛門へ申達候処同人義今日出勤仕来ル廿一日出立可仕候旨届出

其旨御用番大目附中江も手紙ニ而相届候尤今朝右一件取調書伺相濟候付出勤申付候段松岡治部助と大目附へ及噺置候処右取調一件追而差出候様被申聞候旨松岡と申来候

一玉置源五兵衛致出坂候ニ付町役差添人京町野田屋佐右衛門江申付度御用番へ手紙ニ而相伺候処伺之通申付候様ニ申来其旨直ニ源五兵衛へ申達孫左衛門と申付候様ニ申渡并右一件取調書付四通源五兵衛へ直ニ相渡猶此上孫左衛門源五兵衛喜左衛門三人得と申談候

様ニ申渡候尤右取調一件兼而右三人へ内々申付候
一元魚町紙屋太兵衛新田村へ貸付裁許有之候而も未先方と懸合候付催促申出松岡へ申遣候

一安岡町明石屋庄七呼出弥致白状ハ、直ニ咎牢舎可申付哉と昨日御用番中へ伺置候処其旨取計候様ニ被仰出候段松岡と通用有之明朝罷出候様ニ夫々江申達置候

一二階町三保屋十右衛門家守松本屋喜助借屋ニ居候針医野山正軒義松山寿庵役介ニ引受候付人別離願出承り届ル

一船頭町和泉屋銀兵衛致所持候米買宿屋株此度伏見町能勢屋源助へ相讓申度願書差出承り届ル

一十月十五日万人講残り札九番備後福山道三町嶋屋清兵衛と申もの取ニ来候段申出小頭又六差出為相渡講元と渡一札差出候
十二月十九日 時雨

一明石屋勝七呼出立合例之通ニ而遂吟味候処致白状口書取極左之通申渡候
博奕参会いたし
不届ニ付咎牢舎申付候
安岡町
明石屋勝七

右取計候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候
一玉置源五兵衛出坂ニ付町役差添人京町野田屋佐右衛門江申付候段御用番大目附へ手紙ニ而相届候

一貫ぬき番賃正月半月分迄貳拾三匁豊岡藤十郎差出候
一以前御用金差上当時極難之者共左之面々何卒御救被下候様仕度旨大年寄名面書差出上原江及対談

一七匁 久仁屋守兵衛 一七匁 紙屋善十郎
一三百匁 柏屋伊右衛門 一百匁 正木屋八右衛門
一三百匁 味噌屋利左衛門 一貳百五拾匁 米屋喜助

一七匁 若松屋徳治郎 一七匁 倉敷屋左兵衛
三貫八百匁

十二月廿日 晴
一戸川町田外玄道組合追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝差免候様大年寄へ申達候処差免候段届出其旨御用番并大目附へ手紙ニ而相

届候

一 玉置源五兵衛明朝出立候付大坂村尾左衛門へ添状相認持參候様
ニ孫左衛門へ申達候

一 阿州板野郡鶴嶋浦蓋屋喜右衛門手代利兵衛甚蔵兩人例年之通蓋玉
売来候段吹屋町沢屋惣左衛門宿切手差出候

一 二階町并筒屋弥三郎所持之他国受酒株当丑正月二町目山崎屋守兵
衛へ貸置候処此度取戻度願差出承り届ル

一 右他国請酒株坪井町万屋佐助へ当丑十二月より寅七月迄貸遣度願
書差出承り届ル

一 孤独者東新町紙屋佐七母八拾五才ニ罷成兼而孤独扶持被下置候処
二三日相勝不申絶食ニ候旨届出部屋目附新治差遣見改候処極寒兼

而半中風候旨町役組合一札取差出候医者ハ不居間候間容躰書ハ追
而差出候筈尤娘有之看病も行届候由ニ候

一 御蔵米五拾九匁米五拾五匁書付差出候
一 町方例歳之通今夕々行灯差出候由此義八年々之義不相届旨大年寄
申聞候

一 大三十日例年之通惣町関貫開立番付置候旨大年寄届出候近日御用
番大目附へ可相届事

一 町家中共関貫番相改致受廻候様ニ又六へ申付候
十二月廿一日 晴

一 嘉七文蔵致受廻候処無別条段届出候
一 又六新左衛門御家中分番所致受廻候処村并前番所不ノリ段届出其
旨大年寄へ申達先格之通取計候様申付候処後刻番人要助呼出呵之

上過料三百文申付候旨右過料錢差出候

一 玉置源五兵衛今朝致出立候段大年寄届出其旨御用番大目附へ手
紙ニ而相届候

一 例年之通町触書差出候
一 鍛冶繁蔵組合田外玄道組合過料五拾五匁式分大年寄差出候

一 福渡町松山屋清助病氣快氣仕候段大年寄夜入相届ル
十二月廿二日 晴

一 孤独東新町紙屋佐七母致病死候段大年寄届出其段御用番并大目
附へ手紙ニ而相届候

一 福渡町松山屋清助病氣快氣ニ付又々入牢取計其段御用番并大目附
へ相届候

一 長州厚狹郡倉敷村百性半助娘さん与申もの当九月西国順礼罷出候
処婦り懸当国勝北郡平村ニ而足痛致同村へ送り出し送り来候段郡
代所より申来其旨大年寄へ申付候

一 元魚町西側ニ而檜物屋清八家屋敷表口三間裏行拾六間但御役七步
半役也北隣ハ徳山朴也南隣ハ原屋佐市右家屋敷此度質物ニ書入町
内福増屋源兵衛取次ニ而七百匁月巻歩半之利足ニ而来寅五月切借
受度願書差出承り届ル

一 東南条郡林田上之町伊八後家之娘そのと申もの当丑式拾九才右娘
新職人町岩倉屋伊兵衛引受度人別人願差出承り届ル
同廿四日質入
証文差出

十二月廿三日 曇

一 今日御用日之分拙者風邪不相勝候付当病断松岡江頼遣尤御用向も
相頼遣候

一石川日向守殿領分備中阿賀郡中津井村金左衛門忬治助と申もの天明五巳二月西新町奈良屋孫兵衛後家養子ニ引受候処今般致離縁度人別除願御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡御聞濟申達候

一來ル廿八日御拝領御鷹野^(マ)之御下被下置候旨演説有之候旨松岡と演達有之

一左之通於御用所大目附本多丹下出席町奉行名代松岡治部助へ要人殿^ら被仰渡候

手嶋流講尺相動候ニ付
銀三拾匁つ、被下候

北山修伯
徳山朴也

右同断諸事引受
致世話候付銀三拾匁被下候

豊屋
喜左衛門

出精相動候付米貳俵つ、
被下之候

町大工
棟梁 伊兵衛
幸助

但年寄組^へ合差添

右五人召連罷出候様ニ大年寄へ切紙差遣シ喜左衛門へハ小頭大年寄諸吟味立合於座敷申渡之修白^(マ)朴也へハ立合右之上部屋目附迄相詰^(マ)玄閨之直奥使者之間と可申^(マ)処ニ而申渡之尤朴也ハ病氣ニ付名代修白^(マ)へ申渡之尤右被下物ハ御本途^ら被下置候事

一左之面々伺之通取計候様ニ大目附中被申聞候由
手嶋学世話人

手嶋流二季之
講尺并隔月

靴屋伊助
羽織屋喜兵衛

前訓為読聞候
節之致世話候付
銀拾五匁つ、
被下之候

福永屋幸藏
生駒屋治右衛門
檉野屋茂一郎
菊屋清左衛門
二月屋弁右衛門
玉屋伊左衛門

右者大年寄於宅申渡候様ニ申渡但被下ものも先役以来手嶋学ニ付極内々之工面之ものも有之右之内^ら可差遣候旨伺置其旨被仰出候之宜取計候様ニ諸吟味^江申達候

右両様取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一当十月万人講殘雖式本十二月右同壺本都合三枚札元玉置卯左衛門へ預ケ可申付旨相伺候処御聞濟ニ付大目附^江も松岡^ら被相達候由ニ付其旨申渡候様ニ大年寄へ申渡之

一例年之牢屋受取もの小頭一札差出其俵大目附中上判を取相渡ス
一惣町大三十日関貫聞候事今日松岡士を以双方へ相届ル

一福渡町清助可致白状申出候間口書取極候上ハ直ニ咎牢舎可取計哉兼而相伺置度旨松岡士を以申達候処御聞濟之由

一十二月万人講諸人用算様帳藤十郎差出^(マ)高三貫五拾七匁六分五厘
一大坂北久宝寺町境筋松屋甚兵衛手代平兵衛一人例年之通小間物売ニ來候段二階町境屋伊右衛門宿切手出
寅正月十三日
掃候段届出候

一船頭町南側ニ而板屋八十兵衛家屋敷表口三間半裏行七間巷尺但七步五厘役東隣者船本屋佐助西隣者板屋八十兵衛居宅右家屋敷六百匁ニ相極堺町作人長太郎へ売渡度願書差出承り届ル
同廿四日売券状出
一牢屋入用筆墨代例年之通牢番^ら受取書又六差出尤是ハ兼而御定入

用五拾匁之外のものニ而■役所ら払米之事ニ候由又六申聞相渡候
一暮之御賞類同書も前段之外ニも差出置候得とも前段之外ハ不相濟
旨大目附ら被申聞候由

一拙者出府留主中松岡士飯役被仰付候為御賞今日金三百疋被下候旨
松岡士ら為知有之
(P. 1)

十二月廿四日 快晴

一安岡町大坂屋喜代八義入村庄屋喜二郎土居村庄屋藤四郎小座村庄
屋兼帯弥七郎右三人ら寛政元酉十二月釣鐘二ツ質ニ取但元金七百
六拾匁之処兩年払込當時式百拾五匁払残差返し不申鐘も相渡不申
致難義本証文差添訴出郡代所江相廻置候

一綾部村多規勤三郎へ天明七年銀札壹貫九百匁年賦ニ中之町藁屋文
治郎貸渡候処不埒ニ付松岡兼帯中ニも願出多規方被相糺候処當時
引渡候物無之惣作地ら外ハ無之候間今四五ヶ年相待候得者引渡候
ものも可出来趣ニ候間延置候様被申聞候処不致承知訴出又々其趣
申聞候処鑑合一然「」不取証文反古ニ相成候而も兼而覚悟之上之
義ニ御座候間御裁許被下候様絶而願出候付右願出三通郡代所江相
廻し其趣申達置候

一京町北側ニ而鍵屋孫三郎家屋敷表口五間裏行拾四間半但老軒役西
隣者作人久助東隣者小豆屋与平次右家屋敷老貫三百五拾匁ニ相極
九年賦ニ質入ニ書入借用致度願書差出承り届ル 同廿八日質入証文出又
一西新町大坂屋利助借屋ニ居候和介并悻八治右式人林田上之町平七
方へ引越度人別離願差出承り届ル

一玉置源五兵衛水車一件取調書先日伺濟候通都合五通大目附中へ差

出候

一來ル廿八日歳暮之御祝義申上有之候付御譜代之面々且又大役人已
上有役之面々四時登城候様ニ御奏者廻状到来尤已後者年々之義故
被指出無之旨ニ候

一東新町孤独佐七後家母病氣見改一札并容躰書共ニ御用番江被申達
大目附へ差出被下候様ニ松岡江頼遣候

一三船孫八血忌昨日切ニ而今日致出動候

一一下紺屋町分住居鳥屋太兵衛悻不行跡ニ付太兵衛ら内々又六江相頼
先達而禁足申付呉候様相願其旨又六取計置候処今以不相直親共殊
之外致氣遣何卒正月中旬迄手錠申付呉候様又六へ太兵衛ら内々相
歎候旨又六ら伺出教訓之義ニ而親共歎出候事ニ候ハ、兎も角も取
計遣候様ニ及即答候

十二月廿五日 雨

一修伯朴也喜左衛門棟梁江被下之御目録相廻り大年寄へ為持遣

一関貫番質銀取ニ出相渡

一牢舍人院庄村市三郎出牢郡代ら申来出番祐助立合差出但出牢手形
持参

一当丑十月万人講殘雖三拾六番同四拾九番同十二月分拾六番都合三
枚ノ式貫三百拾匁八厘玉置卯左衛門預り証文差出単筒江入置

一万人講去子歳之殘雖四本預ケ有之候処当四月并先比迄ニ右之内式
本相渡依之証文認替川口藤左衛門玉置卯左衛門差出引替相渡候

一能勢屋源助在方江貸付之義又々催促申出郡代所江申達候

一西川役人宮川応助平沢助八富田与次左衛門ら例歳之通寒中為見舞

鯉節三拾酒式斗来及相答右送物ハ申談

十二月廿六日 曇昼後晴

一 松山屋清助呼出遂吟味候処致白状口書取極咎之牢舎申付候尤立合例之通但自分義不快ニ付不致出席又六ノ為相糺候右取計候段御用番并大目附へ相届候

一 坪井役人ノ例歳之通鯉節来候段松岡ノ被相廻候得とも当年者松岡取計中之義殊ニ松岡名面ニ而 来候事故向方ニ而 受納被致候様及返答差戻候

一 非人布羽織已前者式拾六七匁ニ而 候処先後後藤時分ノ十七匁ニ相定り候処近年布払底ニ而 右直段ニ而者 不致出来依之昨年者三匁五分つゝ足遣候由右ニ付来春も証文差出候間式拾壹匁之積ニ勘定奉行中へ懸合置候様大年寄申出候

一 万人講諸入用三步銀を以致差引候処引残四拾三貫式拾式匁七分三厘上納仕候段講元共ノ一札差出候

十二月廿七日 晴曇

一 牢番和田儀右衛門病氣之処明日ノ出勤仕候段届出依之牢番加人差戻候段大目附勘定奉行へ相届候

一 伊勢山田御炊太夫名代西佐助上下式人例年之通来候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出翌四月十七日帰ル

一 伊勢山田村田三太夫名代高田兵吉上下式人例年之通来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出右同断

十二月廿八日 快晴夜雨

一 歳末御祝義申上并御頂戴之御鷹野^(ノ)御下夕頂戴ニ付五半時麻上下

着用出仕之事拙者義風邪不快付当病御断松岡治部助へ頼遣其外御用向も頼遣候

一 森河内守殿御預り所当国之内久米北条郡錦織村丈助弟利兵衛同人妻悴菊五郎右三人湯田屋太郎左衛門家守宮脇町松井屋伊助引受人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候 同廿九日住宅証文差出

九拾匁式分四厘

一 十一月人別出入左之通差出候

出生拾四人 内男四人 女拾人

人別入九人

人別除五人

死失拾壹人

右差引ノ 七人増

一 上田邑庄右衛門被盜もの三品例之通触流取計候様大目附被申聞其旨取計

一 例年之通御城小遣ニ祝義五分差遣候

寛政七乙卯年
 町奉行御用日記
 四十八
 正月ヨリ
 十二月迄
 増見右門

(表紙)

一遊行上人来着一件町奉行日記一冊大年寄日記并伺帳合二冊寺詰町
 人四ヶ寺^ニ而四冊都合七冊寛政八^{丙辰}年二月十二日書役大脇新左
 衛門へ預ヶ置候
 一水車綿実絞一件帳巻冊勘定奉行上原彦藏へ相渡置

寛政七乙卯年

町奉行御用日記

正月ヨリ

増見右門

寛政七乙卯年正月大
 月番
 御家老 安藤丹後殿
 御年寄 小須賀一学殿
 大目附 小須賀貢

大年寄 玉置源五兵衛

正月元癸丑旦 晴曇雪風

一五時揃ニ付麻上下着用惣登城年頭者御家老衆謁ニ付三奉行一同ニ
 席順ニ御用所江罷出上席近藤伊左衛門右於東武太守様益御機嫌克

被為遊御重歲恐悅至極奉存候年頭御祝儀申上候段述之統而各様弥御安察御越年被成目出度奉存候旨述之末席より引取引懸ニ大目附中へ年頭自分挨拶述之

一役格御礼申上候節御奏者番中ら奉書來候節右御受書ニ半切紙様ニ而奉得其意候と致御請候携も有之候ニ付以來者裏白紙ニ而奉畏候と相認候様ニ表方へ演達有之候間為心得及演達候旨伊達頼母ら近藤伊左衛門へ申開候旨通用有之

正月二日 快晴

一早朝大年寄罷出町方御静謐之旨相届之

一御用初ニ付四時揃五半時麻上下着用登城町奉行勘定奉行郡代并添役御藏奉行御金奉行一同ニ御用所江罷出上席町奉行ら御用初之御祝儀申上候段述之統而町方御静謐之旨申上之統而郡代少進出御領分郷中御静謐之旨申上之早而末席ら引取引懸ニ大目附中へ不相替御用初恐悅之旨及挨拶引取尤御年限中ニ付御酒御吸物被下無之一昨年受取置候孤独扶持算様書昨日勘定所下代ら差越今日大年寄へ相渡受取置

一御藏米五拾六匁町米五拾貳匁

正月三日 快晴

一御用日定日ニ者候得共出仕無之

正月四日 晴

一玄関番同心組今日ら平日之通袴計ニ申付但古格者五日之間麻上下着用之処御新礼式ニ付昨年ら右之通申付ル
一去歳中錢平均相場付大年寄差出

一龍野関口作兵衛下津屋源治ら年頭祝書來及相答但錢相場付之義者不申越候ニ付不差遣候

正月五日 快晴晚雨

一例年之通五時揃大年寄札元年頭礼請之益差遣諸事一昨丑年之通取計之右名面左之通

大年寄 藏合孫左衛門 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛
札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 川口藤十郎

茂渡藤右衛門 玉置卯左衛門 山本三右衛門
山本三郎左衛門 妹尾平兵衛 三船八郎右衛門

一例歳之通九時過る同心組若堂ニ召連大年寄組中牢番三軒屋へ年礼ニ罷越申入置候

一去十二月五日万人講之砌る非人加廻り式組町方拾壹町廻り年内中為用心可申付伺濟其旨申付置候処今以右之通り相勤候間如何ニ取計可申哉と大年寄伺出右之通之義ニ而元來年内中之義ニ候得者最早不及伺元日ら為相止候筈ニ候間相止候様ニ可申付候旨申付候

正月六日 快晴

一先格之通御藏元惣町年寄問屋大保頭目明年礼受之諸事取計一昨丑年之通右之内問屋兩人御藏元姫路屋彦兵衛大保頭平兵衛町年寄式拾人当病不参残而四拾貳人罷出ル

一例歳之通同心組昼夜廻り元日ら昨五日迄ハ不差出今昼廻りら平日之通町廻り差出

一御藏米五拾五匁五分町米五拾壹匁五分

正月七日 雪

一 坪井庄田伊三郎之例年之通年頭之祝書来及相答

一 牢舎人円四郎病氣ニ付医師願出候ニ付遂吟味候様ニ大年寄へ申付候所中村易庵申付致診察候処薬ニも及間敷旨申出候段申出候ニ付先其俣ニ捨置尚又不宜様子ニも有之候得者申出候様ニ牢番へ申付候

一 博奕為穿鑿夜廻り出番定治嘉七百歳為治三四軒名指四時過る差出候所何方も無別条段今曉罷帰相届ル

正月八日 快晴

一 御用所江罷出来ル十六日例歳之通町人共登城御謁可被下哉と相伺候処例之通宜取計候様御用番御差図ニ付大目附へ相達置大年寄へ申達ス

一 〇〇〇〇非人頭新蔵義先年倅幸蔵盜賊携ニ付出奔之砌頭役取上ケ跡役直八江申付置候所何れ新蔵程ニ者行届兼候趣其上昨年公儀被仰出ニ付他領も頭役頼來次第支配いたし候様申付候得者旁以右新蔵義帰役申付度旨大年寄申出候ニ付其旨御用番へ相伺候処其通申付候様御差図ニ付其旨大目附へ相達置右之段申渡候様大年寄へ申渡ス尤以前より頭役者両人之処今般三人ニ相成但吾人ニ付米半俵被下候事其余ニ者恵り代三刃析節被下候義有之計也

一 此間相渡り候孤独扶持内貸不引取相渡候趣ニ付右内貸分百弍拾八匁過銀札大年寄差出勘定所下代武兵衛へ差戻し内貸証文三通取戻候

一 例歳之通祇遠三位之御札蔵合孫左衛門方へ參候ニ付取ニ被差越被下候様大目附へ相届ル

一 左義長町触例歳之通差出候

正月九日 晴風

一 勝山渡部唐兵衛柳原九郎左衛門之例年之通年頭之祝書来及相答

正月十日 晴

正月十一日 晴

一 町方之者衣服奢侈之旨昨年御沙駄(マ)も有之候ニ付大年寄江考申付候処去冬博奕吟味ニ付一人つゝ印形取相改候通ニ般も年寄呼出右之通ニ町内吾人つゝ相改印形取候様ニ申付候ハ、可然哉之旨考申出其趣取計候様ニ申達ス并碁将基双六賭有之趣ニ付其旨も一諸ニ印形取可申旨申出其通宜取計候様ニ申達候

正月十二日 晴

一 野田屋佐右衛門芝居願大年寄差出候得共寺院方も願之趣有之由(マ)有寺社取次(マ)沙駄も無之ニ付預り置

正月十三日 快晴

一 斎藤孫右衛門義西今町直屋市郎左衛門引受致役介置候元当国内之大庭郡赤野村植木権兵衛倅山三郎を養子ニ仕度願書差出し御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届之旨申達候

一 京町ニ文字屋嘉左衛門裏御堀端覆繕ニ付御堀へ足代下し度願書大年寄差出大目附へ差出置修復之砌御作事へ断り杖突を受候上ニ而足代下し候様ニ申達候

一 来ル十六日町人登城之名面書中奥目附土岐雄助へ差出御門通行之義申達候尤例歳者八日比ニ差出候事也

一町人登城是迄ハ御家老御名代ニ而被謁候処当年ハ御奏者番謁ニ

相成候委細御式之義者十六日朝可申達旨小嶋新五右衛門被申聞候

一昨年大目附渡部惣右衛門ハ万人講一件書拔差出候様被申聞日記書

拔今日惣右衛門不參ニ付小須賀貢ヘ相渡置候

一幾野御代官稲垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎吉田察藏ハ

塔中村口留番所入用ニ付去寅年中之錢相場書御役人中與印ニ而相

廻兵候様ニ申来例歳之通拙者與印ニ而差遣候

一町方ニ而昼分博突取扱候風聞有之ニ付昼廻り孫八百藏江申付三ヶ

所計為遂吟味候処無別条段届出候

一遊行上人当十月来候節諸事安永三年之通ニ取扱候様被仰出候間其

趣を以相調候様伊達頼母ハ被申聞候尤綿服之事右之段大年寄ヘ申

達置候

一本腹之初生之男子ハ不届して嫡子ニ相定候事ニ候間以來嫡子届ニ

不及旨大目附廻状到来写置候

正月十四日 快晴

正月十五日 快晴

一大年寄齋藤孫右衛門義養子山三郎夜前引取候段届出候

一大年寄共歳末献上もの遂披露候段江戸御奏者番岡村要助太田舍人

ハ返書到来其旨大年寄ヘ申渡ヌ

一町人年頭登城先日伺濟明十六日登城申渡置候処去ル十三日御奏者

番小嶋新五右衛門ハ町人共謁振り当年者相改リ御奏者番謁ニ相成

一昨丑年御目見後若殿様ヘ年頭御祝儀申上御奏者番謁之振合ニ相

成候尤御祝相濟候後謁有之候間五半時登城可然旨ニ付其段申達置候

正月十六日 雨

一御具足御祝儀并町人共登城ニ付麻上下着用五半時登城候処町人共

相揃候段小使を以申出虎之間御縁座敷ヘ罷越町人共ニ逢大年寄ハ

揃名面書并不參書左之通差出受取御奏者番小嶋新五右衛門ヘ差出

但其外江者不及差出候且又御用達以下之町人共者先前ハ溜之小使

部屋江溜居候処御奏者番中御記録ニ登城之町人廿ハ不殘虎之

間御縁座敷小使部屋ニ溜居候様ニ有之趣ニ付右之段及噂候処溜之

小使部屋ニ居候而者如何ニ候間大年寄共と一所ニ虎之間小使部屋

ヘ可差出旨小嶋新五右衛門并小須賀貢差函ニ付其段大年寄ヘ申渡

井木屋太兵衛江も申渡候尤当年ハ大庄屋も大年寄と一所ニ溜居

候様ニ相極候

一御具足御祝例歳之通有役大目附格以上ハ宇治橋之間着座ニ而御餅

頂戴之小徒人頭格以下者操出ニ而竹之間御縁座敷江罷出銘々頂

戴之右頂戴相濟於七間廊下御奏者番ハ三奉行迄一同御小性頭謁上

席ハ御具足御祝頂戴之御礼申上末席ハ引取

右早而大目附役所ヘ罷出御奏者番当番江忪其衛義御具足御祝頂戴

仕難有仕合奉存候段御礼申上候

一昨丑年者御用所江罷出御具足御祝義申上有之候処昨年今年者如

何之振合哉申上無之依而大目附江も挨拶不仕候

一町人共操込候様御奏者中ハ差図有之左之通群居取計

裏中之口御疊之上北向竹之間

御杉戸ハ横疊拾巻疊目ヨリ

東を上下ト五人つゝ列居

大年寄 藏合孫左衛門

齋藤孫右衛門

玉置源五兵衛

大庄屋と御用達之間間中隔 札元 武田七郎兵衛
群居 茂渡庄右衛門

右揆込群居相揃候段町奉行御使番江 茂渡藤右衛門
申達夫御奏者番へ達又 川口藤左衛門

町奉行郡代西向御杉戸七八畳ニ着座不及 玉置卯左衛門
取合着座耳ニ付手を膝之上ニ置 山本三右衛門

御使番中奥目附東向当役向座六七畳目ニ 山本三郎左衛門
着座 妹尾平兵衛

右相揃候上御奏者番南向御杉戸四畳目ニ 三船八郎右衛門
出座其節群居之面々上之平伏ニ而上席

蔵合孫左衛門何れ茂年頭之御祝儀申上候段
申上之御奏者番中可申上旨答有之入座
早而群居之面々末席引取

大庄屋 不残
御用達並 木屋太兵衛

右早而町医師虎之間東御縁座敷南窓下横疊七畳目へ出

町奉行虎之間北角之柱ニ 町医師 中嶋宗元

四疊目東向ニ着座振合
中之口之通也

御使番中奥目附町奉行向座三四畳目ニ着座

右町医罷出候段町奉行御使番へ相届御使番御奏者番へ相達
御奏者番虎之間御縁座敷北老畳目ニ出座其節当人年頭御祝
義申上候段申上之御奏者番中可申上旨答有之入座右振合中之口
之通

当病 御蔵元 姫路屋彦兵衛

同 熊野屋文五郎

右町人共御目見之節御礼廻仕候得共当年者如何可仕哉と伺出郡

代中と遂相談候処御礼申上濟候ニ而も無之今日者申上切之義ニ候
得者廻勤ニ者及間敷旨致対談其通大年寄へ申渡候

一具足鏡開ニ付例歳之通於居間書役江塗盃ニ而盃遣又但返盃取肴昆
布炮するめ下女摺但書役江者組中盃濟候後取計候処先役已来初ニ
盃遣候事之由又六申聞候付今年初ニ盃遣候

右早而於座敷土器ニ而小頭組中牢屋三軒屋盃遣又但摺ハ当番取
肴右同断

右早而具足鏡紙ニ包八寸ニ載セ床之前ニ出置銘々罷出取之

右早而於座敷吸物一硯ふく一鉢肴ニ而御酒出之風味之本膳ニ引
替ル但一汁三菜也

正月十七日 晴

一備前岡山研屋町胡明院役介久香都と申もの用事有之罷越候付来月
迄差置度旨元魚町原屋左市願書差出承り届候段申達候

一堺町玉置六郎左衛門所持之自国受酒株二階町山本屋周右衛門へ相
讓度願書差出承り届ル

一伏見町柴田屋勘七借屋ニ居候備中屋庄助夫婦去ル寅之極月廿六日
夕不斗罷出不能帰所々相尋候得共行衛不相候段届書差出例之通
百日尋申付ル追而離帳之節可及御沙駄候

一町方衣服奢侈之旨差含居候様先日御沙駄有之依之大年寄場合ニ而
差含居格別之目立候義無之様ニ下方町年寄場合ニ而寄之相示候様

ニ而も可然哉之旨申達置候処下方ニ而者急度御触書出候様ニ申達
候風聞有之内々遂監察候処古キ御檢約触取出し今般出候様ニ相触

候由ニ付依之松岡治部助を以差扣相伺候処手違ニ付伺者尤ニ候得共市郷ハ一鉢之事故市郷同様ニ取計相濟候上之義ニ而此節伺ニ者及間敷旨被仰出由此上之処而役得与相談之上申上候様被仰出候由松岡ノ申来候

正月十八日 曇少雨

一御用日ニ付致仕候得共申上候御用向無之

一竹田村庄屋卯助去ル十三日夕拾七品被盜候ニ付町触取計候様大目附中ノ被相渡触達取計本書ハ大目附江差戻候町方ニ無之旨届出候
一皆木屋甚助義親類預ケ之身分ニ而笠付勺寄いたし行灯等差出不慎之趣ニ付其段大年寄へ申達候

一西川平沢助八富田与次左衛門ノ年頭之祝書来及相答

一魚住隼人ノ年頭之祝書来及相答

正月十九日 曇

正月廿日 曇

正月廿一日 雨

一船頭町今津屋孫十郎和泉屋銀兵衛へ相懸リ借物出訴有之今日呼出可相糺申達候処孫十郎近郷へ参リ銀兵衛眼病之旨ニ付延引

正月廿二日 晴時雨

一御蔵米五拾四匁五分町米五拾匁五分

一江原文蔵拜領屋敷ニ居候久五郎夫婦娘右家内三人下紺屋町柳屋文蔵引受度人別入願承リ届ル

一中之町西屋治右衛門年寄役相勤居候処近年病身ニ相成候ニ付不快之節悴治三郎義名代ニ差出度願書差出類例も有之義ニ付承リ届ル

一材木町河内屋武兵衛撰州能勢郡妙見宮江廿日計之逗留ニ而明廿四日出立仕度願書承リ届

正月廿三日 晴

一下紺屋町鳥屋太兵衛半兵衛義兼而不埒ものニ而異見等相加候得共承引不仕其上去九月出奔仕行衛不相知候ニ付親類申合義絶勘当仕度願書御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候二月朔日 勘当証文出

一新田村清兵衛忠右衛門兩人同村松原之地ニ水車仕度旨奉願候由右場所之四拾間程上ニ安岡町久米屋友七持分之地地有之水被惡敷相成田地之故障ニ相成候間不被仰付候様願書久米屋友七差出松岡治部助へ懸合置候

一ニ階町作屋藤助疊屋義助裏御堀石垣損候由届書差出大目附へ差出置候

一信州善光寺如来当十月来着之旨上野宮様ノ養寿院を以被仰越近国者春中ニも被通候様之風聞も有之候間隣国之振合承リ合候様渡部惣右衛門被申聞大年寄へ申達候

一下紺屋町大溝へ藍滓捨有之不埒義ニ候間其段心付候様小須賀貢被申聞大年寄へ申達候

一綿実直段下ケ之義ニ付昨年松岡治部助へ御誘も有之候ニ付其趣を以水車取計之義一学殿へ相伺候処御存寄ニ不叶勘定奉行へ遂相談候様被申聞候

一牢番内田利兵衛小兒病氣之処昼前時致死去候段又六ノ届出候

一中之町玉野屋多助悴久四郎撰州能勢妙見宮江参詣願書大年寄聞届之由願書差出

一書役大脇新左衛門義二丁目小倉屋忠兵衛娘妻ニ引受度口上ニ而願書承り届

一〇〇〇〇非人為五郎と申もの非人目附役申付有之候処取計兼而不宜其上段々望等も差合居候趣全躰目付役と申ハ以前無之事ニ而直八時分る為五郎兩人相勤直八者當時頭ニ相成當時ハ為五郎壹人目附役相勤罷在右之通差障も有之殊ニ今般頭三人ニ被仰付候故目附役者入用ニも無之ものニ付差免度旨大年寄伺出候ニ付伺之通退役申付候様昨廿二日申渡候

一博奕吟味ニ夜廻り出番新治孫八百藏為治宵廻り申付候処別条無之旨届出候

一大年寄齋藤孫右衛門義養子山三郎召連来初而謁ス

正月廿四日 晴

正月廿五日 晴

一御領内西北条郡惣社村甚六倅伊吉義茅屋町利兵衛借屋住嶋村屋長七後家養子ニ仕度人別人願差出承り届ル

一二町目年寄三谷屋与三左衛門甲州身延山へ四十日計之逗留ニ而參詣仕度願書大年寄差出承り届 二月廿五日 辨

一桶屋町嵯峨屋宇之助借屋住作人長藏娘延義林田村為右衛門養女ニ差遣度人別除願承り届

一元魚町東側ニ而住屋市左衛門家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但ニ軒役也北隣者久里屋善兵衛南隣者大庭屋善兵衛也右家屋敷去ル已

三月笹屋友治取次ニ而式貫目之質物ニ書入借用仕候処今般受返し相濟候段届書差出承り届ル

一宮脇町北側ニ而板屋治兵衛後家所持之家屋敷表口四間裏行拾壹間但五步役也西隣ハ松屋伊右衛門後家借屋東隣者西今町湯田屋太郎左衛門借屋也右家屋敷代銀八百匁ニ相極町内阿賀屋助五郎へ壳渡願書大年寄差出承り届 同晦日壳券狀出ル

一 下紺屋町中ノ横町西側ニ而作人太郎吉家屋敷表口二間半裏行三間但式步役南隣者出口屋佐助北隣者桶屋六右衛門也右家屋敷代銀百五拾匁ニ相極町内名原屋忠兵衛へ壳渡願書差出承り届ル 同廿六日壳券狀出ル

一 芸州高田郡吉田村半助并娘さよ倅伊吉右三人四国辺路ニ罷出夫ハ京都へ參り帰かけ佐用ニ而右半助相煩同所る送り出し新田村ハ川部村へ送り来候旨郡代所る通用有之送り返候様ニ大年寄へ申付候

正月廿六日 曇

一 昨日申付候送り者新田村へ送り届受取書取帰り候段大年寄届出候

一 鍛冶町横野屋胡太郎義拾二ヶ年已前年寄役被仰相勤候処近来病身ニ相成候ニ付退役願書差出無余義趣ニ付差免右跡役山形屋宗兵衛

へ申付候様大年寄申出候ニ付其通り申付候様ニ申達ス

一 三町目浜野屋源五郎三ヶ年已前年寄役被仰付候処病身ニ相成難相勤役免願書差出無余義趣ニ付差免右跡役相応之仁物差当り無之ニ

付鍛冶町年寄市郎右衛門宗兵衛兩人美濃職人町年寄役兼帶申付美濃職人町年寄豊屋喜兵衛義美濃職人町年寄差免戸川町年寄役申付度旨大年寄伺出其通取計候様ニ申付ル

正月廿七日 雨雪

正月廿八日 少雪昼後晴

一 御用日出仕初之廿八日ニ付麻上下着用登城但御新礼式ハ初ル

一 鍛冶町鍛冶幸助娘いよ義兼而不所存もの之処去八月十六日罷出行
衛不相知候ニ付親類義絶勘当仕度願書御用番御聞濟ニ付大目附へ
差出置御聞届申達候 二月十二日勘当証文差出し

一元魚町江見屋新助娘幸義備前邑久郡磯上村西岡谷善六養女ニ差遣
度人別除願右同断取計濟

一二階町作屋藤助畳屋義助裏御堀石垣拾老間之間御繕出来候間建も
の土台押揚候段御作事申出候ニ付其旨相達候様大目附中る被申
聞絵図被相渡其段大年寄江申達絵図差戻候

一 西新町菊場屋藤左衛門大坂大河町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗
留ニ而明日出立之願大年寄聞届差出 二月十九日掃

一 中之町平岡屋忠右衛門大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ四十日計之逗
留ニ而晦日出立仕度大年寄聞届願書差出 二月廿八日
婦ル

一 御蔵米五拾三匁五分町米四拾九匁五分

一 芝居之義以来者市郷寺社三役申談順々ニ程能為相願可然旨申談相
決今日郡代所願書出御聞届相濟

一 町方倭約触ニ准シ郡代所ニ而右同様ニ可取計之旨松岡相談之上大
目附中へ被申達候処小須賀貢と町方ニ而町々取計之処も異同有之
様ニ候得者一同ニ無之如何ニも候間町方相触候趣一々取集相改見
候上之義と被申聞依之取集差出候様大年寄へ申付候

正月廿九日 晴

正月晦日 快晴

一 町方倭約受一札取集大年寄差出候

一 安岡町大坂屋喜与八義古川村助右衛門理右衛門岩平三人江元銀札

五百匁同地質入ニ而貸置其後年賦ニいたし当時払残三ケ年分元利
三百八拾八匁有之先年も願出候処未相濟不申ニ付願書差出郡代所
江懸合置候

一 東新町橋本屋茂右衛門借屋住八木屋長三郎夫婦并智夫婦并孫男女
二人都合六人今度林田村江藏方へ引越度人別除願差出承り届ル

一 林田町南側ニ而川崎屋林藏家屋敷表口三間裏行拾七間但半役東隣
塩屋七三郎西隣岩佐屋善七右家屋敷紙屋伝七へ質物ニ書入銀札百
七拾匁来辰三月切借用仕度願書承り届ル (二月十一日質入
証文出又 六月十七日相濟)

一 関貫番貫銀大年寄九匁差出例月之通相払
一 寅十二月人別出入改

出生ノ拾老人 男六人 人別入ノ六人 人別除ノ拾七人
死失ノ九人 女五人

右差引ノ九人減ス

一 去寅年一ケ年人別出入改

出生百九拾三人 男百拾四人 人別入百六拾六人 男百九拾三人
女七拾九人 女七拾三人

ノ三百五拾九人

死失百六拾四人 男九拾人 人別除百貳拾五人 男七拾七人
女七拾四人 女五拾四人

ノ貳百八拾九人

右差引ノ七拾人増

一 安藤丹後殿去ル十六日津山出立出府

二月小

月番

御家老

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 伊達頼母

大年寄 斎藤孫右衛門

二月朔 癸未日 快晴夜雨

二月二日 快晴

一御藏米五拾貳匁五分町米四拾八匁五分

二月三日 曇風

一自分去ル廿九日又々頭瘡再発依之今日御用日之処当病御断松岡
を以相届候尤御用向頼遣候

一脇坂淡路守殿領分当国之内勝南郡書副村七兵衛倅藤藏夫婦并娘右
正月改入 カキ入

家内三人上紺屋町作人佐七引受度人別人願松岡を以差出候所相濟

候段申来御聞届大年寄江申達候 同十七日住宅証文差出

一町方俵約受書遂一統候処町々異同精麁者有之候得共何れも明和五
年之御俵約触書を以申達候趣ニ而大意違者無之ニ付其旨小須賀貢
江申達候所右請書不殘大目附所江差出候様貢申来尤今日貢不参
之趣ニ付松岡江伊達頼母江差出候

一下紺屋町南側ニ而作人文藏家屋敷表口式間小半裏行拾七間但半役

也西隣者大工藤助東隣者元魚町境也右家屋敷代銀札九拾目ニ町内
作人久五郎江壳渡度願書差出承り届ル 同五日壳券状出

二月四日 晴

一播州加藤郡三木町徳屋平兵衛と申者老人紺屋形壳ニ昨日罷越右者
(マ)

去寅八月奉願当年初而罷越而勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

二月五日 曇夜雨

一下紺屋町作人助七妻去月男子出産右者月取間違届延引之ものニ付
例之通御叱可取計旨大年寄伺出宜取計候様ニ申達候

一牢浚申付候処無別条旨定治文藏届出候

一二階町藤野屋多吉借屋住き七倅虎吉義兼々不所存者ニ付親類組合
異見仕候得共不相用殊ニ老人之老母を捨置去ル朔日出奔仕相尋候
得共行衛不相知候ニ付義絶勘当仕度願書差出与兵衛殿江以手紙申
達候所宜取計候様返書来御聞濟之段申達候 同十三日勘当証文差出

二月六日 晴

一播州網干天満屋儀兵衛老人例年之通反物卸売昨日来候段中之町小
山屋与三右衛門宿切手出

二月七日

一備前山田牛窓大工五郎左衛門市兵衛半兵衛善助喜右衛門小作右六人
例年之通来候段一階町堺屋伊右衛門宿切手差出承り置 翌年正月十六日
届届

一大坂南本町二丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例年之通菜種卸売来

候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出 七月十一日届

一戸川町赤崎屋文四郎借屋住作人清藏夫婦并娘倅右四人新田村安右

衛門方へ引越度人別除大庄屋引合相濟候旨大年寄差出承り届ル

二月八日 晴

一 御用日之処拙者義頭瘡ニ而当病断松岡を以申達并御用向頼造

一 船頭町作人与八妻之母去寅八月十五日之夕不斗罷出不罷婦所々相尋候得共行衛不相知旨其砌届出百日尋申付又候百日之日延願致相尋候得共愈不相知旨届書差出候ニ付松岡を相頼右之段及御沙駄（マツ）全躰極老之義殊ニ洪水之砌之義溺死ニ相違も無之趣ニ付いつまで限りも無之義故最早致離帳候様ニ申付候様大年寄へ申付候尤右之旨大目附江も松岡を被申達候事

一元魚町油屋与三兵衛孫養子高島道友義去歳以来相願播州木場村三木養庵方ニ逗留仕当正月中ニ罷婦候等之処不罷婦候ニ付人差遣候処去月廿日爰元江罷婦候迎右養庵方罷出候由申越候得共今以不罷婦所々相尋候得共行衛不相知左候得者必定出奔と奉存候ニ付相届候段届書差出依之百日尋申付ル追（マツ）而除帳之砌可及御沙駄事
一 中之町平福屋甚兵衛家守松屋治助妹たつ義当正月十五日夜不斗罷出不罷婦相尋候得共行衛不相知候段届出例之通百日尋申付置候
一 關所銀去暮相納之受取書上原彦藏之相廻ル

一番賃銀本証文引替残銀拾三匁四分并内貸百四拾匁加藤広治持參受取置

一二階町疊屋茂助作屋藤助裏御堀石垣繕建物不取払候而者石垣普請出来不申候由御作事方之申出候間其段取計候様ニ大目附より松岡へ達有之候由ニ付其旨大年寄へ申達尚又御作事方へ当人之為懸合宜取計候様ニ申達候

二月九日 快晴

一 細工町大工治左衛門持家南側ニ而表口三間裏行拾老間但半役也西隣者大工太左衛門東隣者大工新六也右家屋敷代銀貳百五拾匁ニ相

極町内大工藤吉へ売渡度願書差出承り届同日売券状出
一 細工町作人孫七所持之家屋敷表口式間裏行拾老間但三步三厘役也西隣者作人勘治東隣者鍬柄屋十三郎右家屋敷代銀百五拾匁ニ相極町内作人幸助へ売渡度願書差出承り届同日売券状出

二月十日 晴夜雨

二月十一日 快晴

一 御蔵米五拾貳匁町米四拾八匁
一 東新町嶋屋伊助母立願ニ付西国順礼ニ来ル十四日出立七十日計之逗留ニ而參申度願書承り届
一 東新町肥後屋長助娘りき西国順礼右同断願書差出承り届
一 東新町綱屋宗兵衛妻西国順礼右同断願書差出承り届
一 東新町新屋源助義西国順礼右同断願書差出承り届
一 石垣雲平長屋住平七夫婦二人林田町升屋藤右衛門引受度人別人願書差出承り届
一 吹屋町釜屋市郎右衛門妻義西国順礼ニ来ル十四日出立七十日計之逗留ニ而參度旨願書差出承り届五月十三日届

一 河原町六平と申もの去月十四日左義長之節二階町之ものニ打擲ニ逢内濟取扱相成候処及破談候由ニ付右之段届書差出依之部屋目附飯役神田定治六平疵所見分ニ差出候処袋打之趣ニ而疵所無之候得共極老之義肩之咽江痛絶言語不相分候由外科本道兩人之容躰書并町年寄見分一札取差出候右相手之不相分候得共

尋之節有之候ニ付

吟味中手錠組合
預ケ申付候

二階町 出雲屋勘三郎

豊屋佐吉

作屋義助

能ヶ瀧今八

元魚町 小原屋新吉

右五人連座之ものニ而致打擲候風聴有之候ニ付出番組元蔵文蔵差
向手錠懸ケ組合預ケ申付候尤右之内勘三郎新吉兩人者致打擲候ニ
無相違風聴ニ相聞候右之通取計置候段御用番へ手紙ニ而申達右届
書并容躰書不残差出置候尤此上も内済仕願下ケ候ハ、聞届遣度候
旨申達置候

二月十二日 快晴

一 例年之通御施米今日出候段此間御蔵廻状到来今日小頭罷出受取来
候段何れ茂御礼罷出候

一 戸川町紙屋平助借屋住玉野屋喜兵衛義身延山參詣千ヶ寺報謝參来
ル十四日出立往来三ヶ年之逗留ニ而巳之歳罷帰可申願書大年寄差
出承り届

二月十三日 晴

一 今日御用日之処自分義頭瘡未相勝候ニ付松岡士を以当病断申達并
願書頼遣候

一 榎原八平太長屋住善六夫婦并母娘悴右家内五人鍛冶町鍛冶庄右衛
門引受度人別人願承り届

一 戸川町作人宗七家守弥吉借屋住金川屋清八義当卯七十六才ニ罷成
孤独扶持歎出相糺候処無余義趣ニ付松岡を以申達候御用番御聞
届

一 濟ニ付右願書大目附へ差出置候旨松岡ら申来り右御聞届之旨大年
寄へ手紙ニ而申達候

一 桶屋町浜風岸右衛門義於妙願寺花相撲一日興行仕度願書岡田文九
郎ら差出松岡士を以相伺候御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差
出置候由申来右御聞濟之段手紙ニ而岡田文九郎へ申達候

一 千光寺義兼帶所長松寺觀音堂及大破候ニ付為修復当月を来辰年中
町中夜分觀音經執行致候段今日御聞届相濟候段取次藤本十兵衛ら
通用有之大年寄江申達置候

二月十四日 晴夜雨

一 去寅十二月廿五日夜下総国葛飾郡流山村ニ而養父母并女房を及殺
害逃去候与七智養子宗助人相書を以公儀ら御尋者大目附廻状到来
心懸之義無之候得者来ル十八日迄ニ証文差出候様申来写取町方并
組中牢屋三軒屋高石垣番江も相廻候様申付ル

二月十五日 雨

二月十六日 曇風

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄吉伊兵衛式人例年之通紺屋
形売ニ来候段境町西川屋善助宿切手差出六月九日帰届ル
一 元魚町黒坂屋太兵衛父母西国順礼百日計之逗留ニ而来ル廿一日出
立願書承り届五月廿日帰ル

一 元魚町桶屋伊助西国順礼百日計之逗留ニ而来廿一日出立仕度願書
承り届五月十九日帰届

一 伏見町年寄田邑屋藤吉義宇左衛門と改号仕度願書大年寄差出承り
届

二月十七日 快晴

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉老人例年之通小間者御売(マ)ニ来候段中之丁小山屋与三右衛門宿切手差出候五月廿日婦ル

一 御藏米五拾式匁五分町米四拾八匁五分

一 西新町中嶋屋伊兵衛悴清勝義内縁御座候付先達而英田郡角南村哥之都門弟ニ相成座頭職仕居候得共勝手ニ付九年以前座頭職相止導引仕居申候処而親年罷寄候ニ付渡世之義難計ニ付先師通角南村哥之都相頼又々座職(マ)為仕度願書差出承り届ル

一 西新町大黒屋藤藏悴文之助義此度撰州大坂糸屋町河内屋彦右衛門方へ当卯年ル来ル巳之年迄三ヶ年之間奉公ニ差出度願書差出承り届ル

一 公儀ル被仰出候御尋もの町方遂吟味候処心懸之義無之ニ付町年寄証文取置候段大年寄証文差出并大年寄自分証文も差出并組中書役牢屋三軒屋高石垣番銘々心懸之無之段証文差出仍之明日拙者証文可差出事但非人小屋者先格之通遂吟味候処心懸之義無御座旨大年寄届出申候

一 西大番所橋ニ牛つなき有候之候ニ付左様之義無之様ニ敵敷申付候様大年寄へ申付候

二月十八日 快晴

一 今日御用日之処拙者義頭瘡未相勝松岡を以当病断仕并御用向頼遣一備前国津高郡桜村与左衛門悴嘉兵衛義坪并町演崎屋喜助引受度人別入願御用番御聞濟ニ而大目附へ出置候旨松岡ル申来御聞濟申達候

同廿八日住宅証文出

一 備前岡山中嶋町阿波屋安右衛門役介源吉夫婦并娘右三人桶屋町尾崎屋長左衛門養子ニ引受度人別入願右同断取計濟同廿九日住宅証文差出

一 宮川大橋東南之方少し損し候段届書差出候ニ付松岡を以大目附へ差出候

一 公儀ル人相書を以之御尋もの遂吟味候処無之旨証文町方一通組中支配之者一通并自分証文一通都合三通松岡士を以大目附中へ差出候

一 水車綿実油絞之義先日勘定奉行へ遂相談候様御用番中被申聞勘定奉行中へ談置候処被仰立通御用車ニ被成候方可宜旨昨日返答来松岡を以右返答書御用番中へ差出候

一 新職人町瀧本屋平四郎借屋住宇助妹帳ものにて候得共不行跡ニ而親兄弟之命を不用殊之外致迷惑親類之者ル相歎候間内々ニ而示呉候様申候義ニ付任其意度旨又六孫八申出左候ハ、内分ニ而如何様ニも感し候様ニ申付候

一 藏合孫左衛門義明日木山寺へ参詣仕度一兩日逗留之趣「」右衛門届出承り置同廿一日届届

一 孝恭院様来ル廿四日拾七回御忌ニ付於地藏院御供養有之段大目附廻状到来依之先格之通町方前晚より御当日一日自身番いたし火之元念入候様町触差出し尤組中へも相触候

二月十九日 快晴

一 目明兩人博奕筋之義勤方不宜候ニ付明日小頭於宅部屋目附立合左之通申付候様ニ又六江申渡候

博奕吟味筋之義度々嚴敷

目明

申付置候処兎角等閑之致方ニ

孫兵衛

相聞不届候依之追込申付但日数三日

右同断依之役義召離シ

同

但追込日数も右同断

佐七

同廿三日差免候段小頭届出候

目明仮役申付候

河原町

入念可相勤候

稻荷山源吉

一 二階町御堀石垣普請ニ建物取崩候様先日大目附中被申聞其段

大年寄江申渡井建物取崩候義者下方ニ而迷惑之筋ニも候得者よう

いニも難致義定而右等之取計先例も可有之候間申立方筋ニ寄候而

者相願可遣且又御作事方へ懸合候て不取崩候而も可相済筋も可有

之義ニ候得者何分以來之形ニも相成候間得与相考御作事方江も懸

合候様先日申渡置候処昨日孫右衛門申出候者右等之先例も無之并

御作事江懸合候而も不取崩候而者御繕相成不申候由当人江得与徳

失之義申聞候処右建物ハ至而籠抹成借屋候処近年借り手も無之却

而失墜ニも有之取崩候方却而勝手ニも宜候ニ付右建物取払申度旨

申出候段相届出候付双方勝手之筋ニも相成候得者猶更之義其通取

計候様ニ申達候

二月廿日 晴

一 札元妹尾平兵衛方出産有之平兵衛義血忌引込今日忌明之処斎藤孫

右衛門右右之段可相届筈之処孫右衛門失念ニ付恐入差扣同候段

玉置源五兵衛申出候得共御用番中へ可相届義ニ而も無之ニ付差扣

不及其義以來入念候様及即答

一 西今町磯屋忠七義西国三拾三所参詣往来百日計之逗留ニ而明後廿

一日出立仕度願書差出承り届 五月廿四日届届ル

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源之介式人例年之通小間物

卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出候 三月三日届ル

一 目明共義昨日申渡置候通今朝申渡相濟候段小頭又六部屋目付兩人

共届出候依之三日ニ而差免候様申付置尤大年寄へ為相知候

一 松岡治部助昨日在方へ酒樽改ニ下代差出候処焼印取ニ越候間役

所之焼印貸呉候様申越他役所へ貸渡候義も如何之ものニも存候得

共何分差懸り候義及断候而も何とや如何ニも付貸遣置候処今日酒

改佐和屋孫四郎組屋忠三郎義郡代所申来香々美井横野口ニ酒改

有之候間致出役候様被仰付罷越候旨大年寄る届出候右等之義是迄

不承義ニ付大年寄へ相尋候処折々有之義ニ而御領分中之酒ハ相改

候事之由孫右衛門申聞候

二月廿一日 雨

二月廿二日 快晴

一 茅町北側ニ而岡嶋屋幸助家屋敷東西拾間南北四間但巷步役南隣ハ

山広屋五兵衛地面北隣者石垣右屋敷地七拾「」相極組合広原屋善

吉へ壳渡度願書差出承り届ル右家屋敷ハ表通ニ而者無之広原屋善

吉裏之地面ニ少し建物有之候由別紙絵図相添差出候 同廿九日壳券状出

一 玉置源五兵衛義一兩日之逗留ニ而勝山山田屋元右衛門方へ今昼よ

り罷越度旨孫右衛門届出承り届ル 同廿六日届

一 豊岡与左衛門義用事ニ付京都烏丸六角下ルニ文字屋九兵衛方へ三

十五日計之逗留ニ而来ル廿七日出立之願書大年寄差出承り届ル

三月廿五日届ル

一新田村清兵衛忠右衛門兩人今般水車相願七九川堰留候へ者田地之

障ニ相成候間不被仰付候様茅町中屋馬之助広原屋善吉坂本屋佐助願書差出郡代所右願書相廻宜取計被下候様頼遣

一札元山本三郎左衛門妻出産女子致出生候ニ付血忌引込候段大年寄
右当番迄手紙ニ而相届承り置

二月廿三日 雨

一御用日之所拙者義未相勝依之当病断松岡江頼遣并御用向頼遣候

一伏見町江田孝庵後家借屋住塩田屋（前住）助義及極老家業出来不申難

一伏見町江田孝庵後家借屋住塩田屋（前住）助義及極老家業出来不申難
一付同人弟備前国和氣郡奥塩田村与五郎方へ引越度人別除願御
用番御聞濟ニ付大目附へ差出置候旨松岡右申来御聞届申達ス

一備前国盤梨郡加治村百姓紋助夫婦并悴松太郎次男長右衛門娘ふミ

右家内五人茅町玉嶋屋八十七引受度人別人願右同断取計三月十六

日住宅証文差出甲子五月十六日

一孝恭院様十七回御忌ニ付座頭共御布施頂戴願出松岡を以申達候所

御用番御聞濟ニ付大目附勘定奉行へ及噂置候段松岡右申来御聞届
申達候

一大年寄共年頭献上もの遂披露候旨江戸御奏者番岡村要助太田舍人

右返書来大年寄へ為見候

一東新町鍛冶太兵衛借屋住横山屋文助義林田村市右衛門方へ引越度

人別除願大庄屋引合相濟候由差出承り届

一安岡町作人忠六娘ふゆ川崎村茂吉妻ニ差遣度願大庄屋引合相濟候

旨願出差出承り届ル

一下紺屋町長江朝菴用事ニ付因州若桜近江屋周助方へ七十日計之逗

留ニ而来ル廿五日出立仕度願書差出承り届ル病氣ニ付三月廿六日届ル

二月廿四日 快晴

一御藏米五拾三匁五分町米四拾九匁五分

二月廿五日

一龍野囚人通行左之通先触大年寄差出即刻郡代所致通用右先触写御
用番中へ差出町方手当先格之通申付候段申達大目附江も其段相届
屋廻り兩人新治元蔵警衛見送り差出候

先触

一人足 貳人 但囚人駕籠一挺

一駕籠人足 三人

一分持 貳人

右者脇坂淡路守御預り所御用囚人壹人召連明廿五日作州久米北

条郡南方中村出立播州龍野江罷帰候条書面之通人足差出可

候川越等有之場所最寄可被相達候尤夜ニ入候ハ、船明手当可被

致候

卯二月廿四日

脇坂淡路守家来

津山

鈴木參六

土居廿五日夜泊

鬻崎 右宿々問屋中

一元魚町東側ニ而檜物屋市左衛門家屋敷表口四間半裏行拾七間但

老軒役北隣者豊屋喜兵衛南隣者灰屋佐右衛門右家屋敷代銀壹貫四

百三拾匁相極同町相生屋清助へ売渡願書大年寄差出承り届ル同
廿六日売券状差出

一新田村清兵衛忠右衛門水車仕(マコ)七九川堰留候ニ付田地障ニ相成候間
不被仰付候様安岡町神田屋弥吉同町作人岩松敷書差出右願書松岡
へ相成置候

一龍野囚人町分無滞通行相濟候段警衛之組届出其段御用番大目附へ
手紙ニ而相届候

一安藤丹後殿正月十六日御出府永見造酒助殿御交代今日帰着

一御蔵米五拾四匁五分町米五拾匁五分

二月廿六日 曇夜雨

一牢番和田儀右衛門妻妊娠之旨小頭又六届出候

一河原町六平義少シハ快方ニ有之候由容躰書本道外科而通大年寄差
出候

一御領分西北条郡新田村作人松右衛門并同人母右家内式人上紺屋町
作人久兵衛引受度人別入願大年寄大庄屋引合相濟候旨大年寄申出
承り届

一江戸小勘者中嶋彦左衛門神村平兵衛大年寄共年頭歳末献上物取
計相濟候間例年之通代物取立相廻候様申来右書状大年寄へ相渡候
一大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代平兵衛一人例年之通小間物卸
売来候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候 七月十一日掃ル

二月廿七日 雨

一上紺屋町威徳院金毘羅參詣来月七日出立十日之逗留願書大年寄聞
届差出候

一吹屋町熱田数馬右同断願書出 十四日掃ル

一〇〇〇〇村半番穢多六三郎と申もの八子江新拾ひニ罷出山北村兵藏
と申ものニ打擲ニ合候由右ニ付郡代所江相願候得共牢屋懸之義故
役筋へも申出候旨小頭又六申聞承り置

一三町目南側ニ而浜野屋宗兵衛所持之家屋敷表口三間裏行拾七間但
半役也西隣者浜野屋源五郎東隣者余多屋与七郎右家屋代銀札老
式百匁ニ相極町内余田屋与七郎へ売渡願書大年寄差出承り届
翌廿八日売券状出

一高石垣関貫番賃拾四匁五分大年寄差出

一下紺屋町一乘院金毘羅參詣願書差出候 十一日掃ル

一大年寄年頭歳末献状もの代式百疋孫右衛門差出返書書役江申付近
習中嶋彦左衛門神村平兵衛へ可差遣事

一吹屋町持福院金毘羅參詣願書右同断差出

二月廿八日 快晴

一札元玉置卯左衛門妻悻三郎助撰州有馬入湯八十日計之逗留ニ而
来月五日出立願差出承り届ル五月廿一日帰

一御用日之処自分義未相勝当病断松岡へ頼遣并御用向相頼遣候

一例月人別出入改未郡代所之考不申来候間右相極候迄ハ是迄之通書
役方ニ調置候様ニ新左衛門へ申付置候

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡下神目村甚三郎悻清藏義下
紺屋町菓子屋伊兵衛養子ニ仕度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附
へ差出置候旨松岡へ申来御聞届申達候 三月七日住宅証文差出

一備前赤坂郡山手村菊太郎悻長吉義下紺屋町紙屋庄五郎甥ニ付役介

ニ引受度人別入願右同断取計済 三月七日住宅証文差出

一備前盤梨郡酌田村松次郎兄庄之助義西新町瓜生原屋喜兵衛養子ニ

引受度人別入願右同断取計済 三月十一日住宅証文差出

一孝恭院様御布施頂戴之受書配當場差出右同断取計済

一熱田市正悻大藏熱田數馬（上見附）小林主水（西見附）一乘院威徳院持福院金毘羅參詣

之願寺社取次引合有之候間聞届候様松岡（上見附）申来但例年不及引合承
り届候事

一堺町小林主水金毘羅參詣願差出十二日帰ル

一河原町北側ニ而作人伝助屋敷地表口三間裏行式間半但半役也西隣

ハ作人茂兵衛東隣ハ作人重兵衛

同南側ニ而同人屋敷地表口式間裏行四間但半役也西隣者作人茂兵

衛東隣者福本屋喜兵衛

右屋敷地二ヶ所代銀札拾匁ニ相極船頭町伊部屋そのへ売渡願書

大年寄差出承り届ル 三月二日売券状出

一京町作人かね家守福吉屋宇助四国遍路ニ六十日計之逗留ニ而来月

五日出立之願書大年寄差出承り届 五月十五日
帰ル

一熱田市正悻大藏金毘羅參詣願差出 十三日帰ル

一玉置源五兵衛妻撰州有馬へ入湯八十日計之逗留ニ而来月五日出立

之願書差出承り届 五月廿八日帰ル

一去ル廿五日到着龍野囚人先触写御用番（上見附）御返し候旨松岡より相戻

り大目附へ差出候

二月廿九日 晴夜雨

一番賃銀例月之通相渡

一堺町丸屋幸吉借屋住瀧屋柳藏義因州鳥取川端町四丁目松屋善四郎

方へ四十日計之逗留ニ而来月三日出立仕度願書差出候

一永見造酒助殿去ル廿五日東武（上見附）御帰着

三月大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 小須賀貢

大年寄 藏合孫左衛門

三月朔 癸子旦 晴

一御藏米五拾五匁五分町米五拾壹匁五分

一撰州大坂嶋之内大宝町万屋善治郎一人例年之通革足袋水のふ金と

うし売ニ来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一妙願寺花相撲来ル四日致興業候旨申出候ニ付寺社奉行へ相達候由

寺社取次飯役土岐雄助（上見附）通用有之

三月二日 快晴晩雨

一小性町浜田屋善六訴状先々月差出松岡方へ下り居候由右記者八出

村分田畑横山村重左衛門と申ものへ相譲り右重左衛門と云ハ代号

ニ而右十左衛門兄大橋十太夫殿家来長岡庄治并横山村治郎右衛門
下人藤吉兩人ニ相讓候由右田地名面不付替内ニ差戻候而及爭論候
趣也右訴状并分吟味書差添松岡る相廻り小性町浜田屋善六年寄
為相糺候様ニ申来其旨大年寄へ申渡

一中之町檜物屋伝助忬八十八義四国遍路為仕度往来百日計之逗留ニ
而来ル五日出立為仕度願書承り届 五月十七日届

一中之町平岡屋忠右衛門母同妹四国遍路右同断願書承り届 五月十六日届

一同町藁屋藤吉家守助右衛門借屋住市場屋新八右同断願書差出承り
届 五月十七日届

一中之町甲屋幸助母西国順礼右同様之願差出承り届 五月廿九日届

一二階町畑勘平娘しな御領分東北条郡上高倉村百性清助妻ニ差遣度
願書差出承り届

一備前岡山研屋町胡明院弟子久香都義用事ニ付正月罷越二月中逗留
仕度願書差出置候所未用事不相濟候ニ付四月迄逗留為仕度願元魚
町原屋佐市差出承り届 四月廿九日届

一上紺屋町孤独伝助病氣差重り候段大年寄届出部屋目附孫八見分ニ
差出容躰書并一札取帰リ未急ニ落命之趣ニ而も無之夫々手当も宜
旨届出候

一坪井町浜屋源右衛門一昨丑三月廿三日願書差出候布原村斎右衛門
兵助へ田地質入貸付滞今以何之沙駄も無之ニ付筋立呉候様催促大
年寄申出松岡治部助へ申遣候

三月三日 嵐時雨

一今日御用日之処上已登城無之ニ付御用日出仕無之欠切ニ相成候

一坪井町加登屋孫兵衛方へ先月廿八日馬之荷鞍持来り買呉候様申候
もの有之候得共疑敷もの故及断候処孫兵衛横丁古木積有之処ニ而
鞍骨解放チ居候ニ付相尋候得者鞍骨拾壹匁ニ売候ニ付解放チ候旨
申之候孫兵衛義八夫外へ参り帰リ見候得者包鞍計残置今以取ニ
来り不申候間其段相届候旨届書夜前差出依之先格之通市郷共触流
取計候様仕度御用番中へ相伺候処宜取計候様ニ返書来り依之大目
附中へ相届并主膳殿返書差出郡代中へ者大目附中へ触流御達被下
候様仕度旨申遣候町方ノミ書役へ申付例之通触流取計

三月四日 晴

一妙願寺花相撲明四日致興行候旨浜風岸右衛門届書夜前岡田文九郎
る差出今朝御用番并大目附へ手紙ニ而相届

一下紺屋町南側ニ而作人坂之丞家屋敷表口四間裏行拾七間但八歩役
也西隣者長江朝庵東隣者万性院右家屋敷代銀三百五拾匁ニ相極京
町作人浅右衛門へ売渡願書差出承り届 同七日宛券状出ル

一出羽守様江戸表四月廿二三日之内御出立伏見ニ而三日大坂ニ二日
程御逗留当所五月十四日比御通行被成候旨同所御家中森山与三
兵衛と申もの相触候旨人馬問屋申出候段大年寄申出御用番大目
附へ手紙ニ而申達候

一林田村吟龍奉願於德守宮社地南京操芝居興行仕候世話相頼候ニ付
引受世話仕度願書福渡町名古屋清七差出郡代所并寺社取次引合之
上承り届ル

三月五日 快晴夜雨

一左義長はやしの節河原町六平喧嘩相手熊ヶ瀧兵八作屋義助畳屋佐

吉出雲屋勘三郎小原屋新吉呼出立会例之通ニ而遂吟味候処出雲屋
勘三郎小原屋新吉致打擲候段及白状候ニ付口書取極左之もの共ハ
懸合無之ニ付手錠并預ケ差免候

六平打擲一件懸合無之ニ付 二階町 熊ヶ瀧兵八
手錠組合預ケ差免候 作屋義助
豊屋左吉

右六平相手方遂吟味候処出雲屋勘三郎小原屋新吉ニ相決候ニ付右
之三人差免候段御用番中へ相達尚又六平出勤之上者双方遂吟味御
裁許可奉伺旨^(御用番)手紙ニ而相届候兼而内済可仕哉之趣ニ付未大目^{今日}附江
者不申達候所右打擲一件書類^茂御用番下り候ニ付致一所大目
附へ差出候

三月六日 雨

一元魚町糶屋伊助幸吉義売用ニ付大坂玉子屋九兵衛方へ四十日計
之逗留ニ而明七日出立之願書差出四月二日帰ル

一元魚町灰屋与七郎義大坂玉子屋九兵衛方へ廿五日計之逗留ニ而明
七日出立之願書差出

一西今町永野安兵衛伊勢參宮四十五日計之逗留ニ而明七日出立之願
書差出

一二階町河内屋金右衛門金毘羅參詣往来十日明七日出立願書出

一西新町孤独半兵衛後家病氣差重り候段大年寄々届出部屋目附三船
孫八見分ニ差出候所病躰相違無之箕作文庵葉致服用候由ニ而年寄
一札取帰リ右故容躰書ハ取不申追而死去之砌可相届事

三月七日 晴

一目明非人扶持并船持拝借証文并川下大切手奥印取計候

一上紺屋町孤独伝助義去ル二日病氣見分差出候処養生不相叶今日致
死去候段大年寄届出候明日見分一札容躰書差出御両所勘定奉行中
へ可相届事

一安岡町北側ニ而車屋利助家屋敷表口四間式步五厘裏行拾四間但八
步五厘役東隣者福輪屋伊助西隣者大黒屋喜兵衛右家屋敷天明三年
卯四月茅町玉屋久七江五百匁之質物ニ入置候処今般元利相済受返
し候届書差出承り届

一小性町浜田屋善六訴状一件去ル朔日大年寄へ申付置候処善六呼出
遂吟味口上差出候ニ付松岡治部助へ相廻候

一遊行上人来着ニ付町人役付諸事取計方先格之通大年寄調帳差出候

三月八日 快晴

一御用日候得共拙者義未相勝候付当病御断松岡へ頼遣其外御用向も
相頼遣

一西新町平野屋伊八家守紅粉屋幸吉役介市右衛門夫婦并娘右三人土
屋但馬守殿領分当国之内勝北郡堀坂村寄七方へ引越度人別離願書
御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置候旨松岡へ申来御聞届申達候

一大久保加賀守殿領分当国之内久米北条郡油木下村治兵衛姉かん義
安岡町古川屋太兵衛妻ニ引受度人別人願書右同断取計濟<sup>同廿一日住宅
証文差出</sup>

一上紺屋町孤独伝助病死届御用番并大目附へ申達候容躰書并一札差
出勘定奉行へも致通用候旨松岡へ申来

一小性町浜田屋善六田地之義一件口書昨日松岡へ相廻置候処向方ニ
而も内済申付候間善六江も内済仕候様申付呉候様ニ松岡より申来

其旨申付候

一 遊行上人廻国之儀ニ付公儀左之通被仰出候ニ付右等之心得を以猶追而取調可申旨伊達頼母左之通申聞候由松岡治部助左之通申來

二月九日安藤对馬守殿御渡候御書付写

遊行上人当時廻国中之処前々仕來リニ而領主地頭等之取扱方手重成向茂有之哉相聞候右者領主地頭者贈物并入用向人馬等差出し候仕來リニ候とも法中為修行廻国之義ニ候得者仕來リニ不泥役僧江申談可成大省略致し差支無之程ニ取計不苦筋ニ候事

二月

一 小須賀一学殿來ル十四日東武へ出立届有之十三日者暇乞見送りも例之通ニ可有之其段相心得可申旨通用申候様小須賀貢者被申聞候段松岡者申來候

一 京町高栄仲用事ニ付江戸御屋敷佐野宗三郎方江百五十日之逗留

ニ而來ル十二日出立仕度願書承り届九月廿三日 届届ル

三月九日 快晴

三月十日 曇

一 信州木曾筑摩郡菰原宿古屋善吉老人例年之通木櫛卸売來候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出五月廿一日 届ル

一 西今町太田屋伊助大坂王子屋九兵衛方へ売用ニ付往來廿五日計之逗留ニ而明十一日出立願書出

一 備前岡山小畑町崩屋甚八悴清兵衛一人例之通元結卸売來候段二階

町堺屋伊右衛門宿切手差出同八月十一日 届

一 今晚方坪井町増野屋喜助門前ニ而惣社村小原村辺之もの七八人連

サカムカイ掃リ之由小原村政之助と申もの臥し犬を踏候処食付候様ニ申候得共疵所も無之右犬を同道惣社村金藏と申もの増野屋喜助方へ追込右犬を差出候様ニ申候ニ付右犬ハ喜助方之犬ニ而も無之町内之大ニ而有之候如何様とも致され候様ニ申候得者右犬を捕出門口ニ而協差を抜切候処又々喜助方へ飛込金藏義拔身ニ而這入甚及狼藉候段目明孫兵衛并大年寄より届出依之郡代所江申達候処内済為仕度旨返答有之候

三月十一日 快晴

一 夜前之犬を切候もの増野屋方ニ留置候得共未村方者挨拶ニ來候ものも無之委細承り候程以之外之狼藉座敷迄血よこれニ相成候由其上増野誤候ハ、掃リ可遣杯と申様之振合ニ而近隣之もの一兩人も扱ニ懸リ候得共却而逆ねたりニ致候趣廻リ之者者も届書差越尚又屋後迄も村役人不來候由大年寄者も届出候ニ付尚又松岡へ両度迄及催促候

犬を踏候もの 小原村 政之助

犬を切候もの 惣社村 金藏

挨拶致懸もの 小原村 辰之助

一 大目附小須賀貢者今朝二階町御門外ニ嶋之小蒲団落有之由右ニ付張紙触流等之例尋來候ニ付是迄役所取計之心得者ひろるものハ何ニ而も伺之上張紙ニ申付些之ものたり共盜もの躰之疑敷ものハ何之上触流ニ取計候旨及返答候

一 二階町山本屋周右衛門杵筑大神参詣往來廿日計之逗留ニ而十三日出立之願書出

三月十二日 曇

一 下紺屋町藤原屋多右衛門智喜八夫婦二人馬場半助長屋江引越度人別離願書差出承り届

一 上紺屋町灰屋与右衛門借屋家守彦兵衛借屋住作人孫兵衛当卯ノ廿八才ニ罷成候処先月廿七日出奔仕所々相尋候得共行違相知不申旨届出候ニ付例之通百日尋申付候追而除帳之砌御両所江可及御沙駄(マツ)事尤諸道具残置候もの無之由

一 坪井町加登屋孫兵衛横町ニ捨置候包鞍幾野支配所広戸市場村定治と申もの所持之処家来ニ被盜候由ニ而受取度旨申出遂吟味候処相違も無之趣ニ付村役人送状并一札并受人取置相渡候様ニ申渡右之趣御用番并大目附江手紙ニ而相届候

一 坪井町増野屋喜助方ニ而惣社村金藏犬切之一条夜前九時比庄屋罷越段々侘言いたし誤一札相認并血付候処致掃除可申旨申候ニ付其分ニ而致許容内濟仕候段今八時比届出其旨松岡江も及通達候

一 龍野御預り所久米南条郡□□村非人番久治と申もの此度□□非人頭手下ニ相成度頼来候ニ付手下ニ仕候旨届出候段大年寄る相届候

一 船頭町今津屋孫十郎和泉屋銀兵衛家質爭論廿九年以前之義ニ而度々願書差出既先日も呼出申達置候処雨天ニ而致延引候位之処内濟仕度旨内々願出右願書差戻候処今般新魚町櫛野屋茂一郎扱ニ而元金壹ノ五百匁之処元利三貫目と致し当時二貫目相渡残り壹貫目八拾年賦ニ可相払約束ニ而致内濟相濟候段大年寄届出候尤右内濟一札可差出筈ニも候得共役所呼出ニも相成候義ニ而も無之殊ニ壹貫目

之拾年賦残居候義故大年寄場合ニ預り置可申旨孫左衛門申出承り届ル

一 船頭町今津屋孫十郎義万代孫十郎と相改小須賀一学殿江出入奉公仕度依之町内人別離度願書差出承り届ル

一 坪井町浜屋源右衛門悴治兵衛夫婦并娘右三人此度三浦志摩守殿御領分当国真嶋郡新庄村若松屋平兵衛方へ当卯三月ノ来ル巳ノ歳迄三ヶ年之間差出出職為仕旨願書差出承り届ル

一 下紺屋町亀屋勘右衛門金毘羅參詣仕度往来十日計逗留ニ而来ル十五日出立願大年寄差出候承り届同廿三日届届有之

三月十三日 雨

一 御用日之処拙者義未相勝依之当病御断松岡へ頼遣并御用向頼遣

一 下紺屋町万性院金毘羅參詣十日計之逗留ニ而来ル十五日出立願書差出同廿二日届届ル

一 牢舍人新吉病氣ニ付医師願出医師申付相糺候様大年寄へ申付候処高島生斎容躰書差出難捨置趣ニ付療治申付ル

一 書役新左衛門風邪ニ付昨今出仕断申出候

一 美濃職人町団屋甚兵衛借屋住備前屋磯右衛門夫婦二人備前国児嶋郡野村八郎方へ引越度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附中へ差出置候旨松岡ノ申来御聞届申達候

一 雲州神戸郡(マツ)大津山廻村磯治娘東新町坂本屋久士妻ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿四日住宅証文差出

一 姫路屋彦兵衛義病身相成候ニ付御蔵元役御免被成忝惠三郎へ跡役被仰付被下候様願書差出松岡を(御蔵にて仕)相頼勘定奉行へ引合之上被差出

候様ニ頼遣候処御用番中御受取置被成候旨申来候

一 円宗寺村利八方へ去ル六日夕盜賊這入拾三品盜取候由触流取計候様大目附中被申聞候由松岡ら相廻り又六へ申付町触取計本書ハ大目附中へ差戻候

二 階町御門外ニ古キ小蒲団有之御門番預り有之候門当役所へ引渡候様ニ勘定奉行へ達有之候旨請取非人ニ申付取捨させ候様ニ小須賀貢被申聞候旨松岡ら通達有之候尤過刻勘定奉行伊左衛門らも可相渡様ニ被仰付候間尚又聞糺候様ニ申来依之他之支配所落もの受取候義無之尚又聞糺候とハ誰を可致吟味義哉と及返答置候所右之通申来候付其旨伊左衛門へ及通用取捨候義ニ候ハ、受取候迄も有之間數非人差出可然哉と申遣置候

三月十四日 雨

一 横山村番人茂吉同人弟六三右兩人ら着物三ツ代拾九匁ニ東新町玉屋伊右衛門質ニ取置候処右質物ハ龍野御預り所久米南条郡南方中村林右衛門と申もの被盜もの之由申来右茂吉六三八横山村盜賊番四郎兵衛下小屋之ものニ兼而四郎兵衛ら慥成ものと頼置候もの故質物も預り候処右一件ニ付四郎兵衛呼寄相糺候処一言之申訳ハ無之候得共色々他を言ひ相遁候趣元方些之質物致損失返し候義者安き事ニ候得共其俵ニ而差戻候而者外々之例ニも相成ケ様ニ盜賊ら直ニ取候質物ニ而も無之を其俵ニ而返候得者何程も他領ら預り候質物も有之事故右躰之盜人も不捕盜ものと計申来候様ニ相成筋々不相糺差戻候様ニ相成候而者以後之へりニも不相成候ニ付四郎兵衛ら侘言いたし候ハ、代物致損失可差戻候得共其段大庄屋場合ニ

而も承知不致趣ニ付無拋届書差出候由大庄屋ら差出右者南方中村ら大庄屋へ懸合ニ相成居此度不埒明候得者龍野へ及出訴候故内分ニ而濟遣候方可然義玉屋伊右衛門主意も尤之義何れ代物致損失指戻し可遣と申候得者四郎兵衛申分も無之義ニ候得者誤一札等差出候而も不苦事と被存候右届出蔵合孫左衛門へ為持松岡方へ差遣右之段申遣委細之義ハ孫左衛門ら御聞被下御勘弁可被成旨松岡へ申遣候処承知ニ而糺之上返答可有之由ニ候

二 階町御門外落蒲団之義昨日以来近藤江度々及文通候処伊左衛門心得違之義ニも有之殊ニ御役人江申付為相認糺候杯と相認候由甚不調法之至勘定奉行中江者当役江引渡候様ニと計達有之候事之由断之手紙来筋立候ニ付小頭又六へ受取非人ニ取捨させ候様ニ申付ル

三月十五日 雨

一 下紺屋町万性院金毘羅參詣之願差出候て寺社取次引合相濟候間承り届候様松岡ら通用有之

一 孤独扶持拾二人分去十二月朔日と二月晦日迄之分合式百拾四匁五分五厘ニ毛勘定所ら相渡大年寄へ相渡候

一 因幡国八上郡当門前村三太郎同人母かん井そよと申女四国遍路ニ罷出致足痛皿村ら古城村へ送り来候間追々送り出候様ニ郡代所ら通用有之送り出し候様大年寄へ申付候

二 階町御門外ニ落有之候古小蒲団非人江申付取捨させ候旨小頭又六届出其段大目附へ手紙ニ而相届

一 中之町北原屋利七と申もの娘を殺害致懸候風聞有之候旨蔵合孫左

衛門申出昼廻り元蔵文蔵差向中之町へ参り様子承り糺乱心躰之義
歟又ハ娘も死去候程之義ニ而難捨置義ニ候ハ、踏込取ノ繩懸可申
又未届出義ニ候得者何そあやまりニ而疵付候様之義ニも候ハ、其
俚捨置可然旨申含差出候処去ル十三日之夕明七ツ時比十三歳ニ相
成候女子臥居候処を脇差ニ而乳之辺を少々突候由右利七義ハ四五
年已前ニも致乱心無程全快候処全今般も乱心ニ而即刻困ニ入有之
候由相届候

三月十六日 晴

一 龍野御預所久米南条郡南方中村林右衛門被盜もの東新町玉屋伊右
衛門方へ質ニ取居懸合ニ相成願書差出一昨十四日蔵合ニ右願書松
岡方江為致持参及対談置候処其旨承知ニ而大庄屋呼出し被申付候
処最早横山村庄屋ノ手切之返答ニおよひ候由併此上取計方も可有
之ニ付盜賊番四郎兵衛相糺候様ニ被申付候処少々調之違ハ有之候
得共大躰ハ同様之義ニ付何卒此上不及出訴内済ニ致度ニ付折節松
岡も風邪平臥ニ付大庄屋植月奎助蔵合孫左衛門方罷越及熟談不致
出訴候様ニ取計可申旨申付候間其旨大年寄江も申付候様ニ松岡ノ
申来其段即刻申付候所奎助と及対談候処横山村庄屋ノ最早手切之
返書差遣候事ニ候得者此方ノハ致かたも無之ニ付在目明町目明兩
人此方ノ林右衛門方へ差遣為致内済可申爰元之義ハ四郎兵衛ノ一
旦慥成ものと受合候処右之次第ニ候得者此所を四郎兵衛ノ玉屋伊
右衛門へ佗言為致依之伊右衛門方ニて代物致損失させ差戻させ可
申旨奎助と及対談候段孫左衛門伺出候付其趣ニ而存寄無之候間宜
取計候様ニ及即答候

三月十七日 快晴

一 久世支配所西々条郡□□村番人定右衛門と申もの□□非人手
下ニ頼来候付手下ニ仕候段非人頭届出候段大年寄届出承り届
一 東新町弓削屋多助義去寅八月致病死家内人数無之商売向難洪ニ付
当国之内大庭郡久世村弓削屋清兵衛同人妻并悴清之助右家内三人
親類ニ付呼寄せ当卯三月ノ来ル已三月迄三ヶ年之間逗留世話為仕
度願書差出承り届ル
一 安岡町北側ニ而車屋利助家屋敷表口四間式歩五厘裏行拾四間但八
歩五厘役也東隣ハ福輪屋伊助西隣者大黒屋喜兵衛右家屋敷代銀七
百匁ニ相極茅町久七江壳渡度願書差出承り届ル 同廿一日壳券状差出
一 船頭町南側ニ而灰屋喜平次家屋敷表口六間式尺式寸裏行九間三尺
但本役也東隣者田原屋六兵衛西隣者山北屋伊兵衛右家屋敷并土蔵
壹ヶ所付代銀壹貫五百匁ニ相極同町和泉屋清介へ壳渡度願書差出
承り届候 同十八日壳券状差出
一 徳守宮於社地南京操芝居興業ニ付受負一札福渡町名古屋清七差出
候
一 堺町团屋太郎兵衛借家小鳥屋次郎右衛門後家義下高倉村重吉姪ぬ
い義役介ニ仕置候処今般同村親類義三郎引受世話仕度申候ニ付差
遣度願書差出承り届
一 龍野御預り所久米南条郡南方中村林右衛門被盜もの、義ニ付昨日
申出候通市郷目明兩人南方中村へ差遣候所向方之目明初懸合之
ものニ付懸合候処同人申候者林右衛門義ハ甚無理言ニ而村方ニ而
も困り居候 位之もの今般も中々内済之取計ニ而者不済候杯と申居

候得者右林右衛門懸合候者不宜候間庄屋方へ可致同道由ニ而罷越候所折節庄屋も龍野へ罷出留主^(マ)ニ而悴江致対談候処右目明同様之挨拶ニ而何分親共罷帰候ハ、可申聞旨弥内濟御頼申筋ニ相成候ハ、是る可申越旨申聞候付其俣ニいたし置罷帰候段目明孫兵衛届出候段大年寄届出候

三月十八日 曇

- 一御用日之処拙者義未相勝松岡へ頼遣候処松岡も風邪ニ而出仕無之勘定奉行近藤伊左衛門へ被相頼御用向弁之候旨伊左衛門申来候
- 一木下淡路守殿領分備中賀陽郡下高田村甚三郎悴与左衛門老人桶屋町水内屋半八役介ニ引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附江差出置候旨近藤申来御聞濟申達候 同廿三日住宅証文差出
- 一徳守宮社地ニおゐて吟龍芝居有之右引受世話人福渡町名古屋清七ル東西大橋ニ役者名面建札仕度并芝居中町分太鼓打廻り度旨先格之通願書差出御用番御聞濟候旨近藤申来尤大目附中へ之届失念候旨申来候付右同濟候段大目附へ手紙ニ而相届御聞濟申達候
- 一上河原村浅右衛門方へ去ル十四日夕盜賊言込四品盜取候由右触流取計候様大目附中ル達有之候段近藤申来書役江申付例之通町触取計本書ハ直ニ大目附中へ差戻し無之段届出候
- 一姫路屋彦兵衛義并熊野屋文五郎御藏元役被仰付候年月日并達振相認差出候様大目附中被申聞候旨近藤申来依之拙者方ニ而も兼而相調候処相知不申兩人承り候而も相分不申候間右兩人年月日ハ不相知今津屋平藏御藏元被仰付候例探出置候間差出候旨左之通認差出候

明和二酉三月十三日今津屋平藏御藏元被仰付候間可申渡旨一学殿被仰渡於会所申渡

今津屋平藏江

其方義此度御藏元申付候自他人込之義船頭共氣受宜様正路明白万端入念相勤下方之者共御用向大切相働候様可取計候

右相認差出候処近藤伊左衛門熊野屋文五郎御藏元役被仰付候之安永七戌年五月十二日勘定所江も願書差出し扣有之候間其節之日記相調候様申来日記見候所御藏元役申付候旨計認有之委細之義無之申渡帳ニ者一向無之不相知候ニ付其旨及返答候

一御巡見先触遊行先触無錢御伝馬先触右三通写差出候様伊達頼母被申聞候旨近藤申来書役へ申付ル

一徳守宮社地ニおゐて近々芝居有之候間御家中下々迄差遣間敷大目附廻状到来写取組中へ差出候

一龍野御預り所久米南条郡□□村番人藤兵衛并同郡□村番人市平右兩人□□□土手非人頭手下ニ頼来受込候段非人頭届出候旨大年寄ル相届候

一石名元藏妻妊娠候旨小頭相届候

一御伝馬無錢ニ而致往来候ものハ何々ニ候哉調出候様大年寄へ申付ル

三月十九日 雨

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形売ニ来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一昨日申付置候無賃ニ而致往来候面々左之通ニ而候由大年寄差出但

御朱印証文其外御用ニ而致通行候ものハ何れも無賃ニ而候由

御証文御先触人馬無賃ニ而通行有之覧

一御巡見御通行

一遊行上人御通行

一檢見立会御用ニ付從公儀役役人并御普請役御通行

一從公儀鶴出羽守様江御差送り

一從江戸表御用物沓固出雲国大社両国造様江御差送り

一秤改神善四郎名代諸国相廻り候節御証文ニ而馬老正

一隠岐鳴流人差添役人罷帰候節御用箇物人足老人

右者毎年(株通)通行ニ而御座候

卯三月

右書付伊達頼母江明日可差出事

三月廿日 雨

一永見造酒助殿昨夜御家内御他出之留主(ヤ)江盜賊這入造酒助殿衣類并

女中衣類合十四五品程被盜取候由今曉松本正藏を以右之趣被申越

右者必定先日迄被召仕暇被出候元高倉之もの林田表組役介ニ相成

内田伝内と相改先日迄中小性相勤候ものやらんと被察右之者召捕

候様被申越早速小頭を以目明へ嚴敷申付候

一御巡見先触遊行先触并御伝馬ニ而無賃ニ致通行候もの書付都合三

通并遊行上人来着ニ付取計調伺書并当役之伺帳伊達頼母へ手紙

ニ而差出候所安永三年遊行先触写来ル廿三日迄ニ差出候様尚又申

来候

一福渡町今夕百万遍致興行候段大年寄届出夜廻りニ差心得候様ニ申

達候

一造酒助殿方盜賊為吟味延屋岩藏ニ非人老人差添吉田役所勝間田辺

近在倉敷并因幡道筋遂吟味候様申付夜中ニ差出遣錢拾匁相渡并谷

屋左七ニ非人三人差添久世高田落合辺致鑿穿はか之辺迄吟味いた

し帰候様申付明早朝差出候様ニ申付遣錢拾匁相渡右者目明孫兵衛

ニ申付候

三月廿一日 曇 夜雨

一造酒助殿ら組之者并中間弓削福渡る品ニ寄備中玉嶋迄茂追懸參候

様昨朝申付差出候所未何之左右も不相聞無覚束ニ付目明孫兵衛差

遣具候様松本正藏使者ニ而頼来依之孫兵衛ニ非人老人差添今昼立

ニ而差遣候尤遣銀六拾匁取替遣候様小頭不快ニ付部屋目附新治手

紙并手形差遣候

三月廿二日 雨

一東新町南側ニ而鍛冶平左衛門所持之家屋敷表口三間裏行十七間但

四歩役東隣者鍛冶利八西隣者妹尾平兵衛右屋敷之内西之方表口表

口老間裏行十七間御役老歩三厘三毛付代銀札五百目ニ相極組合之

内松屋吉太兵衛へ売渡度旨願書大年寄差出承り届 同廿九日売券状差出

候

三月廿三日 曇

一御用日之所拙者義未相勝当病断并御用向松岡へ頼遣候尤松岡も連

名之御奉書ニ而今日被為召候由為知申来候

一御藏米五拾六匁五分町米五拾式匁五分

一大目附伊達頼母ら左之先触写差出候様申来此間大年寄へ申付問屋

る先触写差出有之其俣差出候尤扣無之

一 檢見立会御用御普請役御通行先触

一 雲州江 江戸表を鶴送り被遣候先触

一 雲州大社両国造江 江戸表を被遣候御用箇物先触

一 秤役神善四郎手代秤改ニ出候先触

一 隠岐国流人宰領帰り先触

右者無賃往來之もの也

一 松岡治部助今日大目附役被仰付三浦大助右跡役郡代役被仰付候依之昨日頼遣候御用向三浦大助取計被呉候由申來

一 美濃職人町財布屋平七借屋住作人長七八十二才ニ罷成及老衰渡世相成不申依之孤独扶持被下候様歎書差出勘定奉行へ懸合之上御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置候段三浦大助申來御聞届申達ス

一 紀州和哥山湊東長町式丁目能登屋町野上屋増右衛門弟重兵衛老人林田町入江屋万吉引受人別人願右同断取計濟四月十八日住宅証文差出

一 徳守宮於社地致興行候南京操芝居明廿四日大人取計引統相始候段大年寄る届出御用番并大目附へ手紙ニ而相届小頭江も申達ス

一 造酒助殿方盜賊吟味東在へ差遣候延屋岩藏夜前及深更罷帰り所々相尋候処心懸り之義無之旨部屋目附孫八より届出候

一 上紺屋町孤独太郎作母ふゆ病氣差重り候段大年寄る届出右見分部屋目附新治差出一札容鉢書取帰り鹿抹無之候旨相届候

一 大年寄年頭歲獻上もの代式百疋先日大年寄る差出早速可相廻処致失念今日御使ニ小勤者中嶋彦左衛門神村平兵衛へ差遣候

一 造酒助殿方盜賊吟味ニ西在江差遣候谷屋左七今暮方罷帰り途中る

申越候男女連必定内田伝内ニ相違無之様ニ相聞追懸ケ參候所年輩之ものニ而大キニ致相違其後者足茂付不申高田落合辺色々相尋候

内福渡之方ニ居候由承り直ニ福渡へ參候所追々爰元る多人数被差向何れも備中之方へ參り殊ニ住進(マツ)之人も帰り候由左候得者被捕候程も難計何れ多人数入込候事ニ候得者參候ニも及間敷哉遣等も切

候事ニ候得者一先ツ罷帰り差図を受ケ早々可罷出積ニ而罷帰候段申出及対面最早不及出候段申達其趣并東在へ差遣候岩藏罷帰候義

も造酒助殿へ申遣候
三月廿四日 雷雨

一 徳守宮芝居役者拾九人式丁目尾高屋善七方ニ差置度旨願書差出承り届ル
一 西今町松尾屋源之丞所持之古道具屋株新魚町福本屋菊之丞江相讓度願書大年寄差出承り届ル

一 古道具屋頭灰屋喜平治死去後跡役無之ニ付太刀屋久治道具屋頭ニ可申付旨先達而大年寄る伺出候処右松尾屋源之丞株之義ニ付内分繼出来居候様ニ申聞候ニ付右一件讓渡相濟候上頭役申付候様ニ差延置候ニ付右之通申付候様藏合へ申達ス

古道具屋頭申付候是迄
仲ケ間掟等流居候義も有之候ハ、
急度相糺諸事古法之通
正路ニ相改入念可相勤候
三丁目
太刀屋久治

一 上紺屋町孤独太郎作母致死去候段届出葬取計候様申付右之段見届

一 札容躰書差添手紙^ニ而御用番中江相届大目附江も右之段手紙^ニ而相届見届一札容躰書者御用番中へ差出置候間下り次第差出可申旨申遣勘定奉行中へも及通用候

一 他領宮尾村刃付火等も有之趣^ニ相聞此節芝居も有之候事故為用心此御町方老町切^ニ夜廻り申付候^而可然之旨大年寄伺出其旨御用番中へ手紙^ニ而相伺候処宜取計候様返書来候^ニ付大目附江も右伺済之段手紙^ニ而相届今夕^ニ夜廻り申付候様^ニ大年寄へ申付候

一 德守宮社地芝居小屋之外^ニ前^ニ小屋懸致煮売等可致哉之様成風情^ニ相見へ風流^ニ者種々不宜義其相巧候趣^ニ相聞候付先日以來寺社取次藤本十兵衛へ懸合寺社役所^も先例無之義故何商売致させ候哉相尋其上^ニ而芝居打切次第暮時限^ニ見物人追払候様被申付候由^ニ付大年寄へ申付福渡町ぬまや清藏橋本町蓬来屋佐市元魚町江見屋伝治并小屋世話人坪井町藤屋嘉右衛門呼出不審之趣申達得度相糺口書取差出候様申付候^処右之面々口書取差出候所何れも煮売躰之申披^ニ候依之尚又藤本十兵衛へ懸合之上右之通申渡候様大年寄へ申付ル

寺社役所^も日々芝居相済候
得者暮時限り^ニ見物人払出候
様被申付候間煮売商致候共
芝居同刻^ニ見物人払出し
小屋懸之内^ニ壹人も差留
置申間敷候右之心得^ニ而商売
可致候

福渡町 沼屋清藏
橋本町 蓬来屋佐市
元魚町 江見屋伝治
小屋懸世話人
坪井町 富士屋嘉右衛門

一 永見殿盜賊一件^ニ付小川町谷屋左七新職人町瀧本屋平四郎借屋住

伝十郎妻いさ右両人内田伝藏連出候女之宿^ニ而疑敷義も可有之候間糺呉候様造酒助殿^も松本正藏を以被申越出番定治文藏差向候所差^而不審之義も無之候得共右両人申口不合^也も有之候^ニ付組合預ケ申付候其段造酒助殿江も申達并大年寄江も為知置候

一 新魚町分肥後屋宇吉并小川町谷屋左七隠し売女差置候哉之趣相聞候付昼廻り定治文藏差向候所心懸^リ之義相見へ不申旨罷帰相届候

一 德守宮芝居大入^ニ付新治百藏差出候所無別条^ニ罷帰り相届候尤今般者先例^ニ無之別^ニ小屋懸ケ等も有之昨日申渡候通之義^ニ付芝居打出候ハ、右小屋懸之内^ニも見物人居残不差置不残払出候を見届罷帰^リ候様^ニ申付ル右^ニ付夜廻^リ之者も随分心を付怪敷様子も相聞候得者神主江斷門を為明端迄相改候様申付ル尤此段寺社取次藤本十兵衛へ懸合置候事也

三月廿五日 曇

一 德守宮^ニ出茶屋懸候もの共江昨日之通申渡候^処蓬来屋佐市申出候者親孫市借受候^処未帰^リ不申候^ニ付其俵打捨有之候^処勝間田町岸田屋幸吉と申もの右懸候小屋讓呉候様申候^ニ付相讓遣候段申出候^ニ付昨日申達趣書付相渡其旨申達候様^ニ申付候由大年寄申出候

一 去ル十四日十六日之^処ニ記置候龍野御預り所南方中村林右衛門被盜もの東新町玉屋伊右衛門方^ニ質^ニ有之右取計方及差図置候^処去ル十七日之^処ニ記置候通先方庄屋も留主^マニ而夫切^ニ相成居候^処向方庄屋^も横山村庄屋へ内分^ニ而戻呉候様又々申来先日之趣^ニ而可相渡^処盜賊番四郎兵衛義も永見殿尋もの^ニ罷出不致在宿依之四郎兵衛縁類之もの代人として為誤相渡候様^ニ折節李助引込^ニ付土居

与三兵衛懸合相渡候様ニ玉屋伊右衛門へ申付候段大年寄届出承り置

一 德守宮芝居役者拾五人坪井町長門屋伝治方ニ逗留為什度旨願書差出承り届

一 服部左司馬長屋ニ居候伝助并妻娘右家内三人美濃職人町沢田屋善助借屋住余の屋治助引受度人別人願差出し承り届ル

一 德守宮芝居孫八百藏見習四藏差出候所無別条相済木戸札百貳拾五枚并外小屋迄逐吟味見物人払出候上ニ而引取候由届出候

一 造酒助殿る頼ニ付新職人町千餅屋直と申もの吟味ニ昼廻新治為治差遣候処不審之義も無之旨申聞候

三月廿六日 曇

一 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代宗兵衛老人例年之通罷

越候段宿京町海老屋長右衛門宿切手差出 翌辰八月十五日掃

一 德守宮芝居又六嘉七文藏差出候処無別条木戸札貳百三枚外小屋迄人払候段届出候

一 久世囚人通行左之通先触写大年寄差出翌廿七日右先触写御用番中へ差出先格之通保頭先扨同心組兩人跡を固候様ニ申付候旨申達大目附江も其段相届郡代所江も及通用

覚

一人足 三人

内式人囚人目籠耆挺

耆人両掛耆荷

右者早川八郎左衛門方る大坂御奉行所へ囚人耆人差出候ニ付我

等差添明後廿八日曉六ツ時作州久世陣屋出立罷越候条書面人足御定之賃錢受取候也無滞可被差出候尤川越渡船等者従前宿致通用道中諸事差支無之様可被取計候且止宿之節者囚人宿方へ預ケ候間不寝番人等附置不被逃様致手当随分大切ニ可致候此先触早々継送り大坂鈴木町大坂屋善藏方へ可被相届候以上

早川八郎左衛門手代

卯三月廿六日

廿八日 勝間田宿

福田源三郎

三月廿七日 快晴

一 德守宮芝居無別条木戸札貳百八拾枚外小屋迄人払出罷帰候段又六定治元藏届出候

三月廿八日 曇

一 御用日之所自分義末相勝依之当病断三浦十郎左衛門へ頼遣

一 関貫番賃銀拾五匁大年寄差出候

一 上河原村半兵衛方へ去ル廿五日盜賊這入三品被盜取候触流し取計候様大目附中被申聞候旨三浦右相廻り写取町触取計本書八直ニ大目附へ差戻し無之段申出ル

一 久世囚人町分無滞通行相济候旨定治元藏届出其段御用番大目附へ手紙ニ而相届候

一 上紺屋町孤独太郎作母病氣見届一札并久世囚人先触写御用番御下ケ被成候段三浦右相廻り直ニ大目附へ差出

一 遊行来着取計何帳三浦を以伊達頼母被差戻公儀被仰出通ニ付致省略差出候様被申聞候由然ル所役節ニ而者直心对無之諸事寺社取次

る之仕向之義ニ候得者今般ハ如何様之御取扱と申御大意承知候而
者考仕兼候段被申達被下候様ニ三浦江談置候

一 德守芝居無別条木戸札式百七拾八枚外小屋迄見改罷帰候段新治百
藏届出候

三月廿九日 快晴

一 德守宮社地煮壳小屋懸勝門田町岸田屋幸助小屋中ニおゐて夜前賑々
敷趣ニ付兼而申付置候夜廻り同心組嘉七為治見改候処町家之者十
人計致酒宴けん杯いたし騒敷候ニ付兼而申付相背不埒之旨申達為
相止候段夜前罷帰り相届候ニ付右幸助義組合預ケ相慎居候様ニ今
朝大年寄宅ニ而為申渡置伺之上御叱追込五日可申付と存寺社取次
并郡代江及通用候所而役拙宅江見江先今般者不及伺三役共ニ役所
切ニ叱置可申ニ相談相決候尤右取計ハ三役共ニ明日可申渡ニ致対
談候

一 河原町六平二階町出雲屋勘三郎元魚町小原屋新吉喧嘩一件内濟仕
候付願下ケ願書差出御用番中へ手紙ニ而相伺候処御聞濟ニ付其旨
大目附へ相届置承り届候段大年寄へ手紙ニ而申達昼廻り之新治百
藏罷越手錠差免候様ニ申付ル

一 德守宮芝居無別条木戸札式百三拾枚外小屋迄無別条之段又六嘉七
為治届出候

一 物頭組小頭三四人川端又六方へ来り無程一ノ宮市町時節ニ相成候
処是迄彼是出来御氣之毒ニ候間以来者御平ニ無伏藏申談相動候様
可致旨申聞候ニ付御同意之段承知之旨及相答候旨又六申出右為挨
拶罷越可申旨伺出至極尤之義随分挨拶ニ参以後無伏藏申談候様ニ

申付ル尤物頭小頭不殘可参候之処病氣ニ付老人得不参候旨及挨拶
候由右名面晦日之処ニ記ス

三月晦日 快晴

一 関貫番賃銀取ニ来大之月分当番を為相渡候

一 昨日郡代寺社取次申談候通左之通申付候様ニ大年寄江申渡候

芝居中德守宮社地ニ小屋懸

勝間田町
岸田屋幸助

いたし候ニ付暮時限りニ商売

相止候様兼而申付置候処去ル廿八日之夕

右小屋ニおゐて酒宴等相催候段不埒之事ニ候

依之急度申付方も有之候得共先今般者

用捨を以急度叱申付候以後嚴重ニ可相慎候

一 宿馬見分例歳之通小頭又六部屋目附新治差出相改候段毛付帳孫左
衛門并問屋目付豊屋喜左衛門差出候

一 河原町六平喧嘩内濟願下ケ之願書御用番中へ被差戻候付大目附へ
差出候

一 佐藤左右助長屋住長女老人二階町大工長右衛門引受度人別人願書
差出承り届

一 播州網干平松屋惣九郎一人例年之通晒蠟卸売昨日来候段中之町小
山屋与三右衛門宿切手差出 七月廿五日掃戸届

一 播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物類塩物卸売昨日来候段右
同人宿切手差出右同断

一 播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鯉節卸売昨日来候段
右同人宿切手差出右同断

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売昨日来候段右宿中

之町高尾屋勤七宿切手差出

一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売昨日来候段右同人

宿切手差出 七月廿五日帰届

一撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門一人例年之通唐弓弦卸売昨

日来候段東新町船木屋兵助宿切手差出

一徳守宮芝居無別条木戸札百六拾四枚外小屋迄遂吟味候段又六文蔵

百蔵届出候

一物頭組小頭一ノ宮市町出役中之義又六方へ申談ニ參候小頭共名面

左之通

鉄砲御持小頭藤田文内 弓御持小頭下山江助

鉄砲御先手小頭田口伝平 弓御先手小頭西村平八

残り式人ハ病氣ニ付得參り不申候段断申聞候事

四月 小

月番

御家老 永見造酒殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 伊達頼母

大年寄 玉置源五兵衛

四月朔癸午旦 雨

一 目明孫兵衛昨夜八時比備中玉嶋江罷婦江右伝内義女之母隱置候趣

庄屋江懸り為相糺候処右女之母方へ兩人共来候得共直ニ何方江歟

立去り行衛存不申候由孫兵衛義宮内之笠かへ江戸市籠平相頼笠か

へ籠市同道ニ而廿一日玉嶋江罷越男達と申もの都合拾老人受合中々

金銀共貪り候趣ニ而者無之候得共右之女深ク隱候趣ニ而知兼一先

何れも被婦候ハ、先方氣耳付相知可申候間先婦り可申歟又ハ近在

ニ忍居候而も可然ケ様ニ受合候上ハ婦り候而も騙し候様之義ハ決

而不致右受合候内之もの共万一疑敷取計も有之候得者仲ケ間仕置

いたし候間其段心遣致間敷何れ茂出立之跡ニ而相知候ハ、四日五

日此迄ニ者早飛脚差遣不欠様ニ手当致置往還可致候間早々參り召

捕候様ニ可致若又右之通内分取計ニ致候得者浮取候間御定ニ被成

度思召候ハ、御差紙来候様ニ可被成候左候ハ、右女之母小千御役

所吟味ニ相成候得者早速相知可申候此上矢張内分御取計歟又八御

懸合ニ被成候歟右兩様之御存寄四日五日比迄ニ早飛脚不差遣候ハ、

此方江否可被仰下旨ニ約束したし何れも男伊達之義飯令召捕候上

ニ而も金銀杯謝礼ニ遣候義ハ不相成趣ニ有之候間孫兵衛申出其趣

造酒助殿へ手紙ニ而申遣孫兵衛義も左平太方迄參候様ニ申付候尤

造酒助殿組中間も不残一所ニ罷婦候由

一 雨天ニ付徳守宮芝居延引之段勧進元届出候

一 御蔵米五拾七匁五分町米五拾三匁五分

四月二日 晴

一 德守宮芝居夜中迄大雨ニ付今日芝居延引候段勸進元届出候

一 伏見町江田孝庵借屋住塩田屋喜助義二月廿三日願之通御聞濟候通

備前和氣郡奥塩田村与五郎方へ引越候ニ付所持之道具長持二棹乘

懸櫃三ツ挟箱一ツ小櫃二ツ夜具戸棚一ツ仏前壺ツ米櫃一ツ谷一ツ

四斗樽三ツ疊拾疊戸障子五枚世帶道具入むしろ包三ツ船ニ而下ケ

候間裏印願書承り届追而切手差出候筈也

一 船頭町南側ニ而高松屋平吉家屋敷表口四間四尺三寸裏行五間六尺

但本役也東隣者今岡屋浅右衛門西隣者高瀬屋勘右衛門右家屋敷代

銀九百匁ニ同町高瀬屋勘右衛門へ売渡度願書差出承り届同七日完券状差出

四月三日 晴

一 御用日之処拙者義未相勝当病断三浦へ頼遣并御用向相頼

一 脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村中野屋弥十郎姉京町多賀

屋平三郎妻ニ引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置

候段三浦へ申来御聞濟申達又同七日住宅証文差出

一 備前国赤坂郡周匝村百性役右衛門娘伏見町綿屋藤吉妻ニ引受度人

別人願右同断取計済同十八日住宅証文出

一 万人講当冬被仰付候ハ、此節建札散仕込時節ニ付伺出候段三浦を

以御用番中へ相伺候処未江戸表へ何れとも不申参當時ニ而者寄り

を好候ニ而無之候間見合候様ニと被仰聞候旨三浦へ申来

一 市之宮市町ニ付例年之通町触差出候

一 惣側竹子抜取間敷例年之通触書而通差出候

一 德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札四百七拾式枚小頭又六嘉七百藏

届出候

四月四日 快晴

一 牢浚申付候所無別条段嘉七百藏届出候

一 三町目次田屋与三右衛門売用ニ付大坂玉子屋九兵衛方へ三十日計

之逗留ニ而明五日出立願出ス

一 永見殿盜賊鑿穿ニ付延屋岩藏谷屋左七差遣新用書付差出兩人ニ而

拾五匁分七厘相渡都合者三拾五匁分七厘也

一 德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札四百三拾五枚又六定治元藏円藏

届出候

四月五日 快晴

一 左之通於小頭宅部屋目附新治立合ニ而申付候

目明役申付候

東新町 延屋岩藏

右ニ付是迄仮役申付候河原町稻荷山源吉目明仮役差免候様申渡取

計相濟候段届出候尤先以来明石屋庄七当分仮役申付有之候処此節

芝居杯ニ而手張候ニ付今暫為相勤置度旨又六申出承り届ル

一 伏見町江田孝庵後家借屋住塩田屋喜助備前引越ニ付去ル二日願書

差出候通川下ケ切手差出奥印押切取計

一 德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札三百式拾枚定治文藏届出候

一 牢浚昨四日申付無別条旨昼廻嘉七百藏届出候

一 永見殿家従松本正藏へ手紙ニ而備中国玉嶋へ便りも無之ニ付今日

飛脚差出内田伝内尋之義ハ表向ニ者不致内分ニ而矢張可相頼候旨

返答申遣候通用有之

四月六日 快晴

一 船頭町北側ニ而高松屋利助家屋敷表口三間五尺三寸五步裏行六間六尺但本役也東隣者高松屋藤吉西隣者玉屋忠七右家屋敷代銀貳百匁ニ同町高松屋平吉へ売渡願書承り届 同七日売券伏差出

一 船頭町南側ニ而和泉屋清助家屋敷表口六門式尺裏行九間三尺東隣

八田原屋六兵衛西隣者山北屋伊兵衛右家屋敷并土蔵壹ヶ所添質物

ニ書入当四月ノ同十一月切月壹歩半之利足ニ而村元屋太四郎取次

ニ而質ニ入置度願書差出承り届 五月三日質入証文差出

一 西新町年寄増屋勘助十二年以来役義相勤候処病身ニ相成難相勤退役願差出無余義趣ニ相聞右跡役余野屋伝七江被仰付度大年寄申出其旨取計候様ニ申付ル

一 早川八郎左衛門殿支配所薪森原村庄屋ノ大年寄へ非人番共□□□□手下ニ相頼候而も差支者無之哉之旨尋來候旨申出候ニ付指支無之段及相答候様ニ申達候

一 德守芝居外小屋迄無別条木戸札貳百六拾八枚新治為治届出候

四月七日 晴

一 昨夜夜廻り孫八百藏更廻り申付心懸之処六七軒流込逐吟味候様申付候処何方も何之別条も無之段今朝届出候且又又六新左衛門関貫役更廻り申付候処是又無別条段今朝届出候

一 大脇新左衛門妹鳥屋与市方へ養女ニ差遣度直ニ口上ニ而願出承届

一 馬持頭四人有之候処尾高屋善七致死去候ニ付右跡東新町鍋屋甚右

衛門へ申付度段大年寄伺出其通申付候様ニ申達ス

一 德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札百七拾六枚孫八百藏田藏届出候

四月八日 雨

一 拙者義今日ノ致出勤候

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡領家村兵右衛門倅文蔵并妻娘右家内三人安岡町山沢屋久助養子ニ仕度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候 同廿二日住宅証文差出 享和二年十月廿七日 離縁承り届

一 西今町直屋久米之助姉義早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡赤野村権兵衛方へ養女ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一 豆腐直段去寅八月ノ十九文売ニ候処大豆高直ニ付廿文売ニ仕度左之通割合書差添差出

一 壹匁四分 大豆貳斗

一 三分 薪代

一 壹匁七分 拾挺分元入

一 廿文ニ売立 壹匁九分八厘

一 内 壹匁七分 元入引

一 残而貳分八厘 手間代

一 大豆相場六拾九匁五分 小売七拾匁

一 右願書御用所ニ而説申上右算様割合書差添出候段口達ニ而申上候処御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 德守宮芝居今日者雨天ニ付不致候旨勸進元届出候

一 德守宮芝居五日之追願書差出寺社取次并郡代江引合候処一ノ宮市町ニ懸リ候間追願不取上差戻候段申事ニ付其旨申達差戻候

一 播州今市綿屋嘉市郎倅德四郎一人例年之通呉服売ニ來候段二階町

堺屋伊右衛門宿切手差出 翌年正月十六日届届

一 播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売ニ來候段二階町

境屋伊右衛門宿切手差出 同八月十一日届

四月九日 晴

一ノ宮市町警護出役一件并物頭と兼而取合一件昨日於御用所与兵衛委敷御尋ニ付委細申上候処右之段尚又大目附中江も申達候様ニ被仰聞尚又大目附伊達頼母ノ御用所江申上候通認差出候様被申聞相認今日頼母江致持参候処留主ニ付封候而取次ニ相渡置

一郡代所ノ円宗寺村利八方へ這入候無宿盗人善藏入牢申来則入牢切手も相廻リ認かへ立合孫八差出

一徳守宮芝居外小屋迄無別条木戸札式百三枚定治文蔵届出候

一元造酒助殿内田伝内懸合ニ付小川町谷屋左七新職人町瀧本屋借屋住伝十郎妻先月廿四日組合預ケ申付置候処伝内義行衛不相知候ニ付先差免可然之旨造酒助殿被仰聞候ニ付夜廻新治百蔵差遣組合預ケ差免候尤其旨大年寄江も及通達候

四月十日 晴

一徳守宮芝居外小屋迄無別条木戸札五百三拾五枚新治百蔵見習円蔵届出候

四月十一日 雨

一徳守宮芝居雨天ニ付延引候段勸進元届出候

一安岡町大和屋伝助四国遍路往来百日計之逗留ニ而明十二日出立願書差出承り届ル 八月八日届届

一大目附伊達頼母ノ申達候義有之候間御城役所江罷出候様申来罷出候処今般一ノ宮警固出役勤方御改被成左之通勤方諸出役江被相渡候間為心得諸出役勤書も被相渡候由ニ而被相渡候

一宮市町出役勤方

御徒目附

目附組江

一見せ物小屋内ニ有之候腰懸当年ノ不残為引取候間其段相心得可申事

一日々及晚景見せ物相济引取候節諸出役并警固之者ノ御徒目附

江届之趣承届候上引取可申事

一万一変義有之見せ物差止候節諸出役并警固ノ差留候義勝手次第之事但 差止候ハ、相互ニ致通用
神主江も為相知可申候

但品ニより神主ノ差止候義も有之候ハ、其段諸出役

并警固へ申出候上差止可申間其段相心得可申事

一出役警固之義者諸組共一躰之事ニ候得者一同和順致候様相心得可申事

町奉行江

一宮市町警固同心組勤方

一見せ物小屋内ニ有之候腰懸当年ノ不残為引取候間其段相心得可申事

可申事

一日々及晚景見せ物相济引取候節御從目附立宿江罷越相届引取

可申事 但見せ物有無不抱出役之節引取候義可相届事

一万一変義有之見せ物差止候節諸出役并警固より差止候義勝手

次第之事但 差止候ハ、相互ニ致通用
神主江も為相知可申候

但品ニ寄神主ノ差止候義も有之候ハ、其段諸出役并警固

江申出候上差止可申候間其段相心得可申事

一引取候砌龍之口を越候得者於市場変義有之候而も立戻り不申

候趣之処以来者 何方迄引取候共變義承り候ハ、早々立戻り取
鎮可申事

一出役警固之義者 諸組共一躰之事ニ候得者 一同和順致候様相心
得可申事

郡代 江

一宮市町出役下代勤方

一見せ物小屋内ニ有之候腰懸当年ノ不残為引取候間其段相心得
可申事

一 日々及晚景見せ物相濟引取候節御徒目附立宿 江罷越相届引取
可申事 但書前ニ同シ

一 万一变義有之見せ物差止候節諸出役 并警固ノ差止候義勝手次
第之事但 差止候ハ、相互ニ致通用
神主江も為相知可申候

但品ニ寄神主ノ差止候義も有之候ハ、其段諸出役 并警固

江申出候上差止可申候間其段相心得可申事

一 於市町變義有之時刻移り候節者 諸出役へ賄可申付事

一出役警固之義者 諸組共一躰之事ニ候得者 一同和順致候様相心
得可申事

物頭 江

一宮市町警固足輕勤方

一 見せ物小屋内ニ有之候腰懸当年ノ不残為引取候間其段相心得
可申事 (張紙にて抹消)

一 日々及晚景見せ物相濟引取候節御徒目附立宿 江罷越相届引取
可申事 (張紙にて訂正)
但見せ物有無不違出役之節者引取箇義可相届事

一 万一变義有之見せ物差止候節諸出役 并警固より差止候義勝手
次第之事但 差止候ハ、相互ニ致通用
神主江も為相知可申候

但品ニ寄神主ノ差止候義も有之候ハ、其段諸出役 并警固

江申出候上差止可申候間其段相心得可申事

一出役警固之義者 諸組共一躰之事ニ候得者 一同和順致候様相心
得可申事

寺社取次 江

一宮市町出役下代勤方

一 見せ物小屋内ニ有之候腰懸当年ノ不残為引取候間其段相心得
可申事

一出役之日及晚景見せ物相濟引取候節御徒目附立宿 江罷越相届
引取可申事 但書上ニ同シ

一 万一变義有之見せ物差止候節諸出役 并警固ノ差止候義勝手次
第之事但 差止候ハ、相互ニ致通用
神主江も為相知可申候

但品ニ寄神主ノ差止候義も有之候ハ、其段諸出役 并警固へ

申出候上差止可申事

一出役警固之義者 諸組共一躰之事ニ候得者 一同和順致候様相心
得可申事

右御書附被相渡早而頼母ノ演達ニ左之通被申渡候

一 右御書付ニ漏候義者 諸事は迄之通ニ相心得可申事

一 見せ物無之節も田植祭当日 并廿五日ノ以後者 古格之通同心組
日々差出可申候

右 右者是迄致来ニ候得者 達候ニも不及義ニ候得共為念被申聞候

由

一 昨年御達有之相濟候義ニ者候得共目明并当代芝居より受取来候義ハ矢張是迄之通芝居ヲ受取可申候是又為念被申聞候由

右御書附相渡候ニ付右門左之趣相尋候答

一 変義ニ而無之昨年之様ニ及晚景芝居致候節者是迄之通夫々受

前之方ヲ為相止候様可及差図義ニ而候哉と相尋候返答ニ

晚景限りと申付置候処及暮芝居致候者御定法ニ違ひ候故則變

ニ而之候間變義取計之通何れ之警固より成りとも廻り懸り

之警固ヲ相止候様及差図其旨諸出役江も可及通用事

一 是迄同心組役伝ニはやり候芝居ヲ早々為相止候様ニ取計来候

処此段者如何可取計哉と相尋候返答ニ

全鉢晚景限リ之見せ物之義ニ候得者何れニ差別も無之義ニ候

間銘々勝手次第ニ晚景迄者為致可申右役伝取計者以後相止候

様被申聞候

四月十二日 曇

一一ノ宮市町同心組警固勤方書付写取左之通致追加小頭川端又六ハ

相渡右書付之趣心得違無之様「」組共へ得と申付候様ニ申渡候

一 右御書付ケ条ニ無之義者是迄致来之通之取計ニ諸事可致事

一 是迄伝伝ニ而はやり候芝居ヲ早々為相止候様ニ取計来候所以

後者何れ之無差別勸進元勝手次第ニ晚景迄ハ為致可申事

一 及暮候迄致し候芝居有之候得者御定法ニ違ひ則變ニ候間變義

取計之通何れ之警固寄たりとも差留可申候但其旨諸出役へ可

及通用候事

一 変義有之時刻移リ候節者諸出役江賄差出候様郡代所江被仰出
被置候間其旨可相心得候以上

一下紺屋町長江朝庵伯州へ三十日之逗留ニ而明十三日出立之願書差

出

四月十三日 曇

寛政十二年正月廿三日除帳

一 堀田相模守殿領分当国之内西々条郡河本村伴藏義彦人堺町米屋平

兵衛引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置右門差扣被

仰付候ニ付仮役三浦十郎左衛門右御聞届申達候同十九日住宅
証文差出

一 安岡町作兵衛後家娘十五年前早川八郎左衛門殿支配所西々条郡

寺和田村吟助養女ニ差遣置候処不縁ニ付引戻度人別人願右同断濟

一 桶屋町暮田屋平兵衛借屋住人宇八義家内四人去寅十二月出奔仕

其段届出百日尋申付置候之処今以行衛相知不申候ニ付最早百余ニ

相成候間人別離願差出右同断取計濟

一一ノ宮市町ニ付参懸リ大坂難波新地七人連曲馬乗世話神主ノ被相

頼候ニ付引受世話仕度吹屋町甚吉願書差出寺社取次へ引合之上

承り届ル

且又寺社取次藤本十兵衛ノ宮市町ニ付参懸之見せ物芝居等

者社方ニ而者届捨ニ而相濟来候事ニ候間以後者不及行合承り届候

様挨拶有之候尤惣社宮市町見せ物ハ伺之上御許容申渡候事故一ノ

宮市町トハ取計違候段通用有之候

一 右曲馬引受本証文吹屋町甚吉ノ差出受取置

一 徳守宮社地芝居三日之加日追願差出当役郡代寺社取次三役申談之

上郡代所引受之義ニ付郡代所被相伺候候御聞濟ニ付通用有之右

門差扣被仰付候ニ付仮役三浦十郎左衛門ノ御聞濟之段大年寄へ申渡候

一 德守宮芝居役者病人有之候ニ付今日興行延引候段勸進元より届出候

一 今日一ノ宮田植祭ニ付同心組差出德守宮芝居有之ニ付同心組致不足加人二人御渡被下候様昨日伊達頼母江手紙ニ申達御使組尾崎權助福嶋為助受取候処德守宮芝居今日延引ニ付右今日切ニ相受取候加人式人差戻候段大目附江申達候

一 一ノ宮市町ニ候得共見せ物無之ニ付今日一日同心組出役申付廿四日迄ハ不差出候事故德守宮芝居有之候而も加人入不申候ニ付今日一日切之加人差戻置候処一ノ宮江曲馬來今日ら致候趣ニ付又々芝居中加人二人御渡被下候様大目附へ相達候処直ニ勘定奉行へ被相達相濟候

一 先日差出候遊行上人來着取計帳公般者公儀ノ被仰出ニ付格別御省略被仰付候間可成丈致減少差出候様先日伊達頼母ノ被差戻当役ニ而者直応対不致候事故委細之程難付旨申候得共何れニも絶而考付候様ニ再応被申聞候間不得止事致付紙先日之二帳共大目附頼母江差出候

一 去ル八日於御用所与兵衛殿ノ一ノ宮市町ニ限り同心組禁酒申付候者如何之訳哉と御尋ニ付兼而乍御別席ケ条書を以相伺御聞濟之上申付候義ニ御座候故無何心一ト通りニ禁酒申付候者一ノ宮市町ニ限り候義ニ而者無御座私義御役初子九月六日於御別席相伺出役先都而禁酒申付候義ニ而御座候旨さつと御答申上候所右之旨大目

附ニ而者不吞込候様相聞候間席ニ而被申聞候通尚又大目附江も得と申達置候様被仰聞大目附ノハ右之訳御席ニ申上候通相認差出候様伊達頼母ノ被申聞右之旨相認翌九日頼母江差出置候処其後何

となく町奉行ノハ都而役先禁酒申付候様ニ申立候得共左様計とも不相聞一ノ宮計ニ而者禁酒と申立候得共其外ニ而者酒呑候哉之様ニ大目附中ハ兼而被聞受被居候様之風聞も承り候ニ付如何之訳ニ而左様ニ被存候事故と色々致思慮見候処先達而相伺候禁酒ケ条

書之内ニ万人講并德守宮祭礼大隅宮祭礼之節者禁酒差免先規之通神酒者可受其余之馳走ケ間敷義者受申間敷尤不及過酒候様申渡置并其節者相撲芝居者無之節故不心付候故不申渡候処其後相撲芝居等有之候ニ付其砌相撲芝居も万人講并而社祭礼同様ニ先規之通禁

酒差免不及過酒候様申渡置候ニ付御徒目附と一所ニ出役之節者一ノ宮計ニ而不絶事故左様之事ニ而之義ニ而者無之哉と察候ニ付去ル十日大目附松岡治部助へ御役初達ニ參候節右之段相咄分而御月番江申上候程之義ニ而も有之間敷哉ニも奉存候間右之訳者兼而御承

知之義ニも候得者御聞置被下候様申述候処翌十一日於御城頼母ノ同役江御咄之趣致承知候左候得者御席ニ而者都而禁酒と計御聞込之事ニ候得者重而御出仕之上右之訳委敷御用所江被申述候様ニと被申聞候ニ付今十三日右之段御用席江可申達と存候処又々頼母ノ

此間者右之訳御用所江被仰達候様申置候得共一旦御席御揃ニ而御聞受候処尚又御用所江罷出委細之訳申上候而可宜哉何れとも御差図ニ者不及候間御考次第御計可有之旨被申聞候ニ付委細承知仕候右御尋ニ付申上方不行届御手違ニも相成候得者奉恐入候義と及返

答候処此方手違ニ者不致と尚又被申聞候ニ付逐一承知仕候段及
挨拶引取三浦士を以て此間於御用所同心組出役先禁酒申付候御尋
之節兼而乍御別席も伺濟候義故一ト通りニ禁酒申付候と計申上委
細之訳不申上不行届段恐入差扣奉伺候旨大目附へ申達候処即刻伺
之通差扣被仰付候段三浦士手紙ニ而申來候ニ付屋敷番同心組抹消

即刻三浦士江差遣御差函受可申并此趣小頭又六江も申達候様申付
差帰し候処無程三浦士御用向ニ付被參候由被申込候ニ付及対面候
処私差扣中当役仮役被仰付候ニ付差向候御用向申送り等可致承知
と被申聞候ニ付差向之御用向申送り候且又先格御用物有之候ニ付
差扣中ニ而も同心組菅人泊番計ニ者罷出候趣及対談候

是是上郎左衛門取
一町奉行所御道具番泊り御座候ニ付加人菅人御渡被下候様伊達頼母
へ手紙ニ而申遣候処承知之旨返答有之候処後刻同人加人之義一
切切口ニ候哉承度旨手紙ニ而申來候ニ付右門差扣中者泊り番有之候
ニ付右差扣中ハ被仰付置被下候様返書ニ申遣ス

一地下申立置有之加人兩人竹田源藏野尻和助相廻り候
一大年寄斎藤孫右衛門妻とよ倅山三郎同人妻ついで右三人立願御座候
ニ付備前国八浜快神社江參詣仕度明十四日出立往來廿日計之逗留
ニ而罷帰申度旨孫左衛門願書差出候ニ付承届ル同廿一日歸ル

一田植祭相更義無之旨同心組引取届出ル但新治元藏
一牢舎人円四郎弥市新吉病氣之旨牢番中申出候ニ付一通り容躰為
及見候様大年寄源五兵衛へ申付ル

四月十四日 曇

一昨日申出候牢舎人病氣渡部玄丹へ申付為及見候処弥市新吉ハ口中

相痛為指事も無之円四郎義腰痛ニ而立居も難致程存之旨療用為致

可然趣大年寄源五兵衛マツエ申出候ニ付申付候様申渡ス

一今町長野屋安兵衛伊勢參宮トクテ昨夜罷帰候旨置承届候

一当年も病病御葉被下候旨源五兵衛へ申達猶人別之義ハ明日申出候
旨承置

一德守宮芝居相更義無之旨又六定治為治届出候但通り札式百四拾三
枚

四月十五日 曇

一今早朝与兵衛殿の御奉書到來右門差扣被成御免候間從今日出勤仕
候様申來右御礼御年寄二軒へ罷越候尤造酒助殿江も外ニ用事有之
罷越候ニ付乍序右御礼申述候右之旨即刻三浦十郎左衛門へ申遣支
配方江も為相知候様小頭へ申付ル

一例歳之通痢疾町方へ被下候間御医師中受取相渡候様一昨十三日
大目附中右門へ達有之昨日三浦大年寄へ達被置候付七千包村
山三立る受取相渡

一稻荷山下草苧相初候旨去ル九日三軒屋番為助届出候
一右門差扣中役所御道具番泊計菅人入候ニ付三浦士加人菅人申立
有之御使組中山民治受取居候付右加人今日差戻候段大目附へ手
紙ニ而相届候

一美濃職人町孤独長七御救扶持内貸三月廿三日と五月廿九日迄之分
拾壹匁五分広治致持參大年寄へ相渡

一宮市町曲馬未相始候ニ付昨今同心組不差出候併明日ニも可相
始程も難計ニ付御使組加人二人ハ其俣受取置

一 德守宮芝居無別条木戸札百貳拾貳枚又六嘉七百藏届出候

四月十六日 快晴

一 南新座町ニ而上紺屋町灰屋与右衛門抱分町作野田屋分之畑へ昨十三日小銭箱壹ツ捨置有之右銭箱之内相改候処何も無之外ニ添ものも無之候旨尤地方ニ付之義ニ付野田屋孫三郎へ右銭箱預ケ置候旨灰屋与右衛門届書差出先例天明九年三月廿九日南新座町ニ木挽鋸有之郡代所へ伺之上触流し被仰出取計候ニ付今般も右之例ニ取計可然旨郡代所江懸合置候

一 美濃職人町孤独長七御救扶持内貸受取相渡旨大年寄受書差出候

一 元魚町肥後屋吉太郎住屋住龜山屋菊太郎義龜山茂市と相改伊達与兵衛殿へ奉公ニ罷出度人別除願差出承り届ル

一 德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札貳百三拾八枚孫八加人源藏見習
四藏届出候

四月十七日 雨

一 德守宮芝居雨天ニ付延引候段勸進元届出候

四月十八日 晴

一 御用日之処拙者義耳痛ニ付当病断三浦へ頼遣并御用向相頼遣ス

一 德守宮芝居昨日大雨ニ付今日致延引候段勸進元届出候

一 宮脇町西之端関貫損シ相見江御作事普請之場所ニ付同町年寄届書

差出三浦を以大目附へ差出候

一 鍛冶町鍛冶伝五郎妹義堀田相模守殿領分勝南郡新田村忠助方へ養女ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附江差出置候段三浦へ

申来御聞届申達ス

一 伊達頼母先日相渡候一ノ宮市町出役勤書来ル廿三日差出候様手紙ニ而申来

一 一ノ宮市町曲馬明日と相初候段勸進元届出候付警衛差出候様又六江申付候尤今日迄ハ見せ物無之ニ付同心組不差出候

一 於御用所大目附出席ニ而町奉行名代三浦十郎左衛門へ御藏元姫路屋彦兵衛義病身ニ相成候ニ付退役願跡役倅惠三郎へ被仰付被下候様願之通被仰付候間其段可申渡旨御用番被仰渡候旨通用有之依之姫路屋彦兵衛父子尤惠三郎義ハ麻上下着用ニ而召連罷出候様大年寄へ切紙差遣候処彦兵衛義病氣ニ付同役熊野屋文五郎同道罷出小頭部や目附大年寄立会ニ而於玄関左之通申渡早而書付相渡

其方義近来病身ニ罷成役義難相動

姫路屋

無余義趣ニ付願之通御藏元役被差免

彦兵衛

倅惠三郎へ跡役申付候万端入念可相動候

惠三郎江

右早而大年寄へ姫路屋彦兵衛町年寄役願之通差免倅惠三郎へ跡役申付候様ニ申渡候但御藏元役被仰付候上者門松御免之事ニ候此段申迄も無之義ニ者候得共為念申達候由伊達頼母被申聞候由三浦へ通用有之候

右申渡相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 下紺屋町藤原屋多右衛門娘御領分西北条郡広原分嘉右衛門養女ニ

差遣度願書下方引合相濟候旨大年寄申出承り届ル

一 下紺屋町大工伊助借屋住作文吉広原分文右衛門方江為引越度願
下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 戸川町作人清右衛門借屋住茂七并妻倅市之丞右家内三人千本嶋右

衛門長屋へ為引越度人別除願差出承り届ル

一痢疾除御菓三百包計不足申出并支配之組之者へ相渡候分四拾壹包入用ニ付其段三立へ申遣受取大年寄并小頭江相渡候但都合七千三百四拾壹包也

四月十九日 晴

一奈良今并町墨屋伊兵衛手代藤七老人例歳之通筆白粉売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出 六月十二日補

一一ノ宮市町今日ノ曲馬相始候段勸進元届出候ニ付又六定治百藏差出候処右曲馬間違不來候由ニ而無程罷帰相届候尤右之段御徒目附江も相届罷帰候由

一德守宮芝居外小屋迄無別条木戸札三百式拾壹枚新治加人和助届出ル

四月廿日 晴 昼後曇

一大目附伊達頼母ノ申談候義有之候間唯今拙宅被相越候様ニと剪紙來即刻致伺候候処頼母申聞候者昨日同心組一ノ宮江出役候処引取候義御徒目附へ不相届引取候段御徒目附ノ届出候如何様之訳ニ候哉相糺候上被仰聞候様申聞尤昨日者頼母外出ニ而大目附月番貢江頼置候処今朝右之旨貢ノ通用有之由被申聞候仍之拙者即答ニ被仰聞候趣承知仕候何分相糺候上ニ而可及御答候得共昨日同心組私へ届出候ニて曲馬も不参候ニ付其趣御徒目附へ相届引取候段小頭平組共ニ無程罷帰相届候扱々訝敷義ニ奉存候旨及挨拶罷帰リ昨日之出役又六義者今日德守芝居へ致出役居候ニ付呼返し定治百藏右三人呼出相糺候処昨日申出候通相届候無相違例歳帰リニ御徒目附

へ挨拶ニ参候節者白衣ニ相成リ帰り姿ニ相成参候処昨日者届之義

故矢張立付又六者袴ニ而相届立宿へ罷帰リ帰り裝束ニいたし罷帰リ候旨毛頭相違無之旨三人共申候ニ付右之段弁書為相認頼母宅へ罷越右之旨申達候所右弁書も不取揚是茂手紙ニ而可申達存居候

先刻申達候同心組届無之と申候者小須賀貢承り違ニ而同心組届有之候ニ相違無之此方之間違ニ彼是懸面倒候と挨拶有之相濟其旨又六定治百藏へ申達為引取候且又大人計之節者同心組不差出と申

義ハ如何之訳哉と被相尋仰之通大人ニ者不差出先格ニ御座候然ル所町方之芝居大人之節者私存寄ニ而大人之節も差出候得共一ノ宮二ノ宮之芝居等ニ者差出不申候先格也尤大人取計直ニ木戸札売候節者差出候例ニ而御座候旨申達候

一一ノ宮市町曲馬勸進元今日参詣明廿一日ノ大人取計直ニ木戸札売候段届出候ニ付罷出候様又六へ申達候

一德守宮芝居ニ付加人兩人受取居候処芝居も今日切ニ而相濟候間右加人兩人明日ノ差戻候段先刻罷越候節頼母へ相届候

一德守宮社芝居無別条木戸札百三枚今日切ニ而相濟引弘届書右芝居願主并勸進元并神主奥書ニ而寺社役所へ差出候届書立合見届引取候段又六元藏為治届出其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

四月廿一日 晴 晚曇

一一ノ宮市町出役新治百藏差出候処曲馬大人取計候処見物人無之札売出來不申無抛大人計致其外別条無之早々御徒目附へ相届引取候由届出候

一痢疾御菓町方へ相渡候段町々人別調書大年寄差出

四月廿二日 快晴

一痢疾除御薬追々不足申出并家族迄服用共ニ都合七千三百六拾服受
取候事

一安藤丹後殿組野上九郎治渡リ屋敷ニ居候忠兵衛老人林田町川崎屋
林蔵引受度人別人願承リ届ル

一東新町延屋重四郎妹義御領分寺村友八妻ニ差遣度人別除願承
リ届ル

一一ノ宮出役又六嘉七為治無別条引^取候段七半時比届出候

四月廿三日 快晴

一橋本町朝元屋忠蔵借屋住音吉姉去寅十一月十八日出奔仕百日尋申
付候処今以行衛不相知百日余ニ相成候付人別除願御用番御聞濟

ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一桶屋町桶屋市之丞借屋住房崎屋長左衛門役介忠蔵義此度内藤金一

郎殿領分当国之内久米北条郡坪井村才吉方へ養子ニ差遣度人別除

願右同断取計濟

一備前邑久郡川口村百性三治郎弟宗七菅人伏見町小坂屋善兵衛引受

度人別人願右同断取計濟 五月十日住宅証文差出

一先日大目附を被相渡候一ノ宮諸警固勤方書付伊達頼母へ差戻候但

去ル十八日差戻候様申聞候ニ付差戻候

一牢番義右衛門昨日女子致出生血忌引込届有之仍之加人一人被仰付

候様今日大目附へ相達候尤病氣引込と相届置候

一石名元蔵妻妊娠ニ相成候段小頭を先日届有之

一永見殿へ盜賊入込候節捕手三ヶ所へ差出候段於別席与兵衛殿江及

御噂候尤大目附へ者先日申達置候

一公儀被仰出ニ付他領非人愛元□□□非人頭手下ニ相頼来候もの追々
有之候段御用番大目附へ及御噂置候

一大目附伊達頼母を徳守宮芝居相濟候段届者役筋有之候得共無別
条警固引取候届無之旨不審申聞候付先規を寺社芝居警固差出候義

始終共不及御沙^(マ)駄義と相見候得共私ニ相成候而者近例始^マ終り程

ハ御届申候得共警固之訳ハ先例相届不申旨答候処以来者左之通相
届可申并大入ニも同心組差出候様申聞候

一見せ物芝居等大入之日者旧例同心組警衛不差出候処近例町分

地面并徳守宮社地杯之様町統之地所見せ物ニ者拙者心得ニ而

心得ニ而差出候由以後者何れ之地面ニ不限同心組差出し見せ

物ニ候ハ、都而大入之日も同心組差出候様「」聞其段小頭又

六へも相達置候

一寺社芝居ニ而も町方之者引受ニ候得者始メ終リ届有之候得「」

同心組差出并無別条引取候文言無之候間以来者芝居中無別条引

取候段終之日可相届旨被申聞候

一在分鍛冶職之者町分鍛冶頭江属度旨三浦十郎左衛門を被届聞候ニ

付大年寄へ考申付候処何之故障も無之段大年寄申出候付其段三浦

江及返答候其後伺不相濟候由挨拶有之

一南新座町畑地ニ錢箱有之去ル十六日届出郡代所江懸合置候処錢箱

主都體売候由相知候ニ付内分ニ而相渡可然旨郡代所を申来任其意

届書大年寄へ差出候

一大年寄へ差戻置候一ノ宮出役勤書見せ物有無ニ不抱引取候節御

徒目附へ相届候様ニ但書致加人又々大目附る手紙ニ而被相戻候其段又六へ申達候

一一ノ宮出役孫八文藏無別条旨届出候

四月廿四日 晴 昼後雨

一徳守宮芝居役者もの昨日不残致出立候段坪井町長門屋宗兵衛二町

目雄高屋万吉届出候

一郡代所々無宿盗人善藏遂吟味候間牢屋立合申来嘉七差出相渡候処

雨天ニ付吟味無之無程罷帰入牢

一夜前新治元藏廻り候処東新町菊場婚姻ニ付暫見合呉候様内々申出

候間其通取計可遣哉之旨兩人へ伺出承り置

一一ノ宮市町無別条雨天ニ付早々引取候段新治元藏届出ル

四月廿五日 雨

一播州龍野家中昨年贗札板木五ツ右贗札四枚銀札場へ為持遣引渡候

一一ノ宮市町無別条旨又六定治為治届出候今日ハ晴雨「」日々差

出候事也

四月廿六日 晴

一一ノ宮市町無別条引取候段又六嘉七百藏届出候

一一ノ宮市町ニ付参り懸り大坂万藏芝居拾四人連右世話神主へ被相

頼候間彼地へ参り世話仕度願書福渡町名古屋清七差出兼而引合相

濟居候事故社取次不及引合承り届候

四月廿七日 雨

一一ノ宮市町参懸大坂万藏請負人証文名古屋清七差出

一西今町北側ニ而桑屋藤右衛門所持之家屋敷表口三間裏行拾五間但

五步役東隣者井口屋六右衛門西隣ハ岩見屋善四郎右家屋敷外ニ土藏一ヶ所建物不残七ヶ年已前西六月質物ニ書入町内井口屋六右衛門取次ニ而五百目借受候処此度受返し相濟候届書差出承り届ル

一西今町北側ニ而桑屋藤右衛門所持之家屋敷表口三間裏行十五間但

五步役東隣者井口屋六右衛門西隣者岩見屋善四郎右家屋敷代銀札

壹貫百匁ニ町内米屋利介へ売渡願書大年寄差出承り届 同廿九日売

券状出ル

一東新町鋼屋宗兵衛夫婦去ル二月十四日西国順礼罷出往来七十日之

願ニ而罷越候処同行之内足痛仕候ニ付五月中比迄日延追願同役主

置伊右衛門差出承り届

一東新町肥後屋長助娘右同断追願差出承り届ル

一尾州嶋崎神職吉田左右弟子家来上下三人例年之通永見造酒助殿祈

禱ニ罷越候ニ付三十日計之逗留願境町西川屋善「」差出承り届

六月九日届ル

一河原町田中屋喜七妹まつ大橋十太夫殿家来長谷川理右衛門娘「」

差遣度人別除願差出承り届

一一ノ宮市町無別条芝居大入いたし候由暮時過孫八元藏帰届出候

一番賃銀拾四匁五分大年寄差出

四月廿八日 雨

一京橋御門出口左右之白壁并東大番所前材木町万屋才吉東之壁白土

町構歟御作事構歟之義勘定奉行上原彦藏へ尋有之遂吟味候処已前

る町構ニ付其旨及返答候

一宿馬数御定之義大目附る尋有之遂吟味候処不相知候ニ付左之通書

付相認伊達頼母へ差出候

一 森家ノ御目附衆へ御引渡帳面之内ニ

馬三拾疋 是ハ馬扶持被下候

馬拾疋疋 是ハ馬扶持不被下候

右書拔并享保十六亥年十二月

駒馬御定候之御触書御用番被仰渡候写

右両通認差出

一 橋本町後藤屋孫市裏ニ郡代構之地面ニ座敷建居候ニ付何事有之相改候節者右座敷迄流込為相改候間兼而及案内置候段三浦十郎左衛門へ懸合候処承知ニ候

一 永見造酒助殿件之盜賊召捕候手段目明孫兵衛存寄承リ糺候様被相

頼承リ候処矢懸之小太郎小二郎二郎吉当月七日ニ九州之方へ尋旁

ニ参リ并倉敷之孫兵衛も讃岐之方へ尋ニ参居候由御座候間先其俣

ニ而被差置候様申候ニ付其段於御別席造酒助殿へ申上候

一 大目附伊達頼母ノ急度達ニ而者無之候得共今般一ノ宮見せ物「

相止候様被仰付候処若又乍立居候而者如何杯とて數もの等為「

様之義有之候而者以後又着席等之差別も彼是出来可申「今般腰

掛相止候主意不立候様ニ可相成候間左様之義無之様ニ大目附支配

之ものへハ兼而心得被達置候其旨差含宜取計候様ニ被申聞又六へ

申達候

一 一ノ宮出役無別条引取候段又六定治文蔵届出候

四月廿九日 快晴

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 大目附伊達頼母ノ昨日被申聞候者玉置源五兵衛相稼居候綿実油絞

水車一昨年公辺御手作御手絞之御届も有之候事故右ニ被准今般御

引上被成御役人取計ニ被仰付候併是迄被成来之御届ニ候得者今般

御取上ケ「渡候而者公辺江対し不宜候間右之旨急度者難申渡筋

ニ付実ハ御貫被成候得共今般之達ニ者是迄源五兵衛へ取計被仰付

被置有之候処今般役替被仰付候様之振合ニ可相達尤右之通ニ候故

今般相改候義御記録ニも不留候間右之意味合申聞候上左之通演達

可致尤取計済候而も届ニも不及候間勘定奉行と申談宜取計候様被

申聞候ニ付今朝源五兵衛呼出申達候

綿実油絞水車取扱之義

余人江被仰付候委細之義者

勘定奉行中ノ可被相達候間其旨可相得候

右之通勘定奉行上原彦藏と昨日申談候而今朝申渡「以後取計之

義内々承リ候処水車一台之代拾八ノ源五兵衛へ被下水車御引

上被成御役人井口恵左衛門「源藏兩人ニ懸リ被仰付下役久山勘

八組屋忠「兩人ニ被申付候由被申聞候

一 木屋太兵衛母昨日病死仕候段大年寄届出承リ置

一 牢舍人四郎義二廻リ療治相濟跡医師願出候ニ付為遂吟味候処未

相勝候旨申出候付代リ医師申付候

一 牢舍人弥市病氣之段申出医師ニ為相糺候処可葉趣ニ申出候付療治

申付候様大年寄へ申達候

一 郡代三浦士今日一ノ宮出役ニ付留主中マシ被相頼候

一 一ノ宮市町出役新治為治無別条段届出候

一久山勘八義勘定奉行中る水車取計被仰付候御礼罷出候組屋忠三郎も同様罷出候

領分西北条郡山北村佐吉方へ引越度人別離願書大年寄差出承り届候由 四月改入

一西今町玉屋吉右衛門所持之旅籠屋株当卯四月る来ル未之四月迄五ヶ年之間坪井町日野屋山三郎借り受ケ渡世仕度願書大年寄差出承り届

一吹屋町釜屋市郎右衛門妻義二月十四日西国順礼七十日計之願ニ而罷出候処足痛仕候ニ付今十五六日之日延追願書大年寄差出承り届一備前岡山胡明院役介久香都義先月中逗留追願書上置候処昨日罷帰候段大年寄届出候

一一ノ宮市町無別条引取候段孫八百藏見習門藏届出候

五月二日 雨

一一ノ宮市町出役又六嘉七文藏無別条引取候段六半時比届出候

五月三日 雨

一町方一町切ニ夜廻り申付候義三月廿四日相伺申付置候処此節物静ニ付五日夕切ニ而六日る相止候様可申付段御用番御聞濟ニ付大目附へ達置其旨大年寄へ申付候

一綿実油御手作御手絞御届被差出候日限并御尋ニ付御答書被差出候日限并玉置源五兵衛大坂御役所へ御呼出し之日限大目附伊達頼母と相尋候ニ付認差出候

一一ノ宮市町出役又六定治元藏無別条引取候段届出候

五月四日 雨

一牢番儀右衛門血忌と引続引込候所今日る出勤届出候ニ付明日と加人差戻候段手紙ニ而大目附中へ相届候

五月 小

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 斎藤孫右衛門

五月朔 辛亥日 雨

一元魚町檜物屋藤吉家質争論之義有之得心致兼候ニ付小頭又六立会

ニ出呉候様昨日源五兵衛願出今日差出候処納得致候旨又六孫左衛

門届出候

一蔵合孫左衛門義嫡子無之ニ付立石斎兵衛三男貰受智養子ニ仕度旨

内意昨日源五兵衛申出承り置

一船頭町田原屋稻藏借屋住人庄七同人妻同悴亀之丞右家内三人御

一 東新町安永屋武助四国遍路七十日計逗留ニ而明後六日出立願書承
り届 七月五日届届出

一 堺町稻実屋義七郎備前岡山上之町赤穂屋良斎方へ十三日之逗留ニ
而明後六日出立願承り届同十五日帰ル

一 御蔵米五拾八匁五分町米五拾四匁五分

一 札元三船八郎右衛門一ノ宮市町出役無滞引取候段相届候

一 一ノ宮市町今日切ニ付例年之通町方ニ烏散成もの差置申間敷非人
相廻り追払可申触書昨三日差出候

一 一ノ宮出役新治百蔵無別条今日切ニ而引弘見届罷帰候段届出候

一 一ノ宮市中警固差出候所無別条引取今日切ニ而相濟候段大目附へ
手紙ニ而相届候但御用番中へ者不相届先格也

五月五日 晴

一端午登城無之御役懸当日致廻勤候

一 組中麻上下ニ而罷出仕前謁神酒例之通差出但諸事振合上巳之通也

一端午ニ付昼廻り不差出先格也夜廻りハ平日之通差出

一 一ノ宮神主美土路豊前守并芝居勸進元福渡町名古屋清七市町中之
御礼として罷出候

一 今昼後伏見町ニ而舞見物人込之場所ニ而同町平佐屋八十八紙入被
盜取直ニ捕逐吟味候処元備中倉敷大嶋村出生当時人屋ニ居候由嘉
助と申もの、由右同道人大坂者忠左衛門所不相知七五郎右三人ニ
而候処式人ハ罷帰候由目明孫兵衛届出候ニ付繩懸ケ伏見町ニ預ケ
置候様ニ申付置郡代所江懸合右之趣ニ付郡代所へ引渡可申段山田
主膳殿御宅へ罷越伺濟候上夜廻り之組差向郡代所へ引渡候然ル所

今夕之所内分ニ而牢番預ケニ致度旨ニ付直ニ牢番懸合ニ罷出候様
申付ル尤右嘉助義徳守芝屋之節銀札六匁十八匁式拾八匁盜取一ノ
宮市町ニ而も働ニ參候処人少ニ而働出来不申漸々銀札六分盜取候
由及白状候段目明申出候此段御両所江も及噂置候

五月六日 晴

一 郡代所る夜前牢番預ケニ致置候人屋もの嘉助遂吟味候間牢屋立合
差出呉候様申来昼廻り嘉七為治差向相渡候

一 中之町小山屋与三右衛門宿屋株之内ニ四拾九年以前寛延元戊辰年
迄来候京都三条通油小路西へ入町柏屋太兵衛と申者呉服并帽子卸
売ニ来候所其以來中絶仕居候ニ付右之跡へ今般播州龍野下紺屋町
筋原屋正蔵と申もの小間物并白粉売ニ參度申候ニ付右代リニ御当

所へ御出入為仕度願書小山屋与三右衛門差出遂吟味候処其砌之記
録等も役所ニ無之相分り不申何れ四拾九年も中絶之処右代りと申
も如何ニ付承リ難届旨申達右願書差戻候

一 種油壹升ニ付四匁三分売ニ去寅十二月十五日相願是迄商売仕候処
此節新種入込候ニ付今日る四匁売ニ仕度旨届書差出承り届種直段
付九日之所ニ記置候

一 西今町南側ニ而京屋伝兵衛所持之家屋敷表口七間裏行十五間但八
步役也西隣ハ黄金屋つま東隣者小山屋紋吉也右家屋敷ニ土藏建物
不残外ニ空地東西七間南北九間相添四年已前子二月御願申上丑正
月切借物ニ書入元魚町福増屋源兵衛取次ニ而銀札式貫五百匁借用
仕候処此度元利相濟受返し相濟候段届書差出承り届ル
一 郡代所る夜前牢番預ケニ致置候人屋もの嘉助今日入牢手形郡代所

る相廻り役所手形ニ認替立合文蔵差出入牢取計候

五月七日 少雨

一 二町目小倉屋茂兵衛金毘羅參詣往来十日ニ而明八日出立願差出

同十六日婦ル

一 出羽守様来ル十三日院庄御休御閑札今日来候段郡代所ニ通用有之候

一 出羽守様御通行ニ付例歳候之通町触差出候

五月八日 晴

一 出羽守様御通行之御御使者取遣り御断ニ付当年ノ御使者取遣り相止奉文組使ニ相成候間御使者宿不及申付右奉札院庄御茶屋守取次候様被仰付置候得共向方ニ者不存義故何方へ持參可致程も難計候

間誰人ニ而も向方ノ相頼候ハ、受取小須賀貢宅へ差急相届候様ニ夫々懸り之者へ相達置候様大目附伊達頼母被申達候ニ付右之趣御本陣問屋是迄之御使者宿并夫々懸り之者へ無間違相心得居候様書付を以大年寄へ申渡候尤向方様御組使之者何方へ可差出哉と相尋候ハ、院庄御休ニ而御茶屋守へ被相渡候様相答候ニ而可然旨小須賀貢被申聞候然共爰元ニ而差出度趣ニ申候ハ、誰人ニ而も受取無違滞貢宅へ差出候様貢被申聞候右ニ付其趣組中も相心得居可然旨小頭又六へも申渡候

一 京橋御門出口之左右町家及大破至ニ而見苦候間出羽守様御通行迄ニ可成丈急ニ取繕白土付可申并東大番所前万屋才吉家東側白土落見苦敷候間是同様取繕申付候様大目附伊達頼母被申聞其旨大年寄へ即刻申付候

一 大目附伊達頼母ノ二階町堺町京町伏見町材木町表之方御堀石垣ニ

本草大分相見候是迄町方ノ取来之由尤其節作事杖突老人差出候事ニ候間出羽守様御通行以前刈取候様御申付可有之候尤已来者格別おごり不申内心付取候様御申付可有之候と手紙ニ而申来即刻大年寄へ申付候

一 出羽守様御通行ニ付御道見分小頭部屋目附大年寄差出候処差而申分も無之少々之破損ハ直ニ申付候由川端又六三船新治玉置源五兵衛届出候尤溝見分兼相動候

一 牢舍人新吉病氣ニ付医師願出相糺候様大年寄へ申付候処吉武修格ニ可葉事之由様躰書差出候付療治申付候様大年寄へ申付候

一 出羽守様来ル十三日御通行ニ付例之通出役可仕旨御用所へ罷出御用番中へ申達大目附中へも右同断ニ付御貸人馬之義申達置候

一 博奕吟味ニ出番夜廻り嘉七百蔵定治文蔵四時比ノ更廻り差出八時過罷歸り所々流込逐吟味候処心懸之義無之旨申出候

五月九日 快晴

一 出羽守様人馬御先触左之通到来問屋ノ写差出

以廻状致絡達候出雲^(此縁にて取立)少將殿為帰国来ル廿二日江戸表被致発駕候依之継馬三拾九疋継人足式百三拾人駅々無間違御手大目頼人存候尤

下札ニ人足付方手配帳面之通仕来を以人馬相究如此先触仕出

候処人足付方相増し駅も有之候ハ、其^増人足丈ケ増入用ニ相成候間其心得を以人足集置無滞御手合頼存候

西之宮ノ久世迄之内者継馬式拾五疋継人足百八拾人入用ニ候間則人馬望之人別板札ニ相記是迄之通銘々江相渡置候

下札ニ明石津山両駅之分者継馬三拾九疋御手合頼人存候

尤馬之分者一番る三拾九番迄致番付置候仍人足手配帳并印鑑遣し候且又右帳面之外入用之分ハ例年之通紙切手仕し候間左様御承知可有之候右手配帳一冊印鑑一枚宛御留置御順達可有之候恐惶謹言

四月十八日 人馬方 平井幸三郎 桑原嘉市 片山良平

滝 定七 藤岡文治

武州品川駅る東海道通り伏見る大坂通り伯州溝口駅迄

宿々問屋中

追給至時人馬共少々余分之儀も可有之候間其節御手合頼入存候且又日勢多ク者宮る桑名江直渡候間万場る神守迄之分者印鑑計一枚宛御留置御順達可有之候以上

右御先触御用番中江差出大目附へ者右之段申達御先触写御用番中る下り候ハ、其節可差出旨手紙ニ而申達置候

一右ニ付宿馬拾七疋不足ニ付寄セ馬之義願出候付拾七疋寄セ馬御取計被下候様郡代所申遣候承知ニ候并院庄兼田川御船之義郡代所

江尋遣候所両方共橋御通行ニ而相濟御船者入不申候旨申来候

一菜種直段当時八拾貳匁位仕候付種油四匁売ニ仕候由直段書差出尤去寅十二月四匁三分売ニ仕候節者九拾七八匁位之相場也

一鍛冶町鍛冶喜三太茂四郎万吉音四郎伊勢參宮四十日計之逗留ニ而明十日出立願書出ル六月十六日帰ル

一越中富山船橋町松井屋源兵衛悻伊八同人手代嘉七嘉助右三人例年之通反魂丹売ニ来候旨京町美濃屋平五郎宿切手差出 翌年二月十六日帰

一溝見分昨今申付候処無別条旨小頭又六部屋目附孫八大年寄孫左衛

門届出候

一牢舎人嘉助義郡代所る吟味ニ付呼出度申来立合百藏差出為相渡候処暮方被差戻新治差出入牢取計尤夜ニ入候間今夕之処者別ニ入明日昼廻りる元之処へ入候様ニ申付ル

一三町目浜野屋源五郎備前岡山久山町松原屋源兵衛方へ十日計之逗留ニ而明十日出立願書承り届

一ノ宮へ来候曲馬徳守宮社地ニおゐて三日興行□とて取集度願書船頭町中村屋政兵衛差出郡代寺社取次江も遂内談未夏芝居之有無取調出来不申候得共当年計之義ニ候ハ、十五日過ハ郷中之故障ニて不相成旨ニ付大目附江も及内談候処右曲馬者一ト通り之曲馬業計之義ニ而も無之淨瑠璃三味線等も有之申さハ曲馬芝居と申様之振合ニ候得者花ニ者相成間敷趣ニ付其段申聞候所左候ハ、勸進曲馬ニ仕度申出候ニ付見せ物ニ相成候得者此度者寺社方る願之順ニ付寺社方へ相願候様ニ申達願書差戻尚又右之趣大目附伊達頼母へ申達置候

五月十日 晴

一出羽守様御先触主膳殿る御差戻ニ付大目附へ手紙ニ而差出

一嶋崎周栄役介水嶋養俊と申者玉置源五兵衛引受町方ニ差置申度人別入願差出承り届ル

一遊行上人来着一件帳二冊大目附伊達頼母る致付札被差戻右付札答書いたし差出候来ニ申来

五月十一日 晴

一出羽守様御通行ニ付左之書付大年寄差出其余之義ハ先例之通申付

候段申出候

五月十二日 雨

一 御本陣 玉置源五兵衛 御本陣詰 櫻野屋茂一郎 伊勢屋長右衛門 組屋忠三郎 式步中買三人

一 御奉行所御立宿 山本三右衛門 御下宿 林田町

一 御徒目附下目附立宿 東新町日笠屋市郎兵衛

一 御先弘中立宿 東新町松屋太兵衛

一 御持組中立宿 安岡町かぢ長右衛門

一 一人馬問屋出役 豊屋喜左衛門 式步中買三人

一 在宿医師 高島生斎 内海察州

一 前夕御泊聞合 才治 川辺ら註進 石右衛門 菊右衛門

玉林ら註進 長右衛門

一出羽守様御通用ニ付御徒目附下目附立宿名面付大目附中へ手紙ニ

而差出候

一 西今町大工屋久治伊勢参宮三十五日計之逗留ニ而十一日出立之願

書昨日差出候 六月十六日補ル

一 京町福吉屋宇助四国遍路六十日之願ニ而三月五日出立之所同行之

人足痛人有之候ニ付当月下旬迄日延願差出承り届

一 当役書役大脇新左衛門妹新魚町鳥屋与三兵衛養女ニ貰受度人別人

願差出承り届ル

一 宮川大橋ら北ニ藁くろ余程有之由申出候出羽守様御通行之砌御目障ニも可有之引取候様右最寄へ申達候様大目附中ら手紙ニ而申来

大年寄へ申付ル尤他之支配所他之支配のものニ而も有之候ハ、申

出候様申達ス

一 宮川大橋ら北ニ有之候藁くろ取片着申付置候所町分のものニも又ハ弓之町辺之者又者郡代構之者之も有之右主々へ致通用郡代所も庄屋も出候由今朝迄ニ取片着相济候段大年寄届出候

一 京町御門口両側共ニ繕出来致候段大年寄ら夜前届出候

一 大年寄共歳年始献上もの代式百疋小勘者へ相廻候所受取候返書

中嶋彦左衛門神村平兵衛ら来り大年寄へ相济為見候

一出羽守様御通行ニ付立宿絡兼而申渡候通香物湯漬ニ限り候様夫々

江敵敷尚又申付候様大年寄へ申達候

一出羽守様御通行ニ付同心組役割小頭ら差出

御先弘 川端又六 三船孫八 中山百蔵

夜廻 萩野嘉七 江原文蔵

一 ノ宮同心組出役昼弁当代小頭ら書付差出式拾式匁二分相渡

一 京町御門口両側 井東大番所前繕出来申出候付昼廻り定治文蔵

見分申付候

一 東新町ニ而南側嶋屋十兵衛家屋敷表口九間裏行拾七間但一軒壹歩

役也東隣者肥後屋長助西隣ハ茂渡藤右衛門也右家屋敷之内西之

方ニ而表口六間裏行拾七間 井裏ニ而式間ニ三間之土蔵壹ヶ所式間ニ

式間半之土蔵一ヶ所都合式ヶ所共書添御役五歩添西新町富野屋貞

七取次ニ而質物ニ書入来辰正月切巻ヶ月巻歩之利足ニ而銀札三貫

五百目借用仕度願書差出承り届 同十七日本証文差出

一元魚町相生屋清助持来候古道具取売株材木町近江屋太助へ相讓度願書差出承り届ル

一 繰綿掛改式歩中買共不残へ申付置候処幼年故障ニ付断之ものも以後左之通順番ニ相勤候由番割書付左之通差出

(古川屋太兵衛) (水本屋安兵衛) (水本屋五兵衛)
(井口屋六右衛門) (小田原屋幸助) (藁屋佐助)

(板屋源藏) (伏見屋茂七) (笹屋友治) (吹屋次左衛門)
(尾高屋善七) (繰屋善兵衛) (肥後屋宇吉) (古川屋忠兵衛)

(古川屋忠五郎) (甲屋幸助) (大黒屋藤吉)
(福吉屋乙右衛門) (今勢屋勢平) (江見屋伝七)

勝手ニ付立合断生駒屋次右衛門 右同断原屋喜兵衛

幼年 高松屋藤吉 右同断備前屋倉治

死後一家引受富屋蔵治

一金毘羅參詣三月六日当町止宿旅人百九拾式人右頭錢三百八拾四文旅籠屋頭笹屋友治受取候由書付差出候

一出羽守様今申刻土居駅江御止宿被成明十三日丑刻土居御出立之御供触承り遠見之者土居右罷帰候段曉寅之中刻註進届出候

五月十三日 雨

一出羽守様御通行ニ付五半時出宅林田町山本三右衛門方へ参り居九時過御通被成例之白杵之横丁江罷出御目見江仕御駕籠脇を松仙千代様町御奉行増見右門殿と披露有之早而先格之通御目録金貳百疋被下候尤右受取ニ名札差出済已前之様ニ不及受取候供人左之通

口之者 馬嘉七 草り取 槍持合羽籠
同 馬文蔵 宅

引取懸ヶ御用番山田主膳殿御家江罷越出羽守様町分無御滞御通行相濟候段相届大目附江者手紙ニ而相届候尤安岡町右町分御通行相

濟候註進承り候而引取候事

御先扨同心組 三百文 小頭 二人 問屋詰同心組 銀貳兩ツ、貳百文ツ、平二人 二人

右之通先格之通被下置候旨届出候追而大目附江可相届事

一出羽守様御通行人馬貳百九拾五人馬四拾疋差出候段問屋詰同心組書付取差出候

一 右ニ付問屋入用人足七百九拾六匁五分有之候由孫左衛門喜左衛門同道ニ而届出候

一 高島生齋義出羽守様御通行ニ付在宿被仰付候処無滞御通行相濟候付届出候其外出役并御本陣并奉行立宿等何れも届出候

一 牢舎人弥市円四郎義服葉今日ニ而二廻り相濟円四郎義ハ最早休葉可仕弥市義ハ未相勝候ニ付代リ医願出大年寄江相糺候様申付候処難捨置旨吉武祐三容躰書差出候ニ付弥市義ハ療治申付候様大年寄へ申達候

一 二町目竹本屋源吉義只今迄真言宗当国之内英田郡真木山長福寺末中西方院旦那候処遠方ニ付此度同宗津山西寺町聖徳寺江替仕度願書差出宗旨奉行赤見類助へ懸合置候御聞届相濟候段通用有之候ニ付聞届候段大年寄へ申達候但家内夫婦二人也

一 御年寄黒田要人殿今日御役御免被成候
五月十四日 晴

一 雲州御女中夜前止宿ニ相成二町目福永屋藤助ニ宿申付候由大年寄申聞候

一出羽守様昨日御通行之砌人足共不残ニ有之候処人馬問屋株之外致出精雇出御間を合候間御賞申渡候而も可然旨孫左衛門喜左衛門申

出候付宜取計候様申渡置候処今日取計候由申出候

一京町田原屋伊兵衛商売用ニ而備後福山大黒町井堀屋宇兵衛方へ三十五日計之逗留ニ而明十五日出立願書出

一三町目太刀屋久治義商用ニ付因州鳥取川端四町目但馬屋喜右衛門方へ廿日計之逗留ニ而明後十六日出立之願書大年寄共聞届候旨差出ス

五月十五日 雨

一貳町目竹本屋源吉今般寺替仕聖徳寺日那ニ相成候ニ相違無之手形聖徳寺差出候由大年寄差出遂一見差戻候

五月十六日 快晴

一上紺屋町渡部玄端娘義上河原村友右衛門妻ニ差遣度人別除願差出承り届ル

五月十七日 晴

五月十八日 快晴

一大久保加賀守殿領分当国之内久米北条郡山手公文村佐太郎娘十四年已前寅十二月三日草津屋唐五郎祖母養女ニ引受置候処今般離縁仕差戻度人別除願差出御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候 六月廿四日住宅証文差出

一土岐山城守殿領分当国之内英田郡藤生村銀左衛門弟茂兵衛夫婦二人引受度人別入願宮脇町阿賀屋助五郎家守松岡屋善藏願書差出右同断取計濟 同廿四日住宅証文差出

一出羽守様御通行ニ付京橋御門出口橋詰之引込尻之左右之壁御作事ニ付土付候ニ付町構之処故如何之事哉と大年寄ノ伺出候ニ付勘定奉行へ懸合之上大目附江申達候処伊達頼母ノ大目附勘定奉行之間

ニ而達聞之間違ニ而右之通取来候由全間違ニ而取計候事故以後ハ矢張町構之旨ニ候間其旨申達候様被申聞候ニ付大年寄へ申達候

一遊行来着取計調帳頼母ノ先日不審被申聞候ニ付大年寄へ答書致さセ今日頼母へ差出候

一遊行役付之もの先年相勤候ものと又不案内之者義内談被申聞如何様ニも可相成段申達置候但頼母へ

一正徳年中ニ遊行上人来候年月認出候様被申聞認差出候但頼母へ差出候

一出羽守様御往来荷物公義御定とハ大ニ致相違駕籠ニ而都而指捧挾箱も両三人も懸リ候様成荷物も間々有之年々入用多ニ相成拙者御役初ノ毎々申出殊ニ先年者雲州様江之願書相認差出添簡願出候得共御間柄之義甚如何ニも存拙者場合切ニ而押置候得共昨年御止宿之節も甚我俣御失礼之踏立等も有之次第ニ入増候様之趣ニ相聞既今年者九百匁計之間屋入用ニ候得者拙者一存ニ而押置候も如何ニ付大目附へ遂内談品ニ寄御用番中へ可及御噂と存大目附松岡治部助へ於役所申達候所何分相考候上ニ而尚又可申達旨挨拶有之候尤治部助存寄も拙者同様ニ而難被申遣もの先ハ是迄之姿ニ而不被差置者相成間敷哉と申様之口振ニ相聞候

一二階町ノ材木町迄裏御堀端石垣當時上ノ出来候ニ付却而下ニ而者迷惑仕候趣ニ候間得と相調候上ニ而又々可申立旨内々松岡治部助へ相咄置候

一徳守宮社地ニおゐて曲馬興行仕度願惣社正勸寺ノ差出候由右世話役之義正勸寺ノ被相頼候由船頭町中村屋政兵衛願書差出預リ置候

処寺社取次後藤郷助ら今日右願書可差出所寺社奉行伊達頼母ら安永三年被仰出も有之候通以後者夏芝居者都而御許容不被成旨今日御評義相決候間以來右之通相心得候様達有之候旨通用有之候ニ付右願書大年寄へ差戻候

一 牢浚申付昼廻り嘉七為治差向候処無別条旨届出候

一 玉置源五兵衛義裏御堀端石垣之上ニ四間斗之土蔵建候由兼而御届申候義ニ而者無之候得共近来石垣等之沙駄(ツツ)も有之候間及噂置候由申聞右等之届以前ら無之事故勝手次第と及挨拶候

五月十九日 雨

五月廿日 曇 昼後晴

一 中山下蔵義田中屋嘉七妹妻ニ仕度小頭ら願出承り届ル

一 西今町南側ニ而京屋伝兵衛所持之家屋敷表口七間裏行十五間但五歩五厘役西隣者黄金屋つま東隣者小山屋紋吉右之家屋敷土蔵建物不残外ニ空地東西七間南北九間四年已前子二月丑ノ正月切ニ質物

ニ元魚町福増屋源兵衛取次ニ而貳貫五百匁借用仕候処今般元利返済受返し相濟候段届書差出承り出ル

一 右家屋敷八元来天明元辛丑年十月町内桑屋安右衛門家屋敷南側ニ而表口五間裏行十五間御役五歩五厘并土蔵一ヶ所建物不残東西五間六尺南北九間之空地共貳貫五百目ニ私方へ買取其後天明五乙巳年五月右安右衛門西隣黄金屋和右衛門家屋敷表口貳間裏行十五間御役貳歩五厘外ニ東西貳間三尺貳寸南北八間之空地共四百三拾目ニ私方へ買取候右両度ニ買取候家屋敷都合表口七間裏行十五間御役八歩ニ相成候処其後寛政四壬子年二月元魚町福増屋源兵衛取

次ニ而質物書入候節最初安右衛門ら買取候家役之通ニ心得違五歩五厘役と書上空地も安右衛門ら買取候処東西五間五尺五寸ニ而和右衛門ら買添之分共都合八間貳尺四寸ニ御座候先達而安右衛門心得違五間六尺と書上同南北も上下共前々ら九間と書上來候処和右衛門心得違ニ而八間と書上重々不調法仕候段奉恐入候此已後急度相札間違之義無御座候様仕可申候間此段宜被仰上可被下候旨右一連之印形ニ而断書差出依之

町年寄家主組合不残呼出度々不調之義申上不届之義以来急度入念候様大年寄於宅呵置候様大年寄へ申付候

一 西今町南側ニ而京屋伝兵衛所持之家屋敷表口七間裏行十五間御役八歩也西隣ハ黄金屋つま東隣者小山屋紋吉也右家屋敷之内東方ニ而表口四間裏行拾五間土蔵壹ヶ所建物不残御役四歩五厘ニ其外表通り東西四間南北九間之空地差添代銀札貳貫貳百目ニ相極上紺屋町加登屋庄吉江壳渡度願書差出承り届并同日壳券状差出

五月廿一日 晴

一 信州木曾筑摩郡敷原宿古屋善吉例歳之通木櫛売ニ二月十七日来候処昨日罷帰候段中之町小山屋与三右衛門ら帰届有之着之節届有之由ニ者申候得共不相見候間爰ニ記置候 三月十日米

五月廿二日 快晴

一 小性町年寄屋根屋嘉助致病死候段大年寄届出候
一 二町目小倉屋茂兵衛借屋住ニ葉屋林吉義今般中村林助と相改小須賀一学殿江出入奉公仕度願書差出承り届ル

五月廿三日 晴

一堀田相模守殿領分播州佐用郡鶴谷村又右衛門忰并藏夫婦二人坪井町若本屋新助引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届之旨大年寄へ申達候 六月五日住宅証文差出

一伏見町米田屋勘七借屋住備中屋庄助去寅十二月廿六日出奔当正月届出百日尋申付候処今以行衛不相知最早百日余ニも相成候ニ付除帳願差出并残置候荒道具五十三品有之候旨書付差出右之内脇差員杓子等者預りもの、由尤積金買懸等数多有之借金方も願書差出候得共証文等有之ものハ一ツも無之故積金方可引渡筋ニ而者先格無之併上江対し格別御科之有之ものニ而も無之候得者關所ニ取計

ニも甚以不便成ル事ニ存下ニ而之計ニ而右荒道具積金方へ配分候様ニ申付度先例遂吟味候処右等之取計之例無之都而証文無之積金ハ不及取上家屋數諸道具等迄關所ニ取計候先格ニ付不及止事預り候品者其主右証文取置相返し其外之荒道具ハ先格之通關所ニ可申付旨相伺候御用番御聞濟ニ付右離帳願書大目附へ差出置右積金方

差出候願書無取上段申達差戻預り之品程ハ遂吟味証文取置相渡シ其外之諸道具ハ關所ニ取計候様大年寄へ申付ル

一土岐美濃守殿領分当国英田郡福本村宇七郎忰惣兵衛義十八年巳前戊年三月二丁目小倉屋茂兵衛借屋住綿屋藤吉養子ニ仕候処不縁ニ付今般離縁仕度人別除願差出 差出 右之通取計濟

一中之町平福屋勘兵衛借屋家守松屋治助妹当正月廿五日不斗罷出罷婦不申御届申上候処百日尋被仰付相尋候へ共今以行衛相知不申最早百日余ニも相成候間除帳願書差出右同断取計濟

一魚町油屋与三兵衛役介高島道友義当二月る行衛相知不申其旨先

達而届出百日尋申付置候処所々相尋候得共今以行衛相知不申最早百日余ニも相成候間除帳仕度願書差出御用番主膳殿へ相伺候処与兵衛る彼義「妻子も残置候事故御用ニも可相立ものニも候ハ、思慮も可有之もの哉と被仰聞候付右之通妻子も残置外科工者之旨取沙駄(ツ)も有之殊ニ乍御内々御先代様御療治も被仰付候もの、義ニ候得者御帰城も被遊候得者此節者御目見医師ニも可被仰付ものニ御座候右之思召も御座候ハ、私場合ニ而差押今一応も相尋候様ニ可申付哉と申上候処其旨取計候様主膳殿被仰聞候ニ付其旨大年寄へ申付ル

一宗旨奉行赤見類助る町中宗門改帳案詞老冊并添証文案詞老本例歳之通被相廻大年寄へ相渡候

一両大橋ニ而涼候義停止并町方ニ而涼候共行義正敷いたし候様ニ例年之通町触差出候

一綿実油残有之候ニ付壹斗ニ付三拾三匁ニ売出候旨玉置源五兵衛る届書差出候

一牢舎新吉療治二廻り相濟跡医師願出候付相糺候様大年寄へ申付候処北村季斎る容鉢書差出療治申付候様ニ大年寄へ申遣ス

五月廿四日 晴

五月廿五日 曇

一牢舎人善藏呼出遂吟味候間牢屋立合出候様郡代所る申来五ツ半時出番孫八差向相渡候処八半時比吟味相濟入牢申来昼廻り新治為治立合申付候

五月廿六日 雨 昼後晴

五月廿七日 快晴

一西新町南側ニ而飯綱屋源兵衛所持之家屋敷表口五間裏行拾七間立^(マ)
物家財不殘但シ土手切御役ハ壹軒役也東隣者木和屋源兵衛西隣者
同人願主之宅也右家屋敷倅同町飯綱屋万藏へ相譲リ申度願書差出
承り届 六月八日願証文差出

一元魚町油屋与三兵衛役介高島道友義去ル二月行方不相知百日尋
被仰付候処最早百日余ニ相成候得共行方不相知候間今百日之日延
奉願度願書差出承り届ル

一牢舍人弥市療治今日切ニ而二廻り相濟牢番之代之医師願出候得共
少しハ快方ニ而先休藥為仕候而も不苦旨吉武修格届出候段大年寄
申出候付休藥申付候

五月廿八日 晴 夜雷雨

一備前赤坂郡山口村百性文助と申もの老人茅町芳屋平次引受度人別
入願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候
六月七日住宅証文出ス

一玉置源五兵衛義裏御堀端ニ建物仕度候処壹間半計石垣損居候ニ付
御繕可被下并御堀江足代下度願書差出大目附中へ差出候処承知ニ
候其段月番江申達ス

一徳守宮支配所新嶋屋弥助役介宇助と申もの老人茅町玉屋長右衛門
引受度人別人願差上寺社取次後藤郷助へ懸合濟承り届ル
一番賃銀拾四匁五分大年寄差出

五月廿九日 雨

一関貫番賃銀相渡候

一上紺屋町南側ニ而今尾屋栄藏家屋敷表口三間半裏行拾七間但壹軒
役也^(貼紙訂正)東隣ハ瀧屋多吉西隣者作人忠藏也右之内表口三間半裏行九
間代銀札式百五拾匁ニ相極同町作人善七江壳渡度願書差出承り届
六月七日壳券状差出

一奈良今井町岡嶋屋忠兵衛倅庄右衛門一人例年之通筆并刀脇差新鞘
卸売来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出^{十一月朔日届届}
一撰州有馬辻堂茂兵衛老人例年之通筆白粉卸売来候段中町甲屋幸助
宿切手差出

一播州網干余子浜菊屋弥七郎倅源七郎一人例年之通小間もの卸売来
候段右同人宿切手差出

一播州網干新在家伊部屋清六一人例年之通塩物并鯉節卸売来候段右
同人宿切手差出

六月大

月番

御家老 永見造酒助殿
御年寄 伊達与兵衛殿
大目附 佐々木右近

大年寄 藏合孫左衛門

六月朔庚亥日 晴

一大目附松岡治部助る昨晚談度義有之候間急渡參候様ニ手紙ニ而申
来即刻相越候処江戸表る差込飛脚到来左之御書付之通御勘定曲淵
甲斐守殿る御留主居御呼出ニ而御渡被成候旨申来依之御用所江伺
置未伺中ニ者有之候得共別義可有之義ニ而も無之右差出候町人手
当も可有之義ニ候間早々内達候由被申聞候ニ付右町人手当之義も
遂内談候右御書付左之通

△五月十八日御留主居御呼出ニ而曲淵甲斐守殿御渡被成候御書
付之写

脇坂淡路守御預り於役所無宿幸助附火并盗いたし候一件ニ引合
候御領分作州津山安岡町菱屋太助打合不致吟味候而者難相分旨
御預所役人申聞候ニ付右太助其外ニも引合候もの有之候ハ、呼
出御家来為立合吟味誥申聞候様御預所役人江相達候間右役人
懸合次第引合之者其被差出吟味之節御家来立会有之候様存候

卯五月

△右ニ付夜分大年寄孫右衛門呼出右之趣ニ付安岡町菱屋太助義急度
組合預ケ申付公辺懸合之義ニ候間別而諸事入念預ケ可申付旨申渡
候処後刻孫右衛門罷出右太助義兼々病氣之処先月十日死去仕男女
共子共一人茂無之當時者右太助後家かね五十四才老人罷在候計ニ御
座候由右ニ付後家呼出候処是又病氣之断ニ付代人差出右後家かね
義急度預ケ之段申渡候旨孫右衛門届出候

△今早朝松岡治部助る昨晚御内達申候通伺濟候間弥其旨取計候様手

紙ニ而申来

△右菱屋太助死去ニ付後家預ケ申付置候旨并右ニ付太助後家ニ而も
可差出哉と龍野役人江今昼立ニ而飛脚可差立旨松岡治部助へ遂
内談候

△右ニ付御用番与兵衛殿江罷越一々申達龍野表江差遣候不案相認相
伺候処何之御存寄も無之宜取計候様并江戸表江も早々可申達筋ニ
候得者是又早々差立候様大目附中へ委細拙者る懸合候通取計候様
可申達置候間拙者る伝達候様ニ被申聞即刻大目附佐々木右近へ罷
越右之趣委細懸合江戸表へ被申達候ハ、拙者より今日龍野へ申達
候書面之写可差出候間江戸表へ被相廻候様ニ懸合濟

△龍野役人江申達候書面大意左之通委細者扣有之

曲淵甲斐守殿る別紙之通御達有之旨申来候処右太助義ハ先月
十日致病死悴等も無之右後家一人有之而已ニ而御座候間御呼
出も有之候ハ、右後家ニ而も差出可申哉此段御相談旁可得御
意右後家義も乍病氣も急度預ケ申付置候段申遣候

△右飛脚之者使組山本八十助来午刻過差出

△右書簡写大目附佐々木右近江手紙ニ而差出候

△龍野役人る右菱屋差出候様申来候ハ、先例之通御徒目附老人同心
組老人差添町役之ものハ向方る申来次第差遣可申候間兼而被御達
置被下候様并御徒目附山田新三郎可然之旨与兵衛殿へ申達大目附
江も相達濟右ニ付同心組石名元藏差向道々候間其旨兼而内意申達
置候様小頭又六へ申付ル

△右菱屋義當時主人無之故親類爭論之義も有之由相聞候付右懸合不

相濟内ハ組合年寄も別而入念諸道具等ニ至迄相動候様之義決而
不相成候間随分大切ニ預り可申并右懸合ニ相成候質物ハ別而入念
年寄組合立合相改置候様藏合孫左衛門へ申付ル

△右曲淵甲斐守殿御達書之趣附火引合と有之候得者如何「様ニも有
之候得共去ル丑」十一月右盜賊盜もの菱屋質物取居候由下ニ而

内々懸合ニ相成候由ニ而去寅閏十一月菱屋太助左之通届書差出

候得共其節致方も無之義不吟味之質物取候段叱置追而相濟候上申
付も可有之候得共先下方ニ而随分内濟取扱ニ取計可申其内ハ右質

物大切ニ預り可申旨大年寄へ申聞置候嘸右質物之義と必定被察候
旨与兵衛殿右近治部助へも相咄右届書為覚申置候

△一去ル丑十一月八日中北村丹藏と申参候而質物持参仕候而銀札
借呉候様ニ申候処面躰ハ一向存不申候得共中北村丹藏と申名

前ハ兼而承及居候故無何心銀札三拾八匁并手札認添相渡右持
参仕候代呂物預り置申候其色品つむきわた人別紙之通りニ

御座候然ル所当月上旬之比目明孫兵衛私宅へ参候而盜物之義
ニ付質屋中相尋候由申候ニ付私帳面相改見申候所右中北村丹

藏置主之質物右相尋候盜物ニ相違無御座候と孫兵衛申候ニ付
乍恐御届奉申上候右丹藏義者私方ニ質物置候覚無之由申候何

分面躰も存不申不慥成質物取置候処不調法之段奉恐入候此段
宜敷様被仰上可被下候以上

寛政六甲寅年閏十一月廿五日 安岡町 菱屋多助

一下紺屋町長江長庵備前西大寺油屋弥三郎方四十日計之逗留ニ而明

二日出立願書大年寄聞届之上朝庵持参差出

一龍野御預所役人関口作兵衛三沢清太夫左飛脚来右盜賊引合吟味ニ
付安岡町菱屋太助義来ル九日差出候様ニ暮方申来右来書御用番中
へ差出今昼此方左申遣候通菱屋太助義致死去候間右後家ニ而も御
報次第差出可申哉と可及返書候旨相伺候処御存寄無之旨御申越ニ
付其旨及返書候

六月二日 雨

一下紺屋町文珠院跡ニ御座候祇園会式ニ付例年之通来ル七日右十四
日迄御戸開除疫祈禱修行仕度願書差出大年寄先出先格寺社取次引
合之上承り届候事ニ候得共例年定り候義ニ付以後者異変之義も無
之候ハ、無引合承り届候様ニ可致旨去ル廿八日寺社取次後藏郷助
と対談致置候ニ付承り届ル以来右之通ニ可得心候事但常法院願主
也

一二階町常法院兼住所不動堂并鎮守痘瘡守護神燈明之施主御座候ニ
付例年之通来ル七日右十四日迄除疫為祈禱之護摩修行仕度願出右
同断ニ付承り置ル

一下紺屋町万性院も例歳金毘羅江祈禱之修行願書差出来候処金毘
羅を高石垣拜領地相移候ニ付今年右願書（祝詞並）不差出候

一中之町平福屋勤兵衛家守松屋治助実父市郎兵衛義四国遍路百日計
之逗留ニ付来ル七日出立願書大年寄差出承り届 七月廿六日届

一二階町豊屋喜左衛門家守新吉借屋住人弥兵衛義四国遍路百日計

逗留ニ而来ル五日出立願書大年寄差出承り届ル 七月十八日届

一備前岡山森下町浅田屋彦十郎と申者用事有之罷越候ニ付当月中逗

留為仕度願書船頭町中村屋政兵衛差出大年寄も内々申出候者淨瑠璃語之由併慥成ものニ者有之候間先一応ハ承り届候而も可然哉之趣ニ付承り届ル追而追願等も差出候ハ、時宜ニ寄可及思慮事

一同心組石名元藏義佐十郎と改号仕度口上書差出承り届ル

一牢舎人嘉助へ牢越ニ相尋候義有之候ニ付郡代所不代差遣度案内三浦十郎左衛門有之旧例太田定右衛門洪帳ニ付郡代所牢越ニ糾之節ハ組差出ニ不及と有之傍書ニ近例立合差出例と有之ニ付又六新治江も問糺候処立合ニ出候義無之旨申候ニ付任旧例立合不差出致承知候旨及返答

六月三日 曇

五月改八

一脇坂淡路守御預り所当国勝南郡飯岡村佐七并妻娘并悻三人右家内

六人橋本町松田屋佐助引受度人別人願差出御用番御濟ニ付大目附

へ差出置御聞届申達候 七月四日佳宅 証文差出

一二階町山手屋弥太郎娘去丑十二月脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡飯岡村丈妻ニ差遣置候処不縁ニ付致離縁罷帰候ニ付人別人願御用番御聞濟被成候ニ付右同断取計濟

一上紺屋町片岡屋和助悻又四郎義去月廿六日夕戸川町中之横町ニ而被切掛候由風聞有之当人江内々承り合候処相違無之ニ付相届候旨昨晚目明岩藏届出依之大年寄へ呼出相糺候様申付候処先月廿六日之夕九半時比戸川町中之横町原七郎居宅前ニ而北ニ参り懸り居候者思ひ無掛行違ひニ石を打候処折好はつれ見返し候処腰もの抜切懸候ニ付又四郎も抜合候得者戸川町元魚町之方へ逃去り候ニ付少々追懸候処得追付不申候ニ付其候ニ捨置跡ニ而見候得者左之腕

肩之下夕六七步程被切申候由口書取差出候ニ付御用所江罷出当春以来所々ニ而犬を切候もの多有之候処猶又右之通之趣相聞候付口書取御沙駄置候段御用番中へ申達置大目附江も及囀置候

一 大目附佐々木右近尾州嶋崎神職吉田左右并同人親吉田和泉前司是迄永見造酒助殿祈禱被相頼候ニ付年々参来候所昨年於江戸表吉田和泉前司江御上之御祈禱被仰付当年も御国表江被召呼御祈禱被仰付候御含ニ有之候間以来者右父子共ニ御出入ニ被仰付候間罷越候ハ、高橋伊豆取計之通宿切手為差出逗留承り届候様ニ可取計之旨御達有之其段大年寄へ申渡置候但右和泉前司と申ハ以前之左右事ニ而候由左右義者当年も最早四月廿七日来願差出此節逗留罷在候

一 以前暇差遣候藤森権七義其節蒙御勘気候竹内兵衛義も御勘気御免被成候事故右ニ准権七義も御差別も付置度ニ来御構無之もの、義ニ候得者何方へ奉公仕候而も不苦事ニ候得者当時役筋明珠并番代等も無之事ニ者候得共以後帰参申付候而も不苦旨申達置度ものと小須賀貢江及相談置候処今日返答ニ差構無もの、義ニ候得者外組へ罷出候事者勿論不苦候併役筋る暇差遣置此節直ニ帰参并番代等ニ出候も何と歟如何成ルものニ候得者此節右趣申渡之義ハ不可然又年をも経且者外奉公ニ而も相勤居其上ニ而譲り替り候様之義ハ又其節之趣ニ而不苦筋ニも可相成候得共先此節ニ而申渡置候義ハ無用と小須賀貢る返答有之候

一 西今町松尾屋源之丞方ニ差置候下女民義妊娠六ヶ月ニ相成候処兼々病多月取間違之届書大年寄差出先格之通出産之上叱取計候様ニ申

達置候

一 萩野嘉七此間怪我ニ而致足痛候ニ付今日引込候段小頭又六相届候

六月四日 雨

一來ル七日十四日迄祇園会中例歳之通二階町北之関貫四ツ時迄開立番付置候段大年寄届出候明日御両所へ可及御沙駄事

一 龍野へ差遣候飛脚申刻過罷帰り返書ニ申来候者安岡町菱屋太助呼

出候者同心義中北村丹藏と申もの質物取居候由右品者無宿盜賊幸助と申もの致附火盜取候品ニ付右引合ニ呼出候間太助後家右質

取帳面持参近類之者同道御役人差添来ル九日差出候様申来右返書

御用番江差出右ニ付近類之者一人町年寄一人差添罷出候様可申達旨手紙ニ而相伺候処御承知之旨申来大目附中江も其旨手紙ニ而相

届候右ニ付大年寄江右之段可申付尤七日出立出懸ケ役所江召連可被出候其節御徒目附へ引渡可申旨手紙ニ而申達候且又同心組石名

佐十郎江も右之旨申渡候様小頭江申達候

六月五日 雨

一 土用ニ昨四日未ノ六刻ニ入候ニ付今日暑中御機嫌伺御徒格以上平服ニ而四時惣登御奏者番る三奉行迄ハ例之通於七間廊下御小性頭

代大目附月番謁有之御奏者番る三奉行迄一同罷出上席御奏者番る暑中御機嫌伺申上候段申上之末席る退出但御用所并大目附へ暑中

不及挨拶候事但年々出仕御触達ハ無之事也

一 桶屋町桶屋善七悴松太郎長之助義去ル二日八ツ時分新職人町下横町溝ニしづてい落居候を拾ひ候段去ル三日届書差出今日御用所へ

右張紙ニ而も可仕哉と相伺候処平人之可持ものニ無之候間平日持

居候役懸之ものへ相触持主無之候ハ、其俵取捨候而可然旨与兵衛殿御差図ニ付左候ハ、郡代申合夫々之もの計へ相触可申旨御受申

上其旨大目附へ相違届書差出候并郡代江右之通及通達候并小頭并大年寄へ申達同心組并目明非人廻之者へ相触候様ニ申達候

一 出羽守様御通行之節宮川大橋下ニ荊麦七束有之主不相知差懸り候義ニ付橋本町組頭預り置近辺相尋候得共麦主不相知候段届書差出

候ニ付尚又遂吟味候様申付置候所伏見町材木町橋本町林田町勝間田町裏借屋迄遂吟味候処麦主無之旨猶又申出候ニ付其旨御用番中

へ申達右ニ付橋本町関貫ニ右張札為仕可申旨申達候所宜取計候様被仰出其段大目附中へ相違置右之通張札取計候様ニ今日者孫左衛

門故障之由ニ而孫右衛門差出同人江申達候

一 祇園会中例歳之通七日十四日迄二階町北関貫明ケ立番付置候段御用番并大目附へ相届候

一 龍野役人昨日来候返書御用番御下ケ被成大目附中へ差出申候尤来ル七日差遣候段相違置候

一 龍野へ遣候町人差添山田新三郎被仰付候間宜取計候様与兵衛殿被仰聞左候ハ、差遣候上ニ而御届可申上旨及挨拶置候右ニ付山田新

三郎も案内有之委細申談并七日卯刻私宅ニ而町人共御引渡可申候間被参候様申談置候

一 龍野へ差出候町人共来ル七日立ニ而罷越候様夜。申付置候処左之

面々差出候段大年寄る書付差出候

前

安岡町 菱屋太助後家

右道人太助弟

西今町 菱屋治兵衛

故障ニ付差替ル 差添安岡町年寄

久米屋友七

龍野へ致持參候質取帳面差出致一見直ニ大年寄へ差戻候

一 大目附佐々木右近之町方犬切等致徘徊物騒之様子ニ付非人加廻り

二 組四時之惣町林田上之町忍廻り致候様可申付旨被申聞候尤御用所ニ而拙者義も粗御談申置候義并大目附之被相伺候間右之段御用所江拙者之達候ニ者不及旨被申聞候右ニ付大年寄孫右衛門へ其

段申渡右ニ組東西立分り相廻候様ニ申付候

一 勝間田町油屋才右衛門四国遍路往来百日計ニ而来ル七日出立願書

大年寄差出承り届 七月廿六日届ル

一 材木町万屋与三兵衛借屋家守清兵衛住屋住喜助と申もの四国遍路往来九十日計ニ而来ル七日出立之願書大年寄差出承り届

一 三町目南側ニ而菊屋藤藏家屋敷表口五間裏行拾七間但八歩役東ハ

横丁往来西隣ハ一文字屋伊三郎右家屋敷上紺屋町八百屋平左衛門

取次ニ而質物ニ書入銀札五百五拾匁当卯六月之来辰二月迄一ヶ月歩半之利足ニ而借用仕度願書差出承り届ル 同九日本証文出

一 上紺屋町北側ニ而作人善七家屋敷表口式間裏行九間一尺五寸但式歩五厘役東隣者畳屋利七西隣者形岡屋清兵衛右家屋敷代銀札九百匁相極畳屋利七壳渡度願書差出承り届ル 同八日壳券状差出

六月六日

一 尾州嶋崎神職吉田和泉前司上下式人例歳之通且那廻りニ来候間堺

町西川屋善助宿切手差出承り届ル

右ハ已前之左右事ニ而當時之吉田左右親ニ候是迄年々永見造酒

之助殿祈禱被相頼年々来候処昨年於江戸表御祈禱被仰付今年も実ハ被為召於爰元尚又御祈禱被仰付候ニ付以後者高橋伊豆同様ニ宿切手ニ而逗留承り届候様去ル三日大目附佐々木右近之被申

聞今年初而宿切手差出候 同十七日罷届候段届届候

一 安岡町菱屋太助後家明朝江龍野表へ出立可仕之処夜前之積氣指起り出立難仕ニ付左之通日延願書大年寄差出 (マ)

私義来ル九日龍野御役所様江被為召候ニ付罷出候様被為仰付奉畏罷在候処兼而積氣不相勝候得共押而明七日出立可仕奉存候処

昨五日之夕之指込強既ニ氣■仕候程之義殊更熱氣強く食餌等も干今一向得給不申針葉共ニ相用候得共今以相勝不申此趣ニ而者

明朝出立難仕御座候少しニ而も快罷成候ハ、早速罷出可申候今少日延御有予奉願上候右之趣御許容被為成下候ハ、難有仕合可奉存候此段宜被仰上可被下候以上

寛政七乙卯年六月六日 安岡町菱屋太助 後家

右五人組頭喜助

町年寄宛

町年寄并大年寄奥書

右願書差出候趣与兵衛殿へ相達最早懸合候間も無之義ニ付一昨年玉置源五兵衛義大坂表江差出候例を以同心組部ヤ目附兩人病氣見

届差出一札取右願書并見届一札ともニ拙者奥書仕代人差出候様申

付右代人ニ帳面持參可申付候旨相伺候処其旨取計候様御差図ニ付

大目附江も其旨申達罷歸り相調候処以前組屋勘十郎義大坂江差出

候節も病氣見届為仕候事無之日延願書ニ奥書致候迄ニ差遣し其

外御代官所江差出候町人病氣之節も日延願計ニ病氣見届為仕候

事無之一昨年源五兵衛病氣断之節者大坂御役人ノ病氣見届為仕右

両通共致奥書差出候様ニ申来候義ニ而初而取計候新例ニ付今般ハ

猶更向方より申来候義ニ而も無之先ハ諸事手重ニ不成ラ方可然ニ

〔病氣見届相止旧例之通日延願書計相廻候様可仕之旨尚又与兵衛

殿御宅へ罷越伺直し候処何れ公儀江対し候事見届一札無之候而者

病氣実否相糺候趣無之如何ニ付矢張源五兵衛新例を以見届一札差

遣候様可取計旨以後ハ御代官所江之懸合右之通ニ取計候様可仕之

旨御差図ニ付左候ハ、日延願書并見届一札両通ニ致奥書候もくた

く敷義ニ付見届一札計ニ致奥書可差遣之旨相伺候処其段ハ存寄

之通尤ニ候間其旨取計候様被仰出仍之部屋目附三船新治三船孫八

病氣見届差出候処左之通一札取差出候

差上申病氣見届一札之事

私義来ル九日龍野表へ被為召出候ニ付明七日出立可仕奉存罷在

候処兼而積氣不相勝猶又昨五日夕指込強今以食餌も得給不申

依之今少日延御宥予之義奉願上候処病氣為御見届御出被成(候所)

私共一同立会之上容躰御見及被成候所弥右病氣之趣相違無御座

候ニ付御見届一札被仰付指上申已上

右町年寄

三船新治殿
三船孫八殿

右之通役人共差出病躰為見届候処弥病氣相違無之候已上

卯六月六日

津山町奉行 増見右門印

右ニ付代人差出候様大年寄へ申付候所親類之内西今町久保田屋利

右衛門差出候由并町年寄久米屋友七罷出候様申聞候得共故障有之

候ニ付扇屋栄治差遣候段申出候

安岡町菱屋太助後家代人

西今町 久保田屋利右衛門

近類差添西今町菱屋治兵衛

安岡町年寄扇屋 栄治

立会御役人山田新三郎

同心連右佐十郎

右之趣ニ付龍野へ懸合之上代人可差出筈之処差懸り懸合候間無之

ニ付不得止事代人申付差出し右後家快氣いたし候ハ、被仰越次第

差出可申御懸合候義も有之候ハ、山田新三郎被仰聞候様ニ龍野役

人関口作兵衛三沢清太夫江致添簡新三郎へ相渡遣候事委細者文通

扣ニ在之

一 小性町米屋忠助義予州とうこ温泉入湯八十日計之逗留ニ而明七日

出立仕度願書大年寄差出承り届 途中る歸り七月廿八日死去届候

一 同心組萩野嘉七引込石名佐十郎龍野へ差出同心組不足ニ付加人老

人御渡候様昨五日大目附へ申達置候処日下勇藏今日ろ来候

一 綿実油今般御手絞被仰付候付御用御残も御座候ハ、油屋共へ被下

寛政七乙卯年六月六日

安岡町菱屋太助後家
右五人組頭——組合不殘

置候様惣油屋共願書差出候ニ付如何可仕哉と大年寄内意伺出未出来も不致如何御計被成候事哉一向不相知内ニ彼是願書等差出候筋ニ而者有之間數候間先差戻置不取上方可然と及差図

六月七日 雨

一 龍野表へ差出候町人共今朝六ツ時呼出小頭部屋目附大年寄立会山田新三郎出席ニ而雨天ニ付台所庭ニ呼出龍野役所へ罷出尋之趣無伏藏可申述公辺向之義ニ付諸事別而人念候様并立会山田新三郎へ引渡候間諸事可受差図旨申渡一ト通り申述候趣承之於其席山田新三郎へ引渡候間諸事御差図被下宜御取計頼入候段申述引取於座敷石名佐十郎江諸事新三郎受差図入念相勤候様申渡何れも出立早而右之面々出立仕候段御用番へ手紙ニ而相届大目附中へ者何茂名面相認出立之段手紙ニ而相届候

一 西今町南側ニ而角屋庄吉所持之家屋敷表口四間裏行拾五間但四歩五厘役東隣者小山屋紋吉西隣者京屋平兵衛也右家屋敷并土蔵壹ヶ所建物不残外ニ東西四間南北九間之空地其質物ニ書入銀札壹貫五百匁来ル十一月切ニ一ヶ月壹歩三朱相極町内神田屋卯兵衛取次ニ而借用仕度願書大年寄差出承り届ル 同八日本証文差出候

一 牢舎人新吉療治今日ニ而二廻り相濟代り之醫師并弥市田四郎病氣ニ付醫師牢番共願出例之通遂吟味候様大年寄へ申達候所中村易安申付差遣候所新吉義ハ最早余程快候ニ付休葉候而も可然李齋易安共ニ申出并弥市義も古疾之義故服薬ニも及間數田四郎義ハ時氣当り不被捨置趣申出候段大年寄申出候ニ付田四郎計療治申付新吉弥市者先其俣ニ捨置候様申付候

一 町方ニ而犬を候ものも多其上上紺屋町又四郎へ切懸候もの有之候ニ付去ル二日夕新治孫八佐十郎百藏更廻り差出候所無別条段届出候二日三日之所ニ認落候故爰ニ記置候

六月八日 曇 晴 時雨

一 美濃職人町中屋栄藏悴忠吉義兼而不知所存者ニ候処先月十日罷出不罷帰候ニ付親類打寄義絶勘当仕度願書差出御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候 同十七日証文 差出
一 久保田村庄屋与市方へ去月廿七日之夕盜賊這入拾五品盜取候触流取計候様大目附中居書被相渡書役へ申付為写取例之通触流取計候様大年寄へ申付本書ハ大目附へ差戻候

一 尾州嶋崎神職吉田和泉前司并悴左右義昨日者御祈禱被仰付登城仕難有奉存候旨御礼罷出候

一 元魚町豊屋喜兵衛義撰州能勢妙見宮へ往来廿日計之逗留ニ而明九日日出立參詣願大年寄差出承り届 同廿九日届ル

一 斎藤孫右衛門義今日運上奉行栗田辰右衛門宅へ被呼出今般綿実油御手絞ニ相成候ニ付右絞立之綿実取扱ニ者運上取立候ニ不及川下之分ハ右水車ノ差下し候綿実ニ而も是迄之通運上取立候様ニ被仰付候旨同人届出候

一 宮川大橋下ニ有之候麦此節こなさす候得者皆ちやりニ成候由届出候旨大年寄申出左候ハ、こなし置候様ニ可申付旨及差図

六月九日 快晴

一 伏見町柴田勤七借屋住備中屋庄助義五月廿二日之所ニ記置候通致出奔荒道具残置右荒道具見分先格之通部ヤ目附新治孫八兩人差出

相改右荒道具帳面差出候但品数五拾貳品尤明日入札可取計旨也

六月十日 晴 少時雨

六月十一日 白雨

- 一 斎藤孫右衛門義播州佐用郡細月嶋津友三郎方へ廿日計之逗留ニ而明十二日出立仕度願書差出与兵衛殿御宅へ罷越相伺候処御聞届ニ付右願書大目附へ手紙ニ而差出御聞届之旨蔵合へ手紙ニ而申達ス
- 七月十日 帰ル

六月十二日 白雨

- 一 京都鳥丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代安兵衛一人例年之通呉

服物壳ニ参候段京町海老屋長右衛門宿切手差出

- 一 東新町新屋長治役介吉兵衛夫婦并悴文治娘まき右家内四人此度水谷信濃守殿領分備中阿賀郡小坂部村権八親類ニ付引受度申候ニ付

差遣度人別離差出明日可及御沙駄候（マヤ） 翌十三日伺済申渡

- 一 東南条郡林田上之町よね役介はな義肥地屋繁蔵妻ニ引受度人別人願大年寄差出承り届ル

- 一 越中富山板屋理兵衛役介長兵衛宗之助右二人例年之通当十月迄召抱置壳菓仕らせ度願書京町松岡屋茂右衛門差出聞届大年寄へ申達

一来ル十七日之夕觀音ニ付例年之通宮脇町関貫開立番四時迄付置候

段大年○届出候 翌十三日御商所正及御沙駄（マヤ）

- 一 伏見町備中屋庄助闕所諸道具古道具屋入札四封大年寄差出開封之所九拾三匁五分高札ニ付壳渡候様申達ス

六月十三日 雨

- 一 蔵合孫左衛門義二ノ宮村立石斎兵衛三男岸三郎養子ニ仕度人別人

願書同役斎藤孫右衛門去ル十日差出今日御用番中江申上候御聞

濟ニ付右願書大目附へ差出置孫右衛門呼出可申達他出ニ付源五

兵衛呼出候所痛所断ニ付不得止事孫左衛門へ直ニ御許容申渡候

- 一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡油木北村百性喜兵衛弟庄蔵と

申もの一人材木町万屋与三兵衛宿守清兵衛借屋住薦屋仁三郎引受

度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

- 一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡木知ケ原村孫六弟寿之助と申も

の西新町伊木屋伊右衛門養子ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿

日引受証文差出 己未三月八日 離縁

- 一 林田村分上之町悪水拔大溝浚例年之通東西新町中之町々願書差出

郡代所引合之上右願書御用所へ致持参口達ニ而申上伺済右同断取

計

- 一 先日町方物騒ニ付非人加廻り二組申付置候此節犬切も相止ミ且

又又四郎被切候も何とやら意趣切之趣ニも風聞有之昨今至而静謐

ニ有之候間非人加廻り相止メ可申旨大目附へ及相談其上ニ而御用

所江伺候処其旨取計候様ニ御差図ニ付其段大年寄へ申渡候

- 一 牢舍人円四郎義病氣差重り候段牢番并医師中村易安届出先例相調

候処新蔵大吉病氣差重り届出取計日記ニ不相見死去取計はかり有

之其外をも相調候得共病氣差重り候段御所江相届候例無之何れ

近例右兩人相届候義不相見候得者必定不及届義ニ者候得共若哉認

落候義も難計依之松岡治部助宅へ罷越遂内談候処日記ニ不相見候

得者届ニ者及間敷由被申聞且又円四郎義者御赦候節も一等御宥可

成ものニ付宿預ケ等之義も伺懸候様ニも存候へ共差出候得者後難

之程難計仁物ニ付先其俣ニ致置候得共極老ニ相成候歟又者病氣等
ニ而最又相働候義難^成ものニ相成候節者相伺宿預ケニも可致当り
ものニ兼而存候間其節之伺扣等も可有之候間元來郡代所之も
のニも候得者何分其趣郡代江懸合候様被申聞候付其旨手紙ニ而十
郎左衛門へ致演達候

六月十四日 白雨

一京町田原屋伊兵衛売用ニ付播州姫路京口一丁目富屋平兵衛方へ三
十日計之逗留ニ而明十五日日出立仕度願書大年寄届届之上差出

七月十四
日届届

一牢舎人野介代村田四郎義昨年御赦之節宿預ケ可被仰付ものニ候得
共兼而巧も有之ものニ付難被差免御沙駄^(マ)も有之宿元ニ困申付候而
者格別之違も無之義ニ付其俣被差置追而極老ニ相成候歟又ハ病氣
等ニも候ハ、宿預ケニも可被仰付御沙駄^(マ)有之候処今般病氣差重り
候ニ付宿預ケニ被仰付候^様郡代中より伺相濟宿元呼出置候間罷出次
第出牢立合差出呉候様九ツ前時郡代所申來候

一昨夜五ツ時比川向ニ而誰人が花火上ケ候処小性町作人ろくと申女
之屋祿^(マ)へ落早速もミ消候段大年寄届出火之用心之義者難捨置義ニ
付此段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一牢舎人田四郎義暮前時致病死候段牢番利兵衛届出其段即刻郡代所
江及通用候処同人義親類預ケ伺濟之処未親^(様)属不出内ニ致牢死牢
死之義ニ候得者御徒目附下目附町奉行所郡代所立会見分可有之筋
ニ候得とも最早親類預ケ伺濟之義ニも候得者見分ニも及間敷死骸
親属へ被下候様郡代所より伺相濟候ニ付明十五日六半時相渡候間牢

屋立合組差出呉候様十郎左衛門より申來ル右田四郎牢死之義始終郡
代所懸り之ものニ而取計有之候得者当役より可届筋ニも不被存候得
共勝部村新藏川部村大吉牢死之砌も相届有之尤彼等義ハ少し意味
合違新藏義ハ悴新吉牢中看病至孝ニ付死骸被下候様当役より相伺大
吉義ハ兼田江取捨等之義当役より相伺候様ニ相見江右等郡代所より可
伺筋も役筋より伺有之趣ニ相見へ候故牢死之段計御両所江相届可然
とも郡代中と対談ニ付其段手紙ニ而御両所へ相届候

一鍛冶町鍛冶長三郎義去ル七日之夜左之品々被盜取尤表裏共ニ盜賊
這入候趣無之右之品も戸棚之内ニ錠をおろし有之錠前も元之通ニ
有之候ニ付一向心付不申今般見出候段届書大年寄差出

一壹匁札六百匁 一百匁枚壹枚 但印相覚不申候
一米切手三拾式俵 内印左之通

一四俵大沢七五郎十月五日 一壹斗四升五合 大〔監物殿内
秋間還ハ十一月廿二日 一貳斗式升五合〕作事

十一月廿二日印ナシ 一六俵七斗海老原定吉^{計明}
一拾式俵近藤郷左衛門^{計明} 一六俵式斗式升藤田弥治右衛門^{計明}
一貳俵村田栄助十月廿二日一印

〆三拾式俵

一小玉銀三百匁程と覚之

一銀拾四五丁程と覚之

〆五品

右届書明朝御用番中へ差出右切手触流し并御藏方江も御達被下候
様可相達事

一住吉祭戸川之市徳守宮納涼初日ニ付先格之通出番兩人暮時る新治
勇助差出四時過無別条引取候段翌朝届出候但何方江も不及届候事

六月十五日 早朝白雨

一牢舎人円四郎死骸出牢差紙郡代所る相廻り役所手形ニ認替出番為
治老人立会差出候処無別条引渡相濟候段申出候

一鍛冶町鍛冶長三郎紛失もの届書昨日差出候通与兵衛殿御宅へ罷越
相届并触流被仰付被下候様相伺候処惣江之触流ハ先見合御蔵方
計へ達置候ハ、却而右切手も可出哉之趣ニ被仰聞候付至極御尤之
義左様ニ被仰付置被下候様ニ申上候処今日直ニ可相達旨被仰聞依
之江流シハ不取計候尤右紛失もの、義大目附江も手紙江而相届右
届書下り次第可差出旨申達置候

一左之通小頭又六於宅部屋目附孫八立合申渡

其方共義一昨十三日昼廻之節
牢屋見廻り不行届不審申達
候而も新治義ハ一言之答も得
不致為治義ハ不恙之義共申述
猶更其俣ニ而打遣り置不調法共不心付趣
重々等閑之至不埒之事ニ候依之急速
申付方も可有之候得共先此度ハ用捨を以
追込申付候相慎可罷在候

右之趣申達候旨又六孫八届出候 同十八日差免候

一萩野嘉七今日る出勤候旨昼後届出候

一右兩人追込申付候ニ付加人咎人御渡被下候様大目附手紙ニ而申達
候但同心組引込と申達候事尾崎權助加人ニ来ル

六月十六日

一同心組二人追込申付候ニ付兩人加人可申達之処嘉七致出勤候ニ付
一人加人申達受取候処全躰嘉七引込ハ不足ニ相成居平日ならば可
相濟之処此節徳守納涼等も有之候ニ付又々咎人今日る被仰付被下
候様大目附へ手紙ニ而申達尤引込ニ付不足と申達候事但前原才治
来ル

一龍野へ差出候安岡町年寄扇屋栄治下男差戻候ニ付山田新三郎江
状差越兩度呼出有之候処一向不存と申候故夫ニ而者口書も江来兼
候哉兩度共同様之尋ニ而先引取居存之外不埒明色江致迷惑候由
併近日ニ者可相濟哉之旨申来右書状御用番中へ手紙ニ而差出且又
扇屋栄治る同役書状差越存之外吟味口六ヶ數手間取候趣申越候段
大年寄も申出承り置

六月十七日 雨

一錢通用百弍文ニ相成候段大年寄る届出候
一宗門改帳入用先格頭弍弍文と弍文と隔年ニ取来候所当年者弍文つ
、取立候旨大年寄届出候
一宗門改印形取例年之通来ル廿五六日取計候段大年寄届出承り置候
一林田町南側ニ而川崎屋林蔵家屋敷表口三間裏行拾七間但半役也東
隣ハ塩屋七三郎西隣ハ岩佐屋善七也右家屋敷当二月奉願六月切ニ
伏見町紙屋伝吉へ百七拾匁之質物ニ入候処今般元利返濟相濟候段
届書差出承り置 七月四日完券状差出

一右川崎屋林蔵家屋敷今般代銀三百三拾匁ニ相極同町福吉屋乙右衛
門へ壳渡度願書差出承り届ル

一御領分西北条郡広原分安治夫婦并悻梅吉右三人宮脇町新角屋庄九

郎引受度人別入願大庄屋引合相濟候由大年寄差出承り届

一 今夕ハ観音ニ付先格之通徳守宮納涼へ警固孫八勇助差出候処翌朝無別条引取候段届出候

一 中山百藏妻妊娠之旨小頭又六方相届候

六月十八日 雨雷風

一 脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡下神目村甚太郎悴清藏義当三
月下紺屋町菓子屋伊兵衛養子ニ引受候処今般離縁仕度人別除願御
用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 三船新治小野田為治追込今朝於小頭宅差免以來随分入念候様申達候

一 去ル五日届出候桶屋町善七悴松太郎長之助拾ひ候しつてい夫々相
尋候得共落候もの無之ニ付拾候ものへ差遣候段大目附へ相達置其
旨大年寄へ申渡候尤先日御用番中らハ不及触流可持もの計遂吟味
落人無之候ハ、取捨候様御差図有之候ニ付最早不及御沙駄候

一 同心組兩人致出勤候付加人式人今日方差戻候段大目附へ相届前原
才治尾崎権助差戻し

六月十九日 早天雨

一 牢舎人新吉病氣医師願出例之通大年寄へ申付候処梁瀬玄隆へ申付
候処是迄之医師ハ瘡毒之様ニ見候得とも心之藏之傷ニ而舌本傷咳
嗽之砌嘔血有之甚大病増長可仕始終至而六ヶ敷趣申出候付治療申
付并郡代所江も其趣及通用候

一 牢舎人弥市義も右同断申出候付中村易安診察之処先日之様子ニ相
替り候義無之旨申出候ニ付其俣ニ而捨置候様申付候

一 同心組加人日下勇藏病氣引込ニ付右代り河野磯兵衛来ル

六月廿日 快晴

一 博奕沙駄有之候ニ付昨夜更廻り新治孫八百藏為治申付四ヶ所程流
込為遂吟味候処無別条旨今曉届出候

六月廿一日 朝少時雨 曇

六月廿二日 快晴

一 龍野へ差出候町人共今八時過山田新三郎召連罷掃未吟味詰り候と
申ニ而無之候得共先一通り口書致印形引取候様差図ニ付罷掃候
由口書写并返書新三郎方差出右返書ニも先引取候様ニ申達候旨申
来尤不存と計ニ而者申訳不立と申事ニ而口書出来兼至而六ヶ敷有
之候得共外ニ致方無之先其分ニ而罷掃り尚又右口書之趣ニ而江戸
伺ニ相成其上ニ而又々可被呼出哉之沙駄ニ有之右引合ニ付而者目
明孫兵衛も近々可被呼出哉之趣ニ相聞候由新三郎申聞候右ニ付後
家代人久保田屋利右衛門近類菱屋治兵衛他參留申付候様大年寄へ
申渡候右返書并口書写御用番へ手紙差出大目附へも罷掃候段相届
候

一 御藏米六拾匁五分町米五拾六匁五分

一 町方博奕宿可致推察有之候もの共兩隣急度心付早速申出候様万一
不申出外相頭候様之義ニも候ハ、急度可被仰付杯と廻之序ニ申
達候ハ、御りニも可相成旨新治孫八方心付之旨申出尤之義ニ付
其旨申達候様及差図候

一 当月徳守宮社地芝居ニ而人屋者嘉助盜取候銀札主名面相知候ハ
、糺呉候様郡代所申来目明孫兵衛相糺候処河辺之者之由ニ相

聞候得共相知不申旨申出其旨郡代所江申遣候

六月廿三日 曇

一馬持共例歳之通大豆老倭つ、都合式拾五俵拜借仕来ル八月ノ御引取被下候様願書大年寄ノ差出勘定奉行へ引合之上御用番へ相伺候処御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届之上申達候

一鍛冶町長三郎被盜もの届書御用番中へ差出置候所今日大目附中ノ被差戻候

一龍野へ差出候町人口書写御用番中ノ被差戻大目附へ差出候

一相凶火等致修行候者ハ兼々被仰出候通相届修行可致猥致間敷旨大目附中ノ御触書到来留置候様書役へ申付ル

一勝部村蓮池蓮之葉入札来月朔日迄ニ差出候様例歳之通町方江相触候様ニ郡代所ノ申来相触候

六月廿四日 曇

一龍野へ差遣候石名元蔵昨日一日休息ニ而今日ノ致出勤候ニ付加人御使組河野磯兵衛今日ノ差戻候其段大目附へ手紙ニ而相届候

一牢浚申付候処無別条旨新治百蔵届出候

六月廿五日 晴 少長瀬雨

一備中矢掛スイホウ小太郎と申もの来り永見家江這入候盜賊内田伝内義小豆嶋ニ居候由ニ付面鉢見知候もの差添被下候ハ、罷越召捕可申旨。目明孫兵衛（小太郎申間候由）申出尤造酒助殿方江も塩嶋清助を以申込候

由右ニ付昨屋又六を以其段熊川左平太迄申遣置候処今日造酒助殿呼ニ来罷越候処如何取計可然哉と存寄被相尋候ニ付未住所（處にて株道）見届候事ニも無之趣ニ候得共必定可居趣申出候得者目明ニ非人老人

差添小太郎同道ニ而差遣可然哉と申候処其通ニ取計呉候様御頼ニ

付左候ハ、御用番へ申達取計可申と申候処与兵衛殿ニ者後刻御出候も有之候ニ付造酒助殿御通可被成間最早自拙者伺候ニ者不及候間直ニ取計候様被仰聞候依之孫兵衛義者龍野江も可被呼出風聞も

有之候事故此節他參申付候も如何哉ニ付山田新三郎へ相尋候処向方役人ノ噂有之候義ニ而も無之城下流之旨ニ付他出申付候而も可然申聞候付孫兵衛義非人老人召連小太郎同道ニ而罷越召捕候様ニ

可申付旨又六江申付ル右申付候上又六ノ申出候者孫兵衛存寄ニ非人召連ニ而も伝内面鉢不相覚候而者難用達候間伏見町万屋借屋住要助と申もの能面鉢見知居候ニ付繩取ニ召連度并路用式百匁相渡

候様相願候旨申出候ニ付申出候通ニ可申付并孫右衛門他出ニ付路用取替源五兵衛へ遂合相渡候様ニ申付尤随分致儉約候様ニ呉々申

付候右金子之義孫左衛門も罷出候付其旨申達候尤明朝大目附へも

及噂造酒助殿江も差立候義可申遣事

六月廿七日 晴

一元永見造酒助殿家来内田伝内召捕ニ目明孫兵衛并繩取老人差添小豆嶋へ今朝差遣候段大目附へ手紙ニ而及噂候

一仙石越前守殿領分当国勝南郡百々村化蔵寺ノ西新町年寄へ書面を以去寅九月仏具被盜取右盜賊召捕遂吟味候処右盜賊申口ニ同類津山西新町三角屋茂十郎と申ものと申合盜取候由及白状候ニ付右茂

十郎御預ケ申候間尚追々可及懸合旨申越候旨大年寄ノ申出右ニ付相答之及返書尤預り候義者御内々ニ而被仰越候而者得不致候旨及返書置石茂十郎組合預ケニ取計置内々可遂吟味之旨申出候付其旨

取計候様及指図尤取逃し候而者不相濟候間急度敵數組合預ケニ取計置候様ニ申付ル右盜もの品も相知「」候ニ付質屋をも遂吟味其上ニ而茂十郎相糺候様ニ申達ス

右みかと屋茂十郎と申ものハ福渡町小文字屋茂市忪ニ而当時致別宅居候由

(符箋場所不明)

卯

六月尋之

一 下紺屋町孫独勤治此間病氣之処追々差重り候処大年寄る届出今夕ニも見分可差出処及深更候ニ付明早朝部屋目附差出候様申付ル
一 仙石越前守殿領分百々村化藏寺三角屋茂十郎盜賊一件之義申来候趣目明岩藏も申出岩藏存寄ニもユスリ事之趣ニも相察候付相糺可申之旨又六申出其旨取計候様及差図候

六月廿七日 兩

一 下紺屋町孫独勤治病氣見届部屋目附三船新治差出候処病氣手当申分も無之大切ニ有之候旨一札并容鉢書取差出候無程死去届出勝手次第取置可致之旨大年寄へ申達ス右之旨明日出仕之上御両所へ可相届事

一 西新町^(マ)三門屋茂十郎ハ仙具等質置候義ハ無之哉質屋共相糺候処今般化藏寺申来候仙具ハ質屋ニ者無之候得共全鉢茂十郎ハ質置候品不相応ニ多有之候ニ付呼出相糺候処彼是不恙成申口ニ候由大年寄申出左候ハ、右口書大年寄場合ニ取置茂十郎義不取逃候様申付候様申達尤右仙具之義道具屋共も尚又相糺可申旨大年寄伺出其通

及差図

一 御藏米六拾式匁町米五拾八匁

六月廿八日 兩

一 新職人町瀧本屋庄藏借屋住人宇助妹とめ義先達而京町置屋宇三郎住屋ニ居候節六ヶ年以前戌十二月出奔仕翌年亥五月人別除奉願候然ル所当時倉敷ニ罷在大病ニ取誥難義仕先非悔掃住宅歎越候ニ付奉願候段願書差出御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

一 福渡町阿賀屋助次郎家守作人忠助借屋住^(マ)狐独六助当七拾八歳ニ罷成病氣ニ而渡世難成御救扶持願出相糺候処余義も無之趣ニ付相伺候処御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御許容之旨申達候尤勘定奉行へも及通用

一 但州生野御代官福垣藤四郎殿当分預り所当国東北条郡小中原村義助娘義京町関屋喜兵衛忪八十吉妻ニ引受度人別人願右同断取計濟

七月十一日住宅証文差出

一 下紺屋町孫独勤治病氣見届一札并容鉢書御用所^(江)指出口達ニ而申上昨日死去之旨申上候右見届一札大目附へ差「」勘定奉行へも及通用候

一 吹屋町分東横町境町之通り筋大溝土橋及大破候段届書大年寄る差出大目附^(江)差出候

一 遊行上人来着調伺帳伊達頼母ハ附紙ニ而不審申来答書致差出候様大年寄へ申達ス

一 御堀掃除料差出候様御作事奉行ハ催促有之大年寄へ申達候

六月廿九日 快晴

一 伏見町備中屋庄助闕所銀札九拾三匁五分大年寄る差出

一 御堀藻草取掃除料例年之通式百八拾九匁分四厘大〔寄差出御作事奉行西村治太夫江相渡候右受取書役へ渡〕

一 因州氣多郡八幡村南城和三郎と申もの四国遍路并諸国神社仏閣為拜礼当三月十八日生国罷出候処当月十九日芝州加茂郡下野村ニ而病氣付療用相加候得共歩行難相成今日古城村迄送り來候由郡代所(マ)と通用有之断送り候様ニ大年寄へ申達候処夜ニ入林田村へ送り届候段大年寄る届出候

一 孫独扶持内貸証文引替致仕切本証文差出二口ニ而百三拾八匁三厘加藤広治致持參則大年寄へ為持遣

一 南新座町閔貫番貨銀百四拾匁四分加藤広治持參受取置

一 当五月節句伏見町ニ而巾着切人屋者嘉助と申もの人屋江被相渡遣
一 弘ニ相成候由今日出牢切手郡代所と相廻り自分手形ニ認替立合石名左十郎ニ為持遣候

一 番貨銀拾五匁大年寄る差出

六月晦日 快晴 夜雨

一 閔貫番貨銀相渡候

一 徳守宮水無月弘ニ付番定治文蔵警固差出候処無別条四時比引取候段翌朝届出候

一 孤独扶持昨日相渡候処当二月十三日御許容戸川町金川屋清八義勘定所江通用無之哉落有之又三月廿三日上紺屋町大郎作母死去勘定所へ致通用候処下代江申達無之加藤広治存不申右出入有之候得共

流用ニ而大躰相濟候事故何も不心付候処今般遂吟味候処右出入流用之処金川屋清八分二月十三日と三月中御救扶持致不足候旨大〔〕申出候ニ付自分も可申達候得共尚又大年寄るも加藤広治へ懸合置候様ニ申達候

津山郷土博物館紀要第十九号

津山松平藩町奉行日記十三

平成十七年三月三十一日発行

編集
発行

津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地
株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二

